目次（ 2026年度シラバス）

＜東京キャンパス＞

基礎ゼミナールⅠ [①] …… 1
基礎ゼミナールⅠ [②] …… 3
基礎ゼミナールⅠ [③] …… 5
基礎ゼミナールⅠ [④] …… 7
基礎ゼミナールⅠ [⑤] …… 9
基礎ゼミナールⅠ [⑥] …… 11
基礎ゼミナールⅠ [⑦] …… 13
基礎ゼミナールⅠ [⑧] …… 15
基礎ゼミナールⅠ [再履] …… 17
基礎ゼミナールⅡ [①] …… 19
基礎ゼミナールⅡ [②] …… 21
基礎ゼミナールⅡ [③] …… 23
基礎ゼミナールⅡ [④] …… 25
基礎ゼミナールⅡ [⑤] …… 27
基礎ゼミナールⅡ [⑥] …… 29
基礎ゼミナールⅡ [⑦] …… 31
基礎ゼミナールⅡ [⑧] …… 33
基礎ゼミナールⅡ [⑨] …… 35
基礎ゼミナールⅡ [⑩] …… 37
フレッシュマンセミナー …… 39
フレッシュマンセミナー [再履] …… 42
英語Ⅰ [①] …… 45
英語Ⅰ [②] …… 47
英語Ⅰ [③] …… 50
英語Ⅰ [④] …… 52
英語Ⅰ [⑤] …… 55
英語Ⅰ [⑥] …… 57
英語Ⅰ [再履] …… 59
英語Ⅲ [①] …… 61
英語Ⅲ [②] …… 64
コンピュータリテラシーⅠ [①] …… 66
コンピュータリテラシーⅠ [②] …… 67
コンピュータリテラシーⅠ [③] …… 68
コンピュータリテラシーⅠ [④] …… 69
コンピュータリテラシーⅠ [再履][オンデマンド] …… 70
コンピュータリテラシーⅢ …… 71
TOEICⅠ [①] …… 73
TOEICⅠ [②] …… 75
TOEICⅢ …… 78
体育実技Ⅰ [a] …… 80
体育実技Ⅰ [b] …… 82
心理学 …… 84
数学基礎Ⅰ …… 86
キャリアディベロップメントⅠ …… 87
経営学概論 …… 89
経済学概論 [週2オンデマンド] …… 91
マーケティング総論 …… 92
簿記入門Ⅰ [①] …… 94
簿記入門Ⅰ [②] …… 96
簿記入門Ⅰ [再履] …… 98

目次（ 2026年度シラバス）

＜東京キャンパス＞

社会調査法 [オンデマンド] …… 100
ビジネス特別講義 I …… 101
ビジネスマナー …… 102
地域企業経営論 …… 104
プレゼンテーション技法 …… 106
比較文化論 …… 107
韓国語 I …… 109
VR・AR入門概論 …… 111
ドローンの社会応用と演習 …… 112
情報科学とAI入門 [前期集中] …… 114
プログラミング入門(Python) …… 117
ホテル経営 I …… 118
流通論 …… 120
消費者行動論 …… 122
原価計算 …… 124
財務会計 …… 126
会社法 I …… 128
経営戦略論 …… 130
メディア・リテラシー [週2オンデマンド] …… 133
データサイエンス入門 …… 134
ホスピタリティ論 …… 135
観光産業論 [前期集中] …… 137
サービスビジネス実務論 I …… 138
エアライン・サービス論 …… 140
現代経営実践演習基礎 I [キャリア系] …… 412
現代経営実践演習基礎III …… 144
フィールドワーク [前期集中] …… 146
海外研修 I …… 148
海外研修 II …… 150
海外研修III …… 152
海外研修IV …… 154
資格検定対策 I (語学系) …… 156
資格検定対策 V (ICTスキル系) …… 159
インターンシップ(企業) I [認定科目] …… 161
ボランティア活動 [通年集中] …… 163
英語 II [①] …… 164
英語 II [②] …… 168
英語 II [③] …… 170
英語 II [④] …… 172
英語IV [①] …… 174
英語IV [②] …… 176
多文化共生のための異文化理解 …… 178
コンピュータリテラシー II [①] …… 181
コンピュータリテラシー II [②] …… 182
コンピュータリテラシー II [③] …… 183
コンピュータリテラシー II [④] …… 184
コンピュータリテラシー II [再履][週2オンデマンド] …… 185
TOEIC II [①] …… 186

目次（ 2026年度シラバス）

＜東京キャンパス＞

TOEIC Ⅱ［②］ …… 188
TOEIC Ⅳ …… 191
体育実技Ⅱ（a） …… 194
体育実技Ⅱ（b） …… 196
コミュニケーションの心理学 …… 198
人間と法 …… 200
数学基礎Ⅱ …… 202
労働法規［後期集中］ …… 203
国際関係論 …… 205
キャリアディベロップメントⅡ …… 207
簿記入門Ⅱ［①］ …… 209
簿記入門Ⅱ［②］ …… 211
簿記入門Ⅱ［再履］ …… 213
SDGs入門 …… 215
マクロ経済学［週2オンデマンド］ …… 217
ミクロ経済学［週2オンデマンド］ …… 219
民法Ⅰ(総則) …… 221
マーケティングリサーチ …… 222
ビジネス心理学 …… 224
ビジネス特別講義Ⅱ …… 226
プロジェクト研究 …… 228
アジア太平洋のビジネス環境［週1オンデマンド］ …… 230
世界経済論 …… 231
韓国語Ⅱ …… 233
メディアカルチャー論 …… 235
eSports産業概論 …… 237
プログラミング演習Ⅰ(Excel関数とPython) …… 239
ホテル経営Ⅱ …… 240
簿記演習 …… 242
管理会計 …… 244
経営組織論 …… 246
企業経営実践論Ⅰ …… 248
マーケティング戦略論 …… 250
会社法Ⅱ …… 252
民法Ⅱ(債権) …… 254
経営財務入門 …… 255
ブランド戦略論 …… 257
情報社会論 …… 259
情報倫理と情報セキュリティ …… 260
統計学入門(統計とデータ利用) …… 261
ホスピタリティ・マネジメント論 …… 263
サービスビジネス実務論Ⅱ …… 265
ホテルアセットマネジメント論 …… 267
ホテル・ブライダル総合演習 …… 268
旅行業経営実務 …… 270
現代経営実践演習基礎Ⅱ［キャリア系］ …… 272
資格検定対策Ⅱ(情報系)［後期集中］ …… 274
資格検定対策Ⅲ(簿記系) …… 275
資格検定対策Ⅳ(ビジネス系) …… 277
インターンシップ(企業)Ⅱ［認定科目］ …… 279

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［①］				担当者名	董　航／都築 智津子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［②］				担当者名	鈴木　達郎／渡辺　亮			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［③］				担当者名	馬場　哲也／末原　聡			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［④］				担当者名	藪内　正樹／尾﨑 信之			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［⑤］				担当者名	栗本　育三郎／古賀　敢人			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［⑥］				担当者名	田原　俊司／Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［⑦］				担当者名	武末　朝生／佐々木　庸子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［⑧］				担当者名	安井　良彰／伊藤　敦司			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［再履］				担当者名	田原　俊司／董　航			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

		「市川市の○○」についてのテーマで調べる
12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	オリエンテーション 個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める⑴
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める⑴
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める⑵
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める⑵
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［①］				担当者名	上田　隆穂／都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［②］				担当者名	鈴木　達郎／渡辺　亮			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［③］				担当者名	馬場　哲也／末原　聡			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［④］				担当者名	藪内　正樹／尾﨑 信之			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［⑤］				担当者名	栗本　育三郎／古賀　敢人			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［⑥］				担当者名	田原　俊司／Everett Ofori			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［⑦］				担当者名	武末　朝生／佐々木　庸子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［⑧］				担当者名	安井　良彰／伊藤　敦司			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［⑨］				担当者名	前野　一夫／董　航			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区　分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［⑩］				担当者名	國井　裕			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞

1.大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2.キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3.将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

＜授業の方法＞

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）
復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲２０％、クラス共創度２０％、プレゼンテーション・レポート課題６０％
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点後、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 （ゼミ担面談）
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 （ゼミ担面談）
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110403				区　分	教養科目　キャリア領域			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	栗本　育三郎／董　航			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、大学で主体的に学ぶための基礎的能力を身につけることを目的とする。大学での学習方法、情報収集、ノートテイキング，レポート作成、プレゼンテーションなどのアカデミックスキルを学ぶとともに、社会人ゲストによる講義を通して社会や仕事への理解を深める。また、共感力・傾聴力・主体性などのメタ認知能力の育成にも重点を置く。

＜授業の到達目標＞
本授業の履修を通して、学生は以下の能力を身につける。
– 大学で主体的に学ぶための基本的なノートテイキングなどの学習スキルを身につける。
– 情報収集、資料の整理、レポート作成、プレゼンテーションなどの基礎的なアカデミックスキルを理解し、実践できる。
– 他者と協働して学ぶ姿勢とコミュニケーション能力を身につける。
– 傾聴力、共感力、対話力などの非認知能力を理解し、グループワークや議論を通して実践できる。
– 社会や企業の活動について理解を深める。
– ゲスト講義などを通して多様な職業や社会課題について

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話のノートテイキング）　2．グループワーク　3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り
少人数（2−3人）や中人数（4−5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：講義の準備等事前に告知された課題　1時間，　復習：テーマに即したノートに記述するレポート等の作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（ノートテイキング，レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学で学ぶとは何か／主体性と成長マインドセット（中山先生）	・大学と高校の違い ・主体性 ・挑戦と失敗 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約（抄録式読書術）
2	大学生活の時間管理と学習習慣(アカデミア時間空間環境)	・アカデミア時間空間環境とアカデミアの立場 ・時間管理 ・学習習慣 ・講義録 ・開かれた討論 ・講義録取りまとめ
3	レポートの書き方①	・事前配布資料の閲覧と要約 ・問いの立て方 ・レポート構造 ・講義録取りまとめ
4	大学での情報収集	・事前配布資料の閲覧と要約

5	プレゼンテーションの基礎	・インターネット検索 ・情報の信頼性 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・伝わる話し方 ・構成 ・講義録取りまとめ
6	コミュニケーションと傾聴力（中山先生）	・傾聴 ・共感 ・対話 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
7	グループディスカッション１	・KJ法で上がった社会課題と解決策について，ディスカッションし，まとめて，グループ発表を行う． ・講義録取りまとめ
8	ゲストスピーカ講演会１	社会人講義① ・講義録取りまとめ
9	グループディスカッション２	・事前配布資料の閲覧と要約 ・KJ法で上がった社会課題と解決策について，ディスカッションし，まとめて，グループ発表を行う． ・講義録取りまとめ
10	ゲストスピーカ講演会2	社会人講義② ・講義録取りまとめ
11	ゲストスピーカ講演会3	社会人講義③ ・講義録取りまとめ
12	社会課題の発見	・事前配布資料の閲覧と要約 ・グループで，KJ法等のツールを用いて，社会課題と解決策をまとめる． ・講義録取りまとめ
13	ゲストスピーカ講演会４	社会人講義④ ・講義録取りまとめ
14	自己理解とリフレクション（中山先生）	・振り返り ・自己成長 ・講義録取りまとめ提出
15	後期オリエンテーション	・事前配布資料の閲覧と要約 ・後期始まりにあたり，履修計画，後期日程のオリエンテーションを行う． ・講義録取りまとめ
16	キャリア形成とは何か	・事前配布資料の閲覧と要約 ・キャリア形成について，ジョブカードやエントリーシート記述を行い，どのように書くか体験する． ・講義録取りまとめ
17	チームビルディングアクティビティ	・事前配布資料の閲覧と要約 ・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
18	リーダーシップとチームワーク（中山先生）	・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
19	ゲストスピーカ講演会5	社会人講義⑤ ・講義録取りまとめ
20	ゲストスピーカ講演会6	社会人講義⑥ ・講義録取りまとめ
21	ゲストスピーカ講演会7	社会人講義⑦ ・講義録取りまとめ
22	ゲストスピーカ講演会8	社会人講義⑧ ・講義録取りまとめ
23	ゲストスピーカ講演会9 ・講義録取りまとめ	社会人講義⑨
24	ゲストスピーカ講演会10	社会人講義⑩ ・講義録取りまとめ
25	レジリエンスと挑戦（中山先生）	・困難への対応 ・成長 ・講義録取りまとめ
26	自己分析	・事前配布資料の閲覧と要約

		・デュセイが開発した，交流分析手法エゴグラム等のツールを用いて，自己と他者との交流分析を実施する． ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
27	キャリアプレゼンテーション	・５年後，10年後，20年後のキャリアイメージを記述し，４年間の学習計画，課外活動，社会活動，学園生活，研究発表活動，資格取得など記述し，プレゼンテーションする． ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の速読と要約
28	総括	・大学４年間の目標とゴールを設定する ・講義録取りまとめ提出

科目コード	T110403				区　分	教養科目　キャリア領域			
授業科目名	フレッシュマンセミナー［再履］				担当者名	董　航／栗本　育三郎			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、大学で主体的に学ぶための基礎的能力を身につけることを目的とする。大学での学習方法、情報収集、ノートテイキング，レポート作成、プレゼンテーションなどのアカデミックスキルを学ぶとともに、社会人ゲストによる講義を通して社会や仕事への理解を深める。また、共感力・傾聴力・主体性などのメタ認知能力の育成にも重点を置く。

＜授業の到達目標＞
本授業の履修を通して、学生は以下の能力を身につける。
– 大学で主体的に学ぶための基本的なノートテイキングなどの学習スキルを身につける。
– 情報収集、資料の整理、レポート作成、プレゼンテーションなどの基礎的なアカデミックスキルを理解し、実践できる。
– 他者と協働して学ぶ姿勢とコミュニケーション能力を身につける。
– 傾聴力、共感力、対話力などの非認知能力を理解し、グループワークや議論を通して実践できる。
– 社会や企業の活動について理解を深める。
– ゲスト講義などを通して多様な職業や社会課題について

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話のノートテイキング）　2．グループワーク　3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り
少人数（2−3人）や中人数（4−5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：講義の準備等事前に告知された課題　1時間，　復習：テーマに即したノートに記述するレポート等の作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（ノートテイキング，レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学で学ぶとは何か／主体性と成長マインドセット（中山先生）	・大学と高校の違い ・主体性 ・挑戦と失敗 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約（抄録式読書術）
2	大学生活の時間管理と学習習慣(アカデミア時間空間環境)	・アカデミア時間空間環境とアカデミアの立場 ・時間管理 ・学習習慣 ・講義録 ・開かれた討論 ・講義録取りまとめ
3	レポートの書き方①	・事前配布資料の閲覧と要約 ・問いの立て方 ・レポート構造 ・講義録取りまとめ
4	大学での情報収集	・事前配布資料の閲覧と要約

5	プレゼンテーションの基礎	・インターネット検索 ・情報の信頼性 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・伝わる話し方 ・構成 ・講義録取りまとめ
6	コミュニケーションと傾聴力（中山先生）	・傾聴 ・共感 ・対話 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
7	グループディスカッション１	・KJ法で上がった社会課題と解決策について，ディスカッションし，まとめて，グループ発表を行う． ・講義録取りまとめ
8	ゲストスピーカ講演会１	社会人講義① ・講義録取りまとめ
9	グループディスカッション２	・事前配布資料の閲覧と要約 ・KJ法で上がった社会課題と解決策について，ディスカッションし，まとめて，グループ発表を行う． ・講義録取りまとめ
10	ゲストスピーカ講演会2	社会人講義② ・講義録取りまとめ
11	ゲストスピーカ講演会3	社会人講義③ ・講義録取りまとめ
12	社会課題の発見	・事前配布資料の閲覧と要約 ・グループで，KJ法等のツールを用いて，社会課題と解決策をまとめる． ・講義録取りまとめ
13	ゲストスピーカ講演会４	社会人講義④ ・講義録取りまとめ
14	自己理解とリフレクション（中山先生）	・振り返り ・自己成長 ・講義録取りまとめ提出
15	後期オリエンテーション	・事前配布資料の閲覧と要約 ・後期始まりにあたり，履修計画，後期日程のオリエンテーションを行う． ・講義録取りまとめ
16	キャリア形成とは何か	・事前配布資料の閲覧と要約 ・キャリア形成について，ジョブカードやエントリーシート記述を行い，どのように書くか体験する． ・講義録取りまとめ
17	チームビルディングアクティビティ	・事前配布資料の閲覧と要約 ・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
18	リーダーシップとチームワーク（中山先生）	・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
19	ゲストスピーカ講演会5	社会人講義⑤ ・講義録取りまとめ
20	ゲストスピーカ講演会6	社会人講義⑥ ・講義録取りまとめ
21	ゲストスピーカ講演会7	社会人講義⑦ ・講義録取りまとめ
22	ゲストスピーカ講演会8	社会人講義⑧ ・講義録取りまとめ
23	ゲストスピーカ講演会9 ・講義録取りまとめ	社会人講義⑨
24	ゲストスピーカ講演会10	社会人講義⑩ ・講義録取りまとめ
25	レジリエンスと挑戦（中山先生）	・困難への対応 ・成長 ・講義録取りまとめ
26	自己分析	・事前配布資料の閲覧と要約

		・デュセイが開発した，交流分析手法エゴグラム等のツールを用いて，自己と他者との交流分析を実施する． ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
27	キャリアプレゼンテーション	・５年後，10年後，20年後のキャリアイメージを記述し，４年間の学習計画，課外活動，社会活動，学園生活，研究発表活動，資格取得など記述し，プレゼンテーションする． ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の速読と要約
28	総括	・大学４年間の目標とゴールを設定する ・講義録取りまとめ提出

科目コード	T110101				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅰ［①］				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、他者との会話演習を実施することで、必要となる情報を英語で時間をかけることなく伝える練習を行う。また、まとまった英語を聞き取り、その内容について、自身の言葉で説明する練習を行う。

＜授業の到達目標＞
1. 基本的な文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、回答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を把握することができる。

＜授業の方法＞
本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。
授業では理解度を確認するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。クラスメートとペアまたはグループとなり、英語を用いたやりとりを実施する。具体的には、指定された構文を用いて自ら文を作成しそれを他者に伝える。また、他者から与えられた情報について聞き取り、内容についてペアまたはグループ内で共有する活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内容の理解を深めるため、毎回の授業に対して以下の準備学習を行うこと。
予習（約90分）
授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。
復習（約90分）
授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業課題：６５点（５点×１３回）
口頭試問①：１５点
口頭試問②：２０点

＜教科書＞
使用しない（独自プリント配布）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	自己紹介の英語	相手に響く英語での自己紹介とその深堀りに必要な語句を習得する。
2	現在形・過去形：習慣に関する英語	現在形と過去形のほか、頻度副詞を用いて、グループで情報を集め、集めた内容について英語で共有する。
3	未来表現：未来の予定について述べる	be going to, will, be V-ingの表現を用いて、個人のスケジュールを説明するほか、他者に質問をしながら予定を埋める練習を行う。
4	助動詞：能力について述べる	can, be able toの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。

5	助動詞：義務・提案の表現	must, have to, shouldの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
6	助動詞：可能性の表現	must, should, may, can, will, would, couldの表現を用いて可能性を説明する練習を行う。
7	口頭試問①	第1回～第6回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。
8	現在完了形	経験、継続、完了について現在完了形の意味を理解したうえで、出来事の詳細を説明する練習を行う。
9	仮定法現在	将来起こり得ることについて、第6回で学んだ助動詞を用いて説明する練習を行う。
10	仮定法過去・仮定法過去完了	事実と反する内容について説明する練習を行う。
11	関係詞	関係代名詞と関係副詞を用いて、示された事象について詳細な説明をする練習を行う。。
12	比較級	同格を含めた比較の表現を学び、様々な事象やデータについて比較する練習を行う。
13	接続詞	接続副詞など、文と文をつなぐ表現を正確に把握したうえで、実際の英会話において使う練習を行う。
14	口頭試問②	第7回～第13回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。

科目コード	T110101				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅰ［②］				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

English Ⅰ (2) continues the development of basic English communication skills for beginner learners who already has limited control of simple present tense structures. The course strengthens accuracy and fluency in present tense and gradually expands student ability to use past and future forms in controlled and guided communication.
Students increase vocabulary related to daily routines, school life, food, shopping, travel, hobbies, health, abilities, comparisons, and basic advice. Grammar instruction focuses on sentence accuracy, question formation, and combining ideas into short connected speech and writing. Listening practice develops the ability to understand short conversations and identify key information , and respond appropriately.
Speaking activities emphasize structured role-plays, interviews, and guided information-gap tasks to increase confidence. Writing develops from sentence-level work to organized paragraphs of approximately 12–18 sentences using linking words (and, but, because, so, then, first, next, finally). By the end of the course, students will be able to give a short structured oral presentation (2–3 minutes) and write a short multi-paragraph composition integrating present, past, and future forms.

＜授業の到達目標＞

a) Students will be able to use present, past, and future tense forms with improved accuracy to describe daily life, experiences, plans, and simple opinions.
b) Students will be able to ask and answer questions in structured conversations and short role-plays using appropriate question forms.
c) Students will be able to understand the main idea and key details in short listening passages related to familiar topics.
d) Students will be able to write organized paragraphs using correct basic grammar and simple connectors.
e) Students will be able to deliver a short guided oral presentation using notes and simple visuals Upport.

＜授業の方法＞

・ Clear grammar explanation with examples
・ Guided written and oral practice
・ Structured pair and small-group activities
・ Listening tasks with repetition and comprehension checks
・ Paragraph writing with modeling and scaffolding
・ Short guided presentations

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・ Pair interviews
・ Structured role-plays
・ Information-gap tasks
・ Class surveys and reporting
・ Peer review of writing
・ Short individual presentations
・ Vocabulary building competitions
・ Listening dictation practice

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to spend approximately 60 minutes per week on preparation and review.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assessment will be weighted as follows: 40% for class participation activities (writing, presentations, role-plays, etc.) and 60% for the final test.

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Week 1 Theme: Course Introduction and	Students review be-verbs and basic simple present sentence structure in

	Review of Present Tense	affirmative, negative, and question forms. The instructor confirms students' prior knowledge through guided whole-class exercises and short oral drills. Students complete a structured pair interview about daily routines using prepared question prompts. Emphasis is placed on correct subject–verb agreement and clear pronunciation. Students then write a guided paragraph of approximately 10–12 sentences describing their daily life. The class concludes with feedback on common grammar errors and homework focused on review and vocabulary building. Students learn and practice adverbs of frequency such as always, usually, often, sometimes, and never. Controlled sentence-building exercises reinforce correct word order placement.
2	Week 2 Theme: Daily Routines and Frequency	A class survey activity allows students to ask classmates about their habits and record answers. Students report their findings orally using complete sentences. Listening practice includes short conversations about daily schedules with comprehension questions. Students write a structured paragraph incorporating frequency expressions and transitions such as first, then, and after that. Students practice forming Wh-questions accurately in the present tense. Grammar focus includes auxiliary verbs do and does in question formation. Students participate in a guided role-play about discussing class schedules and part-time jobs.
3	Week 3 Theme: School Life and Schedules	Listening exercises focus on identifying key details such as time and location. Students complete a short reading about a student's typical week and answer comprehension questions. Writing practice involves composing a paragraph describing their weekly schedule with clear organiza tion.
4	Week 4 Theme: Likes, Dislikes, and Giving Reasons	Students practice using like + noun and like + verb-ing structures. The conjunction because is introduced to connect ideas logically. Pair interviews focus on hobbies and preferences with structured follow-up questions. Listening practice includes short dialogues expressing opinions. Students are guided to expand sentences by adding reasons and examples. Writing assignment: a paragraph explaining hobbies and preferences with at least three reasons.
5	Week 5 Theme: Describing People and Objects	Students learn adjective order and intensifiers such as very and really. Controlled practice reinforces correct adjective placement before nouns. Students describe classmates or public figures using guided prompts. Listening activities focus on identifying descriptive vocabulary in short recordings. A vocabulary-building activity expands words related to personality and appearance. Students write a descriptive paragraph of 12–15 sentences about a person they admire.
6	Week 6 Theme: Describing Places (There is / There are)	Students practice 'there is' and 'there are' in affirmative, negative, and question forms. Grammar drills emphasize correct singular and plural agreement. Students complete an information-gap map activity that requires accurate spoken description. Listening practice involves identifying locations and objects in a room. Students practice prepositions of place such as next to, behind, and in front of. Writing assignment: describe their room, house, or classroom in an organized paragraph.
7	Theme: Introduction to Past Tense (Regular Verbs)	Students learn the formation and pronunciation rules for regular past tense verbs. Timeline visuals are used to explain completed actions in the past. Controlled drills reinforce affirmative and negative sentence formation. Students conduct short interviews about yesterday's activities. Listening tasks focus on recognizing -ed endings in natural speech. Writing assignment: a paragraph describing what they did last weekend.
8	Theme: Past Tense (Irregular Verbs)	Students learn common irregular verbs through memorization and practice activities. Matching exercises reinforce base and past forms. Pair storytelling activities use picture prompts to encourage simple narrative construction. Listening tasks require identifying past tense verbs in short dialogues. Students practice asking and answering questions. Writing assignment: describe a memorable day using at least five irregular verbs.

9	Theme: Asking About the Past	Students focus on forming accurate past tense questions using did + base verb. Structured role-plays simulate interviews about past experiences. Error correction exercises reinforce common mistakes. Listening tasks include short conversations about travel and weekend activities. Students practice responding in full sentences rather than one-word answers. Writing activity: compose a short Q&A style paragraph about a partner's past experience.
10	Theme: Talking About Experiences	Students practice describing past events in sequence using time expressions such as "first, then, after that, and finally." Speaking activities include guided storytelling with prompts. Listening exercises focus on understanding short narratives about trips or celebrations. Grammar review reinforces regular and irregular verb usage. Students work in pairs to expand short sentences into longer, more detailed descriptions. Writing assignment: a structured paragraph describing a past event with a clear chronological order.
11	Theme: Future Plans (Going to)	Students learn the structure of be going to for planned future actions. Controlled drills reinforce affirmative, negative, and question forms. Pair interviews focus on weekend and vacation plans. Listening practice includes short dialogues about future arrangements. Students are encouraged to ask follow-up questions for additional details. Writing task: describe future goals for the next year in a structured paragraph.
12	Theme: Will and Going To (Basic Contrast)	Students practice distinguishing between planned actions and spontaneous decisions in a simple contexts. Grammar exercises compare 'will' and 'going to' in controlled sentences. Role-play activities simulate making quick decisions during conversations. Listening tasks reinforce recognition of both forms. Students practice writing short dialogues using both future forms correctly. Homework includes revision exercises for tense accuracy.
13	Theme: Midterm Review	Students review present, past, and future structures through interactive grammar games. Pair quizzes reinforce vocabulary retention. Listening comprehension practice revisits earlier topics. Students complete a guided paragraph integrating multiple tenses. Speaking rehearsal prepares students for midterm assessment. Teacher provides detailed corrective feedback.
14	Theme: Midterm Assessment	Students complete a written paragraph assessment demonstrating tense control and organization. Individual short oral presentations (approximately two minutes) assess speaking clarity and structure. Listening comprehension section evaluates understanding of short dialogues. Students receive feedback on strengths and areas for improvement. Reflection activity encourages self-assessment.

科目コード	T110101				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅰ［③］				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、他者との会話演習を実施することで、必要となる情報を英語で時間をかけることなく伝える練習を行う。また、まとまった英語を聞き取り、その内容について、自身の言葉で説明する練習を行う。

＜授業の到達目標＞
1. 基本的な文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、回答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を把握することができる。

＜授業の方法＞
本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。
授業では理解度を確認するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。クラスメートとペアまたはグループとなり、英語を用いたやりとりを実施する。具体的には、指定された構文を用いて自ら文を作成しそれを他者に伝える。また、他者から与えられた情報について聞き取り、内容についてペアまたはグループ内で共有する活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内容の理解を深めるため、毎回の授業に対して以下の準備学習を行うこと。
予習（約90分）
授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。
復習（約90分）
授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業課題：６５点（５点×１３回）
口頭試問①：１５点
口頭試問②：２０点

＜教科書＞
使用しない（独自プリント配布）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	自己紹介の英語	相手に響く英語での自己紹介とその深堀りに必要な語句を習得する。
2	現在形・過去形：習慣に関する英語	現在形と過去形のほか、頻度副詞を用いて、グループで情報を集め、集めた内容について英語で共有する。
3	未来表現：未来の予定について述べる	be going to, will, be V-ingの表現を用いて、個人のスケジュールを説明するほか、他者に質問をしながら予定を埋める練習を行う。
4	助動詞：能力について述べる	can, be able toの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。

5	助動詞：義務・提案の表現	must, have to, shouldの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
6	助動詞：可能性の表現	must, should, may, can, will, would, couldの表現を用いて可能性を説明する練習を行う。
7	口頭試問①	第1回～第6回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。
8	現在完了形	経験、継続、完了について現在完了形の意味を理解したうえで、出来事の詳細を説明する練習を行う。
9	仮定法現在	将来起こり得ることについて、第6回で学んだ助動詞を用いて説明する練習を行う。
10	仮定法過去・仮定法過去完了	事実と反する内容について説明する練習を行う。
11	関係詞	関係代名詞と関係副詞を用いて、示された事象について詳細な説明をする練習を行う。。
12	比較級	同格を含めた比較の表現を学び、様々な事象やデータについて比較する練習を行う。
13	接続詞	接続副詞など、文と文をつなぐ表現を正確に把握したうえで、実際の英会話において使う練習を行う。
14	前置詞	場所や時間を示す前置詞の正しい用法を通して、より細かい表現を身につけ実際の会話に活かすことができる。

科目コード	T110101				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅰ［④］				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

This course builds fundamental English communication skills for very low-level learners. Students strengthen their control of present tense structures and gradually develop the ability to e xpress past experiences and future plans.
Vocabulary development expands to include food, places, descriptions, time expressions, abilities, c omparisons, and basic advice.
Grammar instruction is scaffolded carefully, moving from controlled practice to guided production an d finally to short communicative tasks. Listening activities focus on recognizing key words and simple sentence patterns in short conversati Ons.
Speaking tasks emphasize structured pair work and confidence building. Writing progresses from sentence-level production to short paragraphs of 10–15 sentences. By the end of the course, students integrate multiple tenses in a short written and oral presentation.

＜授業の到達目標＞

Goal of the Class
a) Students will be able to use basic present, past, and future tense structures to communicate about t daily life, experiences, and plans.
b) Students will be able to understand and respond to simple spoken English in structured classroom situations and short conversations.
c) Students will be able to produce short, organized paragraphs and deliver a brief oral presentation about themselves using basic grammar and vocabulary.

＜授業の方法＞

· Lecture-based grammar explanation
· Guided practice and structured drills
· Pair and small-group communication activities
· Integrated listening, speaking, reading, and writing tasks

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

· Pair interviews,
· Role-play simulations,
· Information-gap activities,
· Student surveys and data reporting,
· Peer feedback and editing exercises,
· Short oral presentations.

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to devote approximately two hours per week to independent study, including preparation for upcoming lessons and review of previously covered material. Independent study activities include vocabulary memorization, grammar review, completion of written assignments, and preparation for oral tasks and assessments.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Evaluation will be twofold: 40% will be based on class participation (writing, quizzes, presentations, etc.) and 60% will be based on a final test.

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Week 1: Hello & Classroom English	Theme words: hello, hi, name, teacher, student Students learn basic greetings and classroom words. They practice "My name is..." and "What is your name?" Grammar focus is subject pronouns (I, you) and am/is. Listening includes simple

		greetings. Writing is a 3–4 sentence self-introduction. Activities: Greeting circle role play, name card writing, listen-and-repeat drill, simple introduct I on worksheet.
2	Week 2: Is / Are	Theme words: he, she, it, we, they Students learn the difference between is and are. They practice short sentences like “She is a student.” "They are friends." Listening focuses on identifying singular and plural. Writing includes 5 simple sentences using is/are. Activities: Picture description, board correction game, pair speaking drills.
3	Week 3: Alphabet & Spelling	Theme words: letters, spell, first name, last name Students practice the alphabet and spelling names . They learn how to ask “How do you spell...?” Grammar review: is/are + nouns. Writing includes spelling practice and simple forms. Activities: Spelling race, dictation, phone-number listening practice.
4	Week 4: Numbers & Age	Theme words: numbers 1–100, age, phone number Students practice numbers and say their age. Grammar: "I am ___ years old." Listening includes number dictation. Writing includes personal information sentences. Activities: Bingo, interview partner activity, number listening quiz.
5	Week 5: Family	Theme words: mother, father, sister, brother Students learn family vocabulary. Grammar: possessive adjectives (my, your). They say “This is my mother.” Listening includes a short family description. Writing is 5 sentences about family. Activities: Family tree drawing, pair interview, role play meeting someone's family.
6	Week 6: My Things	Theme words: bag, book, phone, pen Students learn possession using 's and possessive adjectives. Grammar: “This is John's book.” Students write simple ownership sentences. Activities: Classroom object game, find-the-owner speaking activity.
7	Week 7: Daily Routines (Simple Present 1)	Theme words: wake up, eat, go, study, sleep Students begin simple present (I/You). "I wake up at seven." Listening includes short daily routine audio. Writing: My Day (5 sentences). Activities: Schedule interview, clock drawing practice.
8	Week 8: Simple Present (He/She)	Theme words: works, studies, plays Students learn third person singular (adds -s). Practice "He works." She studies. Writing about a friend's routine. Activities: Partner interview and report, board transformation drills.
9	Week 9: Questions in Present	Theme words: do, does, when, what Students form questions: “Do you work?” "Does she study?" Listening for yes/no answers. Writing simple Q&A dialogue. Activities: Survey activity, class questionnaire.
10	Week 10: Time & Days	Theme words: Monday–Sunday, morning, afternoon Students tell time and talk about weekly schedule. Grammar review: present tense + time expressions. Writing a short schedule paragraph. Activities: Timetable role play, listening for time exercise.
11	Week 11: Food & Likes (Affirmative and Negative)	Theme words: rice, bread, chicken, vegetables, like, don't like Students learn to express preference s using “I like...” and “I don't like...”. Introduce count/non-count nouns in a very simple way (e.g., "a banana" vs. "rice"). They practice short dialogues such as “Do you like chicken?” "Yes, I do / No, I don't." Listening includes short conversations about food preferences. Writing focuses on a guided paragraph: “I like... I don't like...” (6–8 sentences). Activities: · Class food survey (students collect 5 answers) · Restaurant role play (waiter/customer using simple menu) · Listening gap-fill (food words missing) · Write a simple menu
12	Week 12: There Is / There Are (Places in Town)	Theme words: school, bank, park, supermarket, near, next to Students learn “There is...” and “There are...” with singular and plural nouns. Introduce simple prepositions of place (in, on, under, next to). Speaking includes describing their town or neighborhood. Listening practice includes identifying locations on a simple map. Writing is a guided paragraph: "In my town, there is..." (8 sentences). Activities: · Map labeling activity · Pair map role play (Student A asks, Student B answers) · Dr. aw your ne ighborhood and describe It · Listening: follow directions and mark a map
13	Week 13: Describing People (Appearance & Personality)	Theme words: tall, short, kind, friendly, quiet, funny Students combine adjectives with "is/are." Review adjective position before nouns ("a tall man")

		Speaking includes describing a classmate (posi tive only). Listening: short description and students identify the correct picture. Writing: describe a friend or family member (8–10 sentences). Activities: · Guess Who speaking game · Adjective matching worksheet · Listening picture selection · Peer editing of writing
14	Week 14: Review & Presentation	Students review present tense, likes, there is/are, descriptions. Grammar consolidation through mixed exercises. Speaking: short presentation "About My Life." Listening: peer presentations with note-taking. Writing: 10-sentence paragraph combining family, routine, and likes. Activities: · Grammar stations (rotation practice) · Mini oral test · Written midterm test · Self-evaluation n reflection

科目コード	T110101				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅰ［⑤］				担当者名	京塚　在裕美／Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本講義では、基礎的な英文法の理解と語彙の向上、リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に取り入れる。日常の学校生活やビジネスシーンを想定した、より実践的な実用英語を身につけることが求められるので、コミュニカティブ・イングリッシュのレベルアップをはかる。語彙の充実から始まり文法やリスニングなど、インプットを重視した構成で、インタラクティブな授業を展開する。

＜授業の到達目標＞
基礎的な英文法を完全に理解し、正しく活用ができるようにする。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を活用できるようにする。
リスニング・リーディング・ライティングの３技能を包括的に向上させる。
TOEICまたはTOEFLの目標スコアを各自で設定する。（TOEICであれば、100点アップ等）

＜授業の方法＞
基礎的な英文法の理解と活用のため、基本例文を用いて詳しく解説する。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を聞き取り、読み取り、書き取る。
リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に向上させる。最初に語彙力の飛躍的な向上をはかり、文章を読みやすくする。リスニング練習や実践的なライティング学習など、インプット中心に基礎を固める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
発音練習のアプリを用い、各自で練習を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書を読み、不明な点を明確にしておく。
新出単語の確認をしておく。
前回の学習ポイントを復習しておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への意欲および課題提出、積極性、小テストのスコア、定期試験の結果をもとに総合的に判定する。

＜教科書＞
講師作成の指定の冊子（授業の初回に配布）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の目標と目的を明確にする。 授業の進め方を具体的に説明する。 アクティブラーニングの目的と進め方を説明する。 「Nice to meet you」 [Talking about ourselves]	講師より、授業の目的と意義、進め方を説明する。 学生は自分の到達目標を設定する 教科書のUnit1を開始 ・基礎的な英単語の書き取り① ・基礎的な英文の聞き取り① ・基礎的な会話文の読み取り① ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
2	What do you like to do? [Talking about Hobbies and Pastimes]	教科書のUnit２を開始 ・基礎的な英単語の書き取り② ・基礎的な英文の聞き取り② ・基礎的な会話文の読み取り② ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
3	Where are you from? [Talking about hometowns]	教科書のUnit３を開始 ・基礎的な英単語の書き取り③ ・基礎的な英文の聞き取り③ ・基礎的な会話文の読み取り③ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）

4	Are you hungry? [Talking about food]	教科書のUnit４を開始 ・基礎的な英単語の書き取り④ ・基礎的な英文の聞き取り④ ・基礎的な会話文の読み取り④ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
5	Let's eat [Talking about restaurants and meals]	教科書のUnit５を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑤ ・基礎的な英文の聞き取り⑤ ・基礎的な会話文の読み取り⑤ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
6	What music do you like? [Talking about music]	教科書のUnit６を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑥ ・基礎的な英文の聞き取り⑥ ・基礎的な会話文の読み取り⑥ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
7	Where are you going? [talking about travel and vacations]	教科書のUnit７を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑦ ・基礎的な英文の聞き取り⑦ ・基礎的な会話文の読み取り⑦ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T110101				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅰ［⑥］				担当者名	京塚　在裕美／Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本講義では、基礎的な英文法の理解と語彙の向上、リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に取り入れる。日常の学校生活やビジネスシーンを想定した、より実践的な実用英語を身につけることが求められるので、コミュニカティブ・イングリッシュのレベルアップをはかる。語彙の充実から始まり文法やリスニングなど、インプットを重視した構成で、インタラクティブな授業を展開する。

＜授業の到達目標＞
基礎的な英文法を完全に理解し、正しく活用ができるようにする。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を活用できるようにする。
リスニング・リーディング・ライティングの３技能を包括的に向上させる。
TOEICまたはTOEFLの目標スコアを各自で設定する。（TOEICであれば、100点アップ等）

＜授業の方法＞
基礎的な英文法の理解と活用のため、基本例文を用いて詳しく解説する。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を聞き取り、読み取り、書き取る。
リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に向上させる。最初に語彙力の飛躍的な向上をはかり、文章を読みやすくする。リスニング練習や実践的なライティング学習など、インプット中心に基礎を固める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
発音練習のアプリを用い、各自で練習を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書を読み、不明な点を明確にしておく。
新出単語の確認をしておく。
前回の学習ポイントを復習しておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への意欲および課題提出、積極性、小テストのスコア、定期試験の結果をもとに総合的に判定する。

＜教科書＞
講師作成の指定の冊子（授業の初回に配布）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講師より、授業の目的と意義、進め方を説明する。 学生は自分の到達目標を設定する。 授業の目標と目的を明確にする。 授業の進め方を具体的に説明する。 アクティブラーニングの目的と進め方を説明する。 「Nice to meet you」 [Talking about ourselves]	教科書のUnit1を開始 ・基礎的な英単語の書き取り① ・基礎的な英文の聞き取り① ・基礎的な会話文の読み取り① ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
2	What do you like to do? [Talking about Hobbies and Pastimes]	教科書のUnit２を開始 ・基礎的な英単語の書き取り② ・基礎的な英文の聞き取り② ・基礎的な会話文の読み取り② ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
3	Where are you from? [Talking about hometowns]	教科書のUnit３を開始 ・基礎的な英単語の書き取り③

		・基礎的な英文の聞き取り③ ・基礎的な会話文の読み取り③ ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit４を開始
4	Are you hungry? [Talking about food]	・基礎的な英単語の書き取り④ ・基礎的な英文の聞き取り④ ・基礎的な会話文の読み取り④ ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit５を開始
5	Let's eat [Talking about restaurants and meals]	・基礎的な英単語の書き取り⑤ ・基礎的な英文の聞き取り⑤ ・基礎的な会話文の読み取り⑤ ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit６を開始
6	What music do you like? [Talking about music]	・基礎的な英単語の書き取り⑥ ・基礎的な英文の聞き取り⑥ ・基礎的な会話文の読み取り⑥ ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit７を開始
7	Where are you going? [talking about travel and vacations]	・基礎的な英単語の書き取り⑦ ・基礎的な英文の聞き取り⑦ ・基礎的な会話文の読み取り⑦ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T110101				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅰ［再履］				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、英語Iを再履修する学生を対象とし、英語の基礎的な文法・語彙・読解力および簡単な会話表現の習得を目的とする。高校レベルの基本文法を復習しながら、日常生活や大学生活に関わる英語表現を理解し、英語を読む・聞く・話す・書くという4技能の基礎力をバランスよく身につけることを目指す。
また、英語に対する苦手意識を克服し、継続的に学習する姿勢を養うことも重要な目的とする。

＜授業の到達目標＞
本授業を履修した学生は、以下の能力を身につけることを目標とする。
基本的な英文法（時制、助動詞、前置詞など）を理解できる。
日常生活に関する簡単な英文を読むことができる。
自己紹介や簡単な会話表現を英語で行うことができる。
短い英文を書くことができる。

＜授業の方法＞
講義と演習を組み合わせて授業を行う。
文法解説に加えて、ペアワークや簡単な会話練習を行い、英語を実際に使う機会を設ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有
ミニゲーム、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等の参加型活動を取り入れ、学生同士の協働的な学習を促進する。また、英語による発話・対話の機会を多く設け、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
準備学習（予習・復習等）：週あたり3時間程度
予習として、授業で扱う語彙・表現の確認や指定教材の事前学習を行う。復習として、授業で扱った表現の定着を目的とした音読・書き取り・オンライン教材（Google Classroom等）の課題に取り組む。また、ペアワーク・グループワークで使用した表現を整理し、次回授業で活用できるよう準備する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業内活動への取り組み（発話量、積極性、協働姿勢等）　40%
・課題（提出物・オンライン課題等）　30%
・最終発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	英語の基本構造	英語の語順（SVO）を理解する。主語・動詞・目的語の役割を確認し、簡単な英文を作る練習を行う。
2	現在形と日常表現	現在形の使い方を学び、日常生活や習慣を表す英文を理解する。簡単な自己紹介や日常活動を英語で表現する練習を行う。
3	過去形	過去形の基本的な用法を学び、過去の出来事を説明する英文を読む・書く練習を行う。
4	未来表現	will / be going to を用いた未来表現を学び、予定や計画を英語で表現する。
5	助動詞	can / must / should などの助動詞の意味と使い方を学び、可能・義務・助言を表す英文を理解する。
6	前置詞と場所表現	in / on / at などの基本的な前置詞を学び、場所や時間を表す表現を理解する。
7	日常英会話	挨拶、依頼、質問など大学生活で使える基本的な会話表現を練習する。
8	英語での自己紹介とまとめ	英語で簡単な自己紹介を作成し発表する。授業で学んだ内容を振り返り、基礎表現の定着を図る。

9	基礎表現の再定着①（時制・基本文）	これまで扱った基本文型・時制を確認し、ペアワークで反復練習を行う。
10	基礎表現の再定着②（疑問文・応答）	簡単な質問と応答を中心に、ミニゲームを通して運用練習を行う。
11	トピック会話①（身近なテーマ）	日常生活に関するテーマで短い会話を行い、発話量の増加を図る。
12	トピック会話②（意見表現）	簡単な意見（好き・嫌い・理由）を英語で伝える練習を行う。
13	発表準備①（構成・表現整理）	最終発表に向けて、テーマ設定と基本構成の作成を行う。
14	発表（フィードバック）	発表を行い、相互に改善点を共有する。

科目コード	T110103				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅲ［①］				担当者名	Everett Ofori／古賀　敢人			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

This course develops conversational fluency through structured question-and-answer practice and functional communication activities. Each class begins with a short grammar or vocabulary focus that supports communication. Students then practice answering common real life questions smoothly, participate in functional role-plays, and practice improvisational conversation through situational dialogue. Special emphasis is placed on accurate and
confident use of present, past, and future tenses.

＜授業の到達目標＞

Students will:
・Answer at least 80 common conversational questions smoothly.
・Communicate effectively using present, past, and future tenses.
・Participate confidently in role-plays based on real-life situations.
・Develop the ability to improvise conversations in unfamiliar situations.

＜授業の方法＞

Classes follow a communicative language teaching approach. Each lesson begins with a short explanation and practice of key grammar or vocabulary. Students then engage in structured question-and-answer activities designed to build fluency and automatic responses. This is followed by role-play exercises that simulate real-life communication situations. Finally, students participate in improvisational dialogue tasks where they respond to spontaneous sc enarios using the language practiced during the lesson.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

The course emphasizes student-centered learning through interactive speaking activities. Students participate in pair and group discussions, role-plays, interviews, and situational problems-solving tasks. Question-and-answer drills help students develop fluency, while improvisation tasks encourage flexible communication. Peer interaction and collaborative speaking exercises ensure that students actively use English during each class session.

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students should spend 30-60 minutes preparing before class, reviewing questions, vocabulary, and practicing answers aloud.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Participation will comprise 40% of the grade and a final test will make up the balance of 60%.

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Theme: Introductions and Personal Information	Grammar Focus: Present tense of be for introductions. Questions - What is your name? - Where do you live? - Where are you from? - What is your hobby? - What is your major? - What year are you in? - Why did you choose your major? - What do you want to do in the future? Function (Role-Play) Meet someone for the first time. Situations/Dialogue (Improvisation scenario placeholder)
2	Theme: Daily Life and Routines	Vocabulary Focus: Daily routine expressions. Questions - What time do you usually wake up? - What do you do in the morning? - What do you usually eat for breakfast? - How do you get to university? - How long does it take? - What do you usually do after class? - What do you do on weekends?

3	Theme: Family and Relationships	- How often do you exercise? Function: (Role-Play) Talking about daily routines with a friend. Situations/Dialogue Grammar Focus: Present simple for habits and family descriptions. Questions - How many people are in your family? - Do you have any brothers or sisters? - What do your parents do? - Who are you closest to in your family? - What do you usually do with your family? - How often do you see your family? - What do you like to do together? Function (Role-Play) Introducing family members. Situations/Dialogue
4	Theme: Hobbies and Free Time	Vocabulary Focus: Leisure and hobby vocabulary. Questions - What are your hobbies? - When did you start this hobby? - How often do you do it? - Why do you enjoy it? - Do you prefer indoor or outdoor hobbies? - What hobbies would you like to try? - Do you have hobbies with friends? - What hobbies are popular in your country? Function (Role-Play) Discussing hobbies with classmates. Situations/Dialogue
5	Theme: Food and Dining	Grammar Focus: Past tense for recent experiences. Questions - What is your favorite food? - What food do you dislike? - How often do you eat out? - Do you cook? - What food did you eat yesterday? - What food would you like to try? - Do you prefer Japanese or international food? - What is a popular dish in your country? Function (Role-Play) Ordering food at a restaurant. Situations/Dialogue
6	Theme: University Life	Vocabulary Focus: University and classroom vocabulary. Questions - Why did you choose this university? - What classes are you taking now? - Which class is your favorite? - Which class is difficult? - What did you study last semester? - What do you want to study in the future? - How many hours do you study each day? - Where do you usually study? Function (Role-Play) Talking with a classmate about courses. Situations/Dialogue
7	Theme: Free Time and Social Activities	Grammar Focus: Future forms (will and going to). Questions - What do you usually do in your free time? - What did you do last weekend? - What will you do next? weekend? - Do you prefer staying at home or going out? - Do you watch movies? - What kind of movies do you like? - Do you play games? - How often do you relax with friends? Function (Role-Play) Inviting someone to spend time together. Situations/Dialogue
8	Theme: Travel and Vacations	Vocabulary Focus: Travel vocabulary. Questions - Do you like traveling? - Where did you travel last year? - Where do you want to travel? -Why do yo u want to go there? - Who do you travel with? - 62. What do you usually do when traveling? - Do you prefer mountains or beaches? - What country would you like to visit? Function (Role-Play) Planning a trip Situations/Dialogue
9	Theme: Asking for and Giving Directions	Grammar Focus: Imperatives and polite requests.

		Questions - Do you know this area well? - Where is the nearest station? - How do you get to the library? - Is there a convenience store nearby? - How long does it take to get there? - What transportation do you usually use? - Can you give directions in English? - Have you ever helped a tourist? Function (Role-Play) Giving directions to a visitor. Situations/Dialogue (Improvisation scenario placeholder)
10	Theme: Shopping and Buying Things	Vocabulary Focus: Shopping vocabulary. Questions - Do you like shopping? - Where do you usually shop? - What did you buy recently? - How often do you buy clothes? - Do you prefer online shopping? - What do you usually buy online? - What will you buy next? - Do you like sales? Function (Role-Play) Shopping in a store. Situations/Dialogue
11	Theme: Health and Lifestyle	Grammar Focus: Present simple for habits. Questions - Do you exercise regularly? - What kind of exercise do you do? - How often do you exercise? - What did you do to stay healthy last week? - Do you eat healthy food? - How many hours do you sleep? - What do you do to relax? - What will you do to improve your health? Function (Role-Play) Talking to a doctor or giving health advice. Situations/Dialogue
12	Theme: Weather and Seasons	Vocabulary Focus: Weather vocabulary. Questions - What is the weather like today? - What is your favorite season? - Why do you like that season? - What did you do last summer? - What activities do you do in winter? - Does the weather affect your mood? - What is the weather like in your hometown? - What season would you like to travel in? Function (Role-Play) Making plans depending on the weather. Situations/Dialogue
13	Theme: Technology and Daily Life	Grammar Focus: Present tense vs past tense. Questions - How often do you use your smartphone? - What apps do you use the most? - Did you use technology a lot when you were younger? - What technology do you use for studying? - Do you prefer books or digital devices? - How does technology help students? - What technology will be important in the future? - What new technology would you like to try? Function (Role-Play) Helping someone solve a technology problem. Situations/Dialogue
14	Theme: Transportation and Travel	Vocabulary Focus: Transportation vocabulary. Questions - How do you usually travel to school? - Do you use trains often? - What transportation did you use yesterday? - What is the fastest way to travel in your city? - Do you like driving? - What transportation do you prefer for long trips? - What transportation will people use in the future? - Have you ever missed a train or bus? Function (Role-Play) Buying a train or bus ticket. Situations/Dialogue

科目コード	T110103				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅲ［②］				担当者名	古賀　敢人／Everett Ofori			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本授業では、英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とし、ミニゲームやアクティビティを多く取り入れながら英語を実際に使う機会を増やす。
英語の文法や語彙の復習を行いながら、ペアワークやグループワーク、クイズ、ロールプレイなどのゲーム形式の活動を通して、英語を楽しく学ぶ環境を作ることを目指す。
また、英語に対する心理的なハードルを下げ、学生が自発的に発話することを促すことで、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。

＜授業の到達目標＞
基本的な英語表現を使って簡単なコミュニケーションができる。
英語を使ったゲームや活動に積極的に参加できる。
英語で自分の意見や経験を簡単に説明できる。
英語を使うことへの抵抗感を減らし、学習意欲を高める。

＜授業の方法＞
本授業は、ミニゲーム、ペアワーク、グループワーク等の参加型活動を中心とした演習形式で実施する。学生が英語を実際に使用する機会を重視し、実践的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有
ミニゲーム、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等の参加型活動を取り入れ、学生同士の協働的な学習を促進する。また、英語による発話・対話の機会を多く設け、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
準備学習（予習・復習等）：週あたり3時間程度
予習として、授業で扱う語彙・表現の確認や指定教材の事前学習を行う。復習として、授業で扱った表現の定着を目的とした音読・書き取り・オンライン教材（Google Classroom等）の課題に取り組む。また、ペアワーク・グループワークで使用した表現を整理し、次回授業で活用できるよう準備する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業内活動への取り組み（発話量、積極性、協働姿勢等）　40%
・課題（提出物・オンライン課題等）　30%
・最終発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Ice Breaker English	英語での自己紹介ゲーム、クラスのルール確認、簡単な英語ゲームを通してクラスの雰囲気を作る。
2	Vocabulary Game	英単語クイズや連想ゲームを行い、語彙力を楽しく強化する。
3	Conversation Game	ペアでの質問ゲームやスピード会話ゲームを通して英語で話す練習を行う。
4	Guessing Game	英語でヒントを出して答えを当てるゲームを行い、説明力と語彙力を養う。
5	Role Play	レストランや買い物などの場面を想定したロールプレイを行う。
6	Story Game	英語で物語を作るゲームを通して表現力を養う。
7	Team Quiz	チーム対抗の英語クイズを行い、理解度を確認する。
8	English Presentation	簡単な英語プレゼンテーションを行い、授業のまとめを行う。
9	ディスカッション①（意見交換）	賛成・反対の意見表現を学び実践
10	ディスカッション②（問題解決）	グループで課題に対する解決策を検討・発表
11	プレゼン準備①（テーマ設定・構成）	最終発表に向けた企画立案
12	プレゼン準備②（スライド・発話練習）	ペア・グループでの相互フィードバック

13	プレゼンリハーサル	模擬発表と改善
14	最終発表	学生によるプレゼンテーション

科目コード	T110201				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［①］				担当者名	安井　良彰		
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞
マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(90分程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認（60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト50%

＜教科書＞
土岐 順子　情報利活用 文書作成 Word 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（１）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（２）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行 う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータ をワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（１）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（２）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（３）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときに有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	総合問題[1]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
13	総合問題[2]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめと確認	学習内容の達成度の確認を行う。

科目コード	T110201				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［②］				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞
マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(2時間程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業の確認（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞
土岐 順子　情報利活用 文書作成 Word 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書の作成と管理	Wordの導入から、タイピングやファイル作成といった基礎を確認する。
3	一般的なビジネス文書の作成	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
4	シンプルなレポートや報告書の作成	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
5	表、画像、図形を使った文書の作成（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
6	表、画像、図形を使った文書の作成（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行 う。
7	図やグラフで情報を伝える文書の作成	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
8	既存のデータを利用した文書の作成	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータ をワードで利用する方法について解説する。
9	読みやすいレイアウトの長文の作成	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
10	効率のよい長文の作成	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
11	長文の編集と加工	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
12	共同作業と文書の保護	Wordファイルを複数人でブラッシュアップする際の機能について学習する。
13	複数の宛先に送付する文書の作成	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときに有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。

科目コード	T110201				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［③］				担当者名	安井　良彰		
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞
マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(90分程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認（60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト50%

＜教科書＞
土岐 順子　情報利活用 文書作成 Word 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（１）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（２）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行 う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータ をワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（１）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（２）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（３）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときに有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	総合問題[1]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
13	総合問題[2]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめと確認	学習内容の達成度の確認を行う。

科目コード	T110201				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［④］				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞
マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(2時間程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業の確認（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞
土岐 順子　情報利活用 文書作成 Word 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書の作成と管理	Wordの導入から、タイピングやファイル作成といった基礎を確認する。
3	一般的なビジネス文書の作成	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
4	シンプルなレポートや報告書の作成	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
5	表、画像、図形を使った文書の作成 (1)	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
6	表、画像、図形を使った文書の作成 (2)	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行 う。
7	図やグラフで情報を伝える文書の作成	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
8	既存のデータを利用した文書の作成	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータ をワードで利用する方法について解説する。
9	読みやすいレイアウトの長文の作成	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
10	効率のよい長文の作成	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
11	長文の編集と加工	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
12	共同作業と文書の保護	Wordファイルを複数人でブラッシュアップする際の機能について学習する。
13	複数の宛先に送付する文書の作成	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときに有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。

科目コード	T110201				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［再履］[オンデマンド]				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞
マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す(2時間程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の復習（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書の作成と管理	Wordの導入から、タイピングやファイル作成といった基礎を確認する。
3	一般的なビジネス文書の作成	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
4	シンプルなレポートや報告書の作成	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
5	表、画像、図形を使った文書の作成（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
6	表、画像、図形を使った文書の作成（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行 う。
7	図やグラフで情報を伝える文書の作成	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
8	既存のデータを利用した文書の作成	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータ をワードで利用する方法について解説する。
9	読みやすいレイアウトの長文の作成	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
10	効率のよい長文の作成	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
11	長文の編集と加工	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
12	共同作業と文書の保護	Wordファイルを複数人でブラッシュアップする際の機能について学習する。
13	複数の宛先に送付する文書の作成	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときに有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。

科目コード	T110203				区　分	教養・汎用的技能領域		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	尾﨑 信之／栗本　育三郎		
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

本授業の目的はコンピュータシステムの全般に関して、深く理解することです。まずは新聞ニュースなどで使われている用語が判ることを目指します。そのためには大きく、条業の到達目標にある４項目に関して講義を進めて行きます。またグループワークとして特定の題材を元に、さらに深堀をして、相互に発表討議をしていきながら、理解を深めていきましょう。途中数回にわたって、どの程度理解しているかのクイズを出していきます。

＜授業の到達目標＞

1. コンピュータの基本構造・仕組みを理解し、情報社会で必要な基礎的リテラシーを身につける
2. ハードウェアからソフトウェア、ネットワーク、データ活用まで一連の概念を体系的に理解する。
   簡易アセンブラ言語をプログラミングすることで、計算機の動作原理を理解する。
3. LSIを含むデジタル回路の基礎を知り、現代コンピュータがどのように動作しているかを説明できる。
4. ソフトウェア開発、システム開発とはどのようなものであるか、理解する。

＜授業の方法＞

解説と問いの提示、グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習問題等の回収

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング有り
グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習時利用、事後学習、演習問題等の回収並びにフィードバックを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

リサーチ活動：事前に授業要約メモからWEBなどの調査(100分)
プレゼン資料作成:グループ討論のための資料、プレゼンテーション資料の作成とアップロード、期中、期末でのノートの取りまとめ提出(100分)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価方法
評価＝QUIZ（10%）、グループ討議、プレゼンテーション（10%）、質問など、授業中の貢献(10%）、レポート（70%）
合計100パーセント
フィードバック方法
QUIZは適宜，解説する．グループ討議，プレゼンテーションは質疑などでリアルタイムでコメントする．質問や授業中のコメントなど随時受付，リアルタイムでコメントする．
レポートは，採点し適宜コメントを返す．

＜教科書＞

使用予定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義で学ぶこと、計算機の歴史、半導体の歴史
2	コンピュータの原理(1)	基本構成と機能
3	コンピュータの原理(2)	プロセッサーまわり
4	コンピュータの原理(3)	簡易アセンブラのプログラミングを通した動作原理の理解
5	デジタル回路と半導体(1)	半導体とは
6	デジタル回路と半導体(2)	基本的なデジタル回路
7	デジタル回路と半導体(3)	集積回路とは
8	デジタル回路と半導体(4)	半導体のサプライチェーン
9	オペレーションシステム（OS）	ドライバー、ミドルウェア、アプリケーションの構造
10	データ構造	リレーショナルデータベース、ファイルシステム
11	ネットワークとインターネット	外部とのさまざまな通信方式

12	ソフトウェア開発論	手法論
13	システム開発	受託開発、パッケージ開発、工数
14	まとめ	全体を総括する.

科目コード	T110205				区　分	教養			
授業科目名	TOEIC Ⅰ［①］				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
TOEICの各PARTについて詳細な解法手法を提示し、高得点の獲得を目指す。

＜授業の到達目標＞
TOEICの各PARTについて、一つずつ丁寧に解説し、TOEIC本試験で500点台に到達することを目標とする。また、英語の使用に慣れた学生においては実用域である700点台以上のスコアを獲得するために必要な知識・技能を身につける。

＜授業の方法＞
各パートの模擬問題を行いつつ、必要な解法手法を提示し、手法通りに問題を解く練習を行う。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。試験問題を模した問題を学生自らが作成し、お互いに問題を解きあうことで、作問者の意図を理解するとともに、正答への道筋を自ら把握する機会を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（約90分）
授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。
復習（約90分）
授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
TOEIC IPテスト（期末）　40%
小テスト（語彙・リスニング確認等）　20%
課題（オンライン課題・演習問題等）　20%
授業参加・授業内活動（演習・グループワーク等）　20%

＜教科書＞
早川幸治　TOEIC L&Rテスト書き込みドリル　桐原書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Part 1 人物の動作と状態、物の状態と位置	Part 1で出題される発話文の文法を確認するほか、穴埋めリスニングを行い確実に文の内容を聞き取る練習を行う。
2	Part 2 疑問詞を使った疑問文、基本構文と応答の決まり文句、Yes/No疑問文	Part 2で出題される会話文の提携パターンを学ぶ。
3	Part 1, Part 2演習、Part 5 品詞	過去2回分の確認を図るリスニングテストの実施。また、問題を実際に作成し全体で解き合う。Part 5では頻出する品詞問題の解説を行う。
4	Part 5 動詞、代名詞、関係代名詞	Part 5で必ず出題される文法項目の確認及び練習問題を解く。
5	Part 5 接続詞・前置詞、Part 5復習	Part 5の難関問題である接続詞・前置詞の問題の解説を行う。そのうえで、文法問題の総復習を行う。
6	TOEICハーフ模試及び解説	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 3 日常場面での会話、電話での会話、オフィスでの会話①、オフィスでの	Part 3で出題される頻度の高い会話文を聞き取る方法を学ぶ。

	会話②	
8	Part 4 アナウンス・ツアー、ラジオ放送・宣伝	Part 4で出題される頻度の高いスピーチ文を聞き取る方法を学ぶ。
9	Part 4 留守番電話、トークスピーチ・会議の一部	図表を伴うスピーチ文の聞き取り方法を学ぶほか、先読みができない場合の対処法を習得する。
10	Part 3, 4の復習	Part 3, 4の模擬問題を解答し、これまでの解答手法を習得できているか確認する。
11	Part 7 Skim Reading	Part 7の攻略に必要な速読で求められるSkim Readingを実践する。
12	Part 7 表・用紙、広告、チャット、手紙・Eメール	前回学んだskim readingを使ってpart 7の様々な問題を解く。
13	Part 7 ダブルパッセージ、トリプルパッセージ	時間のかかる複数パッセージ問題への取り組み方、skim readingの仕方を説明し問題を解く。
14	Part 6 時制・代名詞・語彙問題、つなぎ言葉・文の挿入	Part 6の全パターンの解説を行ったうえで、各パターンの解答手法を学ぶ。

科目コード	T110205				区　分	教養			
授業科目名	TOEIC Ⅰ ［②］				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

TOEIC I introduces students to the structure and skills required for the TOEIC test while building t heir fundamental listening, reading, speaking, and writing abilities. Students will learn practical strategies for all TOEIC sections and develop active skills through role-plays, simulations, pair work, and guided exercises.
Listening tasks focus on identifying key information, understanding conversations, and following sho rt talks. Reading tasks build vocabulary, grammar awareness, and skimming/scanning abilities. Speaking and writing are developed through structured practice in short answers, picture description s, emails, and paragraph writing.
By the end of the course, students will be able to perform basic TOEIC-style tasks with confidence a nd begin integrating skills under timed conditions.

＜授業の到達目標＞

a) Students will be able to understand and respond accurately to basic TOEIC listening and reading tasks.
b) Students will be able to produce short spoken and written responses using appropriate vocabulary and grammar for TOEIC scenarios.
c) Students will be able to apply test-taking strategies to manage time, interpret instructions, and avoid common mistakes.
d) Students will be able to reflect on their performance, self-correct, and develop independent study strategies for TOEIC preparation.

＜授業の方法＞

・Lecture-based explanation of test structure and grammar points
・Guided exercises for controlled skill development
・Pair and small-group communicative tasks for active learning
・Timed practice tests and feedback sessions
・Integrated listening, reading, speaking, and writing practice

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・Pair interviews and role-plays simulating TOEIC scenarios
・Information-gap exercises (maps, menus, schedules)
・Vocabulary building through matching, collocation, and context practice
・Peer feedback on speaking and writing
・Mini timed quizzes and mock sections
・Guided paragraph and email writing practice

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to devote approximately 2–3 hours per week for review, vocabulary practice, and timed TOEIC exercises.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Grading will consist of in-class participation and homework (40%) and final test (60%).

＜教科書＞

All materials will be created by the lecturer.

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Theme: Overview of TOEIC Test	Content: Students are introduced to TOEIC Listening and Reading sections, as well as optional Speaking and Wr Iting sections. The teacher explains test timing, question types, and scoring. Students complete a short diagnostic listening and reading test to determine current skill levels. Strategies such as listening for key words, scanning text for details, and

		eliminating wrong answers are discussed. Students review basic vocabulary and grammar commonly seen on TOEIC. A short reflective discussion allows students to set goals for the course.
2	Theme: Observing and Describing Images	Content: Students practice listening to descriptions of photographs and matching them to the correct Image. Vocabulary for objects, places, and actions is introduced and reinforced. Controlled listening drills focus on key details such as position, color, and action. Pair work allows students to describe photographs aloud to a partner, checking for accuracy. Listening comprehension exercises include short audio prompts and multiple-choice questions. Students write a brief description of one photograph using key vocabulary.
3	Theme: Understanding Short Questions and Answers	Content: Students practice listening to short questions and identifying correct responses. Common TOEIC question-response patterns are introduced, including simple yes/no, short-answer, and clarification responses. Controlled drills focus on intonation and stress in both questions and answers. Pair activities simulate short conversations where students must choose or produce correct responses . Listening comprehension worksheets are completed individually. Students reflect on common traps and strategies to avoid them.
4	Theme: Identifying Main Ideas in Conversations	Content: Students listen to two- to three-speaker conversations and identify main ideas and specific Details. Note-taking techniques are introduced and practiced with guided exercises. Pair discussion follows where students compare notes and confirm answers. Listening drills include comprehension questions that focus on speaker intention and sequence of eve Nts. Vocabulary related to daily life, business, and travel is reinforced. Students write a short paragraph summarizing the conversation using key phrases and transitions.
5	Theme: Listening for Detail and Sequence	Content: Students practice listening to short talks, announcements, and presentations. Activities focus on identifying main ideas, sequence of events, and specific numeric or factual details. Guided note-taking exercises are provided to improve information retention. Pair discussion allows students to ask each other questions about what they heard. Listening worksheets include multiple-choice and short-answer questions. Students write a short summary paragraph including main points and supporting details.
6	Theme: Grammar and Vocabulary for Completion	Content: Students review key TOEIC grammar points such as verb tense, subject-verb agreement, prepos itions, a and article use. Strategies for eliminating wrong answer choices are practiced in controlled exercises. Pair activities involve analyzing sample sentences and explaining the reasoning behind answer choice S. Timed exercises simulate test conditions. Vocabulary relevant to business, travel, and daily life is reinforced. Students write five sentences of their own using the structures reviewed.
7	Theme: Completing Short Paragraphs	Content: Students practice reading paragraphs and filling in missing words or sentences. Strategies include predicting content from context and understanding logical flow. Pair exercises allow discussion of choices and reasoning. Listening or reading context clues are incorporated where possible. Exercises integrate new vocabulary and reinforce grammar structures. Students write a short paragraph completing a partially given text, ensuring cohesion and grammar l accuracy.
8	Theme: Skimming and Scanning Techniques	Content: Students are introduced to longer passages and practice skimming for main ideas and scanning for details. Techniques for managing time and approaching multiple-choice questions are explained. Pair practice involves reading a passage and asking each other comprehension questions. Listening exercises may complement reading where dialogues or announcements appear in the text. Students summarize the passage in their own words in 3–4 sentences. Vocabulary from the reading is reinforced through matching and gap-fill exercises.

9	Theme: TOEIC-Relevant Vocabulary	Content: Students practice vocabulary in context, focusing on business, travel, and daily life. Word families, synonyms, and common collocations are reviewed. Pair activities include matching words with definitions, using words in sentences, and creating mini -dialogues. Listening practice reinforces vocabulary recognition in short audio clips. Students write sentences using new vocabulary. Homework focuses on flashcards and mini-quizzes to reinforce retention.
10	Theme: Pronunciation and Fluency	Content: Students practice reading short sentences aloud clearly and with natural rhythm. Teacher models stress, intonation, and linking words. Pair practice involves reading to a partner and providing feedback. Listening activities include identifying correct pronunciation in audio recordings. Students record themselves reading aloud to monitor improvement. A brief reflection and discussion focus on clarity and intonation patterns.
11	Theme: Responding to Familiar Questions	Content: Students practice answering questions about familiar topics such as hobbies, family, and work. Model answers are provided for structure and vocabulary support. Pair interviews simulate test conditions. Listening tasks reinforce the correct intonation and answer length. Students work on full sentences rather than one-word responses. Writing a short paragraph with possible responses helps reinforce structure and vocabulary.
12	Theme: Extended Responses and Organization	Content: Students learn strategies to describe pictures using location, action, and details. Pair activities involve describing a picture to a partner without showing it. Controlled prompts guide students to organize ideas logically. Listening exercises include following a partner's description to match the correct image. Students practice fluency by timing themselves while speaking. Writing task: a short descriptive paragraph based on one picture.
13	Theme: Grammar Accuracy and Clarity	Content: Students review sentence structure, word order, and punctuation. Exercises involve correcting errors in short sentences. Pair editing allows peer feedback. Students practice expanding simple sentences into slightly longer ones. Controlled writing exercises simulate TOEIC sentence-completion tasks. Homework: write five sentences using recently learned grammar structures.
14	Theme: Formal Email Writing	Content: Students learn email structure: greeting, purpose, body, closing. Sample prompts are provided for requesting information or providing updates. Pair review allows students to critique each other's drafts. Focus is placed on tone, clarity, and appropriate vocabulary. Students write one email individually and share with the teacher for feedback. Vocabulary and transitional phrases are reinforced through exercises.

科目コード	T110207				区　分	教養			
授業科目名	TOEICⅢ				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
TOEICの総合スコアを伸ばすために、解説と演習を繰り返す。

＜授業の到達目標＞
TOEICで４００点以上（一般学生）、７００点以上（留学生）を目指す。

＜授業の方法＞
本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。
授業では理解度を確認するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内容の理解を深めるため、毎回の授業に対して以下の準備学習を行うこと。
予習（約90分）
授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。
復習（約90分）
授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
TOEIC IPテスト（期末）　40%
小テスト（語彙・リスニング確認等）　20%
課題（オンライン課題・演習問題等）　20%
授業参加・授業内活動（演習・グループワーク等）　20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	TOEICテストの理解とスコアアップ戦略	内容 ・コース説明・レベル確認 ・TOEICテスト構成の確認 ・よくある間違い ・時間配分の戦略 活動 ・ミニ模試（Listening + Reading） ・自己分析
2	日常会話のリスニング強化	TOEIC Part 2（応答問題）の攻略 ・疑問文パターン ・間接的な返答 ・活動

		Listening drills ・ペアでQ&A練習 ・シャドーイング TOEIC Part 3 対策 ・会話の目的を聞き取る ・推測問題
3	職場の会話理解	活動 ・会話問題演習 ・ロールプレイ ・情報メモ取り TOEIC Part 4 対策 ・重要情報の聞き取り ・キーワード予測
4	アナウンス・説明の理解	活動 ・Listening note-taking ・要約練習 ・問題演習 TOEIC Part 5 ・品詞問題 ・時制・前置詞
5	文法問題の攻略	活動 ・Grammar drills ・スピード問題演習 ・ミス分析 TOEIC Part 6 ・文脈から語彙を推測 ・接続詞・論理展開
6	文脈理解と語彙	活動 ・短文読解 ・空所補充練習 ・ペアディスカッション TOEIC Part 7 ・Email ・Notice ・Advertisement
7	ビジネス文書の読解	活動 ・スキミング ・スキャニング ・情報検索 ・ミニTOEICテスト ・弱点分析 ・スコアアップ戦略
8	模擬試験と総復習	活動 ・模試実施 ・解説 ・個別フィードバック
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T110209				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技Ⅰ［a］				担当者名	小川　千尋			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン等を行う。

＜授業の到達目標＞

本授業は，主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで，それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし，次の４点を到達目標とする。
①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ，能力に応じ実践できる
②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる
③ゲームの流れとルールを理解し，審判ができる

＜授業の方法＞

1．点呼・ウォーミングアップ（10分）
2．本時の学習の確認（10分）
3．基礎技術の練習（20分）
4．グループ活動（20分）
5．ミニゲーム、試合（30分）
6．振り返り・片付け（10分）
UNIVERSAL PASSPORTによる課題提示
Googleフォームを使用した授業のリフレクションを毎授業で実施

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニックについて調べたり、練習を行ったりする（90分）
復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。
〔受講上の注意〕
グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし，病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも，1/4 を超えてはならない。なお，３分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また，遅刻は原則として認めない。
実技の際は必ずトレーニングシャツ，トレーニングパンツ，運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

＜教科書＞

特にテキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。

＜参考書＞

授業時に指示

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施

3	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
10	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
11	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施

科目コード	T110209				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技Ⅰ［b］				担当者名	小川　千尋			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン等を行う。

＜授業の到達目標＞

本授業は，主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで，それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし，次の４点を到達目標とする。
①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ，能力に応じ実践できる
②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる
③ゲームの流れとルールを理解し，審判ができる

＜授業の方法＞

1．点呼・ウォーミングアップ（10分）
2．本時の学習の確認（10分）
3．基礎技術の練習（20分）
4．グループ活動（20分）
5．ミニゲーム、試合（30分）
6．振り返り・片付け（10分）
UNIVERSAL PASSPORTによる課題提示
Googleフォームを使用した授業のリフレクションを毎授業で実施

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニックについて調べたり、練習を行ったりする（90分）
復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。
〔受講上の注意〕
グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし，病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも，1/4 を超えてはならない。なお，３分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また，遅刻は原則として認めない。
実技の際は必ずトレーニングシャツ，トレーニングパンツ，運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

＜教科書＞

特にテキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。

＜参考書＞

授業時に指示

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施

3	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
10	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
11	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施 まとめ

科目コード	T110301				区　分	教養			
授業科目名	心理学				担当者名	田原　俊司			
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義は、心理学の初学者を対象に心理学の基礎的事項についての理解を深め、日常生活や就労後に起こりがちな問題の解決に向けて心理学の知見を活用・応用してウェルビーイングな生活ができるようになることを目指す。具体的には、心理学の主要な分野で得られた知見を広範にかつ深化させる学習を通して、心理学的「こころ」の理解を深め、実践・応用できるようにする。心理学の主な分野としては、記憶、感情（情動）、思考、発達心理、臨床心理、人格心理学、社会心理等を網羅する。

＜授業の到達目標＞

・事前学習にしっかりと取り組み、講義内容で「分かること」と「分からないこと」を区別できようになる。
・解説やグループディスカッション、発表を通して「なぜそうなのか？」を理解し、他者に説明できる。
・日常生活において本講義で得られた知見を活用・応用し、実践できるようになる。

＜授業の方法＞

１．出席確認と事前提示資料の内容理解確認小テスト（10分）
２．解説・質疑（40分）
３．設定した課題に対するグループディスカッションと発表(20分)
４．解説・質疑・意見交換（20分）
５．リフレクションシートの作成・提出（10分）
※授業関連の活動（資料の提示、内容理解確認テストの提出、リフレクションシートの提出等）については、Google Classroomで行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループディスカッションやネット検索を通して「予習し議論に備える姿勢」「知識を主体的に学ぼうとする姿勢」「考えの異なる人と議論しようとする姿勢」を身につけるとともに、発表により簡潔に分かりやすく他者に意見・説明を伝えることができるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：事前にGoogle Classroomにより提示された資料を読み、内容を要約。要約した内容はGoogle Classroomにより提出する（100分程度）。
・復習：提示された資料、および講義終了時に提出したリフレクションシートを再確認し、必要に応じて提出したリフレクションシートを修正する（100分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、内容理解確認小テスト 15%、グループディスカッションへの貢献度 20%、リフレクションシートの提出 15% 、最終課題 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

田原俊司（2010年12月1日）　心の健康相談室　健学社
田原俊司（2017年3月1日）　心の健康教育　健学社
田原俊司（2020年12月30日）　心の健康教育（中高生用）　健学社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	記憶のメカニズム	記憶と睡眠の関係、睡眠障害
2	感情（情動）(1)	情動と認知、行動との関係
3	感情（情動）(2)	情動のコントロール
4	思考	思考と言語の関係、外言、内化
5	発達心理(1)	受精～乳児期
6	発達心理(2)	幼児期～児童期
7	発達心理(3)	青年期、成人期、老年期
8	臨床心理(1)	DSM-5、および心身相関
9	臨床心理(2)	うつ症状と対応

10	臨床心理(3)	適応障害と対応
11	パーソナリティ心理(1)	パーソナリティとA群パーソナリティ障害への対応
12	パーソナリティ心理(2)	B群パーソナリティ障害への対応、C群パーソナリティ障害への対応
13	社会心理学	リーダーシップと認知的斉合性
14	まとめ	１～14回の学習内容を最終課題として提出

科目コード	T110304				区　分	教養科目			
授業科目名	数学基礎Ⅰ				担当者名	安井　良彰			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
経済経営やICTの現場で求められる数理科学的な知識とスキルを基礎から学ぶ。前期は初等数学の問題からスタートし、高等数学を学ぶ上で必要となる基礎知識を固める。後半では経済数学や数理科学の分野では必須でありながら高校数学では扱わない線形代数の基礎を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
国際経済経営の分野でデータを科学的に分析できるスキルを身につける為、数理データサイエンスで必須の基礎知識を習得する。

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
特になし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予備知識となる高校数学の確認と復習(90分)
授業中に指示された課題（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
宿題などの提出課題30%+小テスト・確認試験 70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論　大学の数学とは(1)	四則演算のおさらいからスタートし、小中学校の算数や初等数学で見落とされがちな問題を再考し大学の数学への道標を示す。
2	序論　大学の数学とは(2)	第1回に引き続き初等数学で見落とされがちな問題を再考し大学の数学への道標を示す。
3	関数（１）	１変数関数の基本を復習する。
4	関数（２）	逆関数や合成関数など後半学ぶ写像や後期で学ぶ微積分学への準備行う。
5	関数（３）	対数関数や指数関数、三角関数などの復習
6	線形代数（１）	ベクトル演算の初歩を学ぶ
7	線形代数（２）	行列とは　行列の足し算掛け算
8	線形代数（３）	行列の基本変形と連立方程式の解法を学ぶ
9	線形代数（４）	行列の基本変形の意味と逆行列の利用。
10	線形代数（５）	行列式の計算方法と行列式の意味
11	線形代数（６）	余因子行列と逆行列の一般形
12	線形代数（７）	線形写像
13	線形代数（８）	回転行列と三角関数
14	まとめと確認	復習と定着度の確認

科目コード	T110405				区　分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメントⅠ				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」の多面的な意味を理解しながら、自己理解（価値観・強み）と社会理解（産業・職種）を深め、今後の進路選択や学修の基盤となる視点を養う。主体性・コミュニケーション力・応用力を中心に、講義・演習・対話を通じて自分のキャリアを考える姿勢を育成する。また、複数のゲスト講話やふり返りを通じて、働くことへの実感と将来像を広げ、次年度以降のキャリア形成や就職活動につながる気づきを得ることを目的とする。

＜授業の到達目標＞

・「働くこと」の多面的な意味を理解し、自分の言葉で要点を説明できる。
・自己理解（価値観・強み）と社会理解（産業・職種）を整理し、関心分野を簡潔に要約できる。
・主体性・コミュニケーション力・応用力を演習で発揮し、行動と学びを短く記述できる。
・授業やゲスト講話からの学びを基に、次の行動（One Action）と簡易的なキャリア計画を示せる。

＜授業の方法＞

１．出席確認と前回の振り返り（10分）
２．講義（40分）
３．個人ワーク/グループワーク/ディスカッション（40分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。
※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・グループディスカッションによる、多様な価値観・職業観の共有と理解の深化。
・個人ワーク（価値観・強みの整理／経験の短文化）による、主体的な思考の促進。
・ペアワークや相互コメントによる、自分の考えの明確化と改善点の把握。
・ミニケース検討による、状況に応じた考え方・判断の基礎の養成。
・ゲスト講話の事前質問づくり・事後の次の一歩（One Action）の設定による、自分事化の促進。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

１．予習（各回 90分）
次回テーマに関係する自分の経験・観察をメモ化。
２．復習（各回 90分）
授業で扱ったキーワードと学びを1ページに要点整理。演習や対話で得た気づきを1つ挙げ、「次の一歩（One Action）」を1つ記入。
３．中間前（60〜90分）
前半のキーワードと要点の再確認。短答・用語確認・ミニケースの自作解答を各1題ずつ。自分の弱点を1つ明確化。
４・期末前（60〜90分）
学期全体の要点を再整理（働く意味／自己理解／社会理解／コミュニケーション）。想定Q&Aを2〜3問作成し、個人ふり返りシート（学んだこと・気づき・今後の行動）を下書き。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・小課題・取り組み姿勢 30%、中間ミニテスト（授業内） 20%、最終確認（筆記） 35%、個人ふり返りシート 15%

＜教科書＞

なし

＜参考書＞

田中 研之輔（2019年8月7日）　プロティアン ― 70歳まで第一線で働き続ける最強のキャリア資本術　日経BP
安宅 和人（2024年9月22日）　イシューからはじめよ ― 知的生産の「シンプルな本質」〔改訂版〕　英治出版
金井 壽宏（2002年1月15日）　働くひとのためのキャリア・デザイン　PHP新書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容

1	オリエンテーション・導入／働くことの意味を考え、本授業の目的と進め方を理解する	・科目の目的・進め方の説明 ・働くことの多面的な意味（生活・社会貢献・自己実現）の整理 ・現時点の不安・期待の可視化と共有
2	自己理解①：価値観を整理し、自分にとって大切な基準を見つける	・自分が大切にしたい価値観の抽出 ・経験や日常場面との関連づけ ・価値観から見えてくる興味の方向性
3	自己理解②：強みと興味の手がかりを整理し、自分らしさの基盤をつくる	・強みの見つけ方（経験・没入・他者の視点） ・強みを活かせる場面のイメージ化 ・短い自己紹介の基礎づくり
4	社会理解①：産業と職種の全体像を学び、社会理解の視点を身につける	・社会に存在する産業・仕事の大まかな把握 ・仕事を捉える基本視点（何をしている／誰のため／どんな価値を生む）の習得 ・関心分野の仕事の要点整理と簡潔な説明準備
5	社会理解②：働く現場への理解を深め、社会理解を広げる	・関心分野の仕事の特徴を簡潔に要点化 ・企業・仕事調べの視点（概要の読み取り） ・自己理解とのつながりの確認
6	ゲストスピーカー①：就活終了学生・若手社会人から働くリアルを学ぶ	・講話と質疑 ・働くことのリアルとキャリアの初期経験を学ぶ
7	中間ミニテスト＋前半の振り返り	・ミニテスト（基礎概念の理解確認） ・自己採点による弱点の把握
8	コミュニケーション基礎：聴く・伝えるの基本を知り、コミュニケーションの土台をつくる	・聴き方・要点整理の基礎 ・30秒自己紹介の構成と練習 ・ペアでのフィードバック
9	ゲストスピーカー②：一般企業の人事担当者からのアドバイス／夏季インターンシップについて	・就活に向けてのロードマップ ・夏季インターンシップオリエンテーション
10	自己表現：自分の経験を整理し、簡易的な自己PRをつくる	・行動→結果→学びの整理 ・90秒自己PRの骨子づくり ・経歴書・エントリーシートの書き方基礎
11	ゲストスピーカー③：人事エージェント会社より	・就活に向けてのロードマップ ・インターンシップオリエンテーション
12	3か月の振り返りと今後について	・振り返りと現状認識 ・自身の行動特性の把握と今後に向けての改善・活用
13	ゲストスピーカー④：人事エージェント会社より	・就活に向けてのロードマップ ・活用ツールについてのオリエンテーション
14	最終テストと振り返り	・最終テストと振り返り ・夏休みに向けての行動計画策定

科目コード	T220101				区　分	専門基礎			
授業科目名	経営学概論				担当者名	糟谷　崇			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修科目

＜授業の概要＞
この講義は、企業経営の基本を学ぶ科目である。企業の役割・目的・責任といった企業に関する基礎的知識およびビジネスの全体像を把握するために必要不可欠となる企業を取り巻く環境についての基本的な理解を得ることを目的とした講義である。本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、企業経営にとって重要と思われるニュースが生じた場合、受講生の理解や興味・関心に応じて講義内容を変更する場合がある。こうした進行予定の詳細や受講上の注意・評価方法等の詳細については授業内で説明するので、必ず出席をすること。

＜授業の到達目標＞
① 全国紙に紹介されている記事、ビジネス雑誌・ビジネス関連書籍で頻出している用語を理解できるようになる。
② 日本の経済・経営のトピックスおよびビジネスの最新事例について理解できるようなる。
③ 経営学の理論を学習するために必要となる基礎的知識を習得する。

＜授業の方法＞
パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは使用しない。授業の最後に毎回、学生諸君の意見を書いてもらう（コメントシート）。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
事例を中心に、学生諸君と討議する時間を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜予習＞　（各60分）
次回の講義内容について、新聞・雑誌等を参考に具体的な企業・事例を調べてくること。
＜復習＞　下記のテーマに沿って新聞・雑誌等を読み、
授業内容についてまとめたものをファイリングしてください。
また自分なりの考察を加えたものをレポート形式にまとめること
（各180分）
第１回　経営と経営学の違い
第２回　会社は誰の物か
第３回　経営者に必要な資質
第４回　会社の社会的責任
第５回　生産システム
第６回　破壊的イノベーション
第７回　サプライチェーン
第８回　出店計画
第９回　新商品開発
第10回　業務管理の手法
第11回　モチベーション
第12回　給与体系
第13回　ワークライフバランス
第14回　ビジネスモデル

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート課題（80%）　＋　コメントシート（20%）
レポート課題については学生の理解度に応じて複数回、提出を求めることがある。

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容

1	第１回　イントロダクション	経営と経営学の違いについて考える。
2	企業のしくみ①	会社って誰の物　会社の所有権について考える。
3	企業のしくみ②	経営者とはどんな人　経営者の資質について考える。
4	企業のしくみ③	会社の役割　会社の社会性・営利性について考える。
5	生産のしくみ①	モノづくり　生産システムについて考える。
6	生産のしくみ②	新しいものづくり　イノベーションについて考える。
7	流通・販売のしくみ①	流通について　サプライチェーンについて考える。
8	流通・販売のしくみ②	モノの売り方　出店について考える。
9	流通・販売のしくみ③	商品について　商品開発について考える。
10	組織のしくみ①	仕事ってどんなもの　業務管理について考える。
11	組織のしくみ②	やる気を引き出す　モチベーションについて考える。
12	労働のしくみ①	給与ってどう決まる？　給与体系について考える。
13	労働のしくみ②	働くカタチ　働き方について考える。
14	これからの企業経営について	新しい企業経営　新しいビジネス・現代の経営課題について考える。

科目コード	T220102				区　分	専門基礎			
授業科目名	経済学概論［週2オンデマンド］				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義（オンデマンド）	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

＜授業の到達目標＞
マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

＜授業の方法＞
Google Classroomを使いオンデマンドの講義形式で行う。クラスコード：x3ygimmc

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義に際しては、毎回講義の理解についてGoogle Classroomを使い確認を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
経済学の基礎となる授業なので、わからないところは、繰り返し。動画を見ること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業の課題・感想（40%）とまとめレポート(60%)で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
飯田幸裕・岩田幸訓（2022）　入門経済学［第四版］　創成社
宿輪純一（2024）　はじめまして、経済学　株式会社ウェッジ

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP)の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。

科目コード	T220103				区　分	専門基礎			
授業科目名	マーケティング総論				担当者名	上田　隆穂			
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
この授業は、マーケティングの基本と、事例に基づいた実践について学ぶことを目的としている。理解を深めるために、理論面だけでなく、できるだけで事例を用いて、わかりやすい内容を目指している。マーケティングの内容は、変化のスピードがはやいため、旧来の理論からできるだけ新しい理論や、そして新しい領域を含めて解説する。特に地域活性化等はまだ理論面も十分に確立しているわけではないので、多くの事例を示しながら解説を行い、理解を含めていく。

＜授業の到達目標＞
1. 消費者あるいは市場の問題に接したとき、いかなる考え・理論に基づいて対応を考えるかがわかるようになる。
2. 他のマーケティング事例に接したときに、その成功要因が何であるか理解できるようになる。

＜授業の方法＞
基本的にはパワーポイントを用いて講義を行う。事例ごと質問を投げかけて答えてもらうこともある。なお、期間中に1度は企業等のゲストスピーカーを迎え、マーケティング事例の講演をしてもらう。その際には感想文を課す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングほどではないが、講義中にQ&Aは行うつもりである。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1.教科書を事前に読んで来てもらう。（30分）　2.復習として講義でのポイントを振り返る（20分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート（感想文）20点、学習意欲　30点、期末レポート50点

＜教科書＞
上田隆穂，澁谷覚，西原彰宏（2020年12月）　グラフィックマーケティング　これ以外に、参考資料を配布することがある。　新世社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	シティバンクの日本進出のケースからマーケティングの基礎を学ぶ、マーケティングの4P,STP等	まずマーケティングにおいて重要な事柄をクイズ形式で学び、その後でシティバンクの事例でマーケティングの基礎を学ぶ
2	マーケティングにおいて消費者の感じる価値の4階層を学ぶ.	これらの価値の意味するところは何か、実例を持って学んでいく。
3	マーケティングを構成する戦略は３つの種類からなり、それぞれを学ぶ	競争市場戦略、マーケティング・マネジメント戦略についてその内容を学ぶ
4	マーケティングを構成する戦略のうち残りの１つソーシャル・マーケティングについて学ぶ	ソーシャル・マーケティングは現在、サステナブル・マーケティングにまで拡張しており、その流れと重要性、そして事例により本質を学ぶ
5	マーケティングにおいて顧客との関係性をどうマネジメントしていくかについて学ぶ	このリレーションシップ・マーケティングの必要な理由について、概要について、それを構成するライフタイム・バリュー等の要素を学ぶ。
6	リレーションシップ・マーケティングの実例を解説	企業の事例や演劇マーケティングの事例などを学ぶ。
7	企業からゲストスピーカーを招き、同社の事例から実際のマーケティングを学ぶ	より実践的なマーケティングをお話しいただき、担当教員とのディスカッションを聞いて学ぶ。また学生にも質問もしてもらう。
8	簡単な事例でプロダクト・マネジメントを学び、関連する製品ライフサイクルの理論などで学習する	ハイチオールC等の事例を学び、製品ライフサイクル論や新製品の普及理論の詳しい内容について学ぶ
9	定性的な新製品開発方法を学ぶ	観察による方法、深層心理分析による方法について学ぶ

10	定量的な方法に基づくプロダクト・マネジメント1を学ぶ	定量的な新製品開発方法についての概要を学ぶ
11	定量的な方法に基づくプロダクト・マネジメント2を学ぶ	多変量解析を用いた一般的な手法を学ぶが、やや難解であるため、事例を用いて概要をわかりやすい方法で学ぶ
12	サービス・マーケティングについて学ぶ	サービス・マーケティングの内容を学び、またサービス・ドミナント・ロジックについても理解を深める。営利機関と非営利機関のサービス・マーケティングを学び、また３つの財による特徴などを学ぶ
13	マーケティングの重要要素の１つである価格つまりプライシングについて学ぶ	プライシングを構成する内容について学ぶ。プライシングの内容は多岐にわたるが、重要なもののみをピックアップし、それぞれについて理解を深める
14	地域活性化の定義、分類、そして地域ブランディングの重要性、方法について学ぶ	地域活性化の事例は多いが、まだ確立していない分野であり、分類などを通じて理解を深め、どう具体的に実施するかについて学ぶ

科目コード	T220104				区　分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅰ［①］				担当者名	武末　朝生			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
①本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。
②簿記を学修することにより、経営・経済を理解するために必要な基礎知識を修得することができる。
③また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。
④問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。
⑤全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「３級商業簿記」（以下「全経３級」）を受験し、合格することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
①全経３級に合格するための知識を身につける。
②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ。
③基本的な取引の仕訳ができるようになる。
④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。

＜授業の方法＞
①授業の開始時に、前回の復習を行う。
②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う。
③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること。
④手書きの問題演習を主体とする。
⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
③GoogleClassroomのデジタル教材などを通じて、フォローアップする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①予習：テキストを読んで例題を解き、授業の内容について事前に確認して、質問をまとめておく。（1時間）
②復習：授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価方法：授業に対する積極的な態度・小テストなどの平常点 60%、期末テスト 40%
フィードバック：授業時間中に、演習問題の解答・解説を行う。

＜教科書＞
伊藤 正義（著）2024年2月18日　初学者・留学生が合格できる 全経簿記３級テキスト＆模擬問題集（※「簿記入門Ⅱ」でも同じ教科書を使います。）　日本能率協会マネジメントセンター
ＴＡＣ簿記検定講座（2025年3月20日）　合格ドリル 日商簿記3級 Ver.15.0（※「簿記入門Ⅱ」でも同じ教科書を使います。）　TAC出版

＜参考書＞
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記　ネットスクール出版
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記　ネットスクール出版
(編著)TAC株式会社 2025年2月27日　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成

7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却
10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成
11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法
14	精算表②	損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り

科目コード	T220104				区　分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅰ［②］				担当者名	末原　聡			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「３級商業簿記」（以下「全経３級」）を受験し、合格することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
①全経３級に合格するための知識を身につける
②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ
③基本的な取引の仕訳ができるようになる
④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

＜授業の方法＞
①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う
②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う
③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること
④手書きの問題演習を主体とする
⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
①実際の商取引における仕訳の方法等についてのディスカッション
②実際の商取引で用いる会計ソフトウェアや証憑書類を用いた実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜予習＞テキストを読み、例題を解く。授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）
＜復習＞授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する積極的な態度、小テストなどの平常点60% + 定期試験40%
フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

＜教科書＞
伊藤 正義（著）2024年2月18日　初学者・留学生が合格できる 全経簿記３級テキスト＆模擬問題集　日本能率協会マネジメントセンター
(編著)TAC株式会社 2025年3月20日　合格ドリル 日商簿記3級 Ver.15.0　TAC出版

＜参考書＞
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記　ネットスクール出版
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記　ネットスクール出版
(編著)TAC株式会社 2025年2月27日　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成
7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却

10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成
11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法　決算整理仕訳
14	精算表②	精算表の作成方法　損益計算書と貸借対照表の作成

科目コード	T220104				区　分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅰ［再履］				担当者名	末原　聡			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）というシステムの基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「３級商業簿記」（以下「全経３級」）を履修者全員が受験し、合格することを目標とする。

＜授業の到達目標＞

① 全経３級に合格するための知識を身につける
② 簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ
③ 基本的な取引の仕訳ができるようになる
④ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

＜授業の方法＞

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う
②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う
③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること
④手書きの問題演習を主体とする
⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

①実際の商取引における仕訳の方法等についてのディスカッション
②実際の商取引で用いる会計ソフトウェアや証憑書類を用いた実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

＜予習＞テキストを読み、例題を解く。授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）
＜復習＞授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度・授業の課題など60%：期末テスト40％
フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

＜教科書＞

(監修)新田忠誓 (編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記　ネットスクール出版
(監修)新田忠誓 (編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記　ネットスクール出版

＜参考書＞

(編著)TAC株式会社 2025年2月27日　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版
(編著)TAC株式会社 2025年2月27日　よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級Ver15.0　TAC出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成
7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却
10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成

11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法
14	精算表②	損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り

科目コード	T220106				区　分	専門基礎			
授業科目名	社会調査法［オンデマンド］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	選択	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では「社会調査」とはどういうものか、実生活においてどのように役立てることができるのか、基本的な考え方を説明し、あわせて事例も紹介していく。確かな手続きをもとに「調べる」ことの大事さと公表される結果（データ）が何を意味しているのかを理解を深める。情報発信者となった際には「社会調査」の方法を適切に使えること、また、情報受信者となった際に「社会調査」の方法がどのように使われているかを読み取ることができること、この2つのスキルを習得することをねらいとする。

＜授業の到達目標＞

①社会調査の本質と目的を理解し、科学的な調査手続き（量的・質的調査、標本抽出等）について適切に説明できる。
②既存の社会調査事例を収集・分析し、公表されたデータが何を示しているのか、その社会的意味を正確に読み解くことができる。
③調査倫理を遵守した上で、自ら調査計画を立案し、収集したデータを適切に分析・報告するスキルを発揮できる。

＜授業の方法＞

オンデマンド形式とする。クラスルームに掲載される説明に目を通し、課題をおこなうこと。クラスルーム内の機能を通じて対話をおこなう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有
　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめる設計を用意する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 各回の講義テーマ（量的調査、調査倫理、標本抽出等）に関連する参考資料やWebサイトを確認し、専門用語の意味や基本的な考え方を整理して講義に臨む（100分程度）。
事後学習： 配布資料を基に講義内容を復習し、提示された社会調査事例の分析やミニ課題を作成する。また、Classroom内の対話機能を用いて他者の意見を参照し、自身の理解を深化させる（100分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 14%、振り返り課題 26%、中間レポート 30%、最終確認テスト 30%
※各回の課題へのフィードバックは、Classroom上でのコメント返却や解説資料の配信を通じて行います。

＜教科書＞

なし（資料は講師が用意する）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス	社会調査とは
2	実証となにか	科学的手続きの説明
3	社会調査の種類	量的調査・質的調査・一次分析・二次分析などの説明
4	調査倫理	ヒトを対象にした調査の在り方、倫理に関する資料を提示する
5	研究・調査対象	母集団、標本抽出、特定層の説明
6	調査事例を学ぶ①	国勢調査、行政調査を主に説明
7	調査事例を学ぶ②	視聴率、マーケティング、一般アンケートを主に説明
8	調査事例を学ぶ③	インタビュー、言説分析の説明
9	調査事例を学ぶ④	フィールドワーク、オートエスノグラフィーの説明
10	（中間レポート）社会調査を見つけて提出・報告	各自が気になった社会調査を持ち寄り、提出して、全体で共有する回
11	調査実施の流れ①	調査計画（量的・質的）を考える
12	調査実施の流れ②	調査実施（量的・質的）に至る
13	調査実施の流れ③	データ分析（量的・質的）と結果をわかりやすく公表（とくに図表には凝る）
14	社会調査の意味	本科目の振り返りと学修成果の確認・最終確認テストについて。

科目コード	T220113				区　分	専門基礎			
授業科目名	ビジネス特別講義Ⅰ				担当者名	鈴木　達郎			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
タイトル：～ビジネスを変えた素敵な技術の物語～
コンセプト：「答え」を求めるのではなく、「問い＝好奇心」を鍛える授業
ビジネスはこれまで、新しい技術によって大きな影響を受け、変革を遂げてきた。本講義では、ビジネスを大きく変えた素晴らしい技術について、アラカルト的に取り上げて、それぞれの「物語」の解説を行い、さらに議論を深く広く展開する。取り上げる技術は、私自身がこれまでシステムやビジネスの開発に関わってきた中で、関連するものや、なじみのあるものを出発点に選ぶ。また、授業の進め方は、生成AIを積極的に活用することで、学生の皆さんが主体的に参加できるような形を取りたい

＜授業の到達目標＞
基本的な技術トピックを出発点に、生成AIを使いながら、自分が興味を持ったことを次々に展開させ、何かテーマを見つけて深堀りすることで、技術がビジネスに及ぼす影響の面白さ、奥深さを体験することを目標とする

＜授業の方法＞
出発点となる技術や核となる技術を解説するとともに、
ネットサーフィンのように、次々と生成AIサーフィンを行いながら議論を進める
「答え」を求めるのではなく、「問い＝好奇心」を鍛える
ことに重きを置く（人間らしさ、個性）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
事前課題：基本テーマに関連して、生成AIに聞いてみたい、自分らしい「問い」を考える
事後課題：基本テーマを出発点に、各自、生成AIサーフィンして、何か面白いテーマを各自が見つけて調べる
　　提出物：生成AIにどんな「問い」をしたか、を順番に記録したもの、と500字以内のまとめ
発表：提出された事後課題から選んで、次の授業内で紹介・発表する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
生成AIを活用することで、事前課題（20分程度）事後課題（20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題(33%)、事後課題(33%)、発表(33%)、にそれぞれポイントを与え、合計点で成績決める

＜教科書＞
教科書は特になし
自分のPCで生成AI（Copilot365など自由）を使えるようにしておくこと

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方　成績の付け方　AIの使いかた
2	印刷技術	印刷技術の発明でその当時のビジネスはどう変化したか？
3	電子回路	大規模集積回路の作り方は印刷に似ている？
4	並列計算機	並列計算機のビジネスで時価総額世界No.1になった会社の強みは？
5	量子コンピューター	量子コンピューターは並列計算機か？
6	銀行システム	銀行業務のシステム化の歴史を調べて、これから銀行はどうなるかを考察せよ
7	仮想通貨	ビットコインに関するナカモトサトシの論文のすごいところは何か
8	OS（オペレーティングシステム）	オペレーティングシステムの仕組みとその具体例をまとめよ
9	人工知能	第二世代の人工知能と第三世代以降の人工知能の大きな違いは何か
10	放送と通信	放送と通信の関係は、どう変化したか
11	インターネット	インターネットはビジネスにどんな影響を与えたか
12	webサービス	最近できたwebサービスで面白い例は？
13	テレワーク	コロナ以降、テレワークは定着したのか
14	まとめ	まとめ

科目コード	T220115				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスマナー				担当者名	佐々木　庸子			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
この授業では、会話における他者との接し方、及び、他者から好印象を得ることを学びます。社会で、1つのミッションを成し遂げるには、他者に対して、状況を正確に伝達し、自分の意見を的確に伝え、また、他者の意見を取り入れ、ブラッシュアップを重ねる必要があります。DP①他者との付き合い、感情を調整し、目標を達成できるチカラ、そしてDP⑤異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できるスキルを得ます。

＜授業の到達目標＞
・自分の長所・短所を理解し、他者への上手な接し方を追求します。
・他者との相違や感覚の違いが発覚したとき、どのように解決してくのか学びます。
・人前で発表・ディスカッションできるスキルを学びます。
・身だしなみ、姿勢、発声を磨き、清潔感のある印象を持たれるようにして行きます。

＜授業の方法＞
①出席・セッションタイム（10分）
②アイスブレイク（加減を知る）（20分）
③宿題の発表とフィードバック（15分）
④講義／グループワーク・ロールプレイ・ディスカッション（40分）
⑤振り返り／次回の課題の説明（15分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
演劇的要素を用いたアイスブレイクを実践します。また、実習的要素が多く、課題に対してグループワークやディベート・ディスカッション等を試み、ブラッシュアップを行う形になります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
※授業は「答え合わせの場」と捉え、宿題課題を仕上げ、予習復習をし、疑問点を整理して挑むようにして下さい。
・宿題課題の作成（60分）
・授業内容の復習（40分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（意欲・関心度）30%、課題準備・レポート提出等30%、習熟度・実技テスト40%

＜教科書＞
特に出版物は使用せず、必要に応じて資料を配布します。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、目的、評価についての説明。自己紹介をする。
2	アイスブレイク／自己PRスキル	感情のバランスを探る（アイスブレイク）／自己PRのロジックを学ぶ、作成・発表を試みる
3	自己研鑽／ビューティー①	身だしなみ、歩き方、セルフプロモーション等 講師：高田 とも子 先生(モデル)
4	表現マナー①	言葉遣い、表情、基本姿勢等 講師：都築 智津子　先生
5	表現マナー②	言葉遣い、表情、基本姿勢等 講師：都築 智津子　先生
6	アイスブレイク／討論スキル①（集団）	テーマトークでディスカッションの方法を学ぶ
7	アイスブレイク／討論スキル②（集団）	テーマトークでディスカッションの方法を学ぶ
8	アイスブレイク／討論スキル③（1人 対集団）	ロールプレイングを用いて、討論スキルを養う

9	アイスブレイク／討論スキル④（1人 対集団）	ロールプレイングを用いて、討論スキルを養う
10	アイスブレイク／ヒヤリングスキル①（個人）	聞き取るチカラ、聞き取ったことを理解するチカラを養う
11	アイスブレイク／ヒヤリングスキル②（集団）	聞き取るチカラ、聞き取ったことを理解するチカラを養う
12	自己研鑽／ビューティー②	身だしなみ、歩き方、セルフプロモーション等、 前回との比較 講師：高田 とも子 先生(モデル)
13	グループ発表の準備③	
14	発表会・振り返り	授業の統括

科目コード	T220202				区　分	専門基礎			
授業科目名	地域企業経営論				担当者名	藪内　正樹			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
国家や企業によるオリンピックのような競争が展開されるグローバル経済に対し、地域経済は、国民経済の一部であると同時に、人が生まれ、育ち、働き、老いる場でもある。この授業では、千葉県という地域の歴史的特徴、少子高齢化や経済成長の停滞といった日本経済全体の状況を踏まえ、その中で経営改革に取り組む企業の事例を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1.地域経済の特質や課題に関する専門的知識を身につけ、説明できる。
2.地域企業の経営に関する知識や思考力を身につけ、経営改革の提案ができる。

＜授業の方法＞
パワーポイント画面を事前に配信し、対面授業で投射しながら講義する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回40分間講義し、その要点を10分の休憩中に書いて提出する。それを２回繰り返す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
掲示された授業資料を事前に読み、分からない言葉や内容を調べる（90分以上）。
授業資料とノートを読み返し、質問があればUNIVERSAL PASSPORTで質問する。（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業で要点メモを２回×１４回提出（７０％）
期末試験で、全体で学んだことを書いて提出（３０％）

＜教科書＞

＜参考書＞
冨山和彦（2014年6月13日）　『なぜローカル経済から日本は甦るのか GとLの経済成長戦略』　PHP新書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	地域経済とグローバル経済	地域は生まれ育ち・働き・憩い・老いる場、グローバル経済のバリューチェーン、地域経済とグローバル経済の産業構造・労働生産性・雇用構造
2	グローバル・バリューチェーン	グローバリゼーション（人・モノ・カネの移動の自由化）、開発・製造・物流・販売の配置の最適化、自動車産業・電子産業の事例
3	日本の地域経済	縄文に根差し渡来人の受容・共生で発展してきた日本文明、企業本社や雇用が大都市に集中する政治経済構造、グローバル化で空洞化が進んだ製造業
4	地域経済の構造変化	戦後の産業構造変化、高度経済成長、バブル崩壊、少子高齢化、経済成長の停滞と日本の財政状況、AIがもたらす社会・経済の変化
5	千葉の地域経済	江戸時代の利根川東遷、首都圏と千葉地方圏、千葉県の産業、世界生産の4分の１を占める房総半島のヨウ素（ペロブスカイト太陽電池原料）、発酵の里・神崎町、市川市の地域デジタル通貨
6	地域経済の活性化①	農林水産業は国防安全保障の基本、農林水産業の６次産業化
7	地域経済の活性化②	島根県隠岐郡海士町の挑戦：町長が先頭に立った行政改革、産業振興、高校魅力化プロジェクト
8	医療と社会の改革①	平均寿命と健康寿命、医薬品市場の拡大より病気にならないことが重要、昔は家庭で行っていた出産と看取り、既に破綻している日本の「国民皆保険」（医療保険）
9	医療と社会の改革②	医療を「総合生活産業」と再定義し、八王子を起点に「真に持続可能な」未来型医療で日本と世界をつなぐ北原グループの挑戦
10	地域企業の経営改革①	食品小売：大橋食品（北九州市）
11	地域企業の経営改革②	59店舗の理美容チェーン：オオクシ（千葉県）
12	地域企業の経営改革③	地方金融機関：広島市信用組合

13	地域企業の経営改革④	地方路線バス：道のりホールディングス（東日本）、両備バス（岡山市）
14	地域の経済と経営の改革・まとめ	界の課題、日本の課題、地域の課題、人としての課題をもう一度考える

科目コード	T220301				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	プレゼンテーション技法				担当者名	佐々木　庸子			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業では、「会話」や「説明」における自己表出のスキルを身に着けます。自己の感情を解放し、感情の自然な発生を省みることで、「表現」＝「自分の言葉を持つこと」を理解します。DP１「他者と向き合い、感情を調整し、目標を達成できる」チカラを養い、ビジネスの場で自己発信ができるようにします。尚、受講者の興味に応じて、また、本シラバスに関係する事象が報道された場合や、相応しいゲスト講師がいらっしゃる場合等、講義内容を変更することがあります。

＜授業の到達目標＞
・「自分の心境や状況」が説明できるようになり、自信を持って自己表出できるようにします
・「他者理解」ができるようになり、コミュニケーション能力を高めます
・「物」や「状況」の説明を成し遂げられるチカラを身に着けます
・声量を増やし、滑舌・発声が整うようにします

＜授業の方法＞
①出席・セッションタイム（20分）
②滑舌・発声（20分）
③宿題の発表とフィードバック（20分）
④講義／グループワーク・ロールプレイ・ディスカッション（25分）
⑤振り返り／次回の課題の説明（15分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実習的要素が多く、事前に出された課題や当日に出した課題を発表し、それに対してディベート・ディスカッション等を試み、ブラッシュアップを行う形になります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
※授業は「答え合わせの場」と捉え、宿題課題を仕上げ、予習復習をし、疑問点を整理して挑むようにして下さい。
・宿題課題の作成（60分）
・授業内容の復習（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（意欲・関心度）30%、課題準備・レポート提出等30%、習熟度・実技テスト40%

＜教科書＞
特に出版物は使用せず、必要に応じて資料を配布します。
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、目的、評価についての説明／「プレゼンテーション」とは何かを知る
2	滑舌・発声の進め方／自己PRスキル①	自己PRのロジックを学ぶ／自己PRの作成を試みる
3	滑舌・発声／自己PRスキル②	自己PRを発表する／ブラッシュアップをする
4	滑舌・発声／シチュエーションの説明①	視覚で捉えた情報を言語化し、伝達する方法を学ぶ
5	滑舌・発声／シチュエーションの説明②	視覚で捉えた情報を言語化し、伝達する方法を学ぶ
6	滑舌・発声／原稿の読み方①	情報の伝達に相応しい原稿の読み方を学ぶ
7	滑舌・発声／原稿の読み方②	情報の伝達に相応しい原稿の読み方を学ぶ
8	滑舌・発声／説明スキル①	商品や現象の説明の仕方を学ぶ
9	滑舌・発声／説明スキル②	商品や現象の説明の仕方を学ぶ
10	滑舌・発声／資料・原稿作成①	商品や現象を説明する原稿を作成する
11	滑舌・発声／資料・原稿作成②	自作の説明原稿を発表し、伝達方法を学ぶ
12	滑舌・発声／発表テーマの作成、資料・原稿作成①	与えられた時間でプレゼンテーションするための原稿作成をする
13	滑舌・発声／発表テーマの作成、資料・原稿作成②	与えられた時間でプレゼンテーションするための原稿作成をする
14	発表・振り返り	プレゼンテーション発表、授業の振り返り

科目コード	T220302				区　分	専門基礎科目 / 国際コミュニケーション領域			
授業科目名	比較文化論				担当者名	董　航			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、「文化とは何か」という根源的な問いから始め、日本文化と海外文化（伝統文化から現代文化までを含む）を比較する。言語、芸術、衣食住、家族形態、教育、仕事など多様なテーマを取り上げ、それぞれの文化が人々の生活や価値観・思想にどのような影響を与えてきたか、また今後どのような影響を与えていくかを考察する。自文化を相対化する視点を養い、多様な文化を尊重する態度の醸成を目指す。

＜授業の到達目標＞
1.知識理解：様々な文化の特性、価値観、歴史的背景を理解し、それぞれの文化を尊重する態度を身につける。
2.思考判断：自文化を相対化し、異文化に対する偏見やステレオタイプを克服する力を養う。
3.技能表現：文化現象を多角的な視点から捉え、複眼的思考を活用して分析・発表できる。

＜授業の方法＞
日本を含む諸国または地域の言語・文化・歴史・生活・思想について解説すると同時に、学生の能動的な参加を促す方法を積極的に導入する。
講義：各回のテーマに関する基礎知識や理論、国内外の事例について解説する。
ディスカッション：少人数グループでの意見交換を通じて、多様な視点に触れ、思考を深める。
グループワーク：比較分析ワークショップ、ケーススタディなど、協働作業を通じて理解を実践的に深める。
プレゼンテーション：グループでの考察結果を共有し、クラス全体での学びを促進する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業は、以下のアクティブ・ラーニング要素を中心に構成する。
比較分析ワーク：日本と海外の具体的な事例（例：昔話、祭り、家族形態）を比較し、その背景にある価値観の違いを探究する。
協同学習：グループワークやディスカッションを通じて、他者の意見に触れ、知識を共同構築する経験を積む。
反転学習的要素：各回の予習として、次回テーマに関する文献購読や事例調査を課し、授業内での能動的な議論や活動の基盤とする。
また、Google Classroom等のLMSを活用して授業資料の配布、課題の提出、学生間・教員とのコミュニケーションを行う。さらに、履修者の習得度にあわせて、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームをグループワークでの成果物作成や共有に活用し、創造的な表現と協働作業を促進する場合もある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業の準備学習は、授業外における能動的な学びを促進することを目的とする。
予習（各回1時間、計14時間）：
各セッションのテーマに関する教科書該当箇所や指定された資料を読み、重要な概念や疑問点をノートにまとめる。
日本と比較対象となる文化圏の事例について、自身で簡単に調査する。
復習（各回1時間、計14時間）：
授業内容を振り返り、学んだ概念と自分自身の経験や予習での疑問を関連付けて考察する。
授業内でのディスカッションやグループワークでの気づきを「ラーニング・ジャーナル」に記録する。
提示された課題についてさらに考察を深め、プレゼンテーション準備や最終試験に向けた準備を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
1. 通常評価
学習意欲（20%）、クラス共創度（20%）、中間（第1-6回）プレゼン録画3分間（30%）、最終（第1-14回）プレゼン録画5分間（30%）
2.特別加点
学外プログラム「フィリピンイヤー（計4回）」に参加した履修者には、別途加点する。
加点の詳細を含め、評価方法については初回オリエンテーションで説明する。
3.フィードバック方法
プレゼン動画：LMS上で個別にコメントを付して返却。
グループワーク：発表後に口頭またはコメントシートでフィードバックを行う。
継続的支援：授業中の発言

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	文化を捉える視点：イントロダクションと多様な文化（1/2）	【テーマ】イントロダクション / 多様な文化に触れる 【内容】本科目の開講意義や内容設定を理解した上で、「文化」の定義を探究する。身近な例（食習慣、挨拶、時間感覚など）から文化の多様性を捉え、自明と思っている行動が文化的に構築されていることに気づくワークショップを行う。
2	文化を捉える視点：イントロダクションと多様な文化（2/2）	【テーマ】イントロダクション / 多様な文化に触れる 【内容】本科目の開講意義や内容設定を理解した上で、「文化」の定義を探究する。身近な例（食習慣、挨拶、時間感覚など）から文化の多様性を捉え、自明と思っている行動が文化的に構築されていることに気づくワークショップを行う。
3	言語と物語が映す文化：言葉の力と昔話の世界（1/2）	【テーマ】言葉の力 / 物語の世界 【内容】日本語と外国語の構造や表現の違いから、言語が世界の捉え方に与える影響を考察する。さらに、日本の昔話（例：桃太郎）と世界の童話（例：グリム童話）を比較し、それぞれの文化圏の道徳観や価値観の違いを分析する。
4	言語と物語が映す文化：言葉の力と昔話の世界（2/2）	【テーマ】言葉の力 / 物語の世界 【内容】日本語と外国語の構造や表現の違いから、言語が世界の捉え方に与える影響を考察する。さらに、日本の昔話（例：桃太郎）と世界の童話（例：グリム童話）を比較し、それぞれの文化圏の道徳観や価値観の違いを分析する。
5	美意識と芸術：心と体の表現（1/2）	【テーマ】心と体 / 芸術 【内容】日本人の美意識（例：わび・さび、間）と欧米の価値観（例：合理主義、均整美）を比較する。また、日本の伝統芸能（能楽、歌舞伎など）と世界の音楽・芸術（クラシック、オペラなど）を紹介し、芸術表現に込められた文化的背景を考察する。
6	美意識と芸術：心と体の表現（2/2）	【テーマ】心と体 / 芸術 【内容】日本人の美意識（例：わび・さび、間）と欧米の価値観（例：合理主義、均整美）を比較する。また、日本の伝統芸能（能楽、歌舞伎など）と世界の音楽・芸術（クラシック、オペラなど）を紹介し、芸術表現に込められた文化的背景を考察する。
7	生活に息づく文化：衣食住と年中行事（1/2）	【テーマ】衣食住 / 年中行事 【内容】衣・食・住の各側面から文化の違いを読み解く（例：和食と洋食、畳と絨毯）。さらに、日本の祭り（例：お盆、祇園祭）と世界のイベント（例：ハロウィン、クリスマス）を比較し、宗教や季節感と行事の結びつきを考察する。
8	生活に息づく文化：衣食住と年中行事（2/2）	【テーマ】衣食住 / 年中行事 【内容】衣・食・住の各側面から文化の違いを読み解く（例：和食と洋食、畳と絨毯）。さらに、日本の祭り（例：お盆、祇園祭）と世界のイベント（例：ハロウィン、クリスマス）を比較し、宗教や季節感と行事の結びつきを考察する。
9	社会の基盤をなすもの：家族のカタチと学校・教育（1/2）	【テーマ】家族のカタチ / 学校と教育 【内容】変化する家族形態（核家族、拡大家族、多様な家族のかたち）を日本と世界で比較する。また、各国の教育制度や学び方の特徴（例：詰め込み教育 vs 探究型学習、集団主義 vs 個人主義）を分析し、社会と教育の相互関係を考察する。
10	社会の基盤をなすもの：家族のカタチと学校・教育（2/2）	【テーマ】家族のカタチ / 学校と教育 【内容】変化する家族形態（核家族、拡大家族、多様な家族のかたち）を日本と世界で比較する。また、各国の教育制度や学び方の特徴（例：詰め込み教育 vs 探究型学習、集団主義 vs 個人主義）を分析し、社会と教育の相互関係を考察する。
11	社会と経済の中の個人：働くということとグローバル社会（1/2）	【テーマ】働くということ / グローバル社会と文化 【内容】多様なワークスタイル（終身雇用 vs ジョブ型雇用、ワークライフバランスの考え方）や起業文化を日本と海外で比較する。さらに、グローバル化に伴う異文化の衝突や摩擦の事例を分析し、多文化共生のための方策をグループで議論する。
12	社会と経済の中の個人：働くということとグローバル社会（2/2）	【テーマ】働くということ / グローバル社会と文化 【内容】多様なワークスタイル（終身雇用 vs ジョブ型雇用、ワークライフバランスの考え方）や起業文化を日本と海外で比較する。さらに、グローバル化に伴う異文化の衝突や摩擦の事例を分析し、多文化共生のための方策をグループで議論する。
13	未来を見据えて：未来の文化と学びの総括（1/2）	【テーマ】未来の文化 / 期末プレゼンテーション 【内容】テクノロジーの進歩（AI、VR、SNSなど）に伴う文化の変容について考察する（例：デジタルネイティブの文化、バーチャル空間での交流）。後半は、これまでの学びを踏まえた最終プレゼンテーション（録画）を実施し、相互に共有・講評を行う。
14	未来を見据えて：未来の文化と学びの総括（2/2）	【テーマ】未来の文化 / 期末プレゼンテーション 【内容】テクノロジーの進歩（AI、VR、SNSなど）に伴う文化の変容について考察する（例：デジタルネイティブの文化、バーチャル空間での交流）。後半は、これまでの学びを踏まえた最終プレゼンテーション（録画）を実施し、相互に共有・講評を行う。

科目コード	T220303				区　分	専門基礎			
授業科目名	韓国語Ⅰ				担当者名	國井　裕			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

本授業では、韓国語学習の基礎力を養うことを目的とする。まず、ハングルの構造と読み書きの仕組みを理解し、簡単な単語や短文を自力で読んだり書いたりできるようにする。さらに、挨拶や自己紹介など初対面の場面で必要となる基本表現を習得し、相手の言葉を聞いて適切に応答できる力を身につける。また、日常生活で頻繁に用いられる簡単なフレーズを学び、ペアワークやロールプレイを通して実際の会話場面を想定した練習を行う。韓国語に初めて触れる学習者でも無理なく取り組めるよう、段階的に理解を深めながら基礎的なコミュニケーション能力の形成を図る授業である。

＜授業の到達目標＞

①簡単なあいさつ、自己紹介ができるようになる
②日常で使う簡単な表現を聞いて話せるようになる
③ハングルを読んで、短い文を書けるようになる

＜授業の方法＞

本授業では、韓国語の基礎的な運用能力を段階的に身につけるため、講義・練習・対話活動を組み合わせて進める。まず、ハングルの読み書きについては、文字の構造理解と音読練習を中心に、短い語句や文を書いて確認する演習を行う。次に、挨拶や自己紹介などの基本表現は、教員によるモデル提示とリピート練習を通して定着を図る。そのうえで、ペアワークやロールプレイを取り入れ、実際の会話場面を想定した練習を行い、聞いて理解し、簡単に応答できる力を養う。また、日常生活でよく使われる表現については、場面別の語彙提示と短い対話練習を行い、実践的な運用を促す。初学者が安心して学べるよう、反復と確認を重視しながら進める授業方法である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業ではアクティブ・ラーニングの要素を取り入れる。ペアワークやロールプレイを通して、学習した表現を実際の会話場面で運用する練習を行う。また、学生同士の相互フィードバックを取り入れ、発音や表現の改善点を自ら気づく機会を設ける。これにより、受動的な知識習得にとどまらず、主体的に学ぶ姿勢を育成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習では、授業で扱う予定の語彙・表現を60分程度確認し、ハングルの読みを事前に練習する。復習では、授業内で行った会話練習を60分程度繰り返し、音読と書き取りを通して定着を図る。また、教科書の練習問題に取り組み、理解が不十分な箇所を次回授業までに補う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は学習態度20%、小テスト30%、期末試験50%を基に総合的に評価する。課題や試験は返却時に個別コメントを付して理解度を確認させ、必要に応じて授業内で補足説明を行う。

＜教科書＞

キム・ミスク　STEP UP 韓国語　初級１　Jリサーチ出版
2023年11月10日

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ハングル	ハングルの基本母音と子音（平音）
2	ハングル	ハングルの基本母音と子音（激音・濃音）
3	ハングル	ハングルの基本母音、子音、パッチム
4	ハングル	ハングルの基本母音、子音、パッチム
5	平叙文	・自己紹介ができる ・国名が言える
6	名詞文2	・家族を紹介できる ・物品や場所を指し示す語を話せる
7	形容詞文 疑問文	・状態や気持ちを話せる ・曜日を言える
8	動詞文	・今何をしているのか話せる

9	存在詞	・ある行動をする時間について話せる 場所を言える ㅂ変則を正しく使える
10	勧誘表現	・ある事柄を一緒にしようと言える ・漢数詞を正しく読める
11	過去文型	・過去にしたことを話せる ・場所と、その場所で行うことを話せる
12	依頼文 否定文	・ある事柄を丁寧に命令したり依頼したりできる ・否定の表現を話せる
13	動作の方向性	・行ったり来たりする動作の目的を話せる ・動作の方向を話せる
14	固有数詞	・固有数詞を正しく数えられる ・ある対象となるものを「ください」と言える

科目コード	T220401				区　分	専門基礎		
授業科目名	VR・AR入門概論				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

Society5.0の現代社会においては、ほぼすべての産業活動に仮想現実（Virtual Reality;人工現実感；VR）及び拡張現実（Augmented Reality; AR）の環境応用が進められている。本科目ではVR・ARの定義や歴史、開発事例を学び、その基礎となる視覚・触覚等の認知特性と体験の理解、その主要周辺技術に触れ、新しい適用事例を学修する。

＜授業の到達目標＞

①VR・ARの考え方について説明できる。②VRが社会にどのように関わっているか説明できる。

＜授業の方法＞

・教員による講義
・簡単なVRインターフェース作成を通したグループワーク

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
後半の講義ではグループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の当該部分を事前に読み、考察する（1時間程度）
復習：講義内容を見返し、課題に取り組む（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとに課す小課題（計50%）とクオータ末に課す大課題（50%）にて評価

＜教科書＞

舘, 佐藤, 廣瀬 監修　日本バーチャルリアリティ学会 編 (2011/01/25)　バーチャルリアリティ学　日本バーチャルリアリティ学会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の概要・予定・評価方法について説明する。
2	VRとは何か	バーチャルリアリティ（VR）とは何か概観する。
3	ヒトと感覚(1)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
4	ヒトと感覚(2)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
5	ヒトと感覚(3)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
6	ヒトと感覚(4)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
7	インタフェース(1)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
8	インタフェース(2)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
9	インタフェース(3)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
10	インタフェース(4)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
11	実習(1)	触覚インターフェースを作成し、アプリケーションを考える。
12	実習(2)	触覚インターフェースを作成し、アプリケーションを考える。
13	まとめ(1)	講義内容のまとめ。
14	まとめ(2)	講義内容のまとめ。

科目コード	T220403				区　分	専門基礎科目　情報システム領域			
授業科目名	ドローンの社会応用と演習				担当者名	渡辺　桂吾／栗本　育三郎／渡辺　亮			
配当年次	2年	配当学期	前期　及び　集中講義期間	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の目的は、ドローン技術を「社会でどう使うか」という視点から深く理解することである。ドローンは単なる飛行装置ではなく、データ収集・物流・点検・防災など多様な分野で社会課題を解決するツールとして注目されている。本授業では、ドローンの基本的な仕組みと応用分野を学んだ上で、社会実装に必要な法制度・倫理・ビジネスモデルについて講義を中心に学ぶ。毎回の講義では簡単な演習課題を交え、理解を深める。学習成果として、ドローン活用の企画・評価ができる能力を身につける。

＜授業の到達目標＞
1. ドローンの基本原理と主要な応用分野を説明できる。
2. ドローン活用における法制度・倫理・社会受容の重要性を理解し、説明できる。
3. ドローンビジネスの構造と収益モデルを分析できる。
4. ドローン社会実装の課題と未来展望について、多角的に考察できる。

＜授業の方法＞
講義を中心とする。各回の最後に10分程度の演習課題（ミニレポート・簡単な分析・ケーススタディ）を実施し、理解度を確認する。資料は事前に配布する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前配布資料を読み、専門用語や疑問点を整理する（目安30分）
復習：講義内容と演習課題を振り返り、知識を定着させる（目安30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・各回の演習課題（10回分の平均）：40%
・期末試験（または最終レポート）：60%
※ 別途、飛行演習（4回）の評価は実技担当教員が行い、総合評価に含める。
適宜解答やレポートの講評を提示，フィードバックする。

＜教科書＞
指定しない。毎回資料を配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：ドローンとは何か	授業の目的・構成、ドローンの定義・歴史、社会での位置づけ、なぜ今ドローンか
2	ドローンの技術と飛行原理	機体構成(フレーム・モーター・バッテリー)、センサー(GPS・ジャイロ・カメラ)、飛行原理（推力・姿勢制御・自律制御）、制御とモデリングの考え方
3	空撮・測量・点検分野	空撮・映像産業の特徴と事例、測量・3Dデータ取得の仕組み、インフラ点検(橋・トンネル・設備）の実際
4	農業・環境・防災分野	農業（農薬散布・生育モニタリング）、環境モニタリング（森林・河川）、災害対応（情報収集・捜索・物資輸送）
5	物流・配送分野	物流業界の構造的課題、ドローン配送の基本概念、国内外の実証事例、配送ビジネスの可能性と限界
6	ドローンの法制度①（航空法）	航空法の基本（無人航空機の定義・飛行禁止区域・許可承認制度）、機体登録制度、操縦者の責任、罰則
7	ドローンの法制度②（関連法規と条例）	小型無人機等飛行禁止法、道路・公園管理法、個人情報保護法、民法・刑法、条例、海外規制との比較

8	社会受容・倫理・リスクコミュニケーション	社会受容とは何か（不安・誤解・信頼）、プライバシー・監視問題、騒音・景観、事故と信頼、説明責任と対話
9	ドローンビジネスと産業構造	産業レイヤー（ハード・ソフト・サービス）、ビジネスモデル（機体販売・SaaS・請負）、市場別分析、成功と失敗の条件
10	未来展望：空飛ぶクルマとスマートシティ	空飛ぶクルマ（eVTOL）の動向、スマートシティとドローン、デジタルツイン、空の交通管理（UTM）、講義全体のまとめ
11	ドローン演習（１）	無人航空機の基礎知識と安全運航の基本（座学） 無人航空機の定義・分類（航空法上の位置付け） 機体の構造・飛行原理（推力・姿勢制御・センサー） 飛行に伴うリスクと安全意識（ヒューマンエラー） 飛行前確認（機体・バッテリー・周囲環境） 安全運航の基本概念
12	ドローン演習（２）	飛行ルールと運航管理（座学） 飛行ルール（DID・30m・目視内・夜間・目視外） 飛行禁止空域（空港周辺・150m以上） 安全確保措置（立入管理・補助者配置） 運航マニュアルの考え方と遵守 異常時対応の基本（通信断・バッテリー低下）
13	ドローン演習（３）	基本操縦および安全な飛行（実習） 基本操作（スティック操作・モード理解） 離陸・ホバリング・着陸 前後・左右移動と姿勢制御 機体の向きと位置把握（空間認識） 安全確認を伴う飛行（声出し確認）
14	ドローン演習（４）	応用飛行および総合演習（実習） 安定した飛行（定点保持・精密着陸） 簡易コース飛行（往復・方向転換） 異常時対応の実践（緊急停止・帰還） 模擬運用（離陸～飛行～着陸の一連動作） 飛行後点検・安全確認 国家ライセンス資格試験紹介とまとめ

科目コード	T220404				区　分	専門基礎			
授業科目名	情報科学とAI入門［前期集中］				担当者名	笹埜 健斗			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ（集中講義）	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

ChatGPT・Claude・GeminiなどのAI（生成AI）を、大学生活と学びにたっぷり活かすための入門講義です。いちばんの特徴は、第1回で自分だけのAIボット「AI Buddy」をつくり、毎回の授業で新しいスキルを少しずつ追加しながら、14回かけて一緒に育てていくことです。レポート、プレゼン、SNS発信、データ分析、お金の管理、語学、就活、自動化、AI倫理まで、大学生活で「本当に使える」14のスキルを、毎回のハンズオンワークで楽しく体験しながら身につけていきます。筆記試験はありません。各回は「ミニ講義＋ハンズオンワーク＋振り返り・AI Buddyアップデート」の三部構成で進めます。

＜授業の到達目標＞

①ChatGPT／Claude／Geminiで、自分専用のAIボットをつくって使いこなせるようになります。②プロンプト（AIへの伝え方）のコツをつかみ、AIから最高の出力を引き出せるようになります。③レポート・プレゼン・データ分析・SNS発信を、AIと協力して効率よくこなせるようになります。④AIを使ううえでの倫理的な課題（バイアス・著作権・プライバシー・アカデミック・インテグリティ）を理解し、責任をもって判断できるようになります。⑤AI時代に自分らしい価値を生み出すキャリアビジョンを描き、行動に移せるようになります。

＜授業の方法＞

講義と演習を組み合わせて進めます。対面授業を基本としつつ、一部の回はオンデマンド配信で実施します(オンデマンド回は動画視聴＋各自のワーク＋LMSでの課題提出という流れです)。対面回は毎回100分を「チェックイン→ミニ講義（約25分）→ハンズオンワーク（約50分）→振り返り・共有→AI Buddyアップデート」の流れで進めます。授業資料はLMSで配布し、課題の提出やフィードバックもLMSで行います。使うAIツールはすべて無料版でOKです（有料版の利用は任意です）。PCまたはスマートフォンを毎回持参してください（BYOD）。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。毎回、ペアやグループでのハンズオン演習を中心に進めます（AIボットづくり、プロンプト選手権、SNSコンテンツ制作、AIとの共著レポート、90秒プレゼンバトル、チームでのAIアート制作と展示会、データ分析の発表、英会話ロールプレイ、模擬面接、自動化ハッカソン、倫理ディベート（模擬法廷）、最終プレゼン大会など）。作品への投票や相互評価、クラスでの発表・議論を通じて、みんなで学び合うスタイルです。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回約2時間）：LMSで配布する次回テーマの資料に目を通し、使うAIツールのアカウント準備や操作確認をしておいてください（初回までにChatGPTアカウント（無料版でOK）をつくっておきましょう）。オンデマンド回は配信動画の視聴も予習・学修に含みます。復習（各回約2時間）：授業後にリフレクションシート（200字程度）を提出し、その回で学んだスキルを自分のAI Buddyに追加・更新します。あわせて各回の課題（プロンプトの改善、SNS投稿の分析、プレゼン動画のAI講評、支出の分析、英会話ログ、自動化フローの設計など）に取り組んでください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験は行いません。「やってみた→振り返った→成長した」というプロセスを大切に評価します。①AI Buddy進化ポートフォリオ（14回を通じた成長記録＋最終版の完成度）30%、②毎回のリフレクションシート（各回200字程度の振り返り）20%、③ハンズオン課題（第3・5・7・9・11回のワーク成果物、計5回）20%、④最終プレゼン「行動宣言」（第14回の5分間プレゼン＋AI Buddy展示）20%、⑤相互評価・授業貢献（他の人の発表への建設的なフィードバックと積極的な参加）10%。提出物へのフィードバック

＜教科書＞

＜参考書＞

Ethan Mollick（2024年）　Co-Intelligence: Living and Working with AI　Portfolio
深津貴之・水野祐（2024年）　生成AI時代の「超」仕事術大全　東洋経済新報社
松尾豊（2015年）　人工知能は人間を超えるか　KADOKAWA

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	自分だけのAI相棒を爆誕させよ！ ──	ChatGPT（GPTs）・Gemini（Gems）・Claude（Projects）の3つの環境で、自分だけの

	GPTs／Gems／Claude Projectsでマイボット作成	オリジナルボットをつくります。名前・性格・口調・得意分野を自由に設定し、システム指示とユーザー入力の違いも学びます。演習は「AI Buddy誕生祭」。3体のボットをつくって、クラスみんなの前で自己紹介バトルを行います。課題：本命の1体を選び、14回の相棒として育てる宣言をLMSに投稿します。
2	AIの言葉が通じない？ ── 魔法の呪文を極めろ（プロンプトエンジニアリング）	プロンプトの5大要素（Role／Context／Task／Constraint／Format）を学び、Zero-shot→Few-shot→Chain-of-Thoughtと工夫するほど出力が良くなることを体感します。演習は「プロンプト選手権」。ランチプラン提案のプロンプトを15分で磨き上げ、ビフォー・アフターを発表します。課題：AI Buddyに「プロンプト改善アドバイザー」機能を追加します。
3	SNSでバズりたい ── AI×コンテンツ制作の破壊力	各SNS（Instagram／X／TikTok）の特性（文字数・画像比率・アルゴリズム）を知り、AIでキャッチコピー・投稿文・ハッシュタグ戦略をつくります。「AI丸出し感」を消して人間味を足す編集テクニックも実践します。演習は「バズ投稿チャレンジ」。3種類のコンテンツを30分で制作し、模擬「いいね」投票でバズ王を決めます。課題：SNSへの投稿（任意）または架空の投稿分析レポートを提出します。【ハンズオン課題①】
4	レポート地獄からの解放 ── AIと共著する学術文	AIを「壁打ちパートナー」にしたレポート執筆の進め方と、アカデミック・インテグリティの原則──「使う」と「丸投げ」の境界線──を学びます。ファクトチェックとリライトの技術も身につけます。演習は「AI共著バトル」。800字レポートを、AIの出力・自分のリライト・自筆で色分けして提出し、AI依存度と品質の関係をみんなで議論します。課題：AI Buddyに「レポート執筆サポーター」機能を追加します。
5	プレゼンで全員の心を奪え ── AI×スライド＆話術	AIツール（Gamma／Canva AIなど）でプロ品質のスライドをすばやくつくり、PREP法やストーリーアークといったプレゼン構成をAIと一緒に設計します。演習は「90秒プレゼンバトル──推しを布教せよ！」。AIでつくったスライドと原稿に自分の熱量を上乗せし、拍手の大きさで優勝を決めます。課題：自分のプレゼン動画をAI Buddyに講評してもらい、改善点を3つリストアップします。【ハンズオン課題②】
6	アートが爆発する ── 画像・動画・音楽をAIで創る	画像生成AI（DALL-E 3／Midjourney／Stable Diffusionなど）のプロンプトのコツを学び、動画生成・音楽生成の今の実力と、AI生成コンテンツの著作権・利用規約の基本もおさえます。演習は「AIアートフェス」。3人1組で「2050年の大学キャンパス」をテーマに画像・15秒動画・BGMを制作し、教室を展示会場にして投票でグランプリを決めます。課題：AI Buddyのアイコンを AIで生成して着せ替えます。
7	データで恋愛を科学する ── AI×データ分析入門	AIに日本語で指示するだけで、グラフ・表・インサイトを出力できることを体験します。相関と因果の違いを理解し、データの「嘘」を見抜く目も養います。演習は「恋愛データサイエンス」。架空データ「大学生1000人の恋愛と生活習慣調査」を分析し、「モテる大学生の特徴TOP5」などをインフォグラフィックにまとめて発表、結論の信頼性もじっくり議論します。課題：1週間のスクリーンタイムをAI Buddyに分析してもらい「デジタルウェルビーイング診断書」をつくります。【ハンズオン課題③】
8	お金の不安をぶっ飛ばせ ── AI×マネーリテラシー	AIで月次予算テンプレートをつくって支出を「見える化」し、複利・インデックス投資・リスク分散の基本や、奨学金返済シミュレーションなど大学生に直結するお金の知識を、AIとの対話で楽しく学びます。演習は「人生マネーRPG」。22歳〜35歳のマネープランをAIと一緒にシミュレーションし、誰がいちばんリッチになれるか競います（架空シミュレーションです）。課題：1か月の支出をAI Buddyに分析してもらい、改善提案を3つ受け取ります。
9	英語ペラペラ計画 ── AI語学チューターの実力	AIを「24時間いつでも付き合ってくれる英会話の先生」にする学習法を設計します。翻訳AIの得意・不得意（ニュアンスや文化的な文脈）も理解して、上手に使い分けます。演習は「AI英会話カフェ」。海外のカフェでの注文や空港でのトラブル対応などのロールプレイ5本勝負に挑戦し、最後は英語1分間自己紹介をAIに採点してもらいます。課題：AI Buddyと英語で10往復の会話を行い、ログとフィードバックを提出します。【ハンズオン課題④】
10	就活を無双する ── AI×自己分析＆ES＆面接	AIと一緒に自己分析を行い、ES（エントリーシート）のAI添削と「自分らしさ」の残し方、AI相手の模擬面接での回答の磨き方を実践します。演習は「就活シミュレーション大会」。強み分析レポートの生成→架空企業のESの共同執筆→AI模擬面接→人間同士の模擬面接との比較まで、就活の流れをまるごと体験します。課題：AI Buddyに自分の強みや経験を学習させ、いつでも相談できる「就活メンター」に育てます。
11	面倒なことは全部AIに任せろ ── 自動化×ライフハック	ノーコードツール（Zapier／Make／IFTTTなど）とAIを組み合わせて、面倒な繰り返し作業を自動化する方法を学びます。「面倒なことの洗い出し→自動化の設計→実装」までを一気に体験します。演習は「自動化ハッカソン」。履修登録リマインダーや課題締切アラートなど、自分が欲しい自動化を40分でつくってデモ発表し、「一番欲しい！」に投票します。課題：実際に使う自動化フロー（または設計書）と、1週間使ってみた感想を提出します。【ハンズオン課題⑤】
12	AIの闇を暴け ── フェイク・バイアス・倫理の最前線	ディープフェイクの仕組みと偽情報を見抜くリテラシー、AIのバイアス（学習データの偏りやステレオタイプの再生産）、AIと共生する社会での市民の責任と権利について考えます。演習は「倫理法廷」。「期末レポートでAI使用を全面解禁すべきか？」をテーマに、検察・弁護・裁判官に分かれてディベート裁判を行い、AIがつくった論点と人間の議論も比べてみます。課題：AI Buddyに「倫理チェッカー」機能を追加

		し、テストケース3件で検証します。
13	2035年の自分を予言する ── AI時代のキャリア戦略	AIに代わられにくい「人間ならではのスキル」（創造性・共感・批判的思考・身体性）を自分の言葉にし、「専門分野×AI」の掛け算で自分だけのキャリアビジョンを描きます。演習は「タイムマシン・ワークショップ」。2035年の自分の1日をAIと対話しながら朝から夜まで具体的に描き、そこから逆算したマイルストーン年表とシナリオ分析（楽観・中立・悲観）をつくります。課題：「2035年キャリアビジョンシート」を完成させて提出します。
14	最高の大学生活宣言 ── AI Buddyとともに（最終プレゼン大会）	これまでの13回の学びをぜんぶ束ねて、自分なりの「AI活用哲学」を発表します。最終プレゼン大会「AI Buddy博覧会」では、「AIで私の大学生活はこう変わる──行動宣言」を5分間でプレゼンします。スライド・原稿・データ・ビジュアルは、これまでに習得したAIツールをフル活用して制作し、AI Buddyの成長日誌（Lv.1→Lv.MAX）も展示します。相互評価と教員評価で総合採点し、MVP賞・成長賞・独創性賞を授与します。最終提出：AI Buddy最終版＋進化記録ポートフォリオ＋振り返りレポート（1000字）。

科目コード	T220405				区　分	専門基礎		
授業科目名	プログラミング入門(Python)				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、プログラミング未経験者を対象に、Pythonの基礎文法を演習中心に学ぶ。変数・条件分岐・繰り返し・関数・データ構造といった基礎を扱い、入出力、例外処理、を通じてプログラムを書く能力を身につける。エラーメッセージの読み方やデバッグの手順、可読性のあるコードの書き方を重視し、自力で課題を解決できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
Pythonの基礎文法を理解し、簡単なプログラムを作成できること。

＜授業の方法＞
PCを用いた演習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に講義資料を読む（60分）
課題に取り組む（120分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（30%）課題（70%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	プログラミングの基本	文字の表示や数値計算など、簡単なプログラムを作成し実行する。
2	データ型	整数、浮動小数点、文字列などのデータ型について学び、それらを使い分ける。
3	変数	変数と代入について学ぶ。各種演算子についても説明する。
4	組み込み関数	基本的な組み込み関数を学び、それらを用いた簡単なプログラムを作成する。
5	比較演算と論理演算（ブール演算）	条件分岐や繰り返しに必要不可欠な比較演算、ブール演算について学ぶ。
6	条件分岐（if文）	if文による条件分岐について学び、簡単なプログラムを作成する。
7	繰り返し（while文）	while文を用いた繰り返し処理について学び、簡単なプログラムを作成する。
8	リスト	リストを作成し、その要素を操作できるようになる。
9	繰り返し（for文）	for文を用いた繰り返し処理について学び、簡単なプログラムを作成する。while文との違いを確認する。
10	メソッド	データ型と関連する特別な関数メソッドについて学び、いくつかのメソッドを使用する。
11	モジュール	モジュールについて学び、標準ライブラリのいくつかをインポートし使う。
12	辞書型	辞書型（dict型）の構造を学び、その要素を操作できるようになる。
13	関数	関数の作り方を学ぶ。
14	まとめ	これまでの講義のまとめ。

科目コード	T220501				区　分	専門基礎			
授業科目名	ホテル経営Ⅰ				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、ホテルという産業の基礎から学び始め、成り立ち・歴史・業態区分・市場構造といった全体像を把握する。そのうえで、ホテル運営の三本柱である「宿泊」「料飲」「宴会」各部門の役割と基本業務を理解し、ホテル全体の収益構造や運営モデル（所有・運営分離、契約形態など）を体系的に学ぶ。
さらに、「ホテルビジネス実務検定（HB検）」ベーシックレベル2級合格を見据えた基礎知識整理と演習を行い、将来ホテル業界で働くための初歩的な実務感覚を育成する。現役ホテリエによるゲスト講義を前半・後半に配置し、現場のリアリティと最新動向に触れる機会を通して、学びを自分事化する。

＜授業の到達目標＞
・ホテル産業の成り立ち・業態・市場構造を説明できる
・宿泊・料飲・宴会の役割、基本用語、主要オペレーションを理解し説明できる
・収益指標（稼働率、ADR、RevPAR など）の意味を理解し、基礎的な読み解きができる
・所有・運営モデル（独立系、フランチャイズ、マネジメント契約等）の基本概念を説明できる
・HB検ベーシック2級の主要範囲を把握し、基礎問題に対応できる

＜授業の方法＞
１．出席確認と前回の振り返り（10分）
２．講義（40分）
３．ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。
※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・グループディスカッションを行い、ホテル産業の多様な業態や部門の特徴について複数の視点から考察し、理解を深める。
・ロールプレイを通じて、チェックイン対応や接客場面などの宿泊・料飲サービスを体験し、実務に基づくコミュニケーションスキルを身につける。
・学生同士でフィードバックを行い、ホテリエ講義の内容やグループワークの成果を互いに検討し、相互学習を促進する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１．予習（各回 90分）
次回テーマに関係する自分の経験・観察をメモ化。
２．復習（各回 90分）
授業で扱ったキーワードと学びを1ページに要点整理。演習や対話で得た気づきを1つ挙げ、「次の一歩（One Action）」を1つ記入。
３．中間前（60～90分）
前半のキーワードと要点の再確認。短答・用語確認・ミニケースの自作解答を各1題ずつ。自分の弱点を1つ明確化。
４・期末前（60～90分）
学期全体の要点を再整理（働く意味／自己理解／社会理解／コミュニケーション）。想定Q&Aを2～3問作成し、個人ふり返りシート（学んだこと・気づき・今後の行動）を下書き。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
仲矢秀一・テイラー雅子・中村光信（2016年5月31日）　ホテル・ビジネス・ブック　中央経済社
日本能率協会マネジメントセンター（2020年3月10日）　ホテルビジネス実務検定 公式テキスト ベーシック2級　日本能率協会マネジメントセンター
日本ホテル教育センター（2026年3月1日）　ホテルビジネス 基本編　日本ホテル教育センター

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ホテル産業の成り立ち・歴史	・ホテルの歴史的背景を理解する ・旅館とホテルの違いを説明する ・ホテルの社会的役割を捉える ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
2	ホテルの業態と市場構造	・主要業態の特徴・提供価値・顧客層・立地との関係を体系的に理解 ・ホテルの多様な目的と形態を理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
3	ホテルの経営・運営形態①	・ホテルの経営・運営形態（所有と運営の関係）を整理・理解 ・主要ホテルチェーンの運営モデルを理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
4	ホテルの経営・運営形態②／ホテルの組織	・世界と日本のホテルチェーンの特徴の把握 ・ホテル組織の全体像の把握 ・総支配人の責任と権限の理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
5	ホテルの収益構造	・ホテルの収益構造の理解 ・ホテルのGOPとユニフォームシステムの把握 ・KPI（稼働率・ADR・RevPAR)の理解と計算演習 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
6	前半の振り返り／ホテルの宿泊部門	・前半の振り返り ・宿泊部門の特徴と各種業務の理解 ・KPI（稼働率・ADR・RevPAR)の視点で宿泊部門を理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
7	中間試験／ホテルの料飲部門①	・中間試験と振り返り ・料飲部門の特徴と各種業務の理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
8	ホテルの料飲部門②	・料飲部門の主要KPI（客単価・回転率・FLコスト）の理解 ・朝食オペレーションの重要性の把握 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
9	ホテルの宴会部門と MICE	・宴会オペレーションの理解 ・MICE（Meeting, Incentive, Convention, Exhibition）の理解 ・料飲関連その他部門（ブライダル、スパ、FBオフィス等）の把握 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
10	ホテルのセールス＆マーケティング／ファイナルプレゼンテーション準備①	・セールス＆マーケティングの機能と役割の把握 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
11	ホテルのレベニューマネジメント・ホテルのその他主要機能／ファイナルプレゼンテーション準備②	・レベニューマネジメントの理解 ・ホテルの施設管理の機能と役割の理解 ・ホテルの安全管理の重要性の理解 ・ホテルの人材育成の重要性の理解 ・ファイナルプレゼンテーションに向けて「ホテル作り」をグループワークで取り組む ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
12	HB検ベーシック2級対策①／ファイナルプレゼンテーション準備③	・HB検2級の対策と演習 ・ファイナルプレゼンテーションに向けて「ホテル作り」をグループワークで取り組む ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
13	HB検ベーシック2級対策②／ファイナルプレゼンテーション準備④	・HB検2級の対策と演習 ・ファイナルプレゼンテーションに向けて「ホテル作り」をグループワークで取り組む ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
14	総まとめテスト／ファイナルプレゼンテーション	・総まとめテストと振り返り ・全グループによる「ホテルづくり」をテーマにしたファイナルプレゼンテーション ・（ピアラーニング）グループワーク最終発表

科目コード	T230102				区　分	コア科目			
授業科目名	流通論				担当者名	高橋　有弥			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ビジネスにおける商品流通（「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」）の重要性について学んでいきます。また、経済環境と消費者の変化、そして、情報技術が発展していく中における国内外の卸売業及び小売業の近年の動向についても学び、日本と海外の流通機構の違いなどについても学んでいきます。加えて、流通産業におけるDX化やグローバル化について、大手流通企業の事例を用いて実践的に学んでいきます。

＜授業の到達目標＞
①ビジネスにおける流通機構の役割の理解
②国内外の流通産業の動向の理解及び日本と海外の流通機構の違いの理解
③流通産業における時代の変化に合わせた進化（DX化、グローバル化など）の理解

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業は、授業、ディスカッション及びプレゼンテーションを活用して展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・復習各回毎に100分とする。
・予習：次回の授業内容に関連する資料を読み、基本的な用語や概念を事前に理解する。
・復習：授業で学んだ内容を振り返ると共に、ノートを整理する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末課題 40%、中間レポート 20%、授業態度・参加度40%

＜教科書＞

＜参考書＞
井上崇通，村松潤一，庄司真人　(2023/3/29)　ベーシック流通論（第2版）　同文舘出版
上原 征彦・坂上 眞介　(2008/3/11)　手に取るようにわかる小売・流通がわかる本　かんき出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業概要の説明・オリエンテーション 流通とは・・・　マーケティングと流通論の関係・社会における流通の役割について	「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」についての詳細を学ぶ
2	流通の役割	５つの「隔たり」とそれらをうめる４つの「流」について事例研究を通じて学ぶ
3	卸売業と小売業の分類・日本の流通の特徴について	卸売業・小売業の分類、商品仕入形態、日本の流通業界の特徴などについて事例研究を通じて学ぶ
4	小売業とその業態と機能について（１）	小売業は、メーカーや卸売業者から商品を仕入れ、最終消費者に販売する事業者である。小売業における業態とそれらの機能について学ぶ
5	小売業とその業態について（２）・小売業におけるDXについて	継続して、小売業の業態について学ぶと共に、顧客体験の向上、業務の効率化などの小売業におけるDX化について事例研究を通じて学ぶ
6	日本と世界のGMS（総合量販店）について	近年の国内外のGMSの営業活動などについて事例研究を通じて学ぶ
7	卸売業の役割とは・・・	近年の国内卸売業界再編の動きについて総合商社の動きなどについて事例研究を通じて学ぶ
8	地域密着型小売業について	スーパーマーケットやドラッグストアーの地域密着型戦略について
9	ショッピングセンター（SC）・ショッピングモール（SM）・アウトレットモールについて	ショッピングセンターなどに求められる提供価値や機能について学ぶ
10	流通戦略（小売業）について	商品を効率的に消費者に届け、顧客満足度と利益を最大化する戦略について事例研究を通じて学ぶ

11	流通戦略（卸売業）について	卸は、メーカーと小売の間の橋渡しとして、いかに効率と付加価値を生み出すかについて事例研究を通じて学ぶ
12	流通戦略（製造業）について	製造業の流通戦略は、マーケティング・ミックス（4P）の「Place」に該当し、商品・サービスを顧客に届けるプロセス全体を最適化する戦略であることを事例研究を通じて学ぶ
13	流通戦略（全般）について	事例研究：大手製造業や小売業企業の事例を用いて、流通戦略について学ぶ
14	まとめ	１回～13回の授業の振り返り

科目コード	T230103				区　分	コア科目			
授業科目名	消費者行動論				担当者名	上田　隆穂			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
消費者行動論では消費者に関する領域を学ぶことになる。具体的には「人はなぜ・どのように商品やサービスを選び、購入し、使用し、評価し、再購入するのか」について学習するもので、経営学・マーケティング論・心理学・社会学・行動経済学などを横断する学際領域となる。この授業では、消費者行動の基本とその事例を学ぶことを目的としている。理解を深めるために、理論面だけでなく、できるだけで事例を用いて、わかりやすい内容を目指している。消費者行動論の内容は、新しい概念、例えば、サステナブル・マーケティングとの関連が深いエシカル消費、持たざる消費であるリキッド消費など新しい内容も含めて解説する。

＜授業の到達目標＞
マーケティング総論やマーケティング戦略で対象となる消費者に関する知識を習得し､消費者がどういう状況でどういう判断をするかの意思決定枠組みを理解できるようになる。

＜授業の方法＞
基本的にはパワーポイントを用いて講義を行う。事例ごと質問を投げかけて答えてもらう方法をとる。なお1度は企業等のゲストスピーカーを迎え、マーケティング戦略事例の講演をしてもらう。感想文を課す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングほどではないが、講義中にQ&Aは行うつもりである。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1.教科書を事前に読んで来てもらう。（60分）　2.復習として講義でのポイントを振り返る（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート（感想文）20点、学習意欲　30点、期末レポート50点

＜教科書＞
松井 剛（著，編集），西川英彦（著，編集）　2020年2月19日　1からの消費者行動　碩学舎（販売：中央経済社）
時々、配布する資料もあり

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスおよび消費者の知覚について	●ガイダンス ●知覚とは何か ●知覚の文化差について ●知覚の４段階のプロセスについて ●知覚の重要性 ●知覚の残り部分
2	知覚の残りおよび消費者の学習について	●学習とは何か ●学習に関する諸理論 ●消費者行動における学習の役割について
3	消費者の記憶について	●記憶のメカニズム ●短期記憶 ●長期記憶と連想ネットワーク ●ノスタルジー
4	消費者の態度について	●態度に影響を与える関与：関与とは何か ●態度：自分を含む人や、物、広告などに対する長期にわたる全体的評価 ●態度モデル：多属性態度モデル
5	ゲストスピーカーによる講演(ただしゲストスピーカーの予定により、期日が変動する可能性がある)	ゲストスピーカーが勤める企業・産業についてお話を頂く。特に対象となる消費者について詳しく解説をしていただく。 注意：事後の感想文の提出は極めて重要　忘れずに出すこと(自分で作成すること、他人の感想文を若干手直しして提出することは許されない)
6	消費者の意思決定について	●消費者の購買意思決定プロセスとは何か

		●問題認識 ●情報探索 ●代替製品の評価 ●購買決定 ●購買後の行動
7	セグメンテーションについて(マーケティング総論よりも詳しく)	●セグメンテーションについて ●デモグラフィクスによるセグメンテーション ●サイコグラフィクスによるセグメンテーション
8	コミュニケーションについて：どのように消費者を納得させるか	●メディアの発信源効果 ●メッセージ効果 ●上手い使い分けのために精緻化見込みモデル
9	店頭マーケティングについて：売れるお店はどうやってつくる？	●店舗はどのようにつくられているのか ●私たちは、どのようにして店頭でものをかうのか ●状況について：様々な状況が消費行動に影響を与える ●インストア・マーチャンダイジング
10	アイデンティティについて：消費で自己表現をしている？	●非計画購買とは何か？ ●消費者のアイデンティティと消費 ●アイデンティティとは？ ●アイデンティティと社会からの期待
11	家族の影響について：小石川家の買い物は誰が決めているのか？	●モノの中には、家族全員で所有したり、使用したりするものがあるのか？ ●家族の購買意思決定において家族の各メンバーが担う役割は異なるのか？ ●個人と同様、家族にもライフサイクルがあるのか？ ●子供は家族やメディアの影響を受けて、消費者としてのスキルや知識を身に付けていくのか？
12	集団による消費：なぜ友人同士の服装は似てしまうのか ステイタス：なぜモノが集団のシンボルになるのか？	●消費者が他者から受ける影響とは ・準拠集団とは ・オピニオン・リーダーとは ・クチコミと消費者行動 ●ステイタス ・社会では、集団レベルでの規範や競争がある ・モノは、所属する階級や出自を示す手段、つまり集団の象徴となる ・それゆえ上の階級に移動したり、そう見せかけたりできるようなモノが流行する ・ただし、所属する階級は、モノに加えて、マナーや立ち居振る舞いにも現れる
13	サブカルチャー：日本人は全員納豆好き？	●サブカルチャー ・マイクロカルチャー ・エスニシティ ・ステレオタイプ
14	文化：聖地巡礼も消費者行動？	●文化と消費 ●聖なる消費と俗なる消費 ●儀式としての消費

科目コード	T230104				区　分	コア科目			
授業科目名	原価計算				担当者名	末原　聡			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
工業簿記および原価計算は、製造業における生産活動を記録・計算し、製品原価を把握するための会計手法である。
本講義では、材料費・労務費・経費などの原価要素を中心に、製造間接費の配賦および個別原価計算の基礎を学習する。
あわせて、全経簿記能力検定2級工業簿記を中心とした内容を扱い、日本商工会議所簿記検定2級にもつながる基礎力の養成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①全経簿記能力検定2級工業簿記および日本商工会議所簿記検定2級に関連する原価計算の基礎的な知識を身につける。
②原価計算の意義を知り、製造業における原価の基本的な考え方を学ぶ。
③材料費・労務費・経費の分類と計算、ならびに工業簿記の基本的な記帳処理ができるようになる。
④個別原価計算および総合原価計算の基礎を理解し、製品原価を計算できるようになる。

＜授業の方法＞
①授業の開始時に、前回の講義の振り返りとフィードバックを行う。
②教科書の解説を行い、その後問題演習および解説を行う。
③仕訳や集計などの計算を行うので、スマートフォンとは別に電卓を持参すること。
④GoogleClassroomによるデジタル教材の配布を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
①実際の商取引を題材として、仕訳の方法や帳簿管理の合理性について検討するディスカッション・ディベート
②実際の商取引で用いられる会計ソフトウェアや各種証票を活用した実習
③学生間で問題の解き方や考え方を教え合う協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜予習＞テキストを読み、例題を解く。書籍や論文等で授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）
＜復習＞授業で取り扱った練習問題を解く。書籍や論文等で授業で取り扱った内容について検討し、質問をまとめておく。追加で配布される練習問題がある場合には解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する積極的な態度、小テストなどの平常点60% + 定期試験40%
フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

＜教科書＞
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年3月19日　全経簿記能力検定試験公式テキスト＆問題集2級工業簿記　ネットスクール出版

＜参考書＞
(著)TAC簿記検定講座 2024年2月21日　合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記 Ver.10.0　TAC出版
(著)公益社団法人全国経理教育協会　2026年4月14日　全経簿記能力検定試験最新過去問題集２級工業簿記【令和８年度版】（全経過去問題シリーズ）　ネットスクール出版
(著)石川 和幸　2025年6月20日　この１冊ですべてわかる　製造業の仕事の基本　日本実業出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション　工業簿記の目的	イントロダクション　工業簿記の目的
2	工業簿記の基本構造	工業簿記の基本構造
3	材料費計算①	材料費の定義と分類、材料費関係の証ひょうと帳簿、購入原価
4	材料費計算②	材料費の消費量の計算、消費単価の計算、期末棚卸高
5	労務費計算①	労務費の定義と分類、賃金関係の証ひょうと帳簿、支払賃金の計算
6	労務費計算②	消費賃金の計算、給料などの計算
7	経費計算	経費の定義と分類、経費関係の証ひょうと帳簿、経費の計算
8	製造間接費計算	製造間接費の定義と分類、製造間接費関係の証ひょうと帳簿、製造間接費の製品への配賦

9	個別原価計算①	個別原価計算の意義と構造、種類
10	個別原価計算②	個別原価計算の実際配賦と予定配賦、仕損および作業屑の処理
11	部門別個別原価計算①	部門費計算の意義と目的、原価部門の設定の方法
12	部門別個別原価計算②	部門費の集計、部門個別費と部門共通費
13	部門別個別原価計算③	補助部門費の製造部門への配賦
14	総復習	第1回から第13回までのまとめ

科目コード	T230105				区　分	コア科目			
授業科目名	財務会計				担当者名	武末　朝生			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
①「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」で修得した複式簿記という会計記録の技術に関する基礎知識を前提として、「財務会計」では、企業の財政状態（貸借対照表）及び経営成績（損益計算書）を外部の利害関係者（株主を含む投資者、債権者等）に対して報告・開示するための「財務諸表」の作成に関する会計ルールについて「理論」的な観点から学修する。
②授業を理解して「到達目標」を達成するため、「日商簿記検定3級」合格レベルの知識があることが望ましい。
③なお、第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰに開講する「経営財務入門」を履修する場合には、この「財務会計」を履修する必要がある。

＜授業の到達目標＞
①財務諸表の構造と機能を理解する：貸借対照表および損益計算書の各構成要素を理解し、体系的に説明できる。
②会計基準を理解する：会計基準の基本原則を理解し、なぜそのように規定されているのかを論理的に説明できる。
③会計情報の社会的役割を理解する：財務情報の開示が資本市場・コーポレートガバナンス・社会的信頼等に与える影響を理解し、財務会計の公共的意義を説明できる。

＜授業の方法＞
①「教科書」に沿った講義形式の授業で確実に理解する（「教科書」を必ず購入すること）。
②「練習問題」や「小テスト」に取組み、解答・解説で理解度を確認する。
③ディスカッションを通じて、理解を深め、知識を定着する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
③GoogleClassroomのデジタル教材などを通じて、フォローアップする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①予習：「教科書」の指定箇所を読んでおく（1時間）
②復習：「練習問題」や「課題」に取り組む（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価方法：授業に対する積極的な態度 50%、確認テスト 50%
フィードバック：授業時間中に、演習問題の解答・解説を行う。

＜教科書＞
坪谷　敏郎（2020年12月15日）【三訂版】　『三訂　基礎から学ぶ財務知識』（ISBN：978-4-7668-4393-4）
（※「経営財務入門」でも同じ教科書を使います。）　経済法令研究会

＜参考書＞
桜井久勝（2026年3月27日）　『財務会計講義』第27版（30年以上読み継がれている財務会計の定番テキスト）　中央経済社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	（1）ガイダンス、（2）財務諸表の構造と関連	(1)①授業の概要、②授業の方法、③成績評価方法、④他の授業との関連性など、 (2)①財務情報、②貸借対照表、 ③損益計算書
2	（1）財務諸表の構造と関連（つづき）、（2）流動・固定分類基準、（3）金銭債権の評価	(1)④株主資本等変動計算書、(2)①流動資産と固定資産，流動負債と固定負債を分類する根拠、②流動固定分類基準 (3)①金銭債権の評価方法
3	（1）金銭債権の評価、（2）有価証券	(1)②回収不能見込額（貸倒引当金）の見積り、③貸倒引当金の会計処理、④貸倒引当金の貸借対照表表示 (2)①有価証券の評価と分類、②有価証券の評価基準、③有価証券の評価方法
4	棚卸資産	①棚卸資産の範囲、②棚卸資産の評価基準、③棚卸資産の評価方法、④棚卸減耗損と商品評価損

5	固定資産	①固定資産の分類、②減価償却、③減価償却資産に関する税務上の取扱い、④資産除去債務、⑤リースの取扱い、 ⑥無形固定資産、⑦投資その他の資産
6	（1）減損会計、（2）繰延資産	(1)①減損会計とは、②減損処理の基本的なしくみ、③財務諸表の表示と注記、 (2)①繰延資産の意義、②会社法上の繰延資産、③法人税法上の繰延資産
7	1学期の総まとめ（理解度の確認）	(1)確認テストと解説、(2)質疑応答
8	（1）負債の内容、（2）引当金	(1)①負債の分類、②主な負債の内容（負債性引当金をの除く）、(2)①引当金の意義、②引当金の計上基準、 ③負債性引当金の会計処理、④退職給付引当金、⑤税法上の取扱い
9	純資産	①純資産の分類、②資本金、③資本剰余金、④利益剰余金、⑤自己株式、⑥評価・換算差額等、⑦新株予約権
10	費用・収益の計上基準	①計上基準、②現金基準、③発生基準、④実現基準（販売基準）、⑤費用収益対応の原則、⑥実現基準（販売基準）の適用形態、⑦工事進行基準、⑧収益認識に関する会計基準
11	（1）外貨換算、（2）税効果会計	(1)①外貨建取引とは、②取引時の円換算、③決算時の円換算、④決済に伴う損益の処理、⑤在外支店の財務諸表項目の円換算、⑥在外子会社の財務諸表項目の円換算、(2)①会計上の利益と課税所得の違い、②税効果会計の目的
12	（1）税効果会計（つづき）、（2）連結会計	(1)③法人税等調整額とは、④一時差異と永久差異、⑤繰延税金資産と繰延税金負債、(2)①連結財務諸表の意義、 ②連結の範囲、③連結決算日
13	連結会計（つづき）	④連結財務諸表の作成手続、⑤持分法
14	2学期の総まとめ（理解度の確認）	(1)確認テストと解説、(2)質疑応答

科目コード	T230112				区　分	コア科目の経営総合領域			
授業科目名	会社法Ⅰ				担当者名	伊藤　敦司			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

この講義では、現代社会において重要な役割を担う会社、特に株式会社に関し、主にガバナンスの面の法制度を解説する。

現代社会において、会社とりわけ株式会社と無縁な生活は考えられない。将来いかなる方面に進もうとも、株式会社及び株式会社に関する法制度の理解は不可欠である。ところが、日々変化する社会情勢を反映して、株式会社法は頻繁に改正されてきており、既存の制度の見直しや新たな制度の創設が多数なされ、その重要性にもかかわらず、わかりにくい法分野となっている。しかも、2007年５月から施行された会社法は、多くの問題を背景に大改正がなされ、新たな問題も指摘されている。

そこで、会社法Ⅰでは、まず企業形態における株式会社の位置付け・特色を明らかにしたうえで、株式会社に対する法規制の基本的な仕組みを理解してもらうための解説を行う。そのうえで、機関構造、設立、各種会社について、近時の法改正や将来的な課題をふまえながら、具体的な解説を行う。

＜授業の到達目標＞

現代社会において重要な機能を有する株式会社をはじめとする会社制度の概要とその課題を認識すると同時に、関連科目の基礎を提示したい。

将来いかなる方面に進もうとも、株式会社及び株式会社に関する法制度の理解は不可欠である。企業社会の一員として、（株式）会社の基本的な仕組みやルール等の常識を身につけることは必要不可欠である。

そのため、実務界の事例にも論及しながら、身近なわかりやすい講義としたい。毎回、授業終了時に確認のための簡単なレポートを作成してもらい、履修者の理解度を確認しながら、授業を進行する。また、時事問題を取り上げ、会社法の視点から分析を行うことにより、実践的に会社法を理解してもらう。

＜授業の方法＞

パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは特に指定しない。毎回、授業の最後に、授業のまとめや意見を書いてもらう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

具体的な出来事等をもとに、学生諸君と討論する時間を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

第１回：（予習）新聞等を利用し、会社をめぐる報道がいかになされているかを概観しておくこと（60分）
（復習）会社の意義をふまえ、関係する利害関係者とその保護の必要性とその手法を整理しておくこと（180分）
第２回：（予習）身の回りにおける会社の種類や仕組みについて考察すること（60分）
（復習）四種会社の社員の責任及び特色を整理しておくこと（180分）
第３回：（予習）株式制度及び有限責任について、その内容や特色を概観しておくこと（60分）
（復習）株式制度及び株主有限責任の意義及びそこから導かれる特色を整理しておくこと（180分）
第４回：（予習）株式会社の経営を担う者たちとその役割を調べておくこと（60分）
（復習）株式会社における所有と経営の分離、機関分化の意義及び内容を整理しておくこと（180分）
第５回：（予習）ネットを通じて、特定の企業の株主総会招集通知を調べ、その記載事項を概観しておくこと（60分）
（復習）議決権保障のための各種制度を整理しておくこと（180分）
第６回：（予習）取締役に期待される機能を第４回の授業をふまえ整理しておくこと（60分）
（復習）取締役の義務・責任をその実効性を含め、整理しておくこと（180分）
第７回：（予習）取締役会に期待される機能を第４回の授業をふまえ整理しておくこと（60分）
（復習）取締役会に関する法規制を、株主総会と比較しながら整理しておくこと（180分）
第８回：（予習）代表取締役に期待される機能を第４回・第５回の授業をふまえ整理しておくこと（60分）
（復習）授業で指摘した二つの論点に関する判例を調べ、整理しておくこと（180分）
第９回：（予習）第４回の授業をふまえ、監督監査体制の必要性を整理しておくこと（60分）
（復習）株式会社の監督監査体制の概要・問題点を整理しておくこと（180分）
第１０回：（予習）指名委員会等設置会社形態をとる特定の企業を調べ、その概要をつかんでおくこと（60分）
（復習）指名委員会等設置会社の意義・問題点を整理しておくこと（180分）
第１１回：（予習）監査等委員会設置会社形態をとる特定の企業を調べ、その概要をつかんでおくこと（60分）
（復習）監査等委員会設置会社の意義・問題点を整理しておくこと（180分）
第１２回：（予習）コーポレートガバナンス・コードを読んでおくこと（60分）
（復習）コーポレートガバナンス・コードの意義・問題点を整理しておくこと（180分）
第１３回：（予習）会社設立の実体形成手続と法人格取得手続の概要をつかんでおくこと（60分）
（復習）株式会社の設立手続きの法規制の概要・特色を整理しておくこと（180分）
第１４回：（予習）第２回の授業をふまえ、四種会社の概要を概観しておくこと（60分）
（復習）合名会社及び合同会社の意義・特色を、株式会社と対比しながら整理しておくこと（180分）
第１５回：（予習）これまでの授業ノートを復習し、疑問点があれば、それを確認しておくこと（60分）
（復習）会社法の課題を整理しておくこと（180分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
確認テスト４０％、平常点（小レポート、授業参加の姿勢等）６０％により総合的に評価する。詳細については、第１回目の授業の際に説明する。

＜教科書＞

＜参考書＞
江頭憲治郎（2024年４月）　『株式会社法　第９版』　有斐閣
伊藤靖史ほか（2025年３月）　『会社法 第6版』　有斐閣
近藤　光男（2026年１月）　『現代商法入門 第12版』　有斐閣

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	会社の現代社会における機能を概観し、各種企業形態における会社の位置付けを明らかにする。 ※時事的な問題を取り上げるため、以下の予定は若干変更する場合もある。
2	会社法総論	会社の意義を明らかにしたのち、会社法の規定する四種会社の概観し、そこから導かれる法規制の特色を考察する。
3	株式会社法総論	株式会社の基本的特質を、合名会社と対比しながら明らかにし、そこから導かれる法規制を考察する。
4	株式会社の機関構造（経営機構）①総論	所有と経営の分離を背景に、基本的な機関構造を学ぶとともに、会社法の機関構成の柔軟化とその制限を考察する。
5	株式会社の機関構造②株主総会	株主総会の意義機能を明らかにしたのち、株主の議決権保障に向けた会社法の規制を考察する。
6	株式会社の機関構造③取締役	経営を委託された取締役に課される義務・責任、それをめぐる論点を考察する。
7	株式会社の機関構造④取締役会	取締役会の意義・機能を背景に、株主総会との比較をふまえながら、その規制を考察する。
8	株式会社の機関構造⑤代表取締役	代表取締役の意義・機能を背景に、権限濫用行為や専断的行為等の論点を考察する。
9	株式会社の機関構造⑥会計参与・監査役・会計監査人	会計参与・監査役・会計監査人の意義・機能を背景に、それぞれの比較や関係を考察する。
10	株式会社の機関構造⑦指名委員会等設置会社	指名委員会等設置会社の意義・機能を背景に、コーポレート・ガバナンスにおける位置付けを考察する。
11	株式会社の機関構造⑧監査等委員会設置会社	平成26年改正により創設された監査等委員会設置会社の意義・機能を背景に、コーポレート・ガバナンスにおける位置付けを考察する。
12	株式会社の機関構造⑨まとめ	近時のコーポレート・ガバナンス強化の流れのなか、会社法の規制の問題点や課題を考察する。
13	株式会社の設立	株式会社の設立規制の概要及び特色を、株式会社の特色と結び付けながら考察する。
14	各種会社	株式会社の学習を前提に、対極にある合名会社や、同じく有限責任社員によって考察される合同会社の特色や法規制を考察する。

科目コード	T230116				区　分	コア科目			
授業科目名	経営戦略論				担当者名	池島　政広			
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本科目は、企業の発展にとって最も大事な方策である「経営戦略」を扱う。これは企業を取り巻く環境を分析し、自らの経営資源を踏まえて、企業価値を高める事業を構想し、それを利害関係者に明快に発信して、速やかに実践していくことが要となる。この経営戦略を客観的に捉えて、企業の盛衰を左右する中身を体系的に整理していくのが経営戦略論に他ならない。この諸理論を学び、より理解を深めるために、実際の企業の事例を数多く取上げて分かりやすく講義していく。

＜授業の到達目標＞
1.激変するビジネス環境下で、企業の経営成果に繋がる経営戦略を分析できるようになる。
2.実際の経営戦略を考察する上で参考になる諸理論の内容および問題点を指摘できるようになる。
3.経営戦略を牽引する経営者のリーダーシップを論議できるようになる。
4.経営戦略の核となるイノベーションを推進する企業の仕組みを論議できるようになる。

＜授業の方法＞
基本的にはパワーポイントを用いて講義を進めていく。テキストは使用しない。授業の最後の10分程度を使い、提示した課題について学生諸君の見解を書いてもらう（小テスト：講義の理解度と独自な見解の吸い上げ）。この見解を整理して次回の授業で解説する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
前もって知らせた討議テーマに、学生諸君と論議する時間を設ける（15分程度）。場合によってはグループ編成をする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回の授業で討議するテーマを中心に予習してしてもらう（30分）。
復習として、授業の大事な点を整理してもらう（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲：20％
小テスト：20％
中間レポート：20％
期末テスト：40％

＜教科書＞

＜参考書＞
沼上幹（2016年12月5日）『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房　古森重隆（2013年11月14日）『魂の経営』東洋経済新報社　ヘンリー・チェスブロウ（2004年10月28日）『OPEN INNOVATION』産業能率大学出版部

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	経営戦略論の概要	企業の盛衰にとって大事な”経営戦略とは何か”について講義する。特に不透明感が漂う現代社会において、この戦略の中身を深く考えてみる。そして、この戦略を体系的に整理する試みが経営戦略論である。この体系の下に、経営成果に繋がる経営戦略を提示して、14回の講義の流れを明示する。また、学習方法および成績評価について説明する。 （予習）学生諸君が優良企業と思われる企業を1社挙げて、その経営戦略を考えておいてください。討議テーマは「激変するビジネス環境下での経営戦略の意義」 （復習）不透明感の高い現代社会における企業の経営戦略を考える上で大事な点を挙げてください。
2	社会の中での企業の経営戦略の役割	企業のビジョン（あるべき姿）達成のための方策である経営戦略をどう捉えるか明らかにする。そして、社会の中での企業の存在意義を明らかにして、独自な事業展開をして経営成果を上げていく必要性を論じる。 （予習）　関心ある企業を取上げて、その企業の社会での位置づけ（豊かな社会にどのように貢献していくか）を調べておいてください。討議テーマは「企業の社会性と

3	アンゾフの理論の解説と適応例	収益性との関連」 （復習）　企業の社会性と収益性の関連を、「共通価値の創造」の理論を参考にして纏めておいてください。 アンゾフの理論（製品と市場との組み合わせ）の基本を解説する。この理論を、富士フィルムホールディングスの事例（技術と市場の組み合わせ）を基に考えてみる。 （予習）富士フィルムホールディングスのHPを、IR（投資家向けの情報）の箇所の事業の特質について調べておいてください。討議テーマ「富士フィルムホールディングスが大きく発展した理由」 （復習）コダックと比較して、富士フィルムホールディングスが飛躍した理由を戦略的視点から考えてみてください。
4	戦略ツールとしてのPPMの解説と問題点	色々な事業や製品を持っている企業に対する戦略ツールとしてのPPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）を企業の事例を基に解説する。そして企業の市場に対する戦略と収益性の関連を実証的に調べているPIMSについても解説する。 （予習）　経営学関連で学んできたPPMを事前に調べておいてください。討議テーマ「PPMの利点と問題点」 （復習）　PPMの利点および問題点を事例を挙げながら考えてみてください。
5	ポーターの戦略理論と資源ベースト・ビュー理論の解説	著名なポーターの戦略理論（差別化、コスト・リーダーシップ、集中化）について、事例を取上げながら解説する。この理論に対して、企業の持続的な優位性は、企業の固有に持っている経営資源によるとした資源ベースト・ビュー理論、さらには、その後のコアコンピタンスの考え方についても解説する。 （予習）　経営学関連で学んだポーターの戦略論を調べておいてください。討議テーマ「差別化とコスト・リーダーシップは同時に遂行することは可能か？」 （復習）　差別化とコスト・リーダーシップを同時に遂行出来る条件は何か考えてみてください。
6	経営戦略と経営理念・文化との関連	経営戦略は企業の経営理念・企業文化に結びついているとする理論を紹介する。優良企業の条件として経営理念・文化の重要性を指摘した「エクセレントカンパニー」「ビジョナリーカンパニー」を取上げて解説する。そして、戦略を日常業務へ落とし込む必要性を指摘したPwCのコンサルタントンの考え方を紹介する。 （予習）　何故新しいことに挑戦したらがない人が多いのか考えておいてください。討議テーマ「社会を変える挑戦意欲の源とは？」 （復習）　経営戦略と経営理念・文化との関連性を纏めておいてください。
7	イノベーションに向けた経営戦略	イノベーション（画期的な商品・サービス、新たな市場の開拓など）なしで企業の持続的な発展は無理である。しかし、このイノベーションの推進は難しい。そこで、このイノベーションに向けた経営戦略はどのようなものであるか明らかにする。 （予習）　社会に大きなインパクトを与えたイノベーションの事例を1つ挙げてください。討議テーマ「イノベーションを推進するにはどのような戦略が必要か？」 （復習）　イノベーションを推進していく経営戦略の大事な点を整理しておいてください。
8	経営戦略を推進するトップのリーダーシップ	イノベーションを牽引する経営戦略に責任を持つ企業のトップのリーダーシップについて、事業構想力、情報発信力、ネットワーキング力から捉えてみる。キッコーマンを事例として取上げ、商品開発や国際化を牽引してきた経営者について論じる。 （予習）　キッコーマンのHP、とりわけ商品開発や国際化の理念に関して見ておいてください。討議テーマ「素晴らしい経営者の条件とは？」 （復習）　企業の経営者の持つべき大事な力を纏めておいてください。
9	戦略的な研究開発マネジメント	イノベーションの大事な一側面である研究開発を戦略的に進めていくマネジメントについて、事例を挙げながら解説する。とりわけ、競争優位性の視点から、独自技術の開発に繋がるマネジメントを考察する。人間にとって極めて大事な生命・健康に関わるヘルスケア産業についても触れる。 （予習）　研究開発力が高いと思われる企業を1社挙げて、その理由を説明してください。討議テーマ「企業は何故研究開発に力を入れる必要があるのか？} （復習）　効果的な研究開発マネジメントの大事な要因を挙げてください。
10	顧客を魅了する新商品の開発マネジメント	顧客の視点に立った効果的な新商品開発マネジメントを解説する。それには、市場性、競争状況、自社の強みを踏まえて、顧客のニーズを吸い上げた商品を開発していく体制を築いていくことである。特に国際的に競争力の高い自動車産業の特性や今後の課題を論議する。 （予習）　日本の自動車産業は何故国際的に強いのか、また今後の問題点を考えておいてください。討議テーマ「日本自動車産業の強みと問題点」 （復習）　将来大きな自動車市場となるインドで日本のスズキが強い理由を挙げてください。
11	オープンイノベーションの役割	企業の自前主義を脱却して、他社・他機関との連携の大切さを解説する。厳しい企業間競争に打ち勝つには、商品開発などにおいて、スピーディな対応が戦略的に必要になってくる。このオープンイノベーションについて、東レの事例を挙げて論議する。

12	ビジネスチャンス大きなアジアでの戦略展開	（予習）　関心のあるオープンイノベーションの事例を1つ挙げてみてください。討議テーマ「何故オープンイノベーションが必要なのか？」 （復習）　東レのオープンイノベーションの成功理由を纏めてみてください。 少子・高齢化が進む日本では、企業が飛躍的に発展していくには、新たな海外の市場を開拓していくことである。その際に大事な経営戦略について解説する。特にビジネスチャンスが大きな（リスクも大きい）アジアのダイナミズムについて触れる。 （予習）　2025年度海外進出日系企業実態調査（アジア・オセアニア編）ジェトロを見ておいてください。討議テーマ「有望な海外進出先はどの国・地域か？」 （復習）　アジアでの事業展開で大事なマネジメント要因を整理しておいてください。
13	新たな産業を牽引するスタートアップ企業の経営戦略	新たな産業を牽引すると期待されているスタートアップ企業の経営戦略について解説する。このような企業を支援する国の政策の基本を学び、そして企業を主導する経営者の起業家精神について、ユーグレナなどの事例を取上げながら考えてみる。 （予習）　経済産業省のHPの「産業競争力強化法」およびユーグレナのHPを見ておいてください。討議テーマ「起業家精神を醸成する教育とは？」 （復習）　産官学連携の意義と問題点について纏めておいてください。
14	まとめ一今後の日本企業の戦略を考える	学生諸君の考え方を踏まえ、これまでの講義の大事な点を振り返り、今後の日本企業の経営戦略について論じる。 （予習）　13回の講義の大事な点を纏めておいてください。 （復習）　経営戦略的視点から、日本企業の良さと問題点、そして今後の方向性について考えてみてください。

科目コード	T230203				区　分	コア		
授業科目名	メディア・リテラシー［週2オンデマンド］				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「ポスト真実時代」といわれる現在、メディアを批判的に読み解き、使いこなす能力、メディアリテラシーは一層重要となっている。メディアリテラシーは多様なメディアから得られる大量の情報を整理し正確に理解、また自らもメディアを用いて発信する能力を含む。本講義では多くの専門家をゲストスピーカーとして招き、メディアリテラシーに関わる基礎・応用的知識を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・メディアリテラシーの概念を説明できること
・メディアリテラシーを実践できること

＜授業の方法＞
・オンデマンド講義（ゲストスピーカーまたは教員による講話）
・省察活動（まとめ、課題）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
講義資料の通読と考察（90分程度）
復習およびレポート課題の作成（90分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（30%）
レポート課題（70%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本講義の概要を説明する。
2	メディアリテラシーとは（1）	狭義の（本来の）メディアリテラシーの定義と、広義のメディアリテラシーである情報リテラシー、ニュースリテラシー等との関係も含め学ぶ。
3	メディアリテラシー（2）	狭義の（本来の）メディアリテラシーの定義と、広義のメディアリテラシーである情報リテラシー、ニュースリテラシー等との関係も含め学ぶ。
4	メディアリテラシー（3）	狭義の（本来の）メディアリテラシーの定義と、広義のメディアリテラシーである情報リテラシー、ニュースリテラシー等との関係も含め学ぶ。
5	メディアとは	各種メディアの歴史や特徴について
6	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
7	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
8	まとめ	これまでの内容について復習し理解を深める
9	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
10	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
11	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
12	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
13	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
14	まとめ	これまでの内容について復習し理解を深める

科目コード	T230207				区　分	コア科目　情報システム領域			
授業科目名	データサイエンス入門				担当者名	尾﨑 信之			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の目的は様々なデータを読み解く基礎リテラシイを身に着けることです。統計的思考とエビデンスに基づく判断を養うことで、具体的な事象を理解することを目指します。統計的手法をベースとして、AIの活用なども含めて、現実のデータを紐解き、分析することで、実社会の課題に応用できることを目指します。

＜授業の到達目標＞
1. 実データを批判的に読み解く力をつける。
2　Excel/Google Sheets等 を用いた統計的手法のスキルを身に着ける。
3. 具体的な社会課題のデータを分析、説明する力をつける。

＜授業の方法＞
解説と問いの提示、グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習問題等の回収

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有り
グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習時利用、事後学習、演習問題等の回収並びにフィードバックを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前に授業要約メモからWEBなどの調査(45分)
復習：グループ討論、プレゼンテーション資料の作成とアップロード、期中、期末でのノートの提出(45分)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
QUIZ（10%）、グループ討議、プレゼンテーション（10%）、質問など、授業中の貢献(10%)、
レポート（70%）合計100パーセントで評価する.

＜教科書＞
使用予定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義で学ぶこと、データサイエンスとは何か
2	データリテラシーとはなにか	オープンデータとは
3	データ収集と可視化	欠損データ、外れ値とは、可視化の手段
4	統計の基礎１（Excel/Google Sheetsを利用）	代表値と散布度
5	統計の基礎２（Excel/Google Sheetsを利用）	確率論と期待値
6	統計の基礎３（Excel/Google Sheetsを利用）	正規分布
7	統計の基礎４（Excel/Google Sheetsを利用）	相関分析
8	AIと機械学習の基礎	機械学習における学習、汎用GPTの利用と限界
9	事例紹介１	具体的なデータを用いて実践する
10	事例紹介2	具体的なデータを用いて実践する
11	ケーススタディ１	各グループごとに課題及びデータを探し、分析を行う
12	ケーススタディ２	各グループごとに課題及びデータを探し、分析を行う
13	ケーススタディ３　発表	各グループごとに収集したデータの説明、発見したことの発表
14	まとめ	

科目コード	T230301				区　分	コア			
授業科目名	ホスピタリティ論				担当者名	都築 智津子			
配当年次	1年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

ホスピタリティの基本的な概念と、その社会的な必要性について学ぶ。観光産業に限らず、学校生活・地域社会・アルバイト・日常の対人関係など、あらゆる場面に共通する「相手の立場に立って考え、行動すること」を中心テーマとして取り扱う。学生自身の体験を振り返りながら、思いやり・気づき・コミュニケーション・多様性への配慮といったホスピタリティの要素を理解し、実生活で応用できる力を身につけることを目指す。

授業では、観光・サービスにおけるホスピタリティの役割、文化による違い、消費者心理の基礎、困っている人への配慮、感情の理解、テクノロジーとの関係など、幅広いテーマに触れていく。ワークショップやディスカッション、身近な事例分析を通して、学生自身が「良い体験とは何か」「真のホスピタリティとは何か」を考える機会を提供する。

＜授業の到達目標＞

・ホスピタリティの基本的概念を説明できる
・お客様（相手）の立場に立つとはどういうことかを理解し、行動に結びつけられる
・消費者心理の基礎を理解し、顧客体験を分析できる
・真の顧客サービスについて自分の言葉で論じることができる
・日常生活・学校生活・アルバイトにおけるホスピタリティ行動を考察できる
・多様な相手や文化に配慮したコミュニケーションができる

＜授業の方法＞

１．出席確認と前回の振り返り（10分）
２．講義（40分）
３．ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。
※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・グループディスカッションを行い、多様な視点からホスピタリティの在り方を考え、理解する。
・ロールプレイを通じて実際の接客や顧客対応を体験し、実践的なスキルを身につける。
・学生同士でフィードバックを行い、相互に学びを深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（各回 20～30分程度）
・次回テーマに関連する身近なサービス体験（接客・案内・待ち時間・マナーなど）を思い出し、良かった点／気になった点を2～3行でメモする。
・必要に応じて、配布資料・指定箇所を軽く読み、**用語（例：おもてなし／ホスピタリティ／サービス）**だけ把握しておく。
2. 復習（各回 20～30分程度）
・授業で扱ったキーワード（定義・特徴・文化・コミュニケーション等）をノートに1ページで要約する。
・授業内ワーク（体験共有・言い換え練習など）を振り返り、自分ならどう改善するかを1点だけ追記しておく。
3. 中間・期末前の準備学習
・これまでの主要キーワード（定義／共通点と相違点／文化・マナー／体験価値 など）を一覧に整理し、重要点を確認する（60分程度）。
・ミニケースや授業中のワークを振り返り、自分の考えや自分ならどう行動するか等について確認する（30～60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

＜教科書＞

なし

＜参考書＞

(株)JAL航空みらいラボ（2026年２月18日）　やさしく学ぶ ホスピタリティの世界　インプレス
青木義英（2013年4月６日）　新版 ホスピタリティ入門　新曜社

林田正光（2007年2月14日）　ホスピタリティの教科書 図解版　あさ出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・導入ワーク ホスピタリティの基本概念	・授業の進め方、目的の共有 ・「ホスピタリティとは？」を考える ・ホスピタリティの意味・語源・定義 ・ホスピタリティとサービスの違い ・ホスピタリティに関わる身近な体験（良い体験・悪い体験）を言語化（ワーク）
2	ホスピタリティを学問的に深堀りする	・ホスピタリティの代表的な3つの視点 ・身近にあるホスピタリティを3つの視点で考察する（ワーク） ・ホスピタリティ基本動作訓練①（立ち姿勢）
3	日常生活のホスピタリティ	・家庭・学校・友人関係でのホスピタリティ ・気づき能力を高める（ワーク） ・小さな行動が与える心理的効果
4	観光とホスピタリティ①	・観光におけるホスピタリティの重要性 ・観光客心理の基礎 ・観光客心理の応用
5	観光とホスピタリティ②	・多文化の視点 ・地域と訪問者の心理を理解する（ワーク） ・ホスピタリティ基本動作訓練②（笑顔）
6	消費者心理の基礎①（感情のしくみ）	・心理学の初歩（感情・期待・安心の構造） ・「嬉しい体験」が生まれる背景とは？ ・非言語コミュニケーション ・ホスピタリティにとっての第一印象の重要性
7	消費者心理の基礎②（行動のしくみ）	・行動の背後にある心理 ・顧客満足の基礎 ・期待ギャップと顧客ロイヤルティ（基礎編） ・前半の振り返り
8	中間ミニテスト（理解度確認）	・1～6回の理解度確認のミニテスト ・ミニテストの振り返り ・ホスピタリティ基本動作訓練③（お辞儀）
9	クレーム対応と臨機応変な対応	・クレームが起きる下人 ・クレーム対応の基本 ・プラスワンの気づき ・臨機応変な対応 ・ロールプレイ演習
10	日本の「おもてなし」と世界のホスピタリティ	・おもてなしの歴史と文化的背景 ・海外との比較と文化の違い ・おもてなしのルーツを探る
11	日本の「おもてなし」の深堀り（演習編）	・おもてなしの背景を研究（グループワーク） ・ホスピタリティ基本動作訓練④（物の受け渡し）
12	多様性配慮とインクルーシブホスピタリティ	・多様性配慮とは ・年齢・国籍・性別・障がいなどの多様性への理解 ・誰もが安心できるホスピタリティとは
13	働く人のホスピタリティ（感情労働）	・スタッフの負担とケアの必要性 ・ホスピタリティを生む組織文化 ・全体の振り返り
14	最終試験（理解度確認） 全体のまとめ	・最終試験 ・最終試験の振り返り ・「ホスピタリティとは何か、私にとっての意味」（グループワーク）

科目コード	T230303				区　分	コア		
授業科目名	観光産業論［前期集中］				担当者名	森田 金清／糟谷　崇		
配当年次	2年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
観光地や都市における種々の観光産業の種類、形態、ビジネスの特徴を学ぶ。
担当教員は観光学博士であり、現役の旅館業経営者である。この経歴に基づき、ホテル・旅館を含む観光業、宿泊業の将来の展望を解説する

＜授業の到達目標＞
国内外の観光産業設に関わる基礎知識を学び、多様な観光形態ができた背景や宿泊産業の現状と将来像を理解し、観光デザイン能力を高めることを目的とする。

＜授業の方法＞
講義形式

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッションを行う可能性あり

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
観光業や宿泊業の仕事にはどんなものがあるかを関連図書やインターネットなどで調べておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中における出席率(50%)、レポート（30%）、授業中の議論参加(20%)

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	観光業とは	「観光業」とは何かおよび、その特徴について説明する。
2	観光産業の歴史	日本における観光産業の発展過程と現状について説明する。
3	ホテルビジネスの歴史	観光の発展とホテルビジネスの変遷について説明する。
4	観光産業の政策・法規	観光産業を取り巻く政策・法規について説明する。
5	観光産業のマーケティング	観光産業のマーケティングについて説明する。
6	観光業界の雇用と労働環境	観光業界の雇用と労働環境について説明する。
7	ホテル業界の動向	外資系企業の進出とホテル業界の動向について説明する。
8	民泊の歴史	民泊の歴史と現状について説明する。
9	日本旅館の歴史	日本旅館の歴史について説明する。
10	事例研究、伊豆、箱根の旅館	事例研究、伊豆、箱根の旅館について説明する。
11	高級旅館（ラグジュアリーブランド）の隆盛	旅館業界における高級旅館（ラグジュアリーブランド）に隆盛について説明する。
12	ビジネスホテル業界の動向	ビジネスホテル業界の動向について説明する。
13	観光業の人手不足	観光業の人手不足ついて説明する。
14	観光業の将来とインバウンド戦略	観光業の将来とインバウンド戦略について説明する。

科目コード	T230304				区　分	コア			
授業科目名	サービスビジネス実務論Ⅰ				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ホスピタリティを軸にサービスビジネス全般の基礎を押さえる。ダル実務を基礎から体系的に学ぶ。前半では、サービスの特徴、体験価値、ホスピタリティ、サービス品質、期待と満足の関係を身近な例で理解する。後半では、ブライダルの実務の基礎を体系的に学ぶう。中間チェックテストと最終テストにより理解を段階的に確認し、授業ではロールプレイ、グループワーク、ピア・ラーニング等のインタラクティブな学習を通じて知識の定着を図る。

＜授業の到達目標＞
・サービス業界の特徴を理解し説明できる
・サービス業界におけるホスピタリティ／品質／期待-満足の関係を説明できる
・ブライダルの顧客対応プロセス（問合せ→打合せ→当日→事後）を説明できる
・ブライダルにおける関係部門の役割と連携場面を説明できる
・ピアラーニングで要点整理・相互FB・協働解決ができる

＜授業の方法＞
１．出席確認と前回の振り返り（10分）
２．講義（40分）
３．ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。
※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・グループディスカッションを通して、ブライダルの基本的な流れや最新トレンドについて多様な視点から意見交換を行い、理解を深める。
・ロールプレイを用いて、接客場面や簡単な進行場面を体験し、コミュニケーションの取り方や進行の工夫に気づく。
・小グループでのワークを通じて、サービス業界全般、及びブライダルの流れの整理を行い、学生同士でのフィードバックも行うことで相互学習を促進する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1. 予習（20～30分）
次回テーマに関わる自身のサービス体験や事例を考え、気づいた点を簡単にメモしておく。必要に応じて配布資料に目を通し、主要用語（サービスの特徴、ホスピタリティ、婚礼プロセス、担当部門名、演出名など）を確認する
2. 復習（20～30分）
授業で扱ったキーワードや要点をノート1ページ程度にまとめ、授業内のピアラーニング（個人メモ→ペア→小グループ→ミニ発表）で得た気づきや、ロールプレイ・ワークでの改善点を一つ書き加えて振り返る
3. 中間・期末前の学習
主要用語・概念を一覧で復習し、授業内ワークやミニテストを見直して理解が曖昧な箇所を数点整理する

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
近藤 隆雄（2007年12月1日）　サービス・マネジメント入門 ― ものづくりから価値づくりの視点へ（第3版）　日本生産性本部
内藤　耕（2010年4月25日）　「実例でよくわかる！ サービス産業生産性向上入門」　日刊工業新聞社
公益社団法人日本ブライダル文化振興協会（2026年3月1日）　ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード（第6版）　公益社団法人日本ブライダル文化振興協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／サービスビジネス	・授業の目的・評価・進め方を共有する

	についての理解①	・サービスとは何か（定義・特性・価値）について理解する ・最近のサービス体験を振り返り、「価値を感じた瞬間」を言語化する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
2	サービス業界の構造・市場規模・職種	・サービス業界の構造を理解する ・サービス業界の市場規模と主要業界について理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
3	飲食業界・小売業界のサービスモデル	・飲食業界のサービスモデルについて理解する ・小売業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
4	旅行業界・交通業界のサービスモデル	・旅行業界のサービスモデルについて理解する ・交通業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
5	エンターテインメント業界のサービスモデル	・エンターテインメント業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
6	医療業界・福祉業界・教育業界・金融業界のサービスモデル	・医療業界のサービスモデルについて理解する ・福祉業界のサービスモデルについて理解する ・教育業界のサービスモデルについて理解する ・金融業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
7	ホテル業の実務とサービスモデル①	・ホテル業界の特性と特徴を理解する ・ホテル業界の分類と特徴を理解する ・ホテル業界のサービス価値とそれを支える見えない仕組みを把握する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
8	前半の振り返り／ホテル業の実務とサービスモデル②	・前半の振り返り ・ホテルの組織構造を理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
9	中間テスト／ホテル業の実務とサービスモデル③	・中間テストと振り返り ・ホテルの収益構造を理解する ・ホテルの経営・運営形態、ホテルチェーンについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
10	ブライダルビジネスの概要	・ブライダルビジネスの特徴を理解する ・日本におけるブライダルの歴史を把握する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
11	ブライダルビジネスの営業とマーケティング	・ブライダルにおける集客・マーケティグを理解する ・顧客ニーズのつかみ方を理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
12	ブライダルの打合せ・準備プロセスの基礎	・打合せプロセスを理解する ・ブライダルにおける部門連携を把握する ・ブライダルにおける顧客心理の変化を理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
13	ブライダルのトラブル対応と進行演習／全体の振り返り	・トラブルの構造を理解する ・典型トラブル事例の把握 ・ブライダルの台本読み取りワーク ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク
14	総まとめテストと振り返り	・総まとめテスト・振り返り

科目コード	T230313				区　分	コア		
授業科目名	エアライン・サービス論				担当者名	馬場　哲也		
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、エアライン産業の構造と実務を体系的に学びます。
国際線エアラインのサービスを軸に、基本的なサービスを概観します。エアライン業界の経営特性やサービス特性、各職種の業務を学ぶことでエアラインがどのような役割、サービスを提供しているのかを学修します。また、世界の主要国の文化や慣習について、日本との接点や相違点を考察し、異文化理解を深めることを通じて国際感覚を養っていきます。

＜授業の到達目標＞
(1)エアラインのサービスについて基本的な知識を修得する。
(2)エアラインのサービスについて適切な手段によって適切に表現することができる。

＜授業の方法＞
１．出席確認と前回の振り返り（15分）
２．講義（60分）
３．ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（15分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・実例を通じて接客や顧客対応を学修し、実践的なスキルを身につける。
・グループディスカッションを行い、多様な視点からエアライン・サービスを考える。
・学生同士でフィードバックを行い、相互に学びを深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：次回の授業内容に関連する資料を読み、基本的な用語や概念を理解する（30分程度）。
・復習：授業で学んだ内容を振り返り、ノートを整理する。またディスカッションの振り返りを行い、改善点を考える（30分程度）。
・追加課題:必要に応じて、授業で取り上げたテーマについて自身の経験と結びつけて考え、簡単なレポートを作成する(60分程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末テスト 40%、中間テスト 30%、授業態度 30%で総合評価します。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
稲本恵子編（2022年4月）　エアライン・ビジネス入門（第2版）　晃洋書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション　シラバス説明	授業の内容、進め方を説明します。エアライン・ネットワークの基礎となる世界地理を概観します。
2	日本における主要エアライン	日本の主要エアラインの事業領域を整理し、理解を深めます。
3	エアラインのクラス別サービスの実例	国内線、国際線のクラス別仕様、サービスの比較分析を行います。
4	国内線空港での搭乗プロセス	国内線旅客の搭乗手続きと動線、空港職員の機能と役割を学びます。
5	国際線空港での搭乗プロセス	国際線旅客の搭乗手続きと動線、空港職員の機能と役割を学びます。
6	日本と世界の主要な空港施設の現状	日本と世界の主要な空港における施設・機能を概観します。
7	空港の機能と業務	日本の空港で働く種々のスタッフの役割と具体的業務を学びます。
8	これまでの学びの整理（中間振り返り）	これまでの内容の復習、グループワーク「学びの共有」、中間のまとめ
9	グランドスタッフの業務	エアラインのグランドスタッフの具体的業務と求められる適性について学びます。
10	客室乗務員の業務（Cabin Attendant ）①	客室乗務員の基本的使命・役割と具体的業務について学びます。
11	客室乗務員の業務（Cabin Attendant ）②	国際線客室乗務員の役割と具体的業務について学びます。

12	機内食と世界の食文化	機内食の特徴と制約を学び、特別食を通じて異文化理解をし国際慣習を学びます。
13	LCCの特徴とサービス	格安航空会社の事業特性、サービス特性を学びます。
14	総まとめ	これまでの総まとめ

科目コード	T230401				区　分	コア			
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅰ［キャリア系］				担当者名	白田　佳子			
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

予測不能な時代といわれている現代社会。社会には将来のキャリア形成に際してさまざまな「リスク」が内在している。よってこれらの「リスク」とどう向き合うかが重要です。さて将来直面する「リスク」とはどのような物でしょうか。就職してみたものの企業が倒産してしまうこともあるかもしれません。そのような不確実な未来について、どのように予見したら良いのでしょうか。本講義では、社会（企業）が直面する「リスク」についてその概念をしっかりと学ぶと共に、学生の皆さん自身の人生における「リスク」についても確認しその対応方法を学びます。

＜授業の到達目標＞

１．「リスク」概念を学ぶ。リスクとは何かを学術的視点から学習する。
２．将来のキャリア形成におけるリスクを確認し、対応方法を学ぶ。
３．結果、リスクを受容するのではなく回避する手段を自ら考察し解決する能力を取得することが出来る。

＜授業の方法＞

基本は講義ですが、授業中には学生同士がグループを構成し自らの意見の述べ、課題（リスク）についてディスカッションを行います。また講義内ではさまざまな質問を投げかけますので積極的に自らの意見を述べて下さい。授業での発言数は、授業の評価点の加点となります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

講義とアクティブ・アクティブラーニングの併用。講義ごとにパワーポイントで要点を説明します。なお、パワーポイントのコピーは配布しませんので、毎回自身でしっかりノートを取るようにしましょう。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】シラバスを良く読んでおくこと
【復習】毎回の講義で、課題を出すので、出された課題について、復習も兼ねてメールにて提出を求めます。
皆さんから提出された課題の内容、また意見について、翌週の授業にてディスカッションを行ないます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１．授業への出席、および授業中における当方からの質問への積極的な発言を評価対象とする。発言に際しては、発言ごとにParticipation Cardを発行。カードの枚数に応じて成績への加点とする。
２．試験は実施しない。一方毎講義の後に出す課題への提出を評価対象とする。評価基準は内容のみならず迅速な提出を評価基準とする。

＜教科書＞

白田佳子　AI技術による倒産予知モデル×企業格付け(2019/3/18)　税務経理協会
なし
なし

＜参考書＞

なし
なし
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダク ション	講義の概要説明、補講日の確認
2	社会とリスク	リスク形態、リスク概念を学習する：日本の失われた30年とは。実態を、確認する
3	キャリアライフとリスクマネジメント	キャリアライフに内在するリスクを確認する
4	社会の純粋リスクによる影響	キャリア形成において社会の純粋リスクがどのような影響をもたらすかについて議論する：純粋リスクとは？
5	社会の純粋リスクへの対応	キャリア形成における社会の純粋リスクへの対応（防備）について議論する
6	経済とリスク	キャリア形成における経済環境と投機的リスクとの関係について確認：企業の事例を分析する
7	企業とリスク	キャリア形成における企業が抱える投機的リスクについて：企業にかかわる情報を

8	経済とリスク（2）	収集分析 キャリア形成における社会経済が抱える投機的リスクについて議論：関心ある企業への影響は？
9	企業とリスク（2）	キャリア形成における企業が抱える投機的リスクについて（その２）：関心ある企業の情報を収集し分析
10	キャリア形成におけるリスクマネジメント：企業分類	業種によるリスク形態の違い：関心あるグループ（業種）を抽出する
11	キャリア形成におけるリスクマネジメント：必要情報の確認	グループワーク：グループ内での議論、方向性を確認。議論対象となる企業を特定し情報を収集する
12	キャリア形成におけるリスクマネジメント１：グループワーク	グループワーク：収集した企業情報をもとにグループ内で対象企業に内在するリスクと、その対応方法を議論する
13	キャリア形成におけるリスクマネジメント２：グループワーク	グループワーク：グループ内での議論をとりまとめ、リスクごとに対応方法を決定する
14	キャリア形成におけるリスクマネジメント：発表	グループワーク：グループ内でキャリア形成におけるリスクへの対応方法を含む最終議論をとりまとめる

科目コード	T230403				区　分	コア			
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅲ				担当者名	白田　佳子			
配当年次	2年	配当学期	第1ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義は、現代経営実践演習基礎I及び現代経営実践演習基礎II履修者を対象とし、将来の日本での就職に際し、日本の産業構造、また現在の日本企業の経済実態をグループワークにて議論し、結果を発表することを目的としています。1年次で学んだ「リスク概念」及び「企業の財務分析」を元にグループに別れ、産業別に日本企業の実態を分析し、その評価結果について発表を行ないます。発表に際しては、政府公表のマクロ情報、また産業グループの公表情報の詳細分析、さらにはグループを構成する企業の個別の財務分析を行ないます。なお、最終発表に際してはPower Point（パワーポイント）を使用して発表資料を作成し、プレゼンを行います。毎回PCを必ず持参すること。

＜授業の到達目標＞

１．マクロデータを収集し日本の経済状況を分析する
２．分析対象とする産業（企業群）を抽出し、産業構造、シェア等を分析する
３．選出した産業を構成する主たる企業の実態を個別に分析する（消費者対応なども含む）
４．マクロデータに個別企業情報を加味し、定性・定量の両面から日本企業の経済実態をグループごとに発表する

＜授業の方法＞

本講義では、数字を分析するたけでなく経済状況、産業実態、企業情報を政府や個別企業が公表する定性データを読み解き分析することで、日本経済の実態を把握できる能力を養うことを目的としている。講義と並行しながら、興味ある企業を選び出し、選んだ企業のデータの抽出、分析を行う。データの抽出方法などは授業において示す手順に従うことで問題なく対応可能である。最終的にはデータを使用しながら実際に企業の分析を行ないます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

講義とアクティブ・アクティブラーニングの併用。産業分析及び企業は各人がPC上で行うアクティブラーニングとなる。また、最終発表はパワーポイントを使用して学生がグループ別に行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】シラバスを良く読んでおくこと.。パワーポイントの使用方法を事前学習しておくことが望ましい。
【復習】経済データ抽出方法について、当該授業日におこなった作業については、しっかりと復習をしておくことが好ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１．産業分析結果について毎回の授業において各人に積極的な発言を求めます。
２．試験は行いません。毎回の課題提出、およびグループプレゼンテーションにて評価します。

＜教科書＞

白田佳子　AI技術による倒産予知モデル×企業格付け(2019/3/18)　税務経理協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダク ション	講義の概要説明、授業時間の確認を行います。Power Pointによるプレゼンテーション方法を確認する。
2	プレゼンテーションスキル概要	Power Pointの具体的利用と社会データの確認：データ入手先等の確認を行う
3	利害関係者	企業をとりまく利害関係者と経済への影響:企業における利害関係者とは
4	経済環境	産業別我が国企業の位置づけの確認（産業データを入手）
5	経済環境２	産業別我が国企業の位置づけの確認（産業データを入手）
6	対象産業の抽出	グループごとに対象とする産業、および代表企業を公表データから抽出する
7	対象産業代表企業分析	グループごとに抽出した代表企業データを確認、企業ごとにデータ内容を比較する
8	対象産業代表企業のデータ分析２	グループごとに対象とする産業の代表企業にかかわる定性情報を分析する：HP及びEDINETなど開示情報
9	対象産業代表企業のデータ分析３	グループごとに対象とする産業の代表企業にかかわる定量情報の分析：EDINETにおける開示情報、社会情報など
10	代表企業に係わる報告書とりまとめ	グループごとに対象とする産業及び企業の内容のとりまとめを実施：定量・定性情

		報
11	分析結果の集計	グループごとに対象とする産業の内容と、同産業における企業比較を行いながらとりまとめを実施：定量・定性情報
12	分析結果の最終報告書作成	グループごとに対象とする産業の内容を、構成する企業の比較を用いて取りまとめPower Pointによるプレゼンテーションを作成する
13	分析結果の発表	グループワーク：Power Pointで最終発表内容を発表する
14	分析結果の発表と質疑応答	グループワーク：発表内容に関する質疑応答、ディスカッションを行う

科目コード	T230404				区　分	コア科目			
授業科目名	フィールドワーク［前期集中］				担当者名	上田　隆穂			
配当年次	1年	配当学期	前期集中（9月1日～5日）	単位数	1.00単位	授業方法	実技（演習も少しあり）先着順でMax20名まで	卒業要件	選択：IPUスタッフは３名、外部スタッフ１名、その他の協力者が１名で実施する。能登町にも多くの協力者が存在。

＜授業の概要＞
学生のための現地実技自体は4泊5日であり、サイクリング1日半、ボランティア活動2日、最後の1日は能登町の被災地などの見学を実施。時期は、2026年9月1日から9月5日夕方まで。
能登空港に現地集合し、空港から輪島までマウンテンバイクで自転車走行を行う。そして到着・休憩後、その日に農作業体験を近隣の農場で行う。輪島の方々が指導に当たる。翌日9/2は、能登町真脇（縄文遺跡）まで約70kmをマウンテンバイクで走行する。サイクリングはここまでとする。
9/3から2日間は、20人程度の参加学生が、３つの班に分かれ、能登町の３つの地区に割り振られ、そこの集会所もしくは公民館で合宿し、地元住民との交流を兼ねたボランティア活動を行う。季節柄、お祭りの準備や清掃作業のボランティア活動の可能性が高い。
学生は現地集合・現地解散であるため、交通費（飛行機代、早期であれば往復2.5万円）がかかり、また交通費を除き、宿泊費・食費などで４万円＋αが経費としてかかる予定（時期がせまればはっきり定まる）。

＜授業の到達目標＞
美しく、豊かな自然の中において、楽しみつつ、サイクリングにより身体を鍛え、優しくも厳しくもある地元民とのふれあいを通じ、参加学生が感動や喜びを得ることで元気になり、ボランティア活動を通じて地域貢献を行い、地域住民との継続的な交流を望むようになることが目的である。

＜授業の方法＞
事前授業で、地元の能登定住機構の森氏からの能登町でのボランティア活動に関するお話をzoomで伺い、マウンテンバイクが準備できれば、走行訓練や、そしてパンク修理の実習を行う。この事前授業は1，2回を考えている。
9/1～9/5：サイクリング、ボランティア活動の実習、9/5：夕方の飛行機までバスで被災地を巡り、被災地見学を行う。また帰京後適当な時期に、写真＆レポートを記録として残すために1,2回集まる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実習形式で実技を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前授業、そして事後の集まりで学習や報告書など記録の取りまとめを行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習姿勢、報告書作成・編集における貢献で評価を行う。

＜教科書＞
特になし。資料を配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前授業	第1あるいは第2クオーターで全員集合し、自己紹介実施。zoomで能登町の定住促進機構の森氏よりzoomでボランティア活動に関する講義をうける。
2	事前授業	第2クオーターのどこかで全員集合し、マウンテンバイクの自転車走行チェック、班分け、パンク時の修理訓練を実施。

3	9/1（火）集合・サイクリング・の農作業体験	午前中に石川県能登空港に全員集合。ミーティングの後、マウンテンバイクのチェックし、輪島へ３つの班に分けて出発する。輪島のルートインホテルに到着後、休憩。 そして輪島で、地元の方の指導により、農作業体験を実施。
4	翌日9/2（水）サイクリング	朝食をとり、9：00出発。自転車で輪島～時国～柳田～能登町ポーレポーレの70km程度を走行。極端に厳しい坂はないが、少々の坂はある。ポーレポーレという国民宿舎で自転車を清掃し、倉庫に返却し、レンタカーバスで国民宿舎「うしつ荘」へ移動し、宿泊。入浴・夕食・翌日からのボランティア活動に関するミーティングを実施する。
5	9/3（木）・9/4（金）自治体でのボランティア活動	参加学生は、３つの班に分かれ、能登町の３つの地区に割り振られ、そこの集会所もしくは公民館で合宿し、地元住民との交流を兼ねたボランティア活動を行う。ただし、地域住民は奉仕のみされることに倦んでいる気配があり、表現として「お手伝い」とするのが良い。作業内容は、時節柄、祭礼の準備、掃除、草むしり等であるらしい。 IPUスタッフのみ「うしつ荘」で宿泊し、学生は３つの地域でお世話になる。スタッフは2日間地区をまわりボランティア活動に参加。
6	9/5（土）被災地等見学	朝、学生をピックアップし、能登の珠洲・輪島方面の被災度が大きな地域を、レンタカーバスで見学。夕方のANA帰京便（16:50発）に間に合うよう空港に戻り、空港で解散式を実施。
7	事後授業	この授業の記録を残すために、報告書を作成するために集まる。可能ならば、DVDの形で記録を残しておく。編集作業をしてもらう予定。 （この作業も採点対象となる）
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T230405				区　分	コア　不定期開講科目(海外研修の実施が決まり次第開講)			
授業科目名	海外研修Ⅰ				担当者名	古賀　敢人／國井　裕			
配当年次	1年	配当学期	７月、９月、１０月、２月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択　事前研修３回、本研修(海外)、事後研修１回にすべて参加すること。

＜授業の概要＞
渡航先の国の文化や言語について学びます。

＜授業の到達目標＞
渡航先において、自ら考えて行動し、現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

＜授業の方法＞
本研修は、事前研修3コマ、現地研修10コマ、事後研修1コマの計14コマ（各100分）で構成する。事前研修において渡航先の社会・文化・言語について理解を深め、現地研修では異文化環境における実践的なコミュニケーション、観察、交流および課題解決活動を行う。帰国後には研修成果を整理し、自らの学びを今後の大学での学修やキャリア形成につなげる。研修先はハワイ（７月）、シンガポール（９月）、韓国（１０月）、欧米（２月）となるが、世界情勢により渡航先及び時期は変更となる場合がある。また、参加人数が最少催行人数に満たない場合実施をしない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループになっての入国審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（約300分）
研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。
事後学習（約100分）
研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
研修への出席・参加態度：30%
現地でのコミュニケーション・協働姿勢：25%
英語等の言語運用・実践力：20%
研修中の課題・活動への取り組み：15%
研修後のレポート・振り返り：10%
合計100%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前研修①　海外研修の目的と目標設定	海外研修の目的、全体日程、研修先の概要について理解する。海外研修を単なる海外体験ではなく、大学における学修の一環として位置づける。参加学生は、自身の語学力、異文化理解、専門分野、将来のキャリア等の観点から、研修期間中に達成したい個人目標を設定する。また、研修中に求められる主体的な参加姿勢、時間管理、集団行動について確認する。

2	事前研修②　渡航先の社会・文化と異文化理解	渡航先の歴史、社会、文化、生活習慣、教育制度、産業等について学ぶ。日本との共通点・相違点を比較し、文化的背景の異なる人々と接する際に必要となる異文化理解の基本的な考え方を身につける。文化的な違いを固定的なイメージで判断するのではなく、相手の価値観や社会的背景を理解しようとする姿勢を養う。
3	事前研修③　実践的コミュニケーションと危機管理	空港、ホテル、大学・研修機関、店舗、公共交通機関等、現地で想定される場面を設定し、英語等を用いた実践的なコミュニケーション練習を行う。自己紹介、質問、依頼、意見表明等の基本表現を確認する。また、渡航時の安全管理、健康管理、緊急時の連絡方法、現地で遵守すべき法律・規則・マナーについて確認する。
4	現地研修①　現地オリエンテーションと環境理解	研修先においてオリエンテーションを受け、研修施設、大学、地域社会等の環境を把握する。現地スタッフから研修目的やスケジュールについて説明を受け、今後の研修で求められる行動について確認する。日本との生活環境や社会システムの違いについて観察を行う。
5	現地研修②　異文化環境におけるコミュニケーション	現地学生、教職員、研修担当者等との交流を通して、異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションを実践する。語学的な正確さだけではなく、相手の発言を理解し、自ら質問し、会話を継続する能力を養う。コミュニケーション上の困難についても振り返りを行う。
6	現地研修③　現地の教育・社会システムの理解	大学、教育機関、公共施設等を訪問し、現地における教育や社会の仕組みについて学ぶ。担当者による説明や現地学生との交流を通して、日本の制度との共通点・相違点を考察する。観察した内容を記録し、質疑応答を行う。
7	現地研修④　産業・企業・サービス現場の理解	企業、ホテル、観光施設、商業施設等を訪問し、現地の産業、ビジネス、サービスの特徴について学ぶ。特に、国際的な顧客への対応、ホスピタリティ、従業員の役割、組織運営等について観察する。日本の企業・サービスとの比較を行う。
8	現地研修⑤　ホスピタリティと異文化対応	現地におけるホスピタリティや顧客対応について実践的に学習する。文化や言語の異なる相手に対し、どのように適切なサービスや配慮を提供しているかを分析する。現場での観察や担当者への質問を通して、国際的なホスピタリティのあり方について考察する。
9	現地研修⑥　フィールドワーク	現地研修⑥　フィールドワーク 現地学生や地域の人々との交流活動を行う。自国の文化について説明するとともに、相手の文化、価値観、大学生活、将来観等について質問する。双方向の交流を通じて、異なる文化的背景をもつ人々と相互理解を形成するための姿勢を身につける。
10	現地研修⑦　現地学生・地域との交流	
11	現地研修⑧　課題発見・比較分析	これまでの研修で得た情報をもとに、日本と研修先の社会、文化、教育、観光、ビジネス、ホスピタリティ等について比較分析を行う。グループごとにテーマを設定し、研修先の優れた点や課題、日本に応用できる点等について議論する。
12	現地研修⑨　グループワーク・成果整理	現地研修で得た経験や調査結果をグループ内で共有し、成果を整理する。各自の観察結果を統合し、研修を通じて発見した社会的・文化的特徴や課題についてまとめる。また、他者との協働を通して、異なる意見を調整し一つの成果にまとめる能力を養う。
13	現地研修⑩　成果発表と現地研修総括	現地研修の成果について発表を行う。研修を通して学んだこと、事前に設定した目標の達成状況、日本との違い、今後の学修やキャリアに活用したい点等を発表する。現地スタッフや他の参加学生からフィードバックを受け、研修全体を総括する。
14	事後研修　研修成果の振り返りと今後の学修	帰国後、海外研修全体を振り返り、事前に設定した目標に対する達成度を自己評価する。現地で得た経験や知識について参加者間で共有し、異文化理解、コミュニケーション能力、語学力、主体性等の観点から自己の成長を整理する。最終レポートを作成するとともに、研修成果を今後の大学での学修、海外留学、就職・キャリア形成にどのようにつなげるかを考える。

科目コード	T230419				区　分	コア　不定期開講科目(海外研修の実施が決まり次第開講)			
授業科目名	海外研修Ⅱ				担当者名	古賀　敢人／國井　裕			
配当年次		配当学期	7月、9月、10月、2月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択　事前研修3回、本研修(海外)、事後研修1回にすべて参加すること。

＜授業の概要＞
渡航先の国の文化や言語について学びます。

＜授業の到達目標＞
渡航先において、自ら考えて行動し、現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

＜授業の方法＞
本研修は、事前研修3コマ、現地研修10コマ、事後研修1コマの計14コマ（各100分）で構成する。事前研修において渡航先の社会・文化・言語について理解を深め、現地研修では異文化環境における実践的なコミュニケーション、観察、交流および課題解決活動を行う。帰国後には研修成果を整理し、自らの学びを今後の大学での学修やキャリア形成につなげる。研修先はハワイ（7月）、シンガポール（9月）、韓国（10月）、欧米（2月）となるが、世界情勢により渡航先及び時期は変更となる場合がある。また、参加人数が最少催行人数に満たない場合実施をしない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループになっての入国審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（約300分）
研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。
事後学習（約100分）
研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
研修への出席・参加態度：30%
現地でのコミュニケーション・協働姿勢：25%
英語等の言語運用・実践力：20%
研修中の課題・活動への取り組み：15%
研修後のレポート・振り返り：10%
合計100%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前研修①　海外研修の目的と目標設定	海外研修の目的、全体日程、研修先の概要について理解する。海外研修を単なる海外体験ではなく、大学における学修の一環として位置づける。参加学生は、自身の語学力、異文化理解、専門分野、将来のキャリア等の観点から、研修期間中に達成したい個人目標を設定する。また、研修中に求められる主体的な参加姿勢、時間管理、集団行動について確認する。

2	事前研修②　渡航先の社会・文化と異文化理解	渡航先の歴史、社会、文化、生活習慣、教育制度、産業等について学ぶ。日本との共通点・相違点を比較し、文化的背景の異なる人々と接する際に必要となる異文化理解の基本的な考え方を身につける。文化的な違いを固定的なイメージで判断するのではなく、相手の価値観や社会的背景を理解しようとする姿勢を養う。
3	事前研修③　実践的コミュニケーションと危機管理	空港、ホテル、大学・研修機関、店舗、公共交通機関等、現地で想定される場面を設定し、英語等を用いた実践的なコミュニケーション練習を行う。自己紹介、質問、依頼、意見表明等の基本表現を確認する。また、渡航時の安全管理、健康管理、緊急時の連絡方法、現地で遵守すべき法律・規則・マナーについて確認する。
4	現地研修①　現地オリエンテーションと環境理解	研修先においてオリエンテーションを受け、研修施設、大学、地域社会等の環境を把握する。現地スタッフから研修目的やスケジュールについて説明を受け、今後の研修で求められる行動について確認する。日本との生活環境や社会システムの違いについて観察を行う。
5	現地研修②　異文化環境におけるコミュニケーション	現地学生、教職員、研修担当者等との交流を通して、異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションを実践する。語学的な正確さだけではなく、相手の発言を理解し、自ら質問し、会話を継続する能力を養う。コミュニケーション上の困難についても振り返りを行う。
6	現地研修③　現地の教育・社会システムの理解	大学、教育機関、公共施設等を訪問し、現地における教育や社会の仕組みについて学ぶ。担当者による説明や現地学生との交流を通して、日本の制度との共通点・相違点を考察する。観察した内容を記録し、質疑応答を行う。
7	現地研修④　産業・企業・サービス現場の理解	企業、ホテル、観光施設、商業施設等を訪問し、現地の産業、ビジネス、サービスの特徴について学ぶ。特に、国際的な顧客への対応、ホスピタリティ、従業員の役割、組織運営等について観察する。日本の企業・サービスとの比較を行う。
8	現地研修⑤　ホスピタリティと異文化対応	現地におけるホスピタリティや顧客対応について実践的に学習する。文化や言語の異なる相手に対し、どのように適切なサービスや配慮を提供しているかを分析する。現場での観察や担当者への質問を通して、国際的なホスピタリティのあり方について考察する。
9	現地研修⑥　フィールドワーク	現地研修⑥　フィールドワーク 現地学生や地域の人々との交流活動を行う。自国の文化について説明するとともに、相手の文化、価値観、大学生活、将来観等について質問する。双方向の交流を通じて、異なる文化的背景をもつ人々と相互理解を形成するための姿勢を身につける。
10	現地研修⑦　現地学生・地域との交流	
11	現地研修⑧　課題発見・比較分析	これまでの研修で得た情報をもとに、日本と研修先の社会、文化、教育、観光、ビジネス、ホスピタリティ等について比較分析を行う。グループごとにテーマを設定し、研修先の優れた点や課題、日本に応用できる点等について議論する。
12	現地研修⑨　グループワーク・成果整理	現地研修で得た経験や調査結果をグループ内で共有し、成果を整理する。各自の観察結果を統合し、研修を通じて発見した社会的・文化的特徴や課題についてまとめる。また、他者との協働を通して、異なる意見を調整し一つの成果にまとめる能力を養う。
13	現地研修⑩　成果発表と現地研修総括	現地研修の成果について発表を行う。研修を通して学んだこと、事前に設定した目標の達成状況、日本との違い、今後の学修やキャリアに活用したい点等を発表する。現地スタッフや他の参加学生からフィードバックを受け、研修全体を総括する。
14	事後研修　研修成果の振り返りと今後の学修	帰国後、海外研修全体を振り返り、事前に設定した目標に対する達成度を自己評価する。現地で得た経験や知識について参加者間で共有し、異文化理解、コミュニケーション能力、語学力、主体性等の観点から自己の成長を整理する。最終レポートを作成するとともに、研修成果を今後の大学での学修、海外留学、就職・キャリア形成にどのようにつなげるかを考える。

科目コード	T230420				区　分	コア　不定期開講科目(海外研修の実施が決まり次第開講)			
授業科目名	海外研修Ⅲ				担当者名	古賀　敢人／國井　裕			
配当年次		配当学期	７月、９月、１０月、２月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択　事前研修３回、本研修(海外)、事後研修１回にすべて参加すること。

＜授業の概要＞
渡航先の国の文化や言語について学びます。

＜授業の到達目標＞
渡航先において、自ら考えて行動し、現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

＜授業の方法＞
本研修は、事前研修3コマ、現地研修10コマ、事後研修1コマの計14コマ（各100分）で構成する。事前研修において渡航先の社会・文化・言語について理解を深め、現地研修では異文化環境における実践的なコミュニケーション、観察、交流および課題解決活動を行う。帰国後には研修成果を整理し、自らの学びを今後の大学での学修やキャリア形成につなげる。研修先はハワイ（７月）、シンガポール（９月）、韓国（１０月）、欧米（２月）となるが、世界情勢により渡航先及び時期は変更となる場合がある。また、参加人数が最少催行人数に満たない場合実施をしない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループになっての入国審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（約300分）
研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。
事後学習（約100分）
研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
研修への出席・参加態度：30%
現地でのコミュニケーション・協働姿勢：25%
英語等の言語運用・実践力：20%
研修中の課題・活動への取り組み：15%
研修後のレポート・振り返り：10%
合計100%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前研修①　海外研修の目的と目標設定	海外研修の目的、全体日程、研修先の概要について理解する。海外研修を単なる海外体験ではなく、大学における学修の一環として位置づける。参加学生は、自身の語学力、異文化理解、専門分野、将来のキャリア等の観点から、研修期間中に達成したい個人目標を設定する。また、研修中に求められる主体的な参加姿勢、時間管理、集団行動について確認する。

2	事前研修②　渡航先の社会・文化と異文化理解	渡航先の歴史、社会、文化、生活習慣、教育制度、産業等について学ぶ。日本との共通点・相違点を比較し、文化的背景の異なる人々と接する際に必要となる異文化理解の基本的な考え方を身につける。文化的な違いを固定的なイメージで判断するのではなく、相手の価値観や社会的背景を理解しようとする姿勢を養う。
3	事前研修③　実践的コミュニケーションと危機管理	空港、ホテル、大学・研修機関、店舗、公共交通機関等、現地で想定される場面を設定し、英語等を用いた実践的なコミュニケーション練習を行う。自己紹介、質問、依頼、意見表明等の基本表現を確認する。また、渡航時の安全管理、健康管理、緊急時の連絡方法、現地で遵守すべき法律・規則・マナーについて確認する。
4	現地研修①　現地オリエンテーションと環境理解	研修先においてオリエンテーションを受け、研修施設、大学、地域社会等の環境を把握する。現地スタッフから研修目的やスケジュールについて説明を受け、今後の研修で求められる行動について確認する。日本との生活環境や社会システムの違いについて観察を行う。
5	現地研修②　異文化環境におけるコミュニケーション	現地学生、教職員、研修担当者等との交流を通して、異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションを実践する。語学的な正確さだけではなく、相手の発言を理解し、自ら質問し、会話を継続する能力を養う。コミュニケーション上の困難についても振り返りを行う。
6	現地研修③　現地の教育・社会システムの理解	大学、教育機関、公共施設等を訪問し、現地における教育や社会の仕組みについて学ぶ。担当者による説明や現地学生との交流を通して、日本の制度との共通点・相違点を考察する。観察した内容を記録し、質疑応答を行う。
7	現地研修④　産業・企業・サービス現場の理解	企業、ホテル、観光施設、商業施設等を訪問し、現地の産業、ビジネス、サービスの特徴について学ぶ。特に、国際的な顧客への対応、ホスピタリティ、従業員の役割、組織運営等について観察する。日本の企業・サービスとの比較を行う。
8	現地研修⑤　ホスピタリティと異文化対応	現地におけるホスピタリティや顧客対応について実践的に学習する。文化や言語の異なる相手に対し、どのように適切なサービスや配慮を提供しているかを分析する。現場での観察や担当者への質問を通して、国際的なホスピタリティのあり方について考察する。
9	現地研修⑥　フィールドワーク	現地研修⑥　フィールドワーク 現地学生や地域の人々との交流活動を行う。自国の文化について説明するとともに、相手の文化、価値観、大学生活、将来観等について質問する。双方向の交流を通じて、異なる文化的背景をもつ人々と相互理解を形成するための姿勢を身につける。
10	現地研修⑦　現地学生・地域との交流	
11	現地研修⑧　課題発見・比較分析	これまでの研修で得た情報をもとに、日本と研修先の社会、文化、教育、観光、ビジネス、ホスピタリティ等について比較分析を行う。グループごとにテーマを設定し、研修先の優れた点や課題、日本に応用できる点等について議論する。
12	現地研修⑨　グループワーク・成果整理	現地研修で得た経験や調査結果をグループ内で共有し、成果を整理する。各自の観察結果を統合し、研修を通じて発見した社会的・文化的特徴や課題についてまとめる。また、他者との協働を通して、異なる意見を調整し一つの成果にまとめる能力を養う。
13	現地研修⑩　成果発表と現地研修総括	現地研修の成果について発表を行う。研修を通して学んだこと、事前に設定した目標の達成状況、日本との違い、今後の学修やキャリアに活用したい点等を発表する。現地スタッフや他の参加学生からフィードバックを受け、研修全体を総括する。
14	事後研修　研修成果の振り返りと今後の学修	帰国後、海外研修全体を振り返り、事前に設定した目標に対する達成度を自己評価する。現地で得た経験や知識について参加者間で共有し、異文化理解、コミュニケーション能力、語学力、主体性等の観点から自己の成長を整理する。最終レポートを作成するとともに、研修成果を今後の大学での学修、海外留学、就職・キャリア形成にどのようにつなげるかを考える。

科目コード	T230421				区　分	コア　不定期開講科目(海外研修の実施が決まり次第開講)			
授業科目名	海外研修Ⅳ				担当者名	古賀　敢人／國井　裕			
配当年次		配当学期	７月、９月、１０月、２月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択　事前研修３回、本研修(海外)、事後研修１回にすべて参加すること。

＜授業の概要＞
渡航先の国の文化や言語について学びます。

＜授業の到達目標＞
渡航先において、自ら考えて行動し、現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

＜授業の方法＞
本研修は、事前研修3コマ、現地研修10コマ、事後研修1コマの計14コマ（各100分）で構成する。事前研修において渡航先の社会・文化・言語について理解を深め、現地研修では異文化環境における実践的なコミュニケーション、観察、交流および課題解決活動を行う。帰国後には研修成果を整理し、自らの学びを今後の大学での学修やキャリア形成につなげる。研修先はハワイ（７月）、シンガポール（９月）、韓国（１０月）、欧米（２月）となるが、世界情勢により渡航先及び時期は変更となる場合がある。また、参加人数が最少催行人数に満たない場合実施をしない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループになっての入国審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（約300分）
研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。
事後学習（約100分）
研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
研修への出席・参加態度：30%
現地でのコミュニケーション・協働姿勢：25%
英語等の言語運用・実践力：20%
研修中の課題・活動への取り組み：15%
研修後のレポート・振り返り：10%
合計100%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前研修①　海外研修の目的と目標設定	海外研修の目的、全体日程、研修先の概要について理解する。海外研修を単なる海外体験ではなく、大学における学修の一環として位置づける。参加学生は、自身の語学力、異文化理解、専門分野、将来のキャリア等の観点から、研修期間中に達成したい個人目標を設定する。また、研修中に求められる主体的な参加姿勢、時間管理、集団行動について確認する。

2	事前研修②　渡航先の社会・文化と異文化理解	渡航先の歴史、社会、文化、生活習慣、教育制度、産業等について学ぶ。日本との共通点・相違点を比較し、文化的背景の異なる人々と接する際に必要となる異文化理解の基本的な考え方を身につける。文化的な違いを固定的なイメージで判断するのではなく、相手の価値観や社会的背景を理解しようとする姿勢を養う。
3	事前研修③　実践的コミュニケーションと危機管理	空港、ホテル、大学・研修機関、店舗、公共交通機関等、現地で想定される場面を設定し、英語等を用いた実践的なコミュニケーション練習を行う。自己紹介、質問、依頼、意見表明等の基本表現を確認する。また、渡航時の安全管理、健康管理、緊急時の連絡方法、現地で遵守すべき法律・規則・マナーについて確認する。
4	現地研修①　現地オリエンテーションと環境理解	研修先においてオリエンテーションを受け、研修施設、大学、地域社会等の環境を把握する。現地スタッフから研修目的やスケジュールについて説明を受け、今後の研修で求められる行動について確認する。日本との生活環境や社会システムの違いについて観察を行う。
5	現地研修②　異文化環境におけるコミュニケーション	現地学生、教職員、研修担当者等との交流を通して、異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションを実践する。語学的な正確さだけではなく、相手の発言を理解し、自ら質問し、会話を継続する能力を養う。コミュニケーション上の困難についても振り返りを行う。
6	現地研修③　現地の教育・社会システムの理解	大学、教育機関、公共施設等を訪問し、現地における教育や社会の仕組みについて学ぶ。担当者による説明や現地学生との交流を通して、日本の制度との共通点・相違点を考察する。観察した内容を記録し、質疑応答を行う。
7	現地研修④　産業・企業・サービス現場の理解	企業、ホテル、観光施設、商業施設等を訪問し、現地の産業、ビジネス、サービスの特徴について学ぶ。特に、国際的な顧客への対応、ホスピタリティ、従業員の役割、組織運営等について観察する。日本の企業・サービスとの比較を行う。
8	現地研修⑤　ホスピタリティと異文化対応	現地におけるホスピタリティや顧客対応について実践的に学習する。文化や言語の異なる相手に対し、どのように適切なサービスや配慮を提供しているかを分析する。現場での観察や担当者への質問を通して、国際的なホスピタリティのあり方について考察する。
9	現地研修⑥　フィールドワーク	現地研修⑥　フィールドワーク 現地学生や地域の人々との交流活動を行う。自国の文化について説明するとともに、相手の文化、価値観、大学生活、将来観等について質問する。双方向の交流を通じて、異なる文化的背景をもつ人々と相互理解を形成するための姿勢を身につける。
10	現地研修⑦　現地学生・地域との交流	
11	現地研修⑧　課題発見・比較分析	これまでの研修で得た情報をもとに、日本と研修先の社会、文化、教育、観光、ビジネス、ホスピタリティ等について比較分析を行う。グループごとにテーマを設定し、研修先の優れた点や課題、日本に応用できる点等について議論する。
12	現地研修⑨　グループワーク・成果整理	現地研修で得た経験や調査結果をグループ内で共有し、成果を整理する。各自の観察結果を統合し、研修を通じて発見した社会的・文化的特徴や課題についてまとめる。また、他者との協働を通して、異なる意見を調整し一つの成果にまとめる能力を養う。
13	現地研修⑩　成果発表と現地研修総括	現地研修の成果について発表を行う。研修を通して学んだこと、事前に設定した目標の達成状況、日本との違い、今後の学修やキャリアに活用したい点等を発表する。現地スタッフや他の参加学生からフィードバックを受け、研修全体を総括する。
14	事後研修　研修成果の振り返りと今後の学修	帰国後、海外研修全体を振り返り、事前に設定した目標に対する達成度を自己評価する。現地で得た経験や知識について参加者間で共有し、異文化理解、コミュニケーション能力、語学力、主体性等の観点から自己の成長を整理する。最終レポートを作成するとともに、研修成果を今後の大学での学修、海外留学、就職・キャリア形成にどのようにつなげるかを考える。

科目コード	T230406				区　分	コア		
授業科目名	資格検定対策Ⅰ(語学系)				担当者名	Everett Ofori		
配当年次	1年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

English Through Performance
Overview
This course explores English language learning through performance-based activities. Students develop fluency, pronunciation, expressive communication, and cultural awareness by engaging in poetry recitation, spoken word, short dramatic performances, public speaking, and creative writing. The course encourages learners to use English in imaginative, authentic contexts, fostering confidence in both personal expression and professional communication. Students will work individually and collaboratively to interpret texts, create performances, and del iver spoken content in English. By connecting language to performance, the course emphasizes active speaking, listening, and express ive writing, while providing opportunities for improvisation and audience engagement.

＜授業の到達目標＞

By the end of the course, students will:
1. Demonstrate improved spoken English fluency and pronunciation through performance.
2. Develop the ability to interpret and adapt texts for various performance contexts.
3. Enhance creative writing skills, including poetry, dialogue, and short scripts.
4. Build confidence in public speaking and persuasive communication.
5. Collaborate effectively in groups to produce spoken-word, theatrical, or activism-based performances.
6. Understand and apply cultural and rhetorical context in English performance.

＜授業の方法＞

Method of Instruction
Instructor Modeling: Demonstrates performance techniques and reads examples.
Guided Practice: Students rehearse individually or in pairs with brief instructor feedback.
Role-Play & Performance: Students perform prepared or improvised pieces using learned language.
Peer Feedback: Quick peer comments on clarity, expression, and English usage.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

Class Engagement
Active Speaking: Students perform, improvise, or respond to prompts each class.
Collaboration: Pair or group work on scripts, poems, or short scenes.
Reflection: Short self-assessment or peer feedback after performances.
Audience Participation: Students alternate between performing and observing to learn from peers.

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Time Needed for Preparation
・ Individual preparation: 30–60 minutes per class for memorization, rehearsals, and writing drafts.
・ Group preparation: 1-2 hours per week for collaborative performances or peer feedback.
・ Homework / independent study: Additional 30–45 minutes for reflection, revisions, or research performance techniques.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Class participation: 40%
Final performance: 60%

＜教科書＞

The professor will provide all materials.

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Theme: Introduction to Performance English	Content: ・ Grammar/Vocabulary: Basic expressions for self-introduction, greetings, and

		audience engagement. • Speaking/Performance: Short self-introduction speeches; practice voice projection, pacing, and pr Onnunciation. • Writing/Creative Task: Write a 2-minute personal introduction script. • Active Learning: Peer feedback on clarity, body language, and engagement.
2	Theme: Spoken Word Fundamentals	Content: • Grammar/Vocabulary: Emotive adjectives, descriptive verbs, figurative language. • Speaking/Performance: Recite short spoken word pieces; focus on rhythm and stress. • Writing/Creative Task: Compose a 4-line spoken word poem about a personal experience. • Active Learning: Perform in pairs; provide feedback on expression and clarity.
3	Theme: Poetry and Haiku Revival	Content: • Grammar/Vocabulary: Concise descriptive language, sensory words, present tense verbs. • Speaking/Performance: Read and interpret classic and contemporary haikus. • Writing/Creative Task: Create 3 original haikus; emphasize imagery and rhythm. • Active Learning: Peer readings and discussion on imagery and impact.
4	Theme: Storytelling through One-Act Plays	Content: • Grammar/Vocabulary: Past tense verbs, narrative connectors (first, then, finally). • Speaking/Performance: Read and perform short scenes; focus on character voice and emotion. • Writing/Creative Task: Draft a 1-minute scene for two characters. • Active Learning: Partner improvisation; practice reacting to unexpected dialogue.
5	Theme: Voice, Expression, and Projection	Content: • Grammar/Vocabulary: Modals for suggestions and requests (can, should, must). • Speaking/Performance: Exercises in tone, volume, and emphasis. • Writing/Creative Task: Script 3 lines expressing different emotions (anger, joy, sadness). • Active Learning: Perform lines in small groups; classmates guess the intended emotion.
6	Theme: Performance for Persuasion (Activism & Advocacy)	Content: • Grammar/Vocabulary: Persuasive language: “We must...″, “I believe...”, “It is important that...”. • Speaking/Performance: Deliver a 1-minute persuasive speech on a social issue. • Writing/Creative Task: Outline arguments supporting your viewpoint. • Active Learning: Peer discussion and debate; practice responding spontaneously.
7	Theme: Corporate Spokesperson Skills	Content: • Grammar/Vocabulary: Formal expressions, conditionals, and reporting phrases. • Speaking/Performance: Present a company announcement or product pitch. • Writing/Creative Task: Script a 2-minute corporate message. • Active Learning: Mock press conferences with classmates as reporters; answer impromptu questions.
8	Theme: Improvisation and On-the-Spot Performance	Content: • Grammar/Vocabulary: Question forms, exclamations, and conversational connectors. • Speaking/Performance: Improv games and dialogues based on given prompts. • Writing/Creative Task: Prepare 2 improvisation prompts for classmates. • Active Learning: Perform in small groups; respond spontaneously to prompts.
9	Theme: Emotion and Storytelling	Content: • Grammar/Vocabulary: Descriptive adjectives, adverbs, and figurative language. • Speaking/Performance: Perform short emotional monologues; focus on body language. • Writing/Creative Task: Draft a 2-minute monologue reflecting a personal or fictional story. • Active Learning: Peer feedback on clarity, emotional delivery, and engagement.
10	Week 10 Theme: Cultural Expression	Content:

	Through Performance	• Grammar/Vocabulary: Past tense, narrative transitions, and culturally specific vocabulary • Speaking/Performance: Share a traditional story, folk tale, or cultural anecdote in English. • Writing/Creative Task: Adapt a short cultural story into a performance script. • Active Learning: Small group presentations; discuss differences in interpretation.
11	Theme: Humor and Satire in English	Content: • Grammar/Vocabulary: Puns, idiomatic expressions, rhetorical questions. • Speaking/Performance: Perform a comedic sketch or satirical monologue. • Writing/Creative Task: Write a short humorous dialogue or sketch. • Active Learning: Peer performance and critique; identify effective humor techniques.
12	Theme: Integrating Music, Rhythm, and Speech	Content: • Grammar/Vocabulary: Repetition for emphasis, rhyme patterns, parallel structures. • Speaking/Performance: Spoken word or rap with rhythmic delivery. • Writing/Creative Task: Compose a short verse integrating rhythm and rhyme. • Active Learning: Perform in pairs or small groups; focus on timing, stress, and flow.
13	Theme: Advanced Improvisation and Dialogue	Content: • Grammar/Vocabulary: Conditionals, hypothetical situations, persuasive and descriptive phrases. • Speaking/Performance: Improv dialogues based on audience prompts. • Writing/Creative Task: Prepare optional cue cards with vocabulary for performance. • Active Learning: Class-wide improvisation exercises; spontaneous Q&A.
14	Theme: Final Showcase and Reflection	Content: • Grammar/Vocabulary: Review and integrate past, present, and future tense in performance. • Speaking/Performance: Present a 3–5 minute performance piece combining learned skills. • Writing/Creative Task: Reflective journal summarizing personal growth, skills acquired, and future and goals. • Active Learning: Peer and instructor feedback; public showcase for invited audience if possible.

科目コード	T230410				区　分	コア科目　キャリア形成			
授業科目名	資格検定対策Ⅴ(ICTスキル系)				担当者名	吉澤 陽介			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を目指すとともに、その応用として位置付けられる基本情報技術者試験、およびデザインの基本となる検定試験についても触れる。

＜授業の到達目標＞

資格試験対策勉強を通じて、基本情報技術者試験のためのICT技術の本質を理解し，情報系資格，デザイン系の検定試験，MOS検定MOS試験未受験者，上級試験に合格するための力を身につける。

＜授業の方法＞

情報基礎としてICTの基本を講義と演習を実施し，基本情報処理技術者試験の基礎力を養う．MOS検定のうち、Word、Excelを受験対象科目として演習を行う。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに問題演習で理解度をチェックする。オンデマンド教材を活用しながら，模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

演習中心だが、アクティブ・ラーニングの要素は適宜入れていく。具体的にはペアワークや製作物の相互レビューを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前学習：授業予定の教科書範囲について、自分で問題を解く（1時間程度）。
・事後学習：授業で学んだ範囲を復習し、模擬練習問題を繰り返し行う（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題演習の提出 40%、模擬試験問題の達成状況 60%で評価する。

＜教科書＞

富士通エフ・オー・エム　MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集　FOM出版
富士通エフ・オー・エム　MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集　FOM出版
教員が適宜配布，情報処理基礎

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義概要
2	情報基礎（1）	２進数　１０進数　１６進数　コード表現 ASCIIコード，JISコード
3	情報基礎（2）	論理演算，真理値とブール代数
4	情報基礎（3）	キャラクターユーザインターフェース
5	情報基礎（4）	グラフィカルユーザーインターフェース 色情報の表現と２進数
6	情報基礎（5）	ネットワークケーブルの構造 ネットワークケーブル作りとテスト
7	情報基礎（6）	文字コードと情報通信 文字コード（ASCII，SJIS，他）とプログラミング CR+LF
8	情報基礎（7）	ソフトウェア設計法 プログラミングの基本構造 各種チャート
9	資格試験対策演習（1）	受験項目に合わせて，選択性でオンデマンド教材を使用する．

		Word，Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験，デザイン系模擬試験 受験項目に合わせて，選択性でオンデマンド教材を使用する．
10	資格試験対策演習（２）	Word，Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験，デザイン系模擬試験 受験項目に合わせて，選択性でオンデマンド教材を使用する．
11	資格試験対策演習（３）	Word，Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験，デザイン系模擬試験 受験項目に合わせて，選択性でオンデマンド教材を使用する．
12	資格試験対策演習（４）	Word，Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験，デザイン系模擬試験 受験項目に合わせて，選択性でオンデマンド教材を使用する．
13	資格試験対策演習（５）	Word，Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験，デザイン系の模擬試験
14	まとめ	「基本情報技術者試験」と「デザイン系検定」の攻略ポイント，「MOS」検定試験Word・Excelの出題の確認と攻略ポイント

科目コード	T230411				区　分	コア			
授業科目名	インターンシップ(企業)Ⅰ［認定科目］				担当者名	馬場　哲也			
配当年次	2年	配当学期	第2ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義　演習　実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、企業・団体等での就業体験を通じて、専門知識の実践的応用力と職業観を養成する科目である。事前学習・実習・事後振り返りを一体化させ、キャリア形成および社会人基礎力の向上を目的とする。
観光・サービス産業、一般企業等を実習先とする。

１．大学が主導的に行うインターンシップ
　要件として原則、前年度からの出席率85％以上、GPA2.5以上、日本語能力検定試験N２相当以上とする。
　授業の登録、講義出席が必要。
２．学生が主体的に取り組むインターンシップ
　授業の登録、講義出席、決定したインターンシップ先を大学へ事前届出を提出。

＜授業の到達目標＞

本授業の修了時に、学生は以下を達成できる。
１．職場における基本的なビジネスマナーを実践できる。
２．組織の役割分担と業務プロセスを説明できる。
３．自身の専門分野と実務の関連性を分析できる。
４．自己の課題を明確化し、今後の学修計画に反映できる。

＜授業の方法＞

１．事前指導（講義・ワークショップ）
２．企業・団体での実習（5日間以上～10日間程度。またはリゾートホテル等においては約1か月間）
３．日報提出
４．事後報告会（プレゼンテーション）
５．個別面談による振り返り講義　演習　実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：実習先研究（企業分析レポート提出）
事後：振り返りレポート

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

認定の有無

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（目的・評価方法説明）	
2	インターンシップの意義と心構え	
3	ビジネスマナー講習	
4	実習先エントリー　実習計画作成	
5	実習期間	
6	実習期間	
7	実習期間	
8	実習期間	
9	実習期間	
10	実習期間	
11	実習期間	
12	実習期間	

13	実習報告書作成 成果発表準備	
14	成果発表会	

科目コード	T110404				区　分	教養科目			
授業科目名	ボランティア活動［通年集中］				担当者名	董　航／小川　千尋			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐に渡っている。これからの社会を考えるとき、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では実際のボランティア活動を通して、社会が直面する問題を理解していく。

＜授業の到達目標＞
ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得できる。

＜授業の方法＞
自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動を行う。事前指導の受講、規定時間以上のボランティア参加、各活動の報告書提出、レポートによる報告を行うことで授業としての活動を認める。詳細は都度UNIVERSAL PASSPORT上にて連絡する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ボランティア活動はアクティブラーニングと位置付けられている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：都度参加するボランティア活動について調べること、ならびに事前指導等に伴う諸活動に参加すること（90分）
復習：活動報告書の作成、ボランティア報告会等の諸活動に参加すること（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ボランティア活動オリエンテーション（10%）、ボランティア活動参加（60%）、ボランティア活動事後レポート（30%）

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア事後指導（2）	レポート作成指導
14	ボランティア事後指導（3）	学生のボランティア参加の現状と課題について発表する

科目コード	T110102				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅱ［①］				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

Project-Based English ― 英語を「使って」プロジェクトを完成させる
授業概要
本授業では、英語を「学ぶ」ことだけを目的とするのではなく、英語を使って他者と協働し、一つのプロジェクトを完成させることを目標とする。
学生はグループを形成し、自分たちでテーマを設定した上で、調査、インタビュー、ディスカッション、資料作成、プレゼンテーション等を行う。授業では、文法や語彙の正確性のみではなく、自分の考えを相手に伝えること、他者と協力すること、英語を実際のコミュニケーションの手段として活用することを重視する。

＜授業の到達目標＞

本授業では、プロジェクト型学習を通して、英語を実際のコミュニケーションの手段として活用する力を身につけることを目標とする。授業終了時には、以下のことができるようになることを目指す。
身近なテーマについて、自分の考えや意見を簡単な英語で相手に伝えることができる。
英語を用いて質問、インタビュー、情報収集、ディスカッション等を行うことができる。
他者と協働し、役割分担をしながらプロジェクトを計画・実行することができる。
調査・活動の成果を整理し、英語によるプレゼンテーションや成果物として発信することができる。
プロジェクト活動を振り返り、自身の英語力やコミュニケーション能力の課題を把握することができる。

＜授業の方法＞

本授業は、Project-Based Learning（PBL：プロジェクト型学習）を中心として実施する。
教員による説明を必要最小限にとどめ、学生がグループでテーマを設定し、調査、ディスカッション、インタビュー、フィールドワーク、成果物制作、プレゼンテーション等を行う。
授業では文法や語彙の正確性のみを評価するのではなく、既習の英語を積極的に使用し、相手に自分の考えを伝えようとする姿勢を重視する。教員は各グループの活動を支援し、必要に応じて英語表現、プロジェクトの進め方、成果物等についてフィードバックを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有。
以下の活動を中心に、学生が主体的に参加する授業を行う。
ペアワーク・グループワーク
英語によるディスカッション
ブレインストーミング
インタビュー・アンケート調査
フィールドワーク
情報収集・リサーチ
グループによる成果物制作
英語によるプレゼンテーション
ピア・フィードバック（学生相互評価）
自己評価・リフレクション
特に、学生自身が「テーマを決める」「調べる」「英語で交流する」「成果物を作る」「発表する」という一連の活動に主体的に取り組むことを重視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（1.5時間）
各回のプロジェクト活動に必要な情報収集、英単語・表現の確認、インタビュー質問の作成、担当部分の資料作成等を行う。また、グループ内で決定した役割に応じて、次回授業までに必要な準備を行う。
復習（1.5時間）
授業内で使用した英語表現や教員からのフィードバックを確認し、プロジェクトの内容や成果物を修正する。活動後には、自分が英語でできたこと・できなかったことを振り返り、次回の活動に活かす。
合計3時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況だけでなく、プロジェクトの過程・英語によるコミュニケーション・成果物・発表・振り返りを総合的に評価する。
授業内活動・コミュニケーションへの参加：20%

プロジェクトへの貢献・グループ活動：25%
調査・インタビュー・授業内課題：15%
最終成果物・英語プレゼンテーション：30%
最終リフレクション・自己評価：10%
合計：100%
英語の文法・発音等の正確性だけではなく、英語を積極的に使用しようとする姿勢、他者との協働、プロジェクトへの貢献度、相手に内容を伝える力を重視して評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション&アイスブレイク	場所：学生ホール 授業の目的、進め方、評価方法について説明する。学生ホールを利用し、英語を使ったアイスブレイクゲームやコミュニケーション活動を行う。クラス内でできるだけ多くの学生と交流し、今後のプロジェクト活動に必要となるクラス内の関係づくりを行う。 主な活動： 授業オリエンテーション 英語による自己紹介 Find Someone Who等のアイスブレイクゲーム ミニ・コミュニケーションゲーム クラスメートとの交流
2	プロジェクト型学習とは何か	プロジェクトを通して英語を学ぶ方法について理解する。これまでの英語学習について振り返り、「英語を使って何ができるようになりたいか」を考える。 主な活動： Project-Based Learningの説明 個人目標の設定 英語を使って取り組めるプロジェクト例の検討 グループ形成のためのコミュニケーション活動
3	チーム形成とプロジェクトテーマの決定	グループを形成し、各グループで取り組むプロジェクトのテーマを検討する。学生の興味・関心を重視しながら、英語を実際に使用する機会を含むテーマを決定する。 テーマ例： IPU東京キャンパスの紹介 海外の学生に日本を紹介する 市川・船橋地域の魅力発信 観光・ホスピタリティ 日本と海外の文化比較 学生生活に関する調査 外国人学生へのインタビュー
4	英語でアイデアを伝える	グループ内で自分の意見やアイデアを英語で伝える練習を行う。賛成・反対、提案、質問等、グループ活動で必要となる基本的な英語表現を学ぶ。 主な活動： Giving opinions Agreeing / Disagreeing Making suggestions Asking questions グループディスカッション
5	プロジェクト計画の作成	各グループで、最終成果物を完成させるまでの計画を作成する。役割分担、調査方法、スケジュール等について話し合い、英語による簡単なProject Planを作成する。 主な活動： プロジェクト目標設定 役割分担 スケジュール作成 Project Plan作成 教員とのグループ面談
6	情報収集と英語によるリサーチ	プロジェクトに必要な情報を収集する。英語のウェブサイトや資料等を利用し、必要な情報を探し、重要な内容を簡潔にまとめる練習を行う。 主な活動： キーワード検索

		英語資料の読み取り 必要な情報の選択 情報の要約 グループ内での情報共有 他者から情報を得るための質問方法を学ぶ。インタビューやアンケートに使用する英語の質問をグループで作成し、実際にインタビュー活動を行う準備をする。 主な活動：
7	英語で質問する — Interview Project	WH Questions Follow-up Questions インタビュー質問作成 ペアによる模擬インタビュー 質問内容の修正 教室内外で英語を使用したフィールドワークを行う。外国人学生、教職員、クラスメート等へのインタビューやアンケートを実施し、プロジェクトに必要な情報を収集する。 主な活動：
8	フィールドワーク・インタビュー	インタビュー アンケート 情報収集 英語による実践的コミュニケーション 活動記録 インタビューや調査によって集めた情報を整理し、グループ内で共有する。情報からどのようなことが分かるのかを英語で説明する練習を行う。 主な活動：
9	集めた情報を英語で整理する	調査結果の整理 グループディスカッション 比較・分析 グラフや図表の作成 Findingsの作成 これまでの調査結果をもとに、最終成果物の制作を開始する。 成果物はグループのテーマに応じて、プレゼンテーション、動画、ポスター、パンフレット等から選択する。 主な活動：
10	成果物の制作①	成果物の構成決定 英文作成 スライド・動画・ポスター等の制作 グループ内での役割分担 成果物の英語表現を改善する。相手に分かりやすく伝えるという観点から、英文、語彙、構成、表現方法等を見直す。 主な活動：
11	成果物の制作② — English Workshop	英文チェック Peer Feedback 内容の修正 発音練習 教員からのフィードバック 最終発表に向けて、英語によるプレゼンテーションの方法を学ぶ。原稿を読むだけではなく、聞き手に伝えるための話し方を練習する。 主な活動：
12	プレゼンテーション・ワークショップ	Opening / Closing 発音・声量・アイコンタクト スライドの使い方 グループ内リハーサル 質疑応答練習 各グループがプロジェクトの成果を英語で発表する。発表者以外の学生は質問やコメントを行い、クラス全体で成果を共有する。 主な活動：
13	プロジェクト最終発表	Group Presentation Project Showcase Q&A Peer Evaluation クラス内フィードバック 14回の授業を振り返り、プロジェクト開始時に設定した目標がどの程度達成されたかを自己評価する。「自分が英語でできるようになったこと」「グループ活動で学んだこと」「今後伸ばしたい能力」を整理する。
14	振り返り・Final Reflection	

		主な活動： Project Reflection 自己評価 グループメンバーへのフィードバック 英語による短い振り返り 今後の英語学習目標の設定

科目コード	T110102				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅱ［②］				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

This course is designed to develop advanced communication and presentation skills for professionals, academic, and personal contexts.
Students will learn to structure messages, engage audiences, and express ideas with clarity, confidence, and charisma. The course integrates storytelling, persuasion, problem-solving, and analytical frameworks to streng then critical thinking and public speaking.
Students will explore personal branding, effective self-introductions, and frameworks for interviews , debates, and formal presentations. By the end of the course, learners will be able to plan, deliver, and adapt their communication to diverse audiences and situations.

＜授業の到達目標＞

Students will be able to articulate ideas clearly using structured frameworks such as PREP, Problem- Solution, and Narrative Journeys. They will develop persuasive skills by combining facts, emotions, and audience awareness. Learners will enhance personal presence through charisma techniques, body language, and storytelling strategies. Students will practice analyzing problems, presenting solutions, and reflecting critically on person al and sachet issues.
The course aims to foster confidence in speaking, adaptability in discussions, and professional comm unication for interviews, teamwork, and leadership.

＜授業の方法＞

The course uses a combination of lectures, demonstrations, guided practice, and peer feedback. Students will apply communication frameworks through structured exercises and presentations. Emphasis is placed on both verbal and non-verbal skills, including voice modulation, gestures, and eye contact.
Frameworks are introduced progressively, with repetition and reinforcement to build mastery. Lessons are interactive, with opportunities to analyze case studies, perform mini-presentations, and engage in group discussions. Reflection and iterative practice allow students to refine skills and integrate feedback consistently.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

Active learning activities:
Role-plays, debates, mock interviews, problem-solving tasks, information-gap activities, peer discussions, and simulations.

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students should plan to spend approximately 3 hours per week outside of class on preparation, practice, and reflection. This may include creating speech drafts, practicing delivery, and reviewing peer feedback. Active participation in class exercises and role-play scenarios is essential for skill development. Students are encouraged to maintain a personal journal of speeches, observations, and reflections to track progress over time.
Preparing in advance for frameworks and exercises ensures more effective participation and deeper le Arning.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Students will earn 40% of their grade from class participation and 60% from a final test.

＜教科書＞

Materials will be created by the lecturer.

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Theme: Structure & Self-Branding	Content: · Learn how to structure a presentation: Introduction → Body → Conclusion. · Explore personal branding: Name (identity), Same (consistency), Fame (visibility), Aim (goals), game (strategy/execution). · Students will create a 1-minute self-introduction suitable for personal,

2	Theme: Basic Communication Principles: Quick Intro	student, and professional contexts. · Reflect on how communication skills connect to personal goals. Content: · Understand the power of honest appreciation and interest in others. · Learn to talk in terms of the audience's interests to build engagement. · Practice using the sentence frame: "Most people think... For example... I think..." (Quick Intro) · Apply principles to small group discussions and short presentations.
3	Theme: Charisma in Communication	Content: · Explore first impressions, body language, and being fully present. · Practice energetic, empathetic, and funny forms of charisma. ·Students deliver 2-minute mini-presentations emphasizing presence and style. · Learn quick charisma exercises for everyday interactions.
4	Theme: The Three Ps of Public Speaking	Content: · Prepare speeches effectively: Planning, Practice, and infusing Personality. · Identify personal speaking strengths and areas for improvement. · Deliver a 3-minute presentation demonstrating clarity, personality, and engagement.
5	Theme: PREP Method (Point, Reason, Example, Point)	Content: · Learn to structure arguments clearly and persuasively. · Apply PREP to both professional and academic contexts. · Students will practice presenting short persuasive arguments to peers.
6	Theme: Introducing a Speaker / Interview Preparation	Content: · Learn how to welcome an audience and explain a speaker's qualifications, achievements, and relevance. · Prepare and deliver a mock speaker introduction. · Practice creating interview questions and presenting responses clearly.
7	Theme: Problem - Solution Framework	Content: · Understand how to clearly present a problem and propose a solution. ·Use examples relevant to student life, campus issues, or personal experiences. · Practice presenting problems and solutions to small groups.
8	Theme: Two-Handed Mouth Technique	Content: · Explore presenting both positive and negative aspects of a topic. · Practice balanced analysis in discussions and presentations. · Students will debate a topic showing both sides effectively.
9	Theme: The Shift / Change of Perspective	Content: · Explain a personal change in thinking or beliefs. · Structure stories to show what you believed, what changed your mind, and lessons learned. · Practice reflective storytelling with vivid detail.
10	Theme: Cause and Effect	Content: · Learn to explain why events happen (cause) and what results (effect). · Use logical reasoning to connect actions to outcomes. · Present a real-world scenario demonstrating cause-effect relationships.
11	Theme: Process / Step-by-Step Explanation	Content: · Teach how to explain a process clearly and sequentially. · Demonstrate a simple skill or task to classmates. · Emphasize clarity, steps, and usefulness of the process.
12	Theme: Persuasion Using Facts and Emotion	Content: · Combine data, logic, and storytelling for persuasive communication. · Practice presenting arguments that appeal to both reason and emotion. ·Students prepare a mini-pitch or persuasive speech on a social or campus issue.
13	Theme: Question-Answer / FAQ Framework	Content: · Anticipate audience questions and answer clearly and confidently. · Prepare 3–4 questions and provide detailed answers including examples and experience. · Practice engaging with peers in Q&A simulations.
14	Theme: Problem-Cause-Solution Framework	Content: · Identify a problem, analyze its causes, and propose solutions. · Include who, what, where, when, and how details in explanations. ·Students present a case study with a clear problem-cause-solution structure.

科目コード	T110102				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅱ［③］				担当者名	京塚　在裕美			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
日常の学校生活やビジネスシーンを想定した、より実践的な実用英語を身につけることが求められる。本講義では、基礎的な英文法の理解と語彙の向上、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に取り入れる。コミュニカティブ・イングリッシュのレベルアップのために､積極的な発話など､アウトプットを重視した構成で､インタラクティブな授業を展開する。

＜授業の到達目標＞
基礎的な英文法を完全に理解し、正しく活用ができるようにする。
日常英語やビジネス英語の基本語句3000語程度を活用できるようにする。
リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に向上させる。
TOEICまたはTOEFLの目標スコアを各自で設定する。（TOEICであれば、100点アップ等）

＜授業の方法＞
基礎的な英文法の理解と活用のため、基本例文を用いて詳しく解説する。
日常英語やビジネス英語の基本語句3000語程度を聞き取り、読み取り、書き取る。
リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に向上させる。特にスピーキング学習では、ペアワークやグループワークを通じて積極的な発話を行い、コミュニケション力の強化を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：有り
発音練習のアプリを用い、各自で練習を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書を読み、語彙や語法、文法などの不明な点を明確にしておく(30分）。
新出単語の確認をしておく(20分)。
前回の学習ポイントを復習しておく(40分）。
既習項目の復習課題を行う(90分)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度および学習意欲(20%)、小テストのスコア(10%)、定期試験のスコア(70%)をもとに総合的に判定する。

＜教科書＞
講師作成の指定の冊子（授業の初回に配布）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の目標と目的を明確にする。 授業の進め方を具体的に説明する。 アクティブラーニングの目的と進め方を説明する。 基本語彙とイディオム、文法の確認を例文を用いて行う。 リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に練習する。	講師より、授業の目的と意義、進め方を説明する。 学生は自分の到達目標を設定する 教科書のUnit1を開始 ・簡単な英単語の書き取り① ・簡単な英文の聞き取り① ・簡単な会話文の読み取り① ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
2	基本語彙とイディオム、文法の確認を例文を用いて行う。 リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に練習する。	教科書のUnit２を開始 ・簡単な英単語の書き取り② ・簡単な英文の聞き取り② ・簡単な会話文の読み取り② ・基本英文法の確認（過去時制と未来時制）
3	基本語彙とイディオム、文法の確認を例文を用いて行う。	教科書のUnit３を開始 ・簡単な英単語の書き取り③

	リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に練習する。 基本語彙とイディオム、文法の確認を例文を用いて行う。	・簡単な英文の聞き取り③ ・簡単な会話文の読み取り③ ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit４を開始
4	リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に練習する。 基本語彙とイディオム、文法の確認を例文を用いて行う。	・簡単な英単語の書き取り④ ・簡単な英文の聞き取り④ ・簡単な会話文の読み取り④ ・基本英文法の確認（名詞と形容詞） 教科書のUnit５を開始
5	リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に練習する。 基本語彙とイディオム、文法の確認を例文を用いて行う。	・簡単な英単語の書き取り⑤ ・簡単な英文の聞き取り⑤ ・簡単な会話文の読み取り⑤ ・基本英文法の確認（動詞） 教科書のUnit６を開始
6	リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に練習する。 基本語彙とイディオム、文法の確認を例文を用いて行う。	・簡単な英単語の書き取り⑥ ・簡単な英文の聞き取り⑥ ・簡単な会話文の読み取り⑥ ・基本英文法の確認（現在分詞と過去分詞） 教科書のUnit７を開始
7	リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの４技能を包括的に練習する。 定期試験に向けて、重要事項を総復習する。	・簡単な英単語の書き取り⑦ ・簡単な英文の聞き取り⑦ ・簡単な会話文の読み取り⑦ ・基本英文法の確認（関係詞） 定期試験に向けた重要項目の確認
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T110102				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅱ［④］				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

This course develops communicative competence and functional English skills for low-intermediate lea Rners. Students practice structured speaking and writing using ten frameworks: PPF (Past, Present, Future), PREP (Point, Reason, Example, Point), Problem-Solution, Process, STAR, Strengths vs Weaknesses, Com pare & Contrast, Opinion-Support, Cause & Effect, Pros & Cons, and Step-by-Step/Instructions.
Lessons emphasize role-plays, functional tasks, vocabulary expansion, and paragraph writing.
By the end of the course, students can integrate multiple frameworks in oral and written communication, improving fluency and coherence.

＜授業の到達目標＞

a) Students will structure spoken and written responses using at least ten communication frameworks.
b) Students will use functional English in everyday and workplace situations, including role-plays, presentations, and writing.
c) Students will demonstrate understanding of key vocabulary and grammar in context, including past, present, and future tenses, phrasal verbs, prepositions, idioms, and technical terms.

＜授業の方法＞

・Lecture-based explanation of frameworks and functional grammar
・Guided practice and structured drills
・Pair and small-group communicative activities
・Integrated listening, speaking, reading, and writing tasks

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・Role-plays (post office, restaurant, office scenarios)
・Peer interviews and feedback
・Information-gap activities
・Functional writing tasks
・Presentations (individual or pair)
・Problem-solving simulations

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to dedicate 2–3 hours per week outside of class for vocabulary review, framework practice, functional writing tasks, and preparation for role-plays or presentations.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Students will earn 40% for class participation and homework and 60% for the final test.

＜教科書＞

All materials will be created by the lecturer.

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Introductions & Daily Life	Framework: PPF (Past, Present, Future) Content / Activities: Introduce yourself, describe daily routines; pair interviews and short role- plays; listening comprehension: identify past, present, and future; write a short paragraph about your daily routine. Key Vocabulary: routine, breakfast, lunch, dinner, work, study, relax, weekend, plan, today
2	Talking About Family	Framework: PREP (Point, Reason, Example, Point) Content / Activities: Describe family members; role- play introducing a family member; listening for r PREP structures; write short paragraph using PREP.

		Key Vocabulary: mother, father, siblings, cousin, relative, care, love, support, together, celebr at E Framework: Problem-Solution
3	Daily Problems & Solutions	Content / Activities: Discuss minor problems (lost items, late bus); pair role-play; listen for so l utions; write a short paragraph proposing solutions. Key Vocabulary: problem, solution, fix, repair, ask, help, schedule, late, lost, forget Framework: Process
4	Shopping & Transactions	Content / Activities: Explain purchase or payment processes; role-play buyi ng items; listening: fo llow steps; write paragraph describing the purchase process. Key Vocabulary: shop, buy, pay, cash, card, receipt, price, select, checkout, return Framework: PPF & Cause & Effect
5	Past Experiences & Consequences	Content / Activities: Talk about past events and results; role-play recounting experiences; listening for cause-effect; write paragraph describing experience and outcome. Key Vocabulary: because, since, therefore, result, effect, experience, yesterday, weekend, mistake, success Framework: Compare & Contrast
6	Comparing Products or Services	Content / Activities: Compare two items or services; pair role-play : decide between options; write paragraph comparing using linking words. Key Vocabulary: better, worse, more, less, price, quality, feature, service, option, preference Framework: Opinion-Support
7	Expressing Opinions	Content / Activities: Discuss preferences and recommendations; role -play recommending items; write paragraph giving opinion, reason, and example. Key Vocabulary: favorite, because, example, suggest, recommend, enjoy, like, dislike, important, interesting Framework: PPF
8	Future Plans	Content / Activities: Describe future goals; role-play making plans; listening: identify future intentions; write paragraph outlining personal goals. Key Vocabulary: will, plan, hope, intend, next week, next year, goal, achieve, schedule, organize Framework: STAR
9	Job Responsibilities	Content / Activities: Describe tasks and results in work scenarios; mock interview role-play; write paragraph about a task performed. Key Vocabulary: task, responsibility, action, result, challenge, solve, project, team, complete, report Framework: Problem-Solution
10	Workplace Problem-Solving	Content / Activities: Discuss workplace challenges; role-play problem -solving; write paragraph explaining solution. Key Vocabulary: issue, challenge, resolve, assist, action, result, feedback, team, policy, procedure Framework: Step-by-Step
11	Instructions & Procedures	Content / Activities: Explain tasks or processes step-by-step; role-play submitting reports; write paragraph describing steps. Key Vocabulary: first, next, then, finally, step, process, prepare, complete, follow, instruction Framework: STAR & PREP
12	Professional Meetings	Content / Activities: Role-play short meetings; describe tasks using STAR and opinions using PREP; write a summary paragraph. Key Vocabulary: discuss, plan, report, task, action, result, suggest, idea, opinion, meeting Framework: Problem-Solution
13	Customer Complaints	Content / Activities: Role-play responding to complaints; listen for solutions; write paragraph reso lving a complaint. Key Vocabulary: complaint, request, resolve, assist, policy, concern, respond, issue, feedback, satisfaction Framework: PREP
14	Short Presentations	Content / Activities: Prepare 2-3 min presentation; pair practice; listen for PRE P; write paragrap h summarizing presentation. Key Vocabulary: present, explain, recommend, reason, example, opinion, audience, topic, communicate, organize

科目コード	T110104				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅳ［①］				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	外国語

＜授業の概要＞
本授業では、『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』を使用し、全14回を通して英文法の理解と定着を図る。
授業では、時制、助動詞、受動態、不定詞・動名詞、関係詞、仮定法、比較、前置詞など、中級レベルで必要となる主要な英文法項目を体系的に扱う。各回では、文法事項の説明だけでなく、例文の確認、問題演習、英文作成等を行い、学習した文法を実際に使えるようにすることを重視する。
特に、単に文法規則を暗記するのではなく、「どのような場面で、なぜその文法表現を使用するのか」を理解することを目標とする。
また、各文法項目について継続的に演習を行い、英文を正確に読む力、書く力、話す力の基礎を身につける。
14回の授業を通じて、高校までに学習した英文法を再確認するとともに、大学での英語学習、TOEIC・IELTS等の英語資格試験、実践的な英語コミュニケーションにつながる文法力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
本授業では、『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』を用いた学習を通して、中級レベルの英文法を体系的に理解し、実際の英語運用に活用できる力を身につけることを目標とする。
授業終了時には、以下のことができるようになることを目指す。
英語の主要な文法項目について、その基本的な規則と用法を説明することができる。
時制、助動詞、受動態、不定詞・動名詞、関係詞、仮定法、比較、前置詞等を適切に使い分けることができる。
文法的に正確な英文を読み、その構造と意味を理解することができる。
学習した文法事項を用いて、自分の考えや情報を正確な英文で表現することができる。
英文中の基本的な文法上の誤りを発見し、自ら修正することができる。
TOEIC・IELTS等の英語資格試験や今後の英語学習に必要となる文法基礎力を身につける。

＜授業の方法＞
本授業では、『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』を使用し、各回ごとに主要な英文法項目を取り上げる。
授業は、文法事項の解説、例文の確認、問題演習、英文作成、答え合わせ・解説を基本的な流れとして進める。教員による説明だけでなく、学生自身が問題に取り組み、文法規則を実際の英文の中で確認する時間を十分に設ける。
また、必要に応じてペアワークや短い英作文活動を取り入れ、学習した文法事項を用いて自分で英文を作る練習を行う。各回の学習内容について理解度を確認しながら進め、誤りが多い文法項目については復習を行う。
文法規則の暗記だけではなく、英文の意味や文脈に応じて適切な文法形式を選択し、正確に使用できるようになることを重視して授業を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有
本授業では、英文法の理解を深めるため、以下のアクティブ・ラーニングを取り入れる。
ペアまたはグループでの文法問題の解答・確認
学習した文法項目を用いた短い英作文
学生同士による英文の相互確認・訂正
文法上の誤りを含む英文について、正しい表現を考える活動
学習した文法を用いた簡単な会話・例文作成
各回の学習内容についての理解度確認および振り返り
教員から一方的に文法知識を説明するだけでなく、学生自身が英文を作成し、他者と確認・修正する活動を通して、文法知識を実際に活用できる力の定着を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回90分程度
授業で扱う『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』の該当範囲を事前に読み、例文および文法解説を確認する。分からない語句や文法事項を整理し、練習問題に取り組む。
復習：各回90分程度
授業で扱った文法事項および例文を再確認し、授業中に間違えた問題を中心に解き直す。また、学習した文法項目を用いて自分で英文を作成し、文法知識の定着を図る。
各回の準備学習時間：合計180分（3時間）程度
文法規則を暗記するだけではなく、例文の確認や問題演習を繰り返し行い、学習した文法事項を正確に理解し、実際の英文の中で使用できる状態にすることを求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の項目を総合して成績を評価する。
授業内での文法演習・活動への取り組み：20%
課題・宿題：20%
小テスト・確認テスト：20%
期末試験：40%
合計：100%
評価にあたっては、英文法の基本的な規則や用法を理解しているか、文脈に応じて適切な文法形式を選択できるか、学習した文法事項を用いて正確な英文を作成できるかを重視する。
課題・試験等に対するフィードバック
授業内の演習問題については、原則として授業内で解答・解説を行い、間違いやすい文法事項についてその場で確認する。
課題・宿題および小テストについては、解答・解説を提示するとともに、必要に応じて個別にコメントを行う。学生に共通して見られた誤りについては、次回以降の授業で取り上げ、再度解説・演習を行う。
期末試験についても、主要な問題や誤答の多かった文法項目について授業内または学習システム等を通じて解説し、今後の英語学習につながるようフィードバックを行う。

＜教科書＞
Raymond Murphy（2021年2月22日）　マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 第4版
ISBN：978-4-88996-946-7　Cambridge University Press

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	現在形・現在進行形	現在形と現在進行形の基本的な用法を確認する。習慣・事実を表す現在形と、現在進行中の動作や一時的な状況を表す現在進行形の違いを理解し、文脈に応じて適切に使い分ける練習を行う。
2	過去形・過去進行形	過去形と過去進行形の用法を学習する。過去に完了した出来事、過去の習慣、ある時点で進行していた動作等について理解し、過去の出来事を正確に表現する練習を行う。
3	現在完了形・現在完了進行形	現在完了形の「経験」「継続」「完了・結果」等の用法を確認する。また、現在完了進行形との違いについて学び、過去から現在につながる出来事や状況を適切に表現できるようにする。
4	過去完了形と時制の整理	過去完了形の基本的な用法を学習し、過去の二つの出来事の時間的な前後関係を表す方法を理解する。また、これまでに学習した現在・過去・完了形を比較し、英文における時制の選択について総合的に整理する。
5	未来表現	will、be going to、現在進行形、現在形等を用いた未来表現について学習する。予測、予定、計画、意思決定等、意味や状況によって異なる未来表現を適切に選択する練習を行う。
6	助動詞	can、could、may、might、must、should、have to等の主要な助動詞を扱う。能力、可能性、許可、義務、必要性、助言、推量等の意味を理解し、状況に応じた使い分けを練習する。
7	受動態	be動詞＋過去分詞による受動態の構造と用法を学習する。能動態との違いを理解するとともに、さまざまな時制や助動詞を含む受動態の英文を作成する練習を行う。
8	不定詞・動名詞	to不定詞と動名詞（-ing）の基本的な用法を学習する。動詞によって後ろに不定詞または動名詞のどちらを取るかが異なることを理解し、意味の違いにも注意しながら適切な英文を作成する。
9	名詞・冠詞・数量表現	可算名詞・不可算名詞、単数・複数、a/an、the等の冠詞について整理する。また、some、any、much、many、few、little等の数量表現について学び、正確な名詞表現を身につける。
10	代名詞・限定詞	人称代名詞、所有格、再帰代名詞、指示代名詞等の用法を確認する。また、all、both、either、neither、each、every等の表現について学び、文中で正しく使用する練習を行う。
11	関係詞	who、which、that、whose、where等を用いた関係詞節について学習する。二つの英文を関係詞を用いて一つにまとめる練習を行い、人物や物事について詳しい情報を付け加える英文を作成できるようにする。
12	形容詞・副詞・比較	形容詞と副詞の違いおよび語順について確認する。また、比較級、最上級、as ... as等の比較表現を学習し、人や物事の特徴を比較して説明するための英文を作成する。
13	条件文・仮定法	ifを用いた条件文と仮定法について学習する。現実的な条件と非現実的・仮定的な状況を表す場合の文法形式の違いを理解し、現在や過去の事実と異なる状況を表現する練習を行う。
14	前置詞・接続表現と英文法総合演習	時間・場所・方向等を表す主要な前置詞および接続詞について確認する。その後、全14回で学習した時制、助動詞、受動態、不定詞・動名詞、関係詞、比較、仮定法等について総合演習を行い、英文法の理解度と定着度を確認する。

科目コード	T110104				区　分	教養			
授業科目名	英語Ⅳ［②］				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

This course is intended for students who possess English proficiency at approximately TOEIC 700 or above, and aims to improve advanced English operational ability and practical communication skills.
In the course, a wide range of topics—such as social issues, business, and international culture are addressed. Classes primarily focus on output-based activities, including discussions, presentations, and academic writing.
Through opinion exchange and problem-solving activities in English, students develop the ability to express their ideas logically. In addition, by reading English materials and engaging in listening activities, students learn to organize information and use it as a basis for discussion and presentations, with the goal of acquiring English skills that can be applied in real-world social and international contexts.
The course is conducted in an active learning format, with an emphasis on collaborative activities among students.

＜授業の到達目標＞

Through this course, students will acquire the following abilities:
(1) The ability to express opinions and engage in discussions in English on social and international topics.
(2) The ability to understand English materials and information and summarize or explain them based on that understanding.
(3) The ability to deliver English presentations with a logical structure.
(4) The ability to clearly express their own ideas in written English.

＜授業の方法＞

The course will be conducted in an active learning format centered on advanced output-based activities. The main activities are as follows:
Discussion
Debate
Presentations
Academic writing
Summarizing English materials
The course will provide many opportunities for students to think in English and communicate in English, with the aim of improving their practical English proficiency.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

The course will use the following active learning methods:
- Small-group discussions on social and international topics
- Structured debates to develop argument and critical thinking skills
- Student presentations based on research and preparation
- Peer feedback and review of presentations and writing
- Academic writing practice with drafting and revision
- Summary activities based on English readings and listening materials

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

One hour of preparation might suffice

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Class participation: 40%
Final test: 60%

＜教科書＞

All materials will be provided by the instructor.

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Week 1 Theme: Course Introduction and Global Issues (Discussion,	Content: Introduction to the course objectives, structure, and expectations. Students will discuss major global issues in small groups and read a short

	Summarizing)	English article. They will practice summarizing the main ideas and sharing their summaries with classmates.
2	Week 2 Theme: Education Around the World (Discussion, Academic Writing)	Content: Students will discu ss differences in education systems across countries and write a short o pinion paragraph expressin g their views on education.
3	Week 3 Theme: Social Media and Society (Discussion, Summarizing)	Content: Students will discuss the influence of social media on society and summarize a short English reading related to social media trends.
4	Week 4 Theme: Technology and Communication (Discussion, Debate Preparation)	Content: Students will e xamine how technology affects communication. They will discuss advantages and disadvantages and prepare arguments for a short debate.
5	Week 5 Theme: Technology Debate (Debate, Reflection Writing)	Content: Students will participate in a structured debate on technology-related issues and complete a short reflective writing activity abo ut the debate.
6	Week 6 Theme: Cultural Differences (Discussion, Presentations)	Content: Students will discuss cultural differences in daily life and prepare short presentations de scribing examples of cultural practices from different countries.
7	Week 7 Theme: Business Communication (Academic Writing, Discussion)	Content: Students will learn the basic elements of effective business communication and write a stru cture ed paragraph on profession al communication skills, followed by discussion.
8	Week 8 Theme: Global Business Practices (Summarizing, Discussion)	Content: Students will read a short English article about international business practices, summariz e the main ideas, and discuss the topic in groups.
9	Week 9 Theme: Business Ethics (Debate, Summarizing)	Content: Students will examine ethical issues in business through debate and summarize a short reading about corporate responsibility.
10	Week 10 Theme: Environmental Issues (Discussion, Summarizing)	Content: Students will discuss global environmental challenges and summarize English materials related to environmental problems.
11	Week 11 Theme: Climate Change Solutions (Presentations, Discussion)	Content: Students will work in small groups to research solutions to climate change and deliver short presentations followed by class discussion.
12	Week 12 Theme: Sustainable Business (Academic Writing, Peer Feedback)	Content: Students will write a short academic essay about sustainable business practices and exchange peer feedback.
13	Week 13 Theme: Media and Information (Discussion, Summarizing)	Content: Students will discuss the role of media in shaping public opinion and summarize a news article in English.
14	Week 14 Theme: Midterm Presentations (Presentations, Discussion)	Content: Students will deliver short presentations on a selected topic related to the course themes and participate in peer discussion and questions.

科目コード	T110105				区　分	教養科目/言語・文化領域			
授業科目名	多文化共生のための異文化理解				担当者名	董　航			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

グローバル化が加速する現代において、異なる文化的背景を持つ人々が共に生きる「多文化共生」は、私たちの社会にとって不可避かつ重要なテーマとなっている。本授業では、「多文化共生」という概念を多角的に理解し、その理念に基づいてどのような社会を構築できるのかを理論と実践の両面から考察する。アイデンティティ、偏見・差別、外国人労働者、国際協力など多様なトピックを取り上げるとともに、異文化間コミュニケーションの具体的スキルも学ぶ。ディスカッションやグループワークを重視し、学生自身が「他者と共に生きる」ことの意味を主体的に探究することを目指す。

＜授業の到達目標＞

1.知識理解: 多文化共生に関する基本的な概念（多文化主義、インターカルチュラリズム等）や、日本社会における多文化共生の現状と課題について説明できる。
2.思考判断: 偏見や差別が生まれるメカニズムを理解し、自身の価値観や文化的視点を相対化して多様なものの見方を尊重できる。
3.関心意欲: 異文化理解の重要性を認識し､文化や言語の異なる他者とのコミュニケーションに積極的に関わろうとする態度を身につける。
4.技能表現: 異文化間コミュニケーションの基礎スキルを理解し、具体的な場面で活用するための方策を提案できる。

＜授業の方法＞

本授業は、多文化共生に関する基礎知識や理論の解説を基盤としながら、学生の能動的な参加を促す方法を積極的に導入する。
講義: 各回のテーマに関する基礎知識や理論、国内外の事例について解説する。
ディスカッション: 少人数グループでの意見交換を通じて、多様な視点に触れ、思考を深める。
グループワーク: アイデンティティ・マップ作成、ケーススタディ分析など、協働作業を通じて理解を実践的に深める。
プレゼンテーション: グループでの考察結果を共有し、クラス全体での学びを促進する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業は、以下のアクティブ・ラーニング要素を中心に構成する。
体験と内省の往還: アイデンティティ・マップ作成やロールプレイングなどの体験活動を行い、その後の内省（振り返り）を通じて学びを個人の中に定着させる。
協同学習: グループワークやディスカッションを通じて、他者の意見に触れ、知識を共同構築する経験を積む。
反転学習的要素: 各回の予習として、次回テーマに関する文献購読や事例調査を課し、授業内での能動的な議論や活動の基盤とする。
また、Google Classroom等のLMSを活用して授業資料の配布、課題の提出、学生間・教員とのコミュニケーションを行う。さらに、学習者の習得度にあわせて、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームをグループワークでの成果物作成や共有に活用し、創造的な表現と協働作業を促進する場合もある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業の準備学習は、授業外における能動的な学びを促進することを目的とする。
予習（各回90分間）:
各セッションのテーマに関する指定資料を読み、重要な概念や疑問点をノートにまとめる。
必要に応じて、新聞記事やニュースなどから関連する事例を調査し、自分の考えを整理しておく。
復習（各回90分間）:
授業内容を振り返り、学んだ概念と自分自身の経験や予習での疑問を関連付けて考察する。
授業内でのディスカッションやグループワークでの気づきを「ラーニング・ジャーナル」に記録し、自身の考えの変容を確認する。
提示された課題についてさらに考察を深め、レポート作成や最終試験に向けた準備を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 通常評価
学習意欲（20%）、クラス共創度（20%）、中間（第1-6回）プレゼン録画3分間（30%）、最終（第1-14回）プレゼン録画5分間（30%）
2.特別加点
学外プログラム「フィリピンイヤー（計4回）」に参加した履修者には、別途加点する。
加点の詳細を含め、評価方法については初回オリエンテーションで説明する。
3.フィードバック方法
プレゼン動画：LMS上で個別にコメントを付して返却。
グループワーク: 発表後に口頭またはコメントシートでフィードバックを行う。
継続的支援: 授業中の発言やLMS上の質問に対しても随時対応し、学びの深化を促す。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	多文化共生の基礎理解：「なぜ今、多文化共生なのか」（1/2）	【テーマ】イントロダクション / 同一性と多様性 【内容】本授業の目的と進め方を理解した上で、「多文化共生」という概念の定義と現代社会における重要性を学ぶ。その後、自身のアイデンティティを構成する要素（民族、言語、価値観など）を可視化するワークショップを通して、「自分」と「他者」の共通点と相違点を認識し、多様性についての理解を深める。
2	多文化共生の基礎理解：「なぜ今、多文化共生なのか」（2/2）	【テーマ】イントロダクション / 同一性と多様性 【内容】本授業の目的と進め方を理解した上で、「多文化共生」という概念の定義と現代社会における重要性を学ぶ。その後、自身のアイデンティティを構成する要素（民族、言語、価値観など）を可視化するワークショップを通して、「自分」と「他者」の共通点と相違点を認識し、多様性についての理解を深める。
3	多文化共生を考える理論的枠組み：多文化主義からコスモポリタニズムへ（1/2）	【テーマ】多文化共生の理論 / グローバル化と移民 【内容】多文化共生を支える主要な理論（多文化主義、インターカルチュラリズム、コスモポリタニズム）を比較検討し、それぞれの理念と課題を理解する。さらに、グローバル化の進展に伴う人の移動（移民）の歴史的・社会的背景を学び、理論と現実の結びつきを考察する。
4	多文化共生を考える理論的枠組み：多文化主義からコスモポリタニズムへ（2/2）	【テーマ】多文化共生の理論 / グローバル化と移民 【内容】多文化共生を支える主要な理論（多文化主義、インターカルチュラリズム、コスモポリタニズム）を比較検討し、それぞれの理念と課題を理解する。さらに、グローバル化の進展に伴う人の移動（移民）の歴史的・社会的背景を学び、理論と現実の結びつきを考察する。
5	多文化共生を取り巻く現実(1)：日本社会の偏見・差別と外国人労働者（1/2）	【テーマ】偏見と差別 / 外国人労働者 【内容】日本社会における具体的な事例（例：ヘイトスピーチ、就労・居住における差別）を通して、偏見や差別が生まれるメカニズムを心理的・社会的側面から学ぶ。同時に、技能実習生や高度外国人材など、日本で働く外国人労働者の現状と法的・社会的課題について理解を深め、議論する。
6	多文化共生を取り巻く現実(1)：日本社会の偏見・差別と外国人労働者（2/2）	【テーマ】偏見と差別 / 外国人労働者 【内容】日本社会における具体的な事例（例：ヘイトスピーチ、就労・居住における差別）を通して、偏見や差別が生まれるメカニズムを心理的・社会的側面から学ぶ。同時に、技能実習生や高度外国人材など、日本で働く外国人労働者の現状と法的・社会的課題について理解を深め、議論する。
7	多文化共生を取り巻く現実(2)：国際協力とNGOの役割（1/2）	【テーマ】多文化共生と国際協力 【内容】国際協力の現場における多文化共生の視点について学ぶ。具体的なNGOの活動事例（開発援助、緊急支援、教育支援など）を紹介し、異文化間の摩擦や葛藤を乗り越え、地域社会と協働するためのアプローチを考察する。ゲストスピーカー（可能であれば）や動画教材も活用する。
8	多文化共生を取り巻く現実(2)：国際協力とNGOの役割（2/2）	【テーマ】多文化共生と国際協力 【内容】国際協力の現場における多文化共生の視点について学ぶ。具体的なNGOの活動事例（開発援助、緊急支援、教育支援など）を紹介し、異文化間の摩擦や葛藤を乗り越え、地域社会と協働するためのアプローチを考察する。ゲストスピーカー（可能であれば）や動画教材も活用する。
9	多文化共生のためのスキル(1)：異文化理解と日本文化の再発見（1/2）	【テーマ】異文化理解 / 日本の文化と他文化 【内容】「異文化理解」とは単に異なる文化の知識を得ることではなく、自明と考える「常識」を問い直すことだと学ぶ。コミュニケーションスタイル、時間観念、価値観など、日本文化の特徴を相対化し、他文化との比較を通して、自文化を客観的に捉え直す視点を養う。
10	多文化共生のためのスキル(1)：異文化理解と日本文化の再発見（2/2）	【テーマ】異文化理解 / 日本の文化と他文化 【内容】「異文化理解」とは単に異なる文化の知識を得ることではなく、自明と考える「常識」を問い直すことだと学ぶ。コミュニケーションスタイル、時間観念、価値観など、日本文化の特徴を相対化し、他文化との比較を通して、自文化を客観的に捉え直す視点を養う。
11	多文化共生のためのスキル(2)：多言語社会と異文化間コミュニケーション（1/2）	【テーマ】多言語社会 / コミュニケーション 【内容】日本社会の「多言語化」の現状をデータで確認し、言語の壁がもたらす問題（情報保障、教育、医療など）を理解する。その後、異文化間コミュニケーションを円滑にするための具体的なスキル（言語的方略、非言語的方略、共感、傾聴など）を、ロールプレイングなどを通して実践的に学ぶ。
12	多文化共生のためのスキル(2)：多言語社会と異文化間コミュニケーション（2/2）	【テーマ】多言語社会 / コミュニケーション 【内容】日本社会の「多言語化」の現状をデータで確認し、言語の壁がもたらす問題（情報保障、教育、医療など）を理解する。その後、異文化間コミュニケーションを

		円滑にするための具体的なスキル（言語的方略、非言語的方略、共感、傾聴など）を、ロールプレイングなどを通して実践的に学ぶ。
13	多文化共生の実現に向けて：ルールと創造力（1/2）	【テーマ】多文化共生のルール / 多文化共生の創造力 【内容】多文化共生社会を実現するために必要な「社会のルール（制度・法律）」と、それを超えた「創造的な共生」について総合的に考察する。具体的な事例（例：多文化共生の先進地域の取り組み、アートやスポーツを通じた交流）を参考に、多様性を強みに変える社会の可能性を議論し、最終試験に向けた学びの総括を行う。
14	多文化共生の実現に向けて：ルールと創造力（2/2）	【テーマ】多文化共生のルール / 多文化共生の創造力 【内容】多文化共生社会を実現するために必要な「社会のルール（制度・法律）」と、それを超えた「創造的な共生」について総合的に考察する。具体的な事例（例：多文化共生の先進地域の取り組み、アートやスポーツを通じた交流）を参考に、多様性を強みに変える社会の可能性を議論し、最終試験に向けた学びの総括を行う。

科目コード	T110202				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［①］				担当者名	安井　良彰			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
表計算ツールの実習を通して情報リテラシのスキルを修得する事を目指す。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

＜授業の到達目標＞
１．表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を身につける。
２．エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。
３．マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を身につける。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教科書の章末問題。(90分程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認（60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で提出した課題 40%、宿題等の提出物 10%、定期試験 50%

＜教科書＞
阿部　香織　（2022年4月15日）　情報利活用 文書作成 Word 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論　エクセルの基本操作	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。 エクセルの基本操作を学ぶ。
2	表のレイアウト設定	行列幅の設定やせるの結合などエクセルで作成した表のレイアウト設定を学ぶ。
3	数式と関数	エクセル表計算での関数の利用や絶対参照の利用など利用頻度の高い表計算方法を学ぶ
4	編集操作	表示形式の設定。言葉に関する関数。複数条件による処理。 シートの設定やコピー。
5	定型の表作成	VLOOKUP関数やXLOOKUP関数の利用。 データの保護。
6	グラフの作成(1)	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
7	グラフの作成(2)	様々なグラフの作成方法を学ぶ。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピポットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	確認と復習	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめ	学習内容の達成度を確認する。

科目コード	T110202				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［②］				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
表計算ツールの実習を通して情報リテラシのスキルを修得する事を目指す。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

＜授業の到達目標＞
1. 表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を習得する。
2. エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。
3. マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を取得する。
4. 学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。学生自身が学んだ技術を用いて課題に取り組む。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(2時間程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業の確認（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞
阿部　香織　（2022年4月15日）　情報利活用 表計算 Excel 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論　エクセルとは	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	基本操作	エクセルの基本操作や簡単な表計算を行い、エクセルの操作方法を理解する。
4	編集操作	列幅の調整やセルの結合などレイアウト設定の基本を身に付ける。
5	数式と関数（１）	絶対参照や関数の利用等、より高度な表計算スキルを身に付ける。
6	数式と関数（２）	表示形式や文字列操作、文字列に関連する関数など事務処理業務に直結するスキルを身に付ける
7	グラフの作成	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピポットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめ	学習内容の達成度を確認する。

科目コード	T110202				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［③］				担当者名	安井　良彰		
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
表計算ツールの実習を通して情報リテラシのスキルを修得する事を目指す。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

＜授業の到達目標＞
１．表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を身につける。
２．エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。
３．マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を身につける。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り。学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(100分程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認（70分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で提出した課題 40%、宿題等の提出物 10%、確認テスト 50%

＜教科書＞
阿部　香織　（2022年4月15日）　情報利活用 文書作成 Word 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論　エクセルの基本操作	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。 エクセルの基本操作を学ぶ。
2	表のレイアウト設定	行列幅の設定やせるの結合などエクセルで作成した表のレイアウト設定を学ぶ。
3	数式と関数	エクセル表計算での関数の利用や絶対参照の利用など利用頻度の高い表計算方法を学ぶ
4	編集操作	表示形式の設定。言葉に関する関数。複数条件による処理。 シートの設定やコピー。
5	定型の表作成	VLOOKUP関数やXLOOKUP関数の利用。 データの保護。
6	グラフの作成(1)	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
7	グラフの作成(2)	様々なグラフの作成方法を学ぶ。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピポットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	確認と復習	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめ	学習内容の達成度を確認する。

科目コード	T110202				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［④］				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
表計算ツールの実習を通して情報リテラシのスキルを修得する事を目指す。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

＜授業の到達目標＞
1. 表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を習得する。
2. エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。
3. マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を取得する。
4. 学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。学生自身が学んだ技術を用いて課題に取り組む。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(2時間程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業の確認（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞
阿部　香織　（2022年4月15日）　情報利活用 表計算 Excel 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論　エクセルとは	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	基本操作	エクセルの基本操作や簡単な表計算を行い、エクセルの操作方法を理解する。
4	編集操作	列幅の調整やセルの結合などレイアウト設定の基本を身に付ける。
5	数式と関数（１）	絶対参照や関数の利用等、より高度な表計算スキルを身に付ける。
6	数式と関数（２）	表示形式や文字列操作、文字列に関連する関数など事務処理業務に直結するスキルを身に付ける
7	グラフの作成	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピポットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめ	学習内容の達成度を確認する。

科目コード	T110202				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [再履][週2オンデマンド]				担当者名	渡辺　亮		
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
表計算ツールの実習を通して情報リテラシのスキルを修得する事を目指す。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

＜授業の到達目標＞
1. 表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を習得する。
2. エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。
3. マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を取得する。
4. 学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。学生自身が学んだ技術を用いて課題に取り組む。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(2時間程度)
タイピング練習（30分程度）
前回の授業の確認（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞
阿部　香織　（2022年4月15日）　情報利活用 表計算 Excel 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論　エクセルとは	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	基本操作	エクセルの基本操作や簡単な表計算を行い、エクセルの操作方法を理解する。
4	編集操作	列幅の調整やセルの結合などレイアウト設定の基本を身に付ける。
5	数式と関数（１）	絶対参照や関数の利用等、より高度な表計算スキルを身に付ける。
6	数式と関数（２）	表示形式や文字列操作、文字列に関連する関数など事務処理業務に直結するスキルを身に付ける
7	グラフの作成	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピポットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめ	学習内容の達成度を確認する。

科目コード	T110206				区　分	教養			
授業科目名	TOEICⅡ［①］				担当者名	古賀　敢人			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
TOEICの各PARTを、時間を計りつつ実践形式で解く練習をする。本番を想定した解答手法を学び得点アップにつなげる。

＜授業の到達目標＞
現時点で保有するTOEICスコアを100～200点上げることを目標とする。

＜授業の方法＞
実践形式で解き、間違えたものについてその理由を自ら理解する力を身につける。独学でTOEICのほか、英語学習をするために必要な自己理解力の客観的把握を図る。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。試験問題を模した問題を学生自らが作成し、お互いに問題を解きあうことで、作問者の意図を理解するとともに、正答への道筋を自ら把握する機会を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（約90分）
授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。
復習（約90分）
授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。
合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
TOEIC IPテスト（期末）　40%
小テスト（語彙・リスニング確認等）　40%
課題（オンライン課題・演習問題等）　20%

＜教科書＞
　TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Part 1: Photographs（写真描写問題）基本解説 Part 2: Question-Response（応答問題）基本解説	TOEICで特に落とせない問題をピックアップし、すべて正答するために必要な知識・技能を学ぶ。
2	Part 5: Incomplete Sentences（短文穴埋め問題）基本解説	文法事項を総ざらいし、語彙問題にも対応できるために接尾辞や接頭辞から意味を汲み取る練習を行う。
3	Part 5: Incomplete Sentences（短文穴埋め問題）基本解説 Part 6: Text Completion（長文穴埋め問題）基本解説	文法問題を素早く間違いなく解くために必要な文の見どころを再整理する。
4	Part 3: Conversations（会話問題）の先読み対策	会話文の聞き方と、話者の意図を示す部分の聞き取り練習を行う。
5	Part 4: Talks（説明文問題）の先読み対策	スピーチ原稿で出現するパターンや、難解なテーマに関する発話の聞き取り方を学ぶ。

6	TOEICハーフ模試	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 2: Question-Response（応答問題）の単語対策 Part 3: Conversations（会話問題）のフレーズ聞き取り	得点源になるセクションで難解な問題を中心に正答する方法を学ぶ。
8	Part 3: Conversations（会話問題） のディクテーション Part 4: Talks（説明文問題）のディクテーション	話者の意図を的確に把握するために必要な形容詞について学ぶ。
9	Part 5: Incomplete Sentences（短文穴埋め問題）の文法事項解説 Part 7: Reading Comprehension（読解問題）の速読練習	正答を導くために必要な語句や文章の把握を瞬時に行う練習をする。
10	Part 6: Text Completion（長文穴埋め問題）の解法解説 Part 7: Reading Comprehension（読解問題）のスキム練習	文法規則から、読解を読み解く方法を学ぶ。
11	Part 1-4 総合演習	リスニングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
12	Part 5-6 総合演習	リーディングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
13	Part 7 総合演習	精読が必要になる読解問題の攻略法を学ぶ。
14	Part 3, 4, 7 総合演習	これまでの総復習を行う。

科目コード	T110206				区　分	教養			
授業科目名	TOEICⅡ［②］				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

TOEIC II builds on fundamental TOEIC skills from TOEIC I and focuses on developing mastery over grammar, vocabulary, and advanced test-taking strategies. Students practice tense usage (present, past, past perfect), verb forms, subject-verb agreement, tra nsitive and intransitive verbs, and sentence-level nuances.
Vocabulary expansion includes homonyms, word forms, verbs with gerunds and infinitives, prepositions , prepositional phrases, idioms, and up-to-date terminology such as machine learning and AI. Reading and listening tasks focus on longer, authentic TOEIC-style passages. Speaking and writing tasks emphasize correct grammar usage, clarity, and fluency, with structured pa ir and group activities.
By the end of the course, students will be able to understand and produce more complex TOEIC-style c ontent, recognize advanced vocabulary, and apply grammar with confidence.

＜授業の到達目標＞

a) Students will be able to use advanced English grammar structures, including tense variation, passive voice, gerunds, infinitives, and relative clauses, in both written and spoken contexts.
b) Students will be able to understand and accurately respond to more complex TOEIC listening and reading passages.
c) Students will be able to produce coherent, organized writing (emails, reports, paragraphs) and extended oral responses.
d) Students will be able to recognize, interpret, and correctly use specialized vocabulary, idioms, and technical terminology common in business, technology, and travel contexts.
e) Students will be able to identify errors in grammar and vocabulary in TOEIC-style texts and self-correct using learned strategies.

＜授業の方法＞

・Grammar-focused mini-lectures with functional examples
・Pair and small-group communication practice
・Role-plays simulating TOEIC situations
・Integrated listening, reading, speaking, and writing tasks
・Timed practice tests with individualized feedback
・Vocabulary and word-formation exercises

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・Pair interviews and role-plays using TOEIC vocabulary and scenarios
・Information-gap tasks for listening and reading comprehension
・Peer feedback on written and oral exercises
・Vocabulary games and word formation activities
・Mini timed quizzes simulating test conditions
・Short oral and written presentations

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to devote 3 hours per week to review, vocabulary expansion, grammar exercises, and TOEIC-style listening, reading, and writing practice.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Grading will consist of participation (in-class exercises and homework) - 40% and final test - 60%

＜教科書＞

All materials will be created by the lecturer.

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Theme: TOEIC Refresher & Goal Setting	Content: Students review the TOEIC test structure (Listening, Reading, Speaking, Writing) with a focus on timing, section strategies, and common question types.

		A short diagnostic test identifies areas that need attention. Pair discussions allow students to set personal goals for improvement. Vocabulary from TOEIC I is refreshed with emphasis on functional usage. Students practice identifying key information in sample listening passages. Homework: review key grammar points (present, past, future tense) and make a personal vocabulary list.
2	Theme: Tense Accuracy in Context	Content: Students review present simple, present continuous, past simple, and past continuous, emphasizing co rect usage in TOEIC contexts. Pair exercises involve describing daily routines, past activities, and recent experiences. Listening tasks reinforce tense recognition in conversations and announcements. Controlled writing exercises focus on producing coherent sentences with correct tense. Students practice short oral descriptions integrating both present and past tenses. Homework: write a 10-sentence paragraph mixing present and past tense.
3	Theme: Sequencing Past Events	Content: Students learn past perfect for actions completed before another past action. Examples from TOEIC-style contexts (meetings, deadlines, reports) are analyzed. Pair activities simulate recounting work-related sequences, e.g., “I had finished the report before The meeting started.″ Listening exercises focus on identifying past perfect structures in short dialogues. Students complete controlled gap-fill exercises. Writing practice involves summarizing two-step events using past perfect. Homework: Find 5 sentences using past perfect from TOEIC practice materials.
4	Theme: Vocabulary Precision	Content: Students explore words that sound or look similar but have different meanings (e.g., ″lead″ / ″led,″ ″present″ / ″present″). Pair activities involve identifying the correct meaning in sentences. Listening exercises include short dialogues where homonyms are used. Students practice using these words in their own sentences, orally and in writing. Vocabulary games help reinforce learning. Homework: create a mini-dictionary of 20 homonyms with examples.
5	Theme: Functional Vocabulary	Content: Students learn how words often considered nouns or adjectives can act as verbs in TOEIC con texts, e . g., ″It borders on...,″ ″The project exceeds expectations.″ Pair exercises involve forming sentences using similar structures. Listening exercises identify these words in spoken contexts. Students practice writing sentences that use the words accurately. Controlled discussion activities reinforce comprehension. Homework: List of 10 similar verbs from TOEIC reading passages.
6	Theme: Locating, Timing, and Relationships	Content: Students review common prepositions (in, on, at, by, until, during) and learn how to form p repositi onio nal phrases. Pair activities involve describing locations, deadlines, and relationships in TOEIC scenarios. Listening tasks include identifying prepositional phrases in spoken announcements. Writing exercises focus on creating correct, contextually appropriate phrases. Students practice short oral explanations using prepositions accurately. Homework: complete a gap-fill worksheet on prepositions.
7	Theme: Functional Lexical Sets	Content: Students review and expand vocabulary for jobs, departments, and professional roles. Pair activities simulate workplace discussions, e.g., “The engineer designed the new system,” “The HR manager will review the applications.″ Listening tasks focus on job-related conversations. Students write sentences describing workplace situations using appropriate terminology. Vocabulary games reinforce word retention. Homework: create a one-page chart of occupations and related actions.
8	Theme: AI, Machine Learning, and Modern Tools	Content: Students learn technical vocabulary such as AI, machine learning, cloud computing, automation, and cybersecurity. Pair role-play involves discussing technology in simple workplace scenarios. Listening exercises include short talks or podcasts on technology topics. Writing exercises involve summarizing a technological process using correct vocabulary. Vocabulary matching games reinforce recognition. Homework: Find three TOEIC-style sentences using modern tech vocabulary.

9	Theme: Word Building	Content: Students learn how to form nouns from verbs and adjectives using suffixes (-ant, -ancy, -tion, -nes S). Pair exercises involve creating nouns from base words and using them in sentences. Listening exercises include identifying derived nouns in sp
10	Theme: Functional Grammar	Content: Students learn verbs that require gerunds (e.g., enjoy doing, avoid doing, consider doing). Controlled exercises provide context-specific examples. Pair activities involve asking and answering questions using these structures. Listening tasks ide
11	Theme: Functional Grammar	Content: Students learn verbs followed by infinitives (e.g., want to, plan to, expect to). Pair exercises involve discussing future actions using these verbs. Listening exercises highlight infinitive use in TOEIC contexts. Students write sentences combin
12	Theme: Flexibility in Verb Usage	Content: Students explore verbs that accept either form (e.g., like doing / like to do, begin doing / begin to do). Controlled drills reinforce differences in nuance. Pair discussions practice these verbs in professional and daily contexts. Listening exer
13	Theme: Functional Collocations	Content: Students practice verbs used with leisure activities (e.g., go skiing, play soccer, do karate). Pair activities simulate talking about hobbies and weekend plans. Listening exercises focus on identifying the correct verb + activity in spoken passages. Writing tasks involve describing personal or workplace activities. Vocabulary games reinforce collocations. Homework: prepare a short paragraph about favorite activities using correct verb phrases.
14	Theme: Grammar Accuracy	Content: Students review singular/plural subjects, tricky collective nouns, and irregular agreements. Pair exercises involve identifying correct agreement in sample sentences. Listening tasks highlight agreement in spoken TOEIC passages. Writing practice

科目コード	T110208				区　分	教養			
授業科目名	TOEICIV				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

Overview of the Class TOEIC IV prepares students for the highest level of TOEIC readiness, integrating advanced grammar, v ocabulary, and functional skills. Students learn to handle complex sentence structures, understand nuanced vocabulary, and express the mselves clearly in spoken and written professional English.
The course emphasizes strategic TOEIC test-taking, critical thinking in reading/listening tasks, and accurate, fluent communication. By the end of the course, students can recognize and use at least 500 TOEIC-relevant words, master c omplex grammar, and complete full-length TOEIC practice with confidence.

＜授業の到達目標＞

Goals of the Class
a) Students will be able to use advanced grammar structures, including conditionals, passive forms, complex and compound sentences, and the subjunctive, in TOEIC-style writing and speaking.
b) Students will be able to understand, interpret, and respond to complex TOEIC listening and reading g g passages with nuanced information.
c) Students will be able to produce clear, well-organized reports, emails, and oral presentations integrating advanced vocabulary and idiomatic expressions.
d) Students will be able to use a minimum of 500 TOEIC-relevant words accurately in multiple contexts.
e) Students will be able to self-monitor and correct errors in grammar, vocabulary, and usage during TOEIC-style tasks.

＜授業の方法＞

・Mini-lectures with advanced grammar explanation and vocabulary introduction.
・Pair and small-group communicative tasks for practice and fluency.
・TOEIC-style simulation exercises under timed conditions.
・Integrated reading, listening, speaking, and writing tasks.
・Peer feedback and error correction.
・Active vocabulary recall and functional exercises.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・Pair interviews and role-play simulations of business and travel scenarios.
・Timed mini-TOEIC tasks for listening and reading.
・Vocabulary games, collocation matching, and idiom exercises.
・Peer review for written and oral tasks.
・Short presentations and reporting exercises.
・Error-analysis workshops.

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to spend about 3hours each week preparing for classes. This will include vocabulary review and doing homework.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Students can earn 40% through participation and 60% from the final examination.

＜教科書＞

All materials will be created by the lecturer.

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Theme: Course Orientation and Diagnostic Test	Content: Students will learn about the TOEIC test format (Listening, Reading, Speaking, Writing) and understand nd and the types of questions in each section. They will take a short diagnostic test to identify their current level in grammar, vocabulary, and functional English.

		In pairs, students will discuss their personal goals for vocabulary and skill improvement. Students will practice listening for key information in short TOEIC-style conversations. They will write a brief self-introduction including recent experiences and professional context. Students will report their goals to a partner using complete sentences. Students will receive a list of target vocabulary for the week. Key Vocabulary: diagnostic, format, section, strength, weakness, strategy, goal, proficiency, report , instructions Content:
2	Theme: Accurate Tense Usage	Students will review major tenses with examples of daily life and workplace situations. They will describe past work experiences, daily routines, and future plans with a partner. Students will listen to short conversations and identify present, past, and future tense forms. They will write a paragraph combining past, present, and future actions. Students will practice time markers such as yesterday, already, next week, and recently. Students will receive a list of target vocabulary including time expressions and work-related terms. Key Vocabulary: recent, upcoming, routine, already, schedule, project, deadline, task, announcement, Experience Content:
3	Theme: Expressing Order of Past Actions	Students will learn how to use the past perfect tense to describe events that happened before other Past actions. In pairs, students will simulate workplace reporting sequences using past perfect sentences. They will listen to short dialogues and identify past perfect usage. Students will write a short paragraph recounting multi-step events at work or school. They will practice controlled drills to reinforce correct sentence placement. Students will receive a list of key past perfect verbs and phrases to use in their writing. Key Vocabulary: prior, complete, sequence, submit, report, deadline, meeting, task, progress, finish Ed Content:
4	Theme: Vocabulary Precision	Students will learn words that have multiple meanings depending on context (e.g., lead/led, present/ present, border/border). In pairs, they will create sentences using the correct meanings. Students will listen to conversations and announcements, identifying words used in context. They will write a short paragraph using five homonyms correctly. Students will complete exercises matching words to meanings. Students will receive a list of key homonyms and example sentences for practice. Key Vocabulary: border, lead, present, object, contract, report, record, conduct, project, issue Content:
5	Theme: Functional Vocabulary	Students will practice using words that often act as verbs in professional contexts (e.g., "It borde rs on excessive," "The policy exceeds expectations"). In pairs, students will create sentences using these verbs. They will listen to short dialogues and announcements, identifying functional verbs. Students will write ten TOEIC-style sentences using the verbs correctly. Students will participate in short drills to practice pronunciation and usage. Students will receive a list of functional verbs for review. Key Vocabulary: border, exceed, affect, handle, conduct, implement, apply, refer, negotiate, process Content:
6	Theme: Expressing Time, Place, and Purpose	Students will review prepositions such as in, on, at, by, and until, and learn advanced phrases like 'in accordance with,' 'in charge of,' and 'due to.' They will work in pairs to describe processes, give instructions, and talk about timelines using pre positions correctly. Students will listen to announcements and short conversations, identifying the prepositions used. They will write a short paragraph explaining steps in a workplace task using prepositional phrases. Students will practice drills to reinforce correct placement and usage. Students will receive a list of key prepositions and phrases to practice in sentences. Key Vocabulary: according to, in charge of, due to, until, during, within, throughout, between, among, regarding
7	Theme:	Content:

	Professional Lexical Sets	Students will learn the names of common occupations and departments, including engineer, HR manager, and technician. In pairs, they will role-play workplace scenarios, such as delegating tasks or describing responsibi Lities. Students will listen to conversations discussing roles and match them to the correct occupation Ion. They will write 5–7 sentences describing colleagues' roles or their own position. Students will participate in vocabulary drills to reinforce correct usage in professional contexts. Students will receive a list of occupations and associated tasks to practice at home. Key Vocabulary: manager, supervisor, technician, accountant, engineer, consultant, HR, staff, team, Director Content:
8	Theme: AI, Machine Learning, and Modern Tools	Students will practice using vocabulary related to technology, including AI, machine learning ng, au tomation, cloud computing, and cybersecurity. They will work in pairs to discuss the use of technology in professional contexts. Students will listen to conversations mentioning technical terms and identify their meanings. They will write a short paragraph explaining a project or process involving technology. Vocabulary games will help students reinforce understanding and usage. Students will receive a list of technology-related words to study for the next lesson. Key Vocabulary: AI, automation, cloud, cybersecurity, algorithm, dataset, model, implement, virtual, Network Content:
9	Theme: Word Building and Functional Vocabulary	Students will learn how to form nouns from verbs and adjectives using common suffixes. In pairs, they will create sentences using words like performance, applicant, and efficiency. They will listen to announcements and identify derived nouns. S Content:
10	Theme: Functional Grammar	Students will practice verbs that require gerunds, such as enjoy doing, avoid doing, and consider do Ing. In pairs, they will discuss hobbies, work habits, and professional tasks using gerunds correctly. Students will listen to short dialogues wh Content:
11	Theme: Functional Grammar	Students will learn verbs that are followed by infinitives, such as want to, plan to, and expect to. In pairs, they will practice speaking about future plans and professional objectives. Students will listen to dialogues where infinitives are us Content:
12	Theme: Verb Flexibility	Students will explore verbs that accept either a gerund or an infinitive, such as like doing / like to do, begin doing / begin to do. In pairs, they will create sentences about personal and professional activities. Students will listen to dialog Content:
13	Theme: Functional Collocations	Students will learn verbs used with leisure and professional activities (e.g., go skiing, p lay soccer, do training). In pairs, they will role-play conversations about hobbies, work routines, and leisure activities. Students will listen for correct verb + activity collocations in dialogues. They will write 5–7 sentences describing their pastimes or professional exercises. Vocabulary games will help reinforce collocations and correct usage. Students will receive a list of common activity collocations to practice. Key Vocabulary: go, play, do, exercise, training, skiing, soccer, karate, meeting, workshop Content:
14	Theme: Grammar Accuracy in TOEIC	Students will review singular and plural forms, collective nouns, and tricky subject-verb agreements. In pairs, they will correct sentences with common errors. Students will listen to workplace announcements and conversations, identifying correct

科目コード	T110210				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技Ⅱ（a）				担当者名	菊川 理子／小川　千尋			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、テニス、フットサル、タグラグビー等の屋外スポーツを中心とした活動を行う。

＜授業の到達目標＞

本授業は，主に屋外(テニス・フットサル・ニュースポーツ等)で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで，それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし，次の４点を到達目標とする。

①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ，能力に応じ実践できる
②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる
③ゲームの流れとルールを理解し，審判ができる
④生涯スポーツとしての位置づけが理解できる
⑤リーダーシップおよび協調性，ならびに創造性を身につける

＜授業の方法＞

1．点呼・ウォーミングアップ（10分）
2．本時の学習の確認（10分）
3．基礎技術の練習（10分～30分）
4．グループ活動（10分～20分）
5．ミニゲーム、試合（20分～30分）
6．振り返り・片付け（10分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニックについて調べたり、練習を行ったりする（90分）
復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。
〔受講上の注意〕
グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし，病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも，1/4 を超えてはならない。なお，３分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また，遅刻は原則として認めない。
実技の際は必ずトレーニングシャツ，トレーニングパンツ，運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

＜教科書＞

特にテキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。

＜参考書＞

授業時に指示

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツの意義と目的（スポーツ①）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的（スポーツ①）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施

3	スポーツ②（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
4	スポーツ②（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
5	スポーツ③（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④（個人種目）	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（個人種目）	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ⑤（集団種目）	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
10	スポーツ⑤（集団種目）	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
11	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
12	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
13	スポーツ⑦（集団種目）	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑦（集団種目）	チーム対抗競技の実施 まとめ

科目コード	T110210				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技Ⅱ（b）				担当者名	菊川 理子／小川　千尋			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、テニス、フットサル、タグラグビー等の屋外スポーツを中心とした活動を行う。

＜授業の到達目標＞

本授業は，主に屋外(テニス・フットサル・ニュースポーツ等)で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで，それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし，次の４点を到達目標とする。

①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ，能力に応じ実践できる
②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる
③ゲームの流れとルールを理解し，審判ができる
④生涯スポーツとしての位置づけが理解できる
⑤リーダーシップおよび協調性，ならびに創造性を身につける

＜授業の方法＞

1．点呼・ウォーミングアップ（10分）
2．本時の学習の確認（10分）
3．基礎技術の練習（10分～30分）
4．グループ活動（10分～20分）
5．ミニゲーム、試合（20分～30分）
6．振り返り・片付け（10分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニックについて調べたり、練習を行ったりする（90分）
復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。
〔受講上の注意〕
グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし，病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも，1/4 を超えてはならない。なお，３分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また，遅刻は原則として認めない。
実技の際は必ずトレーニングシャツ，トレーニングパンツ，運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

＜教科書＞

特にテキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。

＜参考書＞

授業時に指示

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツの意義と目的（スポーツ①）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的（スポーツ①）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施

3	スポーツ②（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
4	スポーツ②（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
5	スポーツ③（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③（集団種目）	ニュースポーツの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④（個人種目）	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（個人種目）	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ⑤（集団種目）	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
10	スポーツ⑤（集団種目）	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
11	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
12	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
13	スポーツ⑦（集団種目）	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑦（集団種目）	チーム対抗競技の実施 まとめ

科目コード	T110302				区　分	教養			
授業科目名	コミュニケーションの心理学				担当者名	田原　俊司			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義では、日常生活や社会生活における人間関係、集団行動、社会現象や社会的問題等について、個体内、対人、小集団、公衆、組織、マスといった各コミュニケーションレベルの観点から、思考の発生や対人関係、組織・社会と個人の関係のあり方について学ぶ。具体的には、コミュニケーションの基礎概念を学んだ上で、人間関係を円滑にする方法、異文化コミュニケーション、コミュニケーションが困難となる諸症状と改善法などについて、自分の問題として取り組みことができるようになることを目指す。

＜授業の到達目標＞

・事前学習にしっかりと取り組み、講義内容で「分かること」と「分からないこと」を区別できようになる。
・解説やグループディスカッション、発表を通して「なぜそうなのか？」を理解し、他者に説明できる。
・日常生活や社会生活において本講義で得られた知見を活用・応用し、実践できるようになる。

＜授業の方法＞

１．出席確認と事前提示資料の内容理解確認小テスト（10分）
２．解説・質疑（40分）
３．設定した課題に対するグループディスカッションと発表(20分)
４．解説・質疑・意見交換（20分）
５．リフレクションシートの作成・提出（10分）
※授業関連の活動（資料の提示、内容理解確認テストの提出、リフレクションシートの提出等）については、Google Classroomで行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。
グループディスカッションやネット検索を通して「予習し議論に備える姿勢」「知識を主体的に学ぼうとする姿勢」「考えの異なる人と議論しようとする姿勢」を身につけるとともに、発表により簡潔に分かりやすく他者に意見・説明を伝えることができるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：事前にGoogle Classroomにより提示された資料を読み、内容を要約。要約した内容はGoogle Classroomにより提出する（90分程度）。
・復習：提示された資料、および講義終了時に提出したリフレクションシートを再確認し、必要に応じて提出したリフレクションシートを修正する（90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、内容理解確認小テスト 15%、グループディスカッションへの貢献度 20%、リフレクションシートの提出 15% 、最終課題 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーションの基礎概念	コミュニケーションモデル、コミュニケーションの類型・レベル
2	対人コミュニケーションと組織、マスコミュニケーション	対人、組織、マスの各コミュニーションにおける準・非コミュニケーションの役割
3	コミュニケーションを円滑にする方法	コミュニケーション能力を高める自己分析、コミュニケーション能力を高めるメリット、言語・非言語コミュニケーション、伝える力・聞く力、コミュニケーションの前提と４つのステップ
4	コミュニケーションを円滑にする心理学の知見(1)	類似性の法則、ミラーリング効果、ラベリング効果、ウィンザー効果、吊り橋効果
5	コミュニケーションを円滑にする心理学の知見(2)	開放性の法則、返報性の法則、ピグマリオン効果、ザイオンス熟知性の法則、メラビアンの法則
6	コミュニケーションにおいて知っておき	傾聴、ペーシング、バックトラッキング

	たいテクニック(1)	
7	コミュニケーションにおいて知っておきたいテクニック(2)	5W1Hの意識化、例え話や比喩の活用、他者視点
8	人間関係を円滑にするための工夫(1)	人間関係におけるストレス対応、プライベートな話題への距離感、話のスピードやリズム
9	人間関係を円滑にするための工夫(2)	対人関係における距離感（期待やリセットなど）、相手の利点を見つける努力
10	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーションの意味、失敗事例、必要なこと・大切なこと、成功させるコツ
11	コミュケーション、対人関係の発達心理学	アタッチメント、アタッチメントスタイル
12	コミュケーションが困難な諸症状(1)	発達障害、社会不安障害、PTSD
13	コミュケーションが困難な諸症状(2)	統合失調症、パーソナリティ障害、うつ、双極性障害
14	まとめ	１～14回の学習内容を最終課題として提出

科目コード	T110303				区　分	教養			
授業科目名	人間と法				担当者名	伊藤　敦司			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

私達の生活は常に法との関わりをもっている。将来、いかなる方面、また、どのコースに進むにせよ、法と無縁ということは考えられない。もちろん、関わりを有するであろう法を全て知ることはできないし、また、その必要もない。むしろ重要なことは、法的な考え方を身につけることである。本講義においては、各種の問題の分析を通じて、そこでの法的な問題点、解決のための考え方等を身につけることを目的とする。できるだけ、具体的な事例等を用いながら、分かりやすく講義を進めたいと考えている。

＜授業の到達目標＞

「リーガルマインド」の修得

１．法に関する基本的な概念や仕組みを認識し、理解することができる。

２．社会の出来事や問題点を法的な視点から把握・分析できる。

３．結論の明らかではない問題点を論理的に分析し、解決のための方法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞

パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは特に指定しない。毎回、授業の最後に、授業のまとめや意見を書いてもらう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。具体的な法的な出来事等をもとに、学生諸君と討論する時間を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

第１回　（予習）（60分）身近な出来事や報道を通じて、法と関わりを考えてまとめること。
（復習）（120分）予習で考えた事柄につき、授業や参考書等を手掛かりに、法的な問題を分析し、自分の考えをまとめておくこと。

第２回　（予習）（60分）自分の身近にある法をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）法の意義・種類・存在形式等について、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第３回　（予習）（60分）胎児から出生における法的な問題をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）胎児から出生における法的な問題を、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第４回　（予習）(60分) 成人の時期を境に法的地位がどう変わるかをできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）成人と未成年・少年における法的な問題を、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第５回　（予習）（60分）結婚や離婚を巡る法的な問題をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）結婚や離婚における法的な問題を、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第６回　（予習）（60分）高齢期や死亡を巡る法的な問題をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）高齢期や死亡における法的な問題を、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第７回　（予習）（60分）憲法を巡る法的な問題をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）憲法の意義・基本原理等に関して、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第８回　（予習）（60分）犯罪や刑罰を巡る法的な問題をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）犯罪や刑罰における法的な問題を、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第９回　（予習）（60分）刑罰（とりわけ死刑）を巡る法的な問題をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）刑罰のあり方や死刑の是非に関して、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第10回　（予習）（60分）企業との関わりをできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）企業の意義やその法規制に関して、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第11回　（予習）（60分）企業に関する報道に注目し、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）上場企業の特色や問題点に関して、授業、参考書や企業のＨＰ等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第12回　（予習）（60分）企業の取引活動に関する報道に注目し、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）企業の取引活動における法的な問題を、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第13回　（予習）（60分）日々の契約を巡る法的な問題をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。
（復習）（120分）契約に関する法的な問題を、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。

第14回　（予習）（60分）消費者保護に関する報道に注目し、疑問点や意見をまとめておくこと。これまでの学習を振り返り、特に興味や疑問をもった点をまとめておくこと。

（復習）（120分）消費者保護のあり方やその問題点に関する法的な問題を、授業や参考書等をもとに整理し、自分の考えをまとめておくこと。これまでの学習を振り返り、法の意義・機能や問題点を整理し、自分の考えをまとめておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認テスト（課題提出）４０％、平常点（小レポート、授業参加の姿勢等）６０％により総合的に評価する。
詳細については、第１回目の授業の際に説明する。

＜教科書＞

＜参考書＞

永井和之編（2023年3月発売）　『法学入門〈第４版〉』　中央経済社
池田　真朗他（2025年03月発売）　『法の世界へ 第10版』　有斐閣
松井　茂記他（2025年04月発売）　『はじめての法律学 -- HとJの物語 第7版』　有斐閣

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション①	法を学ぶことの意味 人間と法の関わり　人間の多様性を反映して ※時事的な問題を取り上げるため、以下の予定は若干変更する場合もある。
2	イントロダクション②	法とは何か　法的思考とは何か
3	人間として①	胎児から人へ 権利能力、胎児の法的地位 人の始期　民法では　刑法では
4	人間として②	成人を迎えて 権利能力・意思能力・行為能力 未成年者の行為　契約、営業、犯罪
5	人間として③	結婚と離婚 婚姻適齢、再婚禁止期間　男女間の不平等の克服 夫婦同姓　選択的夫婦別姓制度の是非 離婚をめぐり
6	人間として④	高齢から死亡へ① 認知症による能力欠如 人の死とは　臓器移植法 相続をめぐり
7	社会の構成員として①	国家との関係 憲法の最高法規性　違憲立法審査権 憲法の基本原理　基本的人権の保障　三権分立と司法権の独立
8	社会の構成員として②	犯罪と刑罰① 犯罪とは？ なぜ処罰されるべきか？ 捜査から有罪確定まで
9	社会の構成員として③	犯罪と刑罰② 刑罰の種類　拘禁刑への一本化 死刑制度の是非
10	企業の構成員として①	企業とは① 企業との関わり 会社とは 株式会社の特色①
11	企業の構成員として②	企業とは② 株式会社の特色②″
12	企業の構成員として③	企業取引と法
13	消費者として①	契約とは 契約の拘束力　違反した場合は 代理人による契約
14	消費者として②　総まとめ	消費者の保護　真意と表示の祖語　消費者契約法 法的思考の確認とそれを今後の生活に生かす

科目コード	T110305				区　分	教養科目			
授業科目名	数学基礎Ⅱ				担当者名	安井　良彰			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
経済経営やICTの現場で求められる数理科学的な知識とスキルを基礎から学ぶ。後期は現代経済経営学や数理データサイエンスで必須の微分学と積分学の初歩を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
国際経済経営の分野でデータを科学的に分析できるスキルを身につける為、数理データサイエンスで必須の基礎知識を身につける。

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
特になし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予備知識となる高校数学の確認と復習(100分)
授業中に指示された課題（100分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
宿題などの提出課題 30%、小テスト 20%、定期試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	前期の復習	初頭関数の復習
2	微分（１）	無限級数の計算方法
3	微分（２）	関数の極値と微分の定義
4	微分（３）	多項式の微分
5	微分（４）	微分の線形性と合成関数の微分
6	微分（５）	関数の最大値、最小値、極大値、極小値
7	微分（６）	指数関数と三角関数の微分
8	微分（７）	偏微分と最適化問題
9	積分（１）	数列の振る舞い　数学的帰納法
10	積分（２）	区分求積法
11	積分（３）	不定積分
12	積分（４）	定積分
13	積分（５）	変数変換とヤコビアン
14	まとめと確認	復習とこれまでの学習内容の定着度の確認

科目コード	T110306				区　分	教養			
授業科目名	労働法規［後期集中］				担当者名	岩隈 道洋			
配当年次	2年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
過労による健康被害や死亡、職場の事故やハラスメントを防ぐためには、使用者（経営者）の「働かせ方」と「経営目標」に対して、労働者が自らの「働き方」と「生活の質」を守るための法制度が必要である。本講義では、そういった法制度の中核となる、労働基準法・労働契約法・労働組合法を中心とした、いわゆる「労働法」について学習する。本講義は、労働に関する社会変化の沿革から、労働法の意義と内容、最近の労働法の傾向と新たに解決されるべき諸問題を取り上げて、基本的な労働法に関する講義を行う。

＜授業の到達目標＞
①労働法および関連する法規について、社会人として勤務したり、労働を請負う立場になった際に、最低限知っておくべき基本的な仕組みについて理解させる。
②労働法の背後にある社会思想や日本国憲法の社会権的基本権を踏まえた労働法や人事・労務管理の在り方について考察・配慮できる力量を養う。
③労働法の学習を通じて、関連する他の法律についての基礎知識や法的なものの見方、考え方を身につけさせる。

＜授業の方法＞
対面の講義を中心としつつ、集中講義となることに鑑みて一部オンライン授業（小テストと動画共有）を併用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし（しかし、授業中の質問や問題提起、そこから誘発された議論といったコミットメントは評価する。）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前配布資料の確認・教科書および参考図書の閲読⇒１コマ当たり９０分程度
復習：各単元の振り返りのための小テストおよび参考図書の読後レポート⇒１コマ当たり９０分程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（授業コミットメントやレポートの状況によりそれらを加点要素に加える場合がある。）30%、小テスト 20%、最終テスト 50%

＜教科書＞
小畑 史子,緒方 桂子,竹内(奥野) 寿（2025） 労働法〔第5版〕（有斐閣ストゥディア） 有斐閣

＜参考書＞
常見 陽平（2025） 日本の就活──新卒一括採用は「悪」なのか 岩波書店
大内 伸哉（2008） どこまでやったらクビになるか: サラリーマンのための労働法入門 新潮社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	法律のなかの労働法	労働法と何か？を考えながら、基礎的な法知識（憲民刑）を確認し、その応用としての労働法の側面を把握する。
2	企業（使用者≒経営者）と国家（政府）と労働者の関係を考える	労働法は、使用者（企業経営者）と労働者では「見え方」「使い方」が全く違うことについて把握する。
3	「市場の失敗」と労働問題	労働法が生まれるきっかけとなった世界恐慌と「市場の失敗」を理解し、その一つとしての労働問題の特徴を把握する。
4	「市場の失敗」への対策としての社会主義・社会権・労働基本権	資本主義経済や近代的企業経営の持つ構造的な暴力的側面に対して国家が対策として何を行ってきたかを把握する。
5	労働条件と労働契約	労働契約は、単に「働いて(かせて)お金をもらう(払う)」だけではなく労働条件を定める点を把握する。
6	就業規則	十人以上の職場における労働条件(労働契約)は、使用者の定める就業規則が重要な要素となる点を把握する。
7	就業規則の変更	就業規則は使用者が定めるものだが、使用者が自由に決められるものではないことを把握する。
8	賃金	労働契約の最重要要素である賃金についての規律を把握する。
9	休日・休暇・休憩	労働者のワークライフバランスを確保するための「休む」仕組みの規律を把握する。

10	差別とハラスメント	使用者や職場による労働者に対する差別やハラスメントの禁止に関する規律を把握する。
11	労働契約の終了	解雇・解約・辞職・雇止め・定年といった、労働契約終了にまつわる問題とその規律を把握する。
12	労働組合	使用者と対抗して、労働者の権利を守るために、労働者自身が作る組織の規律を把握する。
13	フリーランスや年俸制の働き方	労働法が直接守ってくれないフリーランサーや、スポーツ選手・開業型の専門職等の働き方とその規律を把握する。
14	労働法規学習の振り返り	授業で採り上げた論点から、関心のある分野についての理解度を課題を通じて確認する。

科目コード	T110307				区　分	教養			
授業科目名	国際関係論				担当者名	渡辺 剛			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

国際経済・経営の専門科目の修得にあたり、国際関係系統の知識は必須となる。経済活動や経営判断には、国際情勢への理解が欠かせない。本科目は国際関係諸領域の入門的知見の提供を目的とする。国際社会の基本構造から、国際情勢の分析方法、現代のグローバルイシューまでを網羅する。
本科目を通じて、国際情勢を客観的に分析し、現代社会の課題について自らの言葉で論理的に説明できる力を養う。
※授業予定は以下の通りだが、受講者のリクエスト、その時々の時事問題に応じて、開講後に構成が変わり得る事を予め承知されたい。

＜授業の到達目標＞

以下の三つが主な修得目標である。
１、国際的なニュースや時事問題を深く理解する為の視角や分析手法を獲得できるようになる。
２、国際経済・国際経営を学ぶ際に必要となる、国際関係系諸分野の基礎知識を修得できる。
３、広くバランスの取れた現実主義的世界観が確立できるようになる。

＜授業の方法＞

講義型。授業資料PDFとオンライン練習問題はUNIPA上で公開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

【有】（方法：オンライン練習問題や小テストによる自己の理解度確認と、授業内でのフィードバックの実施）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修にあたっては、最低限でも中学校社会科程度の近現代史に関する基礎知識が要求される。更に、自ら国際ニュースをチェックしたり歴史を調べたりする姿勢が必須である。予習として、講義で事前配布する資料をよく読み、概要の把握や関連情報の収集に努めること。（各90分程度）復習として、その日のうちにノートを再確認し、不分明な箇所を抽出し、疑問点や課題をまとめておくこと（各90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験80%、オンライン練習問題20%。この他に、授業内の理解度確認小テスト（2回）による特別加点も予定している。
小テストとオンライン練習問題の合計点により期末試験の免除を行う場合がある。
基準・計算方法の詳細は初回ガイダンスで説明し、授業内でも繰り返し周知する。
また、欠席過多は単位認定の欠格要素となり得る。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス及びイントロダクション（１）	本講義開始に当たっての基本的な情報提供と注意喚起を行う。学期開始時点での講義計画の修正と見通しについても説明する。 国際関係論という学問体系の全体像や、基本的な概念を説明する。
2	イントロダクション（２）	第１回のイントロダクションに引き続き、アクターの詳細を説明する。
3	世界の基本構造	①世界を分断する対立軸について説明する。②世界の政治体制について説明する。
4	リアリズムとリベラリズム	国際政治学の二大潮流のリベラリズムとリアリズム、及び国際政治のパワーゲームについて理解を深める。
5	米中覇権闘争(1)	覇権を巡る米中二大国の権力闘争と覇権国の地位を目指す中国の戦略について概要を分析する。
6	米中覇権闘争(2)	覇権を巡る米中二大国の権力闘争と覇権国の地位を目指す中国の戦略について政策について分析する。
7	学期前半の振り返りと理解度確認小テス	学期前半の講義を振り返り、知識定着の確認として小テストを実施する(理解度確認

	ト1	小テスト第1回)。
8	パワートランジション	覇権国の変遷と未来の可能性について説明する。
9	国際法と国連	国際法及び国連をはじめとする国際機関の構造、機能と実態に関する基礎知識を説明する。
10	グローバルイシュー	分断され対立を繰り返す現代世界に在って、全球的な対応が求められる問題を概観する。
11	経済安全保障	経済と安全保障の関係について概観する。
12	外交と経済	国益を巡る戦いとしての外交の基本的な基礎知識について説明する。
13	情報戦・認知戦	国際謝意における情報戦と認知戦の実態。
14	学期後半の振り返りと理解度確認小テスト第２回	学期後半の講義を振り返り、知識定着の確認として小テストを実施する(理解度確認小テスト第2回)。

科目コード	T110406				区　分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメントⅡ				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

キャリアディベロップメントⅠで培った自己理解・社会理解を土台に、就職活動開始に向けて「自分の現在地」を把握し、必要な準備を段階的に進める科目である。
身だしなみ・話し方・立ち居振る舞いなどのビジネスマナー、自己紹介・自己PR・志望理由の作成、SPIの基礎理解、エントリーシートの書き方など、就活に直結する実践的内容を扱う。
また、キャリアセンター職員・学内講師・外部講師・就活支援企業による講話を通じて、最新の採用動向や企業の視点を学び、3年次の就活開始に向けた行動計画を明確化する。

＜授業の到達目標＞

・自己理解（価値観・強み）を更新し、短い自己紹介を適切に構成できる。
・行動経験を整理し、自己PRの骨子を作成できる。
・興味分野の仕事を「何をしている／誰のため／どんな価値／なぜ自分」で簡潔に要約できる。
・志望理由の素を作成し、エントリーシートの基本構造に沿って文章化できる。
・SPIの基礎構造を理解し、簡易模擬を通じて自分の弱点を把握できる。
・ゲスト講話・講義内容を踏まえ、次の行動（One Action）と3年次に向けた行動計画を示せる。

＜授業の方法＞

１．出席確認と前回の振り返り（10分）
２．講義（50分）
３．個人ワーク/グループワーク/ディスカッション（40分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。
※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
・個人ワークによる価値観・強みの更新、自己紹介・自己PRの作成
・ペアワークによる表現の明確化と改善点の把握
・グループディスカッションによる志望理由の素の共有と視点の拡張
・SPI簡易模擬による自己診断
・ゲスト講話の事前質問づくり・事後のOne Action設定
・キャリアセンターとの協業による実務的な就活準備

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（90分）
・次回テーマに関係する自分の経験・気づきのメモ
・必要に応じて事前配布資料の要点確認
2. 復習（90分）
・授業内容の要点整理
・気づき1つと次の「One Action」1つを記入
3. 中間テスト前（90分）
・前半内容のキーワード整理
・用語・ミニケースの確認
・自己PRの素材整理
4. 最終テスト前（90分）・内容をテーマ別に再整理
・全体内容のテーマ別整理
・最終テストに向けた確認ポイントの洗い出し
・3年次春までの行動計画（One Action）の下書き

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・小課題・取り組み姿勢 30%、中間ミニテスト（授業内） 20%、最終テスト（筆記） 35%、個人ふり返りシート 15%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
杉村 太郎（2026年4月22日）　絶対内定2028　ダイヤモンド社
岡茂信（2022年9月4日）　早期対策で差をつける 大学1・2年生のための就活の教科書　マイナビ社
津木裕子、楳村麻里子、平井智子、松下孝太郎（2026年2月24日）　学生のためのビジネスマナー入門　技術評論社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／就活の全体像と現在地の把握	・キャリアディベロップメントⅠの学びの復習とアップデート ・就活の全体像（スケジュール・準備項目） ・自分の現在地の可視化（価値観・強み・興味の更新）
2	自己理解：価値観・強みの再整理（更新）	・価値観・強みの再確認 ・日常経験との関連づけ
3	自己表現①：自己紹介の作成と実践	・自己紹介の基本 ・聞き手を想定した自己紹介の最適化 ・セルフ・チェック ・場面別の一言の準備
4	ゲストスピーカー講話①	「西武信用金庫理事長・髙橋一朗氏による講話」 ・組織管理 ・日本の人口減少下によるビジネスモデルの転換の必要性　他
5	ビジネスマナー基礎①	・第一印象の重要性 ・身嗜みの基礎（清潔感・TPO） ・好感の持てる表情
6	ビジネスマナー基礎②＋前半の振り返り	・話し方の基礎（声・スピード・敬語） ・立ち居振る舞い（姿勢・所作・基本動産） ・前半の学びの振り返り
7	中間ミニテスト＋自己表現②	・中間ミニテストと振り返り ・自己PRのための行動経験の棚卸と具体例の挿入 ・自己PRづくり
8	興味分野の仕事理解と志望理由の素づくり	・興味分野のを深堀り ・仕事の要点→志望理由の素への接続 ・類似企業・隣接職種との比較
9	ゲストスピーカー講話②	・現役大学4年生による就活体験講話 ・入社１～2年目若手社員による新社会人経験講話
10	SPI理解と対策基礎	・SPIの概要（性格・能力） ・簡易模擬（言語・非言語の基礎問題） ・自分の弱点の把握と対策の方向性
11	エントリーシート理解と作成対策基礎	・エントリーシートの基本構造（自己PR／志望理由／学生時代に力を入れたこと） ・エントリーシート書き方の基礎 ・自己PRの文章化
12	ゲストスピーカー講話③	・就活支援企業による講話 ～最新の採用動向／インターンシップ・早期選考の傾向／企業研究のポイント／自分の立ち位置の確認～
13	学内講師講話＋全体振り返り	・学内講師講話 ①学部長講話（業界分析） ②キャリアセンター責任者（キャリアセンターの活用法・ES/ 面接対策・今後のロードマップ） ・全体振り返り
14	最終テスト＋3年次への心構え	・最終テスト＋振り返り ・3年次に向けて

科目コード	T220105				区　分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅱ［①］				担当者名	末原　聡			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。簿記入門Ⅰで学んだ知識をもとに、全経３級では取り扱わなかった会計処理や帳簿組織等の論点に重点を置く。日本商工会議所主催の簿記検定試験「３級商業簿記」（以下「日商３級」）を受験し、合格することを目標とする。

＜授業の到達目標＞

① 日商3級に合格するために必要な知識を活用して、検定レベルの問題に解答できる。
② 簿記の意義と複式簿記の原理を説明できる。
③ 基本的な取引について仕訳できる。
④ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の処理ができる。

＜授業の方法＞

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う
②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う
③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること
④手書きの問題演習を主体とする
⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、以下のアクティブ・ラーニングを取り入れる。
①実際の商取引における仕訳の方法等についてのディスカッション
②実際の商取引で用いる会計ソフトウェアや証憑書類を用いた実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

＜予習＞テキストを読み、例題を解く。授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）
＜復習＞授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する積極的な態度、小テストなどの平常点50% + 定期試験50%
フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

＜教科書＞

伊藤 正義（著）2024年2月18日　初学者・留学生が合格できる 全経簿記３級テキスト＆模擬問題集
※「簿記入門Ⅰ」と同じ教科書です　日本能率協会マネジメントセンター
(編著)TAC株式会社 2025年3月20日　合格ドリル 日商簿記3級 Ver.15.0　TAC出版

＜参考書＞

(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記　ネットスクール出版
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年2月20日　全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記　ネットスクール出版
(編著)TAC株式会社 2025年2月27日　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	簿記の基本原理と会計処理
2	期中取引①	商品売買 現金・預金 小口現金 クレジット売掛金
3	期中取引②	手形取引・電子記録債権債務・その他取引
4	期中取引③	さまざまな帳簿の関係 現金出納帳・当座預金出納帳・商品有高帳・売掛金元帳・買掛金元帳
5	期中取引④	さまざまな帳簿の関係 仕入帳 売上帳 受取手形記入帳 固定資産台帳 / 試算表
6	決算①	決算整理仕訳：現金過不足・売上原価・貸倒れ

7	決算②	決算整理仕訳：減価償却・貯蔵品・当座借越
8	決算③	決算整理仕訳：経過勘定項目
9	決算④	決算整理後残高試算表 精算表
10	決算⑤	帳簿の締め切り
11	決算⑥	貸借対照表と損益計算書
12	株式会社会計	株式の発行・剰余金の配当・税金
13	証票と伝票①	証ひょう請求書 領収書 当座勘定照合表 法人税の領収済通知書
14	証票と伝票②	入金伝票 出金伝票 振替伝票

科目コード	T220105				区　分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅱ［②］				担当者名	武末　朝生			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
①本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。
②簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。
③また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。
④簿記入門Ⅰで学んだ知識をもとに、全経３級では取り扱わなかった会計処理や帳簿組織等の論点に重点を置く。
⑤日本商工会議所主催の簿記検定試験「３級商業簿記」（以下「日商3級」）を受験し、合格することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
①日商３級に合格するための知識を身につける。
②簿記の意義や複式簿記の仕組みを理解できるようになる。
③基本的な取引の仕訳ができるようになる。
④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを説明できるようになる。

＜授業の方法＞
①授業の開始時に、前回の復習を行う。
②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う。
③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること。
④手書きの問題演習を主体とする。
⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。
①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
③GoogleClassroomのデジタル教材などを通じて、適宜、フォローアップする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①予習：教科書を読んで例題を解き、授業で取り扱う内容について事前に確認して、質問をまとめておく。（1時間）
②復習：授業で取り扱った練習問題を解いて復習し、追加で配布される練習問題がある場合には解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価方法：授業に対する積極的な態度・小テストなどの平常点 50%、定期試験 50%
フィードバック：授業時間中に、演習問題の解答・解説を行う。

＜教科書＞
伊藤 正義 （2024年2月18日）　初学者・留学生が合格できる 全経簿記３級テキスト＆模擬問題集（※「簿記入門Ⅰ」と同じ教科書です。）　日本能率協会マネジメントセンター
ＴＡＣ簿記検定講座（2025年3月20日）　合格ドリル 日商簿記3級 Ver.15.0（※「簿記入門Ⅰ」と同じ教科書です。）　TAC出版

＜参考書＞
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之（2024年2月20日）　全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記　ネットスクール出版
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之（2024年2月20日）　全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記　ネットスクール出版
(編著)TAC株式会社　（2025年2月27日）第15版　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	簿記の基本原理と会計処理
2	期中取引①	商品売買・現金・預金・小口現金・クレジット売掛金
3	期中取引②	手形取引・電子記録債権債務・その他取引
4	期中取引③	さまざまな帳簿の関係：現金出納帳・当座預金出納帳・商品有高帳・売掛金元帳・買掛金元帳
5	期中取引④	さまざまな帳簿の関係：仕入帳・売上帳・受取手形記入帳・固定資産台帳

		試算表
6	決算①	決算整理仕訳：現金過不足・売上原価・貸倒れ
7	決算②	決算整理仕訳：減価償却・貯蔵品・当座借越
8	決算③	決算整理仕訳：経過勘定項目
9	決算④	決算整理後残高試算表・精算表
10	決算⑤	帳簿の締め切り
11	決算⑥	貸借対照表と損益計算書
12	株式会社会計	株式の発行・剰余金の配当・税金
13	証ひょうと伝票①	証ひょう：請求書・領収書・当座勘定照合表・法人税の領収済通知書
14	証ひょうと伝票②	入金伝票・出金伝票・振替伝票

科目コード	T220105				区　分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅱ［再履］				担当者名	武末　朝生			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
①本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。
②簿記を学修することにより、経営・経済を理解するために必要な基礎知識を修得することができる。
③また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。
④簿記入門Ⅰで学んだ知識をもとに、全経３級では取り扱わなかった会計処理や帳簿組織等の論点に重点を置く。
⑤日本商工会議所主催の簿記検定試験「３級商業簿記」（以下「日商３級」）を受験し、合格することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
①日商３級に合格するための知識を身につける。
②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ。
③基本的な取引の仕訳ができるようになる。
④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。

＜授業の方法＞
①授業の開始時に、前回の復習を行う。
②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う。
③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること。
④手書きの問題演習を主体とする。
⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
③GoogleClassroomのデジタル教材などを通じて、フォローアップする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テキストを読んで例題を解き、授業で取り扱う内容について検討して質問をまとめておく。（1時間）
復習：授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価方法：授業に対する積極的な態度・小テストなどの平常点 60%、期末テスト 40%
フィードバック：授業時間中に、演習問題の解答・解説を行う。

＜教科書＞
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之（2024年2月20日）　全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記（※「簿記入門Ⅰ」と同じ教科書です。）　ネットスクール出版
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之（2024年2月20日）　全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記（※「簿記入門Ⅰ」と同じ教科書です。）　ネットスクール出版

＜参考書＞
(編著)TAC株式会社（2025年2月23日）第15版　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版
(編著)TAC株式会社 2025年2月23日第15版　よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級Ver15.0　TAC出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	簿記の基本原理と会計処理
2	期中取引①	商品売買・現金・預金・小口現金・クレジット売掛金
3	期中取引②	手形取引・電子記録債権債務・その他取引
4	期中取引③	さまざまな帳簿の関係：現金出納帳・当座預金出納帳・商品有高帳・売掛金元帳・買掛金元帳
5	期中取引④	さまざまな帳簿の関係：仕入帳・売上帳・受取手形記入帳・固定資産台帳 試算表

6	決算①	決算整理仕訳：現金過不足・売上原価・貸倒れ
7	決算②	決算整理仕訳：減価償却・貯蔵品・当座借越
8	決算③	決算整理仕訳：経過勘定項目
9	決算④	決算整理後残高試算表・精算表
10	決算⑤	帳簿の締め切り
11	決算⑥	貸借対照表と損益計算書
12	株式会社会計	株式の発行・剰余金の配当・税金
13	証ひょうと伝票①	証ひょう：請求書・領収書・当座勘定照合表・法人税の領収済通知書
14	証ひょうと伝票②	伝票：入金伝票・出金伝票・振替伝票

科目コード	T220107				区　分	専門基礎			
授業科目名	SDGs入門				担当者名	前野　一夫			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
「持続可能な開発目標（SDG's: Sustainable Development Goals)」は2015年国連サミットで加盟国全会一致で採択され、21世紀前半への17のゴール及び169のターゲットから構成されている。本科目ではこのSDG'sの概要と、その達成に向けた取り組みの事例と考え方を学ぶことで目標への貢献を考える。持続可能性とは、限られた資源を有効に循環させながら豊かで快適な生活を維持する循環型社会をめざすビジネスコンセプトである。生活の衣食住・文化から経済や地球規模の環境問題まで幅広い分野を総合的に学び、現代社会で必要不可欠なSDG'sの実践的な知識と能力の基本概念を身につけることを目標とする。

＜授業の到達目標＞
持続可能な社会の構築・維持に向けて、各人が問題意識を持ち、事例や背景理念の歴史や展開を学ぶと共に、具体的な課題発見と、その解決に向けて行動できるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
座学による授業が中心であるが、動画配信・視聴を行って国内外の現状を把握する。さらに学生間、及び学内外有識者との意見交換の機会を設けることも想定している。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング要素は有り。一連の座学と、数回のグループワーク・プレゼンテーションを組み合わせる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容の確認事項の準備（1時間半程度）、振り返りレポートの纏めと用語集の作成（1時間半程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト15%、学習意欲と授業態度20%、課題レポート15%、定期試験30%、グループワークとプレゼンテーション20%

＜教科書＞
授業の際にレジメを配布する。

＜参考書＞
環境・循環型社会・生物多様性白書（https://www.env.go.jp/policy/hakusho/
2024,2025,2026エネルギー白書（経済産業省・NEDO）

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の目的と概要、本授業の意義、授業の進め方の説明。SDG'sと各学生の問題意識の洗い出しと整理・グループ化。	履修説明、講義の目的、サステイナビリティ（持続可能性）とは、SDG'ｓの説明と歴史などの導入とグループ討議
2	地球の環境と生命の歴史、および国内外のエネルギー資源の歴史と現状。日本及び世界の経済とSDG'ｓ	地球環境と生命の歴史、人間圏（宇宙と地球の歴史、生命の発生と人類の歴史等）。経済とエネルギー資源の関係。
3	環境問題の歴史的概説（世界と日本）。資源の6分類と人間社会と自然環境に与える影響。	人類の文明と環境の関係、環境問題の歴史等を学習し、現代の地球温暖化等SDG'sに関する記事例（各種Webや日経電子版等）調査。
4	持続可能な開発目標（SDG'ｓ）とは？私達がすぐに取り組み可能な目標と、我が国と世界のSDGs中長期目標との関連性。	現在の国連の資料によるSDG'sの考え方（17の目標）と、現代日本で私達が取組み可能な問題との関連性を学ぶ。
5	現代生活における資源と環境の関係、およびSDG'sの問題点と対応について、事例紹介とグループ討議	第1回～第3回までの授業で顕在化した、現代の私達の生活とSDG'sへの問題点と課題対応、事例紹介等をグループ討議。

6	防災―日本の自然災害からの持続性問題とSDG's	我が国の自然災害・都市災害の現状と防災について調べ、問題の項目化を行う。防災と私達の可能な対策の洗い出し。
7	環境と食生活、および食品ロスについてSDG'sの観点から。第3クォーターの振り返り、まとめ。	食と栄養。三大栄養素に関して各自の食生活を振り返る。また世界の食糧問題について、食品ロスの取組み例を学ぶ。第3クォーター授業内容の振り返りとまとめ。
8	環境とファッション・衣類に関するSDG's	生活とファッションに関し、持続可能なファッションとは何かを学び、衣類等の循環とSDG'sに関する現代の問題を学ぶ。
9	住環境・都市環境と人間生活におけるSDG's	現代の自然環境激変に対応した住環境・都市インフラ環境の問題点を学ぶ。現代的季節問題解決の議論。エネルギー問題と都市・住環境における最適設計思想・断熱、再生エネルギーとは。
10	エネルギー安全保障の問題・日本のエネルギーミックスの考え方、エネルギーと経済、および災害大国の日本の問題点。	エネルギー安全保障とは何か？国内外の状況・国際紛争問題とSDG'sとの関連、資源ナショナリズムとその現状。
11	日本のエネルギーミックスの施策と再生可能エネルギーの現状について	災害大国日本におけるエネルギーミックスの最適化と、再生可能エネルギーの位置づけ、およびそのコスト等日本の経済経営との関係を学ぶ。
12	再生可能エネルギーの現状について１（太陽光発電・風力発電について）	再生可能エネルギーの種類、およびそれらのコストと便益(benefit)の現状と安全保障への寄与。安定供給の形など。風力発電・洋上風力発電の現状と問題点。風力発電の都市エネルギー網（グリッド）への組入れ、エネルギー貯蔵等について。
13	再生可能エネルギーの現状について２（バイオマス・水力・地中熱発電など）	水力発電の歴史と現状、日本の水事情と今後の展開等。日本の新エネルギーProjectの歴史と成果。新概念のエネルギーについて。エネルギー計画の柱と我が国経済への影響。
14	これまでの授業の振り返りを含めたグループ討議、およびまとめ。	本学部学生として国内外のSDG'sに対して、最も有効的な行動に関してグループ討議を行い、指針と行動を策定する。それらの結果を各グループのテーマの提言としてまとめを行う。

科目コード	T220108				区　分	専門基礎			
授業科目名	マクロ経済学［週2オンデマンド］				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本講義では、国内総生産（GDP）、物価、利子率、失業率等の経済指標をもとに、日本および世界経済におけるマクロ経済活動の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるのかを学ぶ。さらに、マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割について理解を深め、これらの政策が実際の経済データ等を用いてどのような影響を与えるかを学ぶ。

＜授業の到達目標＞

1. GDP、消費、投資、物価、失業率など、マクロ経済学の基本概念を説明できる。
2. 財政政策・金融政策の基本的な仕組みを理解し、日本経済や世界経済との関係を説明できる。
3. マクロ経済学の基礎理論を用いて、現実の経済問題について自分の考えを整理・表現できる。

＜授業の方法＞

本講義はオンデマンド形式で実施する。各回、配信された講義動画および配布資料をもとに、受講者が各自で学習を進める。講義資料は電子データで配布するため、学生自身が必要に応じて印刷または端末上で閲覧し、重要事項をノートに整理すること。
また、各回の内容については課題を課し、授業内容の理解を確認する。必要に応じて、各種Webサイト等を活用しながら関連情報を調べ、理解を深めることが望ましい。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

オンデマンド動画の視聴（これは準備学修時間には含まれない）とは別に、各回で例えば、以下の学修（およびその必要時間）を想定している（計180分）。

・該当箇所のテキストを各自で読み、理解する：40分
・学修対象の内容をノートに取りまとめ、理解を深める：40分
・指定のテキスト以外の資料（Webや他の書籍等）を用いて調査を行う：50分
・指示された課題に取り組み、提出する：50分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の課題提出内容により評価する。課題は、授業内容の理解度に加え、自分の言葉で説明・整理できているかを重視する。
学習意欲 20%、小テスト 40%、課題提出 40%

＜教科書＞

家森 信善（2026/1/21）　【ベーシック+】マクロ経済学の基礎(第3版)　中央経済社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、学修方法（テキストの読み方・ノート作成方法・提出方法）の説明。マクロ経済学の全体像と、本授業で扱う内容の位置づけ。
2	GDPとは何か	GDPの定義、最終財と中間財、付加価値の考え方。経済規模を測る指標としてのGDPの意味。
3	GDPの計測	名目GDPと実質GDPの違い、物価変動の影響、実質化の考え方。経済成長率の基本的な見方。
4	消費	消費の決定要因、消費関数の考え方、所得と消費の関係。限界消費性向・平均消費性向の意味。
5	投資	投資の概念と役割、投資の決定要因。投資の限界効率と利子率の関係。
6	政府支出	政府支出の役割、財政政策の基本的な考え方。景気と政府支出の関係。
7	総需要	総需要の構成（消費・投資・政府支出）、各要素の関係。総需要曲線の基本的な考え方。
8	45度線分析①	45度線分析の基本構造、均衡所得の決定。総需要と所得の一致の意味。
9	45度線分析②	乗数効果の仕組み、政府支出や投資の変化が所得に与える影響。

10	IS曲線①	財市場における均衡、投資と利子率の関係。総需要と利子率のつながり。
11	IS曲線②	IS曲線の導出と性質。財政政策がIS曲線に与える影響。
12	LM曲線	貨幣市場の仕組み、貨幣需要と貨幣供給。利子率の決定とLM曲線の考え方。
13	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線の同時均衡。財政政策・金融政策が所得と利子率に与える影響。
14	総まとめ・試験	本授業の内容の整理と確認。主要概念（GDP、消費、投資、45度線、IS-LM）の総復習および期末試験。

科目コード	T220109				区　分	専門基礎			
授業科目名	ミクロ経済学［週2オンデマンド］				担当者名	古松　丈周			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマンド	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、ミクロ経済学の基本的な考え方について、需要と供給を中心に検討してゆく。そのうえで、不完全競争市場、ゲーム理論、市場の失敗についても検討し、現実の経済問題を経済理論から理解することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
（1）消費者、企業の行動原理を理解することができる。
（2）経済理論によって経済現象を説明することができる。
（3）市場の失敗について分析することができる。

＜授業の方法＞
講義形式で進める。適宜、問題演習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり：シンク・ペア・シェア、ディスカッションなど。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の講義のトピックについて調べておく（1時間程度必要）
復習：レジュメを整理し、問題を解く（1時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義での課題（60%）と総復習課題（40%）

＜教科書＞

＜参考書＞
安藤至大（2021）　ミクロ経済学の第一歩〔新版〕　有斐閣
八田達夫（2013）　ミクロ経済学Expressway　東洋経済新報社
神取道宏（2014）　ミクロ経済学の力　日本評論社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1　イントロダクション 経済学を学ぶ目的	希少性と選択、機会費用について学ぶ
2	2　市場メカニズム① 「需要」と「供給」	買手と売手の行動がどのようにして市場を動かすのかを学ぶ
3	3　市場メカニズム② 需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線の性質や動きについて学ぶ
4	4　消費者の理論① 限界効用理論	効用の変化と選択の関係について学ぶ
5	5　消費者の理論② 代替効果と所得効果	価格の変化と所得の変化が選択に与える影響を学ぶ
6	6　企業の理論 限界費用と利潤最大化	生産量と費用の関係について学ぶ
7	7　市場と効率性 余剰理論	市場経済によって余剰がどのように産まれるのかを学ぶ
8	8　独占市場と寡占市場 独占企業と寡占企業の行動	独占企業、寡占企業の行動が経済に与える影響を学ぶ
9	9　ゲーム理論入門 ナッシュ均衡、囚人のジレンマ	自分の行動が相手の行動によって決まる状況を分析します。
10	10　市場の失敗① 外部性	市場取引が関係のない第三者に影響を受ける、与える現象を学ぶ

11	11　市場の失敗② 公共財とフリーライダー	多くの人が使用するものをどのように維持するのかを学ぶ
12	12　市場の失敗③ 情報の非対称性	売り手と買い手が持つ情報量に差がある場合、市場にどのような影響を与えるのかを学ぶ。
13	13　ミクロ経済学の最前線 人間は本当に合理的か	ミクロ経済学は人間が合理的であると仮定してきたが、現実的ではない。最新の知見を学ぶ。
14	14　ミクロ経済学とマクロ経済学 ミクロ経済学とマクロ経済学の関係	ミクロ経済学とマクロ経済学がどのような関係にあるか、学ぶ。

科目コード	T220110				区　分	専門基礎			
授業科目名	民法Ⅰ(総則)				担当者名	藤原 究			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	講義

＜授業の概要＞
民法169条までに規定される民法総則について基本的な概念や制度の意義を学ぶ。
講義では、私たちが日常生活の中で接しうる身近な具体的事例を示しながら特に重要なポイントについて説明する。民法総則は今後の民法学習全般に関わる部分です。民法総則の学習を通じて、民法学習に必要な基礎知識を習得する。

＜授業の到達目標＞
民法の総則部分についての基礎知識や原則を理解するとともに、社会における民法の果たす役割や機能を理解する。
民法に関わる問題を制度に合わせて理解し、その解決の道筋を理解できるようにする。

＜授業の方法＞
パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは特に指定しない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
第1回【予習】民法の構造を、テキスト等で再確認しておく（90分）【復習】講義で学習した事項の復習（90分）
第2回以降の各回【予習】今後の学習内容について事前に確認する（90分）【復習】講義で学習した事項の復習（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
確認テスト70%　平常点（レポート・授業参加の姿勢）30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	今後の学習予定とその方法について　民法の構造
2	法律行為・意思表示	法律上の行為、意思表示のいみについて学習する
3	法律行為の解釈・公序良俗	効率行為の解釈の方法、判断要素としての公序良俗の意味合いを考える。
4	意思表示総論	法律行為のプロセスにおける意思表示の果たす意味について考える。
5	心裡留保・虚偽表示	正常でない意思表示についての法的対応を分析する。
6	錯誤	内心の意思と表示に食い違いがある状態を法的にどう評価されるかを学ぶ。
7	詐欺・強迫	表意者による意思の形成過程に瑕疵がある場合の法的評価を学ぶ。
8	ここまでの振り返り	ここまでの確認を踏まえて今後の学習に活用する。
9	代理制度	代理人の行為を本人に帰属させる代理の仕組みを学ぶ
10	無権代理・表見代理	代理に必要な要件が整わない場合にどのような対応があるか学習する。
11	時効	時効制度の概要を学習する。
12	ここまでの振り返り	これまでの学習内容を振り返り学習の到達状況を考える。
13	時効の援用	時効の効果を享受するのに必要な行為について学ぶ。
14	全体のまとめ	全体の学習を振り返り、民法総則分野における学習内容の定着を図る。

科目コード	T220111				区　分	専門基礎			
授業科目名	マーケティングリサーチ				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
市場のニーズに適合する新商品を開発したり、発売された商品が顧客に認知されているかを調べる際、市場調査が行われる。市場調査には大きく2つの方法(定量調査と質的調査)がある。これら２つの方法をバランスよく組み合わせることで、現実を反映した調査が可能になる。アンケートおよびインタビュー調査の手法を理解することを実践的に学習する。

＜授業の到達目標＞
受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。
（1）マーケティングリサーチの基礎知識を身につける。
（2）調査の目的を明確に設定し、適切なリサーチデザインを企画できる。
（3）定量調査と質的調査の違いやそれぞれの活用方法を理解し、実際にアンケートやインタビューを設計・実施することで、データ収集の手法を適切に使ことができる。
（4）収集したデータを整理し、適切な分析手法を用いて解釈するスキルを習得する。

＜授業の方法＞
オンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として次回授業で扱う基本事項の整理と事前課題を課す（想定学習時間：約60分）。理解を深めるための復習課題を毎回課す（想定学習時間：約120分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題提出 50%、最終課題 50%を目安に評価する。

＜教科書＞
使用せず。

＜参考書＞
適宜紹介します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：社会調査とマーケティングリサーチ	社会調査とマーケティングリサーチの違い、定量調査と質的調査の概要、市場調査の役割について、身近な事例をもとに学ぶ。今後の講義の進め方と評価方 法についても説明する。
2	調査の目的・歴史・倫理	マーケティングリサーチの目的およびその歴史的な変遷について学ぶ。市場調査がどのように発展してきたのかを理解し、調査がもたらす影響について考察する。また、リサーチにおける倫理的な問題についても取り上げ、過去に発生した問題事例をもとに、注意すべき点を議論する。受講生同士で意見を交換し、調査を行う上での倫理的配慮について理解を深める。
3	調査方法	マーケティングリサーチにおける定量調査と質的調査の基本的な手法を学び、それぞれの適用場面を理解する。アンケート調査やインタビュー調査の具体的な進め方を学びながら、異なる調査方法の特性を比較する。授業の後半では、架空の企業を想定し、その企業が抱える課題に対してどの調査方法を選択すべきかをグループで検討し、発表する。
4	調査企画	マーケティングリサーチにおける定量調査と質的調査の基本的な手法を学び、それぞれの適用場面を理解する。アンケート調査やインタビュー調査の具体的な進め方を学びながら、異なる調査方法の特性を比較する。
5	調査テーマの決定	適切な調査テーマを選定するための基準を学ぶ。KJ法・ブレーンストーミング・特性要因図などを用いながら、実際に各グループで調査テーマを決定し、それがマー

		ケティング上どのような意義を持つのかを検討する。
6	全数調査と標本調査	全数調査と標本調査の違いや、それぞれのメリット・デメリットについて学ぶ。実際のビジネスシーンを想定し、どのような場面で全数調査が有効であるか、標本調査をどのように設計するかを考察する。
7	サンプリング	サンプリングの基本概念を学び、無作為抽出や層化抽出などの代表的なサンプリング手法について理解を深める。実際の調査デザインの中で、どのようにサンプルを選定するかを考える。
8	調査票の作り方	適切な調査票を作成するためのポイントを学ぶ。質問の構成やバイアスを避ける方法について学びながら、実際の調査票を作成する。
9	調査データの整理：エディティング、コーディング、データクリーニング	調査データの前処理について学ぶ。欠損値の処理やデータの整理方法を理解し、実際にサンプルデータを用いてデータクリーニングを実施する。
10	調査票調査の分析	定量データの分析方法を学ぶ。平均値や分散、クロス集計などの基本的な統計手法を活用し、データの特徴を把握する方法を理解する。実際のデータを用いた分析を行い、結果を考察する。
11	質的調査：観察・参与観察	質的調査の手法の一つである観察調査について学ぶ。参与観察と非参与観察の違いを理解し、どのような場面でそれぞれが有効であるかを考察する。
12	質的調査：インタビュー調査	インタビュー調査の設計と実施方法について学ぶ。インタビューの種類（構造化、半構造化、非構造化）を比較し、それぞれの特徴を理解する。
13	質的調査の分析	質的データの分析方法（コーディング、テーマ分析など）について学ぶ。過去の事例を用いながら、データをどのように整理し、意味を見出していくかを考察する。
14	調査報告書のまとめ方	データの解釈をどのように文章化し、説得力のあるレポートに仕上げるかを考察する。

科目コード	T220112				区　分	専門基礎			
授業科目名	ビジネス心理学				担当者名	田原　俊司			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義では、マーケティング活動の販売や営業分野での心理学の原理と事例を中心に、企画や統計解析を使う方法等を理解することを目指す。具体的にはマーケティングで用いる行動心理学の原理を修得し、どのように行動心理学の原理を実際のマーケティング活動場面で応用するのか思考実験する。また、キャリア、モティベーション、ストレス等、個人と組織で二次的に起こる様々な問題について、心理学的知見から、その原因を見立て、対応策をとることができるようにする。

＜授業の到達目標＞

・事前学習にしっかりと取り組み、講義内容で「分かること」と「分からないこと」を区別できようになる。
・解説やグループディスカッション、発表を通して「なぜそうなのか？」を理解し、他者に説明できる。
・本講義で得られた知見を、思考実験上のマーケティング活動に活用・応用し、実践できるようになる。

＜授業の方法＞

１．出席確認と事前提示資料の内容理解確認小テスト（10分）
２．解説・質疑（40分）
３．設定した課題に対するグループディスカッションと発表(20分)
４．解説・質疑・意見交換（20分）
５．リフレクションシートの作成・提出（10分）
※授業関連の活動（資料の提示、内容理解確認テストの提出、リフレクションシートの提出等）については、Google Classroomで行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループディスカッションやネット検索を通して「予習し議論に備える姿勢」「知識を主体的に学ぼうとする姿勢」「考えの異なる人と議論しようとする姿勢」を身につけるとともに、発表により簡潔に分かりやすく他者に意見・説明を伝えることができるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：事前にGoogle Classroomにより提示された資料を読み、内容を要約。要約した内容はGoogle Classroomにより提出する（90分程度）。
・復習：提示された資料、および講義終了時に提出したリフレクションシートを再確認し、必要に応じて提出したリフレクションシートを修正する（90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、内容理解確認小テスト 15%、グループディスカッションへの貢献度 20%、リフレクションシートの提出 15% 、最終課題 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	マーケティングで用いる行動心理学の原理(1)	クレショフ効果、テンション・リダクション効果、アンカリング効果、ザイオンス効果、カクテルパーティー効果、ウィンザー効果、リフレーミング効果、アンダードッグ効果、シャルパンティエ効果、
2	マーケティングで用いる行動心理学の原理(2)	コンコルド効果、ツァイガルニク効果、松竹梅の法則、プライミング効果、フット・イン・ザ・ドア、ドア・イン・ザ・フェイス、バーダー・マインホフ、ダブルバインド、プロスペクト理論
3	マーケティングで用いる行動心理学の原理(4)	ディドロ効果、ハロー効果、バンドワゴンとスノッブ効果、返報性の原理、カリギュラ効果、アンダーマイニング現象、ヴェブレン効果
4	仕草の心理学	ビジネス場面での「なだめ行動」「仕草の意味」
5	マーケッティングで用いる統計解析(1)	記述統計
6	マーケッティングで用いる統計解析(2)	平均値の差の検定（分散分析）
7	マーケッティングで用いる統計解析(3)	相関、重回帰分析

8	ストレスマネジメント	自律神経とストレスチェック、ストレス軽減法
9	ハラスメント	法令で定められているハラスメントとその定義、対応
10	適応障害	定義と対応法
11	インポスター症候群・ＨＳＰ	定義と対応法
12	アンガーマネジメント	怒りの正体とコントロールの方法
13	クレーマー対応	クレーマーの心理と具体的対応法
14	まとめ	１～14回の学習内容を最終課題として提出

科目コード	T220114				区　分	専門基礎			
授業科目名	ビジネス特別講義Ⅱ				担当者名	上田　隆穂			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習　Max 20名程度	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
テーマは、『ケースで学ぶマーケティング』とする。
2回程度で1つのショートケースを学ぶ。マーケティング関連のシュートケースを5～7つ程度ピックアップして、6名程度に分かれたグループ内部で討論を行う。
討論ではメモを取りながら、行う必要がある。1回でグループ内討論をまとめ、２回目で全体へのプレゼンを行い、全体討議を行う。
ただし、やや内容の多いケースについては、2回で終わらず、3回、4回になることもありうる。

＜授業の到達目標＞
実際にビジネス問題に直面した時、どのような方法を用いて、どのようなプロセスで解決可能かを理解できるようになる。併せてグループでの討論の仕方を学び、プレゼンテーションを行う能力を高める。

＜授業の方法＞
テーマごとにグループメンバーを入れ替え、班内討論を行い、まとまった結論で全体討論を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング。複数の班に分け、テーマに沿って班内で討論をし、結果をまとめる。各班は、それを全員の前で報告し、全体で討論を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習９０分、事後学習９０分。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲40%、学習態度20%、普段の報告プレゼン40%。

＜教科書＞
特になし　ショートケースはその都度、配布する。第

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ショートケースその１　片岡物産のコーヒー市場参入	２つの意思決定について是か非かをグループ内で議論し、まとめる。
2	ショートケースその１　片岡物産のコーヒー市場参入	班ごとの報告と全体での討論の実施
3	ショートケースその２　B眼鏡の問題解決	B眼鏡を取り巻く事業環境を分析し、B眼鏡はどういう意思決定を行うべきかをグループ内で議論し、まとめる。
4	ショートケースその２　B眼鏡の問題解決	班ごとの報告と全体での討論の実施
5	ショートケースその３　ヨシオカ屋とシズオカ屋はどう進むべきか	両スーパーマーケットを取り巻く事業環境を分析し、両スーパーマーケットはどういう意思決定を行うべきかをグループ内で議論し、まとめる。
6	ショートケースその３　ヨシオカ屋とシズオカ屋はどう進むべきか	班ごとの報告と全体での討論の実施
7	ショートケースその4　2000年前後のヤマハの苦境	いかに困難な状況から脱するかをグループ内で議論し、まとめる。
8	ショートケースその4　2000年前後のヤマハの苦境	班ごとの報告と全体での討論の実施(内容が多いので、さらに回数を増やす可能性がある)
9	ショートケースその5　ベンチャー企業M技研の悩み	ベンチャービジネスとして岐路に差し掛かったM技研がどのような解決策を考えるべきかをグループ内で議論し、まとめる。
10	ショートケースその5　ベンチャー企業M	班ごとの報告と全体での討論の実施

	技研の悩み	
11	ショートケース5　ボルビックの価格戦略	ボルビックはなぜ高くても売れるのかをグループ内で議論し、まとめる。
12	ショートケース5　ボルビックの価格戦略	班ごとの報告と全体での討論の実施
13	これまでの振り返り	これまでの振り返りだが、以前のケースで伸びた場合のアローアンス（ゆとり）とする場合もある。
14	これまでの振り返り	これまでの振り返りだが、以前のケースで伸びた場合のアローアンス（ゆとり）とする場合もある。

科目コード	T220116				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	プロジェクト研究				担当者名	佐々木　庸子			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「文化（芸術・芸能活動）」を”産業”にするためには、どうするべきか。それには、新しい価値観を創造し、的確に届けることが必要である。この授業では、芸能的創造物（演劇）を制作することを主とし、制作物にどのような文化価値観があるかを見極め、文化におけるビジネスチャンスを考えることを学ぶ。文化面において、まだまだ開拓の余地のある日本で、DP② 経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得することを目的にしている。

＜授業の到達目標＞

・創造物をプロデュースする一連の流れを知ることができる
・創造物の制作過程を知ることで、文化的価値に対する適切な目線を得ることができる
・創造物のビジネスチャンスをどう見出し、どう発信して行くのか、その目線を得られる

＜授業の方法＞

初回は講義になります。2回目以降は、台本を使った演劇制作（技術的なレッスン）になり、台詞の読み合わせ→立ち稽古→場当たり→本番 という大きな流れの中で、その都度必要なことを授業で行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。
この授業は、「座学」と、演劇の「制作」を行います。「制作」においては、ディスカッション・リベート、グループワーク等行いつつ、作品制作をします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

※授業は「答え合わせの場」、そして、「演劇制作の場」と捉え、宿題や課題を仕上げ、予習復習をし、疑問点を整理して挑むようにして下さい。
・宿題課題の作成（60分）
・授業内容の復習（60分）
・台詞台本の覚え込み／演技の研究（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・関心度）50%、課題準備・レポート提出等40%、習熟度10%

＜教科書＞

特に出版物は使用せず、必要に応じて資料・台本を配布します

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	カルチャーにおける興行・産業の仕組み	舞台興行のスタッフについて・舞台興行の収支と流れ 講師：冨田昌則　先生(演出家・俳優・殺陣師)
2	舞台を制作してみよう	冨田 昌則 先生(演出家・俳優・殺陣師）による、演出指導
3	舞台を制作してみよう	台本の読み合わせ
4	舞台を制作してみよう	台本の読み合わせ・配役
5	舞台を制作してみよう	お稽古①
6	舞台を制作してみよう	お稽古②
7	舞台を制作してみよう	お稽古③
8	舞台を制作してみよう	お稽古④
9	舞台を制作してみよう	制作についてのディスカッション
10	舞台を制作してみよう	制作／お稽古
11	舞台を制作してみよう	制作／お稽古

12	舞台を制作してみよう	制作／お稽古
13	舞台を制作してみよう	通し稽古　講師：冨田昌則先生(演出家・俳優・殺陣師)
14	制作発表・まとめ	授業の統括

科目コード	T220201				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	アジア太平洋のビジネス環境［週1オンデマンド］				担当者名	小川　正人			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

APEC（Asia-Pacific Economic Cooperation）は、21の国と地域からなる協議体である。これらの地域の経済は、世界でもっともダイナミックに展開しておりそのインパクトは大きい。本科目では、アジア太平洋地域（特に、ニュージーランド、オーストラリア、ASEAN諸国を中心）の文化、歴史、教育、政治、経済について幅広く取り扱い、次代を担う若者が、アジア太平洋地域のビジネス環境について目を向けていくことをねらいとする。

＜授業の到達目標＞

①国際経営にとって世界各国の経済・経営環境がいかに重要であるかを理解することができる。②アジア太平洋地域の経営環境や日本企業のアジア戦略、アジア諸国企業の企業構造・成長戦略を理解することができる。③対象国を様々な視点から理解することで、広い視野で国際経済の動きを理解することができる。

＜授業の方法＞

オンデマンド型授業である。課題管理はClassroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

オンデマンド授業のため、アクティブラーニングは活用しない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回とも、アジア太平洋諸国に関する情報収集を最低90分、授業の復習に最低でも90分をかけることが必要となる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・課題80%、最終課題20%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション・ガイダンス、 地政学からみたアジア	授業の概要・目的・課題・成績などの説明 地政学からアジアを考える
2	APEC・ASEAN	APEC・ASEANとは何か
3	インドネシア	インドネシアの経済とビジネス環境
4	マレーシア	マレーシアの経済とビジネス環境
5	シンガポール	シンガポールの経済とビジネス環境
6	フィリピン	フィリピンの経済とビジネス環境
7	ラオス	ラオスの経済とビジネス環境
8	ミャンマー	ミャンマーの経済とビジネス環境
9	カンボジア	カンボジアの経済とビジネス
10	タイ	タイの経済とビジネス環境
11	ベトナム	ベトナムの経済とビジネス
12	ブルネイ・東ティモール	ブルネイ・東ティモールの経済とビジネス
13	オーストラリア	オーストラリアの経済とビジネス
14	ニュージーランド・太平洋地域諸国	ニュージーランド・太平洋地域諸国の経済とビジネス

科目コード	T220203				区　分	専門基礎			
授業科目名	世界経済論				担当者名	藪内　正樹			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

モンゴル帝国は大陸を市場統合し、商人に資金を与えて配当を取る資本主義を萌芽させた。交易の大発展は西欧の欲望を刺激し、大航海時代や植民地主義をもたらした。第二次世界大戦後、植民地は独立し、グローバル化によって世界経済はさらに発展し、新興国の所得は向上したが、先進国の中間層は所得が低下、一部の富裕層に富が集中している。こうした歴史を追いながら、貿易理論や経済理論を学び、今日の問題にも目を向ける。

＜授業の到達目標＞

1. 経済や貿易の発展史と、それを説明する貿易・経済理論を理解し説明できる。
2. 世界の歴史を踏まえ、今日の世界経済が直面する問題を理解し、それらの課題を説明できる。

＜授業の方法＞

パワーポイント画面を事前に配信し、対面授業で投射しながら講義する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有。
①毎回、２～３のクイズを出して挙手によるアンケートを行う。
②「キーワード」あるいは「キーフレーズ」を、隣の人に質問したり答えたり、声に出して復唱したりする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

掲示された授業資料を事前に読み、分からない言葉や内容を調べる（90分）。
授業資料とノートを読み返し、質問があればUNIVERSAL PASSPORTで質問する。（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（２０％）
次の課題について理解した事、考えた事を書いて（500字以上）提出する。（８０％）
①人類史と経済発展（第１～８回授業）
②戦争と経済（第４～７、１３回授業）
③経済理論、貿易理論について（第８～１２回授業）
④貨幣、金融、AIなど現代経済の課題（第７、９、１０、１３、１４回授業）

＜教科書＞

＜参考書＞

金井雄一、中西聡、福澤直樹（202年8月12日）　『世界経済の歴史』　名古屋大学出版会
野口悠紀雄（2018年8月22日）　『世界経済入門』　講談社現代新書
古沢泰治（2022年5月25日）　『国際経済学入門』　新世社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	人類の文明史と世界経済	古代ギリシャ文明、一神教文明、文明の衝突、日本の文明
2	モンゴル帝国の人類史的意味	チンギスハンが創始した近代的軍隊組織、市場統合の意味を持つ大帝国、イスラム商人とヴェネツィア人旅行家の活躍、資本主義の萌芽、北宋が発明した紙幣の普及
3	大交易（大航海）時代と植民地主義	ポルトガルとスペインによる世界分割、宗教改革の打撃を海外信者獲得に求めたローマ教皇、ｱｽﾃｶ王国・マヤ文明・インカ帝国の滅亡、銀・香辛料・奴隷貿易
4	産業革命と国際分業、帝国主義の時代	技術革新と大量生産、国際分業、オランダとイギリスの台頭、金本位制、イギリスの覇権と自由貿易体制、有色人種で初の近代化・大日本帝国
5	世界大戦と大恐慌	保護主義、関税、通貨切下げ競争、ブロック経済、大恐慌と世界大戦
6	アメリカ中心の戦後体制	２度の世界大戦で戦場にならなかったアメリカ、ブレトンウッズ体制（IMF・世界銀行）、ドル基軸通貨体制、植民地の独立、GATTと貿易自由化
7	経済のグローバル化	ニクソンショックと変動相場制、多国籍企業の台頭、EU・ASEAN、NAFTAなど地域経

		済統合、中国の改革開放、グローバルサプライチェーン
8	世界の地域経済と経済協力協定	欧州（EU）、アジア（ASEAN、RCEP：ASEAN＋日中韓・オーストラリア・ニュージーランド)、北米（USMCA：アメリカ、メキシコ、カナダ）
9	貨幣（マネー）とは何か	金銀銅から紙幣・ペンマネー・キーボードマネー・デジタルマネー、信用創造、政府・中央銀行・銀行の金融システム、インフレ/デフレのメカニズム
10	決済手段と国際金融	為替と手形、外国為替市場、為替レート、購買力平価、金利平価、固定相場制／変動相場制、通貨危機
11	貿易理論①	比較優位（リカード）、要素賦存と国際分業（ヘクシャー＝オーリン・モデル）
12	貿易理論②	規模の経済、経済地理学と新貿易理論（クルーグマン）、産業集積、グローバル・バリューチェーン
13	世界経済の課題①	地政学と地経学、戦争、パンデミック、気候変動、所得格差と富の偏在
14	世界経済の課題②	AI（人工知能）で何がどう変わりつつあるか

科目コード	T220304				区　分	専門基礎			
授業科目名	韓国語Ⅱ				担当者名	國井　裕			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本授業では、韓国語Ⅰで身につけた基礎力を土台として、より実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。日常生活で頻繁に用いられる基本語彙や文法を体系的に学び、短い会話や文章を自力で理解・表現できる力を養う。さらに、買い物、飲食店、学校生活など身近な場面を想定した対話練習を行い、相手の発話を聞き取って適切に応答する運用力を高める。また、簡単な文章の読解や短い作文にも取り組み、韓国語で情報を受け取り、伝える力をバランスよく伸ばす。学習の最終段階では、TOPIKⅠ級合格程度の語彙・文法・読解・聞き取りを扱い、初級レベルの韓国語を実際の場面で使いこなせるようになることを目標とする授業である。

＜授業の到達目標＞
①日常生活の基本的な場面で、簡単なやり取りができるようになる
②ゆっくり・はっきりした韓国語を聞いて、必要な情報を理解し、短く応答できるようになる
③ハングルを正確に読み、短い文章を理解したり、簡単な作文ができるようになる

＜授業の方法＞
本授業では、韓国語Ⅰで身につけた基礎をさらに発展させ、初級レベルの表現を実際のコミュニケーションで使いこなせるようになることを目標として進める。授業は、講義による語彙・文法の導入、個別練習、ペアワークやグループワークを用いた対話活動、ロールプレイによる実践練習を組み合わせ、段階的に運用力を高める構成とする。
まず、日常場面で頻繁に用いられる文型や語彙について、例文提示と短い練習問題を通して使い方を確認する。その後、聞き取り課題やペアでの対話練習を取り入れ、相手の発話を理解しながら自然に応答できる力を養う。また、買い物・飲食・学校生活などの具体的な場面を設定したロールプレイを行い、実際のコミュニケーションに近い形で表現を使う練習を重ねる。さらに、短い文章の読解や簡単な作文にも取り組み、読み書きの力を総合的に伸ばす。
授業では Google Classroom 、動画教材などの ICT を活用し、語彙確認・音声練習・課題提出を効率的に行う。また、課題管理は Google Classroom を中心に行い、提出状況の確認やフィードバックをオンラインで共有する。初級学習者が無理なくステップアップできるよう、復習と理解確認を適宜行いながら進める授業方法である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、学習者が主体的に韓国語を使う機会を増やすため、アクティブ・ラーニングの視点を積極的に導入する。ペアでの会話練習や場面設定を用いたロールプレイを行い、授業で学んだ表現を実際のコミュニケーションに近い形で試す活動を取り入れる。また、学生同士が互いの発音や表現を確認し合うフィードバックの時間を設け、自分の課題に気づきながら改善につなげることを促す。こうした取り組みにより、知識を受け取るだけでなく、自ら使いながら学ぶ姿勢を育てることを目指す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学修（90分）：次回扱う文法項目と新出語彙を確認し、例文を読みながら意味と用法を整理する。また、授業で扱う会話文の音声を繰り返し聞き、音読・発音練習を行い、基本的な内容を理解しておく。
事後学修（90分）：授業で行った対話練習や聞き取り課題を繰り返し、発音やイントネーションを確認する。さらに、教科書や配布資料の練習問題を解き直し、理解が不十分な文法・語彙を復習するとともに、学んだ表現を用いて短い作文を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、授業への取り組み状況と学習成果を多面的に評価する。具体的には、学習態度 20%、小テスト 20%、課題提出 20%、期末試験 40% の割合で総合的に判定する。小テストや課題は返却時に個別コメントを付し、理解度や改善点を確認できるようにする。また、授業内活動では対話練習への参加度や表現の運用状況を評価する。期末試験では語彙・文法・簡単な記述を含む総合的な力を測定する。

＜教科書＞
キム・ミスク（2023年11月10日）　STEP UP 韓国語 初級１　Jリサーチ出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	日常の様子をたずねる表現	気持ちや体調などの状態を表す語彙を使い、相手の様子を尋ねたり答えたりする練習を行う。また、曜日に関する基本語彙を用いて、簡単な予定を述べられるようにする。
2	行動の説明と生活リズム	現在行っている動作を表す言い方を学び、日常生活の流れや行動の時間帯について簡単に説明できるようにする。

3	場所の説明とことばの変化	人や物の位置を示す表現を扱い、場所を説明する練習を行う。あわせて、ㅂパッチムを含む語の形が変化する仕組みを確認し、正しく使えるようにする。
4	誘いかけと数量の表し方	相手を活動に誘うときの言い方を練習し、漢数詞を用いた数量表現を身につける。場面に応じて自然に誘いかけられるようにする。
5	経験や出来事を語る	過去に行った行動や出来事を簡単に説明する練習を行う。また、場所とそこで行う活動を組み合わせて話すことで、表現の幅を広げる。
6	お願いと否定の伝え方	丁寧に依頼する際の言い回しを学び、相手に配慮した形でお願いができるようにする。また、行動を否定する表現を取り上げ、状況に応じて肯定・否定を使い分けられるようにする。
7	移動と目的を表す表現	移動を伴う行動の目的を説明し、行き来の方向を示す表現を練習する。場所の移動と目的語を組み合わせた発話を目指す。
8	数え方と簡単な依頼表現	固有数詞を使った数え方を学び、物を求める際の基本的な依頼表現を扱う。買い物場面などで自然に使えるようにする。
9	予定や意向を伝える表現	これから行う行動や計画を述べるための言い方を学び、自分の意向や今後の予定を自然に伝えられるようにする。日常生活や旅行など、身近な場面を想定しながら、未来の行動を表す表現を使い分ける練習を行う。
10	過去の出来事をたずねる	「いつ」「どこで」などの情報を尋ねる表現を扱い、過去の行動について質問・回答できるようにする。
11	希望や欲求を表す言い方	「〜したい」「〜したがっている」など、願望や希望を伝える表現を学び、旅行や趣味の話題で使えるようにする。
12	義務や必要性を示す表現	「〜しなければならない」など、必要性や義務を表す言い方を学び、生活習慣や健康に関する話題で使う。
13	状況描写と進行中の動作	天気や周囲の状況を説明し、現在起きている出来事を描写する練習を行う。
14	理由や背景を説明する表現 / 総まとめと実践練習	「〜ので」「〜から」など、理由を述べる表現を扱い、引っ越しや日常の変化について説明できるようにする。 TOPIKⅠ級レベルの語彙・文法を総復習し、簡単な会話・読解・作文を通して学習成果を確認する。

科目コード	T220305				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	メディアカルチャー論				担当者名	佐々木　庸子		
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、主に、芸術的創造物を分析し、審美を探るチカラを養います。”AIに負けない創造力”を得るためには、まず、世の中に出ている「作品を分析するチカラ」「創造物（著作された物）に対する価値を定めるチカラ」を備えることが求められます。ここで得たスキルが、ＤＰ③国内外における経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能として参画できることに発展して行きます。なお、受講者の興味に応じて、また、本シラバスに関係する事象が報道された場合や、相応しいゲスト講師がいらっしゃる場合等、講義内容を変更することがあります。

＜授業の到達目標＞
・創造物（著作物）に対する分析の仕方を心得て、審美を探ることができる。
・創作物（著作物）の制作過程を知ることで、文化的価値に対する適切な目線を得ることができる。

＜授業の方法＞
①出席・セッションタイム（アイスブレイク）（10分）
③宿題の発表とフィードバック（30分）
④講義／グループワーク・ロールプレイ・ディスカッション（40分）
⑤振り返り／次回の課題の説明（20分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・授業のために作成した資料の発表や、それに伴うディスカッションを行い、より多くの作品に興味・関心を持てるようにします。
・実習では、一人ずつ改善点を指摘しますが、その都度発表をし、習熟度を図ります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
※授業は「答え合わせの場」と捉え、課題を仕上げ、予習復習をし、疑問点を整理して挑むようにして下さい。
・ストーリーのある演出された作品（映像（映画・ドラマ等）、舞台）を週２本以上観て、分析した記録を付け、授業で発表する。（作品視聴＋記録作成90分）
・実習の内容の復習（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP５　国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（意欲・関心度）40%、課題準備・レポート提出等40%、習熟度20%

＜教科書＞
特に出版物は使用せず、必要に応じて資料を配布します。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、目的、評価についての説明
2	「著作物」とは？	創造著作物のできる背景を探る
3	『インタラクティブクリエーション』とは？	『インタラクティブクリエーション』とは何かを知る。 講義：前野　一夫　先生
4	作品分析概要①	創造著作物の成り立ち
5	作品分析概要②	創造著作物の「制作意図・背景」を探る方法を学ぶ
6	作品分析概要：映画編	「映画」の作品分析をする
7	作品分析概要：映画編	「映画」の作品分析をする
8	作品分析概要：映画編	「映画」の作品分析をする
9	作品分析概要：映像作品編（映画以外）	「映像作品」の作品分析をする
10	作品分析概要：映像作品編（映画以外）	「映像作品」の作品分析をする
11	著作権について学ぶ	音楽プロデューサーに学ぶ「著作権」とは？ 講義：外山 和彦　先生（音楽プロデューサー）
12	作品分析概要：舞台編	「舞台作品」の作品分析をする
13	作品分析概要：舞台編	「舞台作品」の作品分析をする

14	総まとめ・振り返り	授業の統括

科目コード	T220402				区　分	専門基礎科目			
授業 科目名	eSports産業概論				担当者名	糟谷　崇			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、近年急速に拡大しているe-sports産業を総合的に学ぶ。e-sportsはもはや単なる娯楽ではなく、プロスポーツ、メディア、教育、観光など多領域と接続しうる「新たな産業」として注目されている。授業では、まずe-sportsの歴史的展開や主要なゲームタイトル、国際大会などを概観し、その後、選手・チーム・リーグ・パブリッシャー・スポンサー・メディアなどから構成される産業構造を体系的に学ぶ。また、収益モデル、配信プラットフォーム、ファンコミュニティの形成など、デジタル時代の新しいビジネスのあり方についても考察する。さらに、e-sportsがもつ社会的意義や課題（教育、地域振興、法的問題など）にも着目し、ケーススタディや学生ディスカッションを通じて、自らの視点からe-sportsの未来を構想する力を養う。

＜授業の到達目標＞

1. e-sportsの歴史と発展を理解し、その産業構造を把握する。
2. e-sportsのビジネスモデル・収益構造・スポンサー戦略を分析する。
3. デジタル社会におけるe-sportsの社会的影響・課題を考察する。
4. 他産業（観光・教育・福祉など）との連携の可能性を探る。

＜授業の方法＞

本授業は、講義形式を基本としつつ、ディスカッションやケーススタディ、映像資料の活用、学生発表なども取り入れ、能動的な学びを促進する形式で進めます。e-sportsという実社会に近いテーマを扱うため、業界の動向や事例に即した具体的な内容を紹介しながら、産業構造や経営戦略、社会的意義について多角的に考察する力を育てます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、学生の主体的な学びを促進するために、以下のようなアクティブ・ラーニング手法を取り入れています：

1. ケーススタディ分析
   e-sports業界の実在のチーム・企業・イベントをテーマに分析し、発表やレポートにまとめる。
2. 最新ニュース共有ワーク
   授業冒頭に学生がe-sportsの最新ニュースを紹介し、簡単なディスカッションを行う。
3. ディスカッション／ワークショップ
   「e-sportsで地域を活性化するには？」などの問いに対し、グループで考え、意見交換する。
4. 期末プロジェクト発表
   e-sportsの未来や新しい企画を提案し、プレゼンテーションで発表。創造性を評価。
5. リアクションペーパー
   毎回の授業後に振り返りを記述し、理解を深めると同時に他者の意見に触れる機会とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

● 予習

授業前に指定するニュース記事や映像資料（YouTube、業界レポート等）を閲覧し、トピックに関する基本的な知識や現状を把握しておくこと。

所要時間の目安：60分／週

● 復習

授業内で扱ったスライドや配布資料をもとに内容を振り返り、リアクションペーパーの記述や、次回以降のケーススタディ準備を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・リアクションペーパー／小レポート：30%
・グループ発表・ケース分析：30%
・最終レポート：40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：e-sportsとは何か	用語定義、歴史的背景、世界と日本の現状、学術的視点からの意義
2	e-sportsの歴史と進化	アーケードからオンライン、プロ化の過程、キーイベントの紹介

3	e-sportsの産業構造（1）：プレイヤーとチーム	プロ選手のキャリア、チーム運営、スカウティングと育成
4	e-sportsの産業構造（2）：ゲーム会社と大会運営	パブリッシャーとデベロッパーの役割、e-sportsリーグ構造
5	ビジネスモデルと収益構造	広告、スポンサー、配信、チケット、グッズなど
6	メディアとe-sports：配信とファンコミュニティ	Twitch・YouTubeなどの配信プラットフォーム、SNS戦略
7	スポンサーシップとブランド戦略	スポンサー企業の参入目的、PR効果、コラボ事例分析
8	プレイヤーの労働環境と倫理	賞金、契約、メンタルヘルス、ドーピング、ジェンダー問題
9	e-sportsと教育	高校・大学でのe-sports、教育的価値、スキル育成との関係
10	e-sportsと地域活性化	地方自治体・観光施策、e-sports施設、地域経済との連動
11	e-sportsとグローバル化	世界のe-sports市場、アジア・欧米との比較分析
12	e-sportsと法制度	知的財産権、契約、プロ選手の法的地位、賭博との関係
13	ケーススタディ：成功するイベントと運営	世界大会の運営分析（例：LoL Worlds, VALORANT等）
14	総括	

科目コード	T220406				区　分	専門基礎			
授業科目名	プログラミング演習Ⅰ(Excel関数とPython)				担当者名	渡辺　亮／吉澤 陽介			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、Pythonを用いたデータサイエンスの基礎を、実データを用いた演習を通じて学ぶ。データの読み込み（CSV/Excel）、集計・可視化、簡単な統計的分析を扱い、データから問いを立て、検証し、結果を説明する一連の流れを身につける。Excelでの表計算や集計に慣れた受講者が、同様の操作をPythonで再現・拡張できるよう、適宜Excelでの考え方との対応関係にも触れる。

＜授業の到達目標＞
Pythonや表データを用いて基本的なデータサイエンスの処理ができる。

＜授業の方法＞
PCを用いたプログラミング演習。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。学生自身が学んだ技術を用いて課題に取り組む。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テキストを事前に読み、予習する（1時間）
課題に取り組む。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(30%)、課題(70%)

＜教科書＞
笹嶋 宗彦(編)（2021年04月05日） データサイエンス入門（Pythonによるビジネスデータサイエンス 1）
朝倉書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	環境の確認	Pythonをはじめ、講義で用いる環境について確認し、適宜導入を行う。
3	データと値	平均値や分散等基本的な統計の用語を確認する。
4	Excelとデータ①	Excelを用いた統計的処理について確認する。
5	Excelとデータ②	Excelを用いた統計的処理について確認する。
6	相関を読む①	相関係数や共分散について学ぶ。
7	相関を読む②	相関関係と因果関係について学ぶ。
8	高度な分析①	データを用いて分析を行う。
9	高度な分析②	データを用いて分析を行う。
10	高度な分析③	データを用いて分析を行う。
11	高度な分析④	データを用いて分析を行う。
12	高度な分析⑤	データを用いて分析を行う。
13	復習と確認	これまでの内容について復習する
14	まとめ	まとめ

科目コード	T220502				区　分	専門基礎			
授業科目名	ホテル経営Ⅱ				担当者名	馬場　哲也			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、ホテルをはじめとする宿泊産業の構造と経営実務を体系的に学ぶ。
歴史的発展から収益構造、組織運営、管理部門などを包括的に理解し、将来の観光産業を担う人材として必要な経営的視点を養う。
国内外の代表的ホテル事例も扱いながら、理論と実務の接続を重視する。

＜授業の到達目標＞
(1)ホテルをはじめとする宿泊産業について基本的な知識を修得する。
(2)ホテルなどの経営について適切な手段によって適切に表現することができる。
(3)ホテルなどの経営事象の考察や実践に積極的に活用しようとする。

＜授業の方法＞
１．出席確認と前回の振り返り（15分）
２．講義（60分）
３．ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（15分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。
・実例を通じて接客や顧客対応を学修し、実践的なスキルを身につける。
・グループディスカッションを行い、多様な視点からホテル経営・ホテル運営を考える。
・学生同士でフィードバックを行い、相互に学びを深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：次回の授業内容に関連する資料を読み、基本的な用語や概念を理解する（60分程度）。
・復習：授業で学んだ内容を振り返り、ノートを整理する。またディスカッションの振り返りを行い、改善点を考える（60分程度）。
・期末：学期全体の要点を再整理。必要に応じて、授業で取り上げたテーマについて自身の経験と結びつけて考え簡単なレポートを作成する（90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末テスト 40%、中間テスト 30%、授業態度 30%で総合評価します。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
日本ホテル教育センター　ホテルビジネス基礎編　日本ホテル教育センター

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション　シラバス説明　国内宿泊産業の動向	授業の内容と進め方を説明します。国内宿泊産業の動向を概観します。
2	ホテル業の概観、ホテルの機能と社会的役割	ホテルの施設や機能の特徴、社会的や役割について学びます。
3	ホテルの人材と職種　外資系ホテルの定義	ホテルスタッフの職種と外資系ホテルの定義について学びます。
4	ホテル実務の特徴　ホテル類型分類	ホテルのカテゴリー分類、系列について学びます。
5	ホテル経営・運営の実例（リゾートホテル）	リゾートにおける経営・運営の実態と事業再生について学びます。
6	ホテルの経営・運営の実例（シティホテル）	シティホテルにおける経営・運営の実態と事業再生について学びます
7	ホテル業と旅館業のビジネスモデル	ホテル業と旅館業のビジネスモデルの差異、特徴を理解します。
8	これまでの学びの整理（中間振り返り）	これまでの内容の復習、グループワーク「学びの共有」、中間のまとめ

9	宿泊業全体の概観	ホテル・旅館以外の宿泊業にも焦点を当て宿泊業全体を概観します。
10	宿泊業の法律・規制	宿泊業にまつわる法制度、近年のDX化について学びます。
11	宿泊業の経営指標・許認可	宿泊業の新設に関わる許認可について学びます。
12	宿泊業の格付け評価	世界のホテルの星・格付けの制度と実態について学びます。
13	伝説のサービス事例	老舗ホテルから発祥した伝説的サービスについて学びます。
14	総まとめ	これまでの総まとめ

科目コード	T230101				区　分	コア科目		
授業科目名	簿記演習				担当者名	末原　聡		
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、簿記入門Ⅰで学んだ内容を基礎とし、簿記入門Ⅱの学習内容と関連づけながら、日商簿記検定3級で求められる商業簿記の知識と処理方法を学ぶ。企業の取引を正確に記録し、帳簿、試算表および財務諸表を作成する能力は、企業活動を理解するための基礎となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。

授業では、日商簿記3級の基本問題・標準問題を用いて、簿記の基本原理、諸取引の処理、決算、補助簿、株式会社の基本的な会計処理、証ひょうおよび伝票について演習する。既に簿記を学習している学生には、発展問題や他の学生への解き方の説明にも取り組んでもらう。

日本商工会議所主催の簿記検定試験3級（以下「日商3級」）を受験し、合格に必要な基礎力と標準問題への対応力を身につけることを目標とする。

＜授業の到達目標＞

① 日商3級で求められる基礎的な知識を活用し、基本問題・標準問題に解答できる。
② 基本的な商業簿記の取引について、適切に仕訳できる。
③ 仕訳を各勘定や補助簿へ転記し、試算表を作成できる。
④ 決算整理を行い、貸借対照表および損益計算書を作成できる。

＜授業の方法＞

① 授業の開始時に、前回の授業内容の振り返りとフィードバックを行う。
② 教科書の内容を解説した後、基本問題から標準問題へ段階的に問題演習を行う。
③ 個人で問題を解いた後、必要に応じて学生同士で解き方や誤答原因を説明し合う。
④ 仕訳や集計等の計算を行うため、スマートフォンとは別に電卓を持参すること。
⑤ Google Classroomを通じて、デジタル教材や追加問題を配付する。
⑥ 留学生を含む初学者に配慮し、重要な会計用語を平易な日本語で確認するとともに、例題、類題、小テストおよび振り返りを繰り返して理解の定着を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、以下のアクティブ・ラーニングを取り入れる。
① 実際の商取引を題材として、適切な仕訳とその根拠を検討するグループワーク
② 請求書、領収書等の証ひょうを用いた仕訳・帳簿作成の実習
③ 学生同士で問題の解き方や誤答原因を説明し合う協働学習
④ 必要に応じて、会計ソフトウェアを用いた仕訳入力や帳簿確認の実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

〈予習〉テキストを読み、例題を解く。分からない会計用語や問題を整理し、授業で確認する事項をまとめておく。（1時間）
〈復習〉授業で取り扱った練習問題を解き直し、誤答した問題について原因と正しい解き方を整理する。追加問題が配付された場合は、これにも解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内課題・小テスト・演習への取り組み・提出物　60％
定期試験　40％
小テスト、提出課題および定期試験では、仕訳、帳簿、試算表、決算整理および財務諸表作成について評価する。各回の問題について、次の授業で解説とフィードバックを行う。また、必要に応じてGoogle Classroomを通じて追加問題や解説を配付する。

＜教科書＞

(編著)TAC株式会社 2025年2月23日第15版　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版
(編著)TAC株式会社 2025年3月20日　合格ドリル 日商簿記3級 Ver.15.0　TAC出版

＜参考書＞

(編著)TAC株式会社 2025年2月27日　よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級Ver15.0　TAC出版
(編集)実教出版企画開発部 2026年03月31日　2026年度版　日商簿記検定模擬試験問題集　3級　実教出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクションと理解度確認	授業の概要、学習方法、簿記入門で学んだ内容の復習、理解度確認問題、財務諸表

		と簿記の5要素、仕訳、転記、商品売買
2	仕訳問題①	商品売買 現金・預金 小口現金 クレジット売掛金
3	仕訳問題②	手形取引 電子記録債権・債務
4	仕訳問題③	その他の取引(貸付金・借入金 利息 有形固定資産 未収入金・未払金 仮受金・仮入金 給与など)
5	精算表作成問題①	精算表の作成方法① 決算整理：現金過不足・貸倒れ
6	精算表作成問題②	精算表の作成方法② 決算整理：売上原価 減価償却
7	貸借対照表・損益計算書作成問題①	貸借対照表・損益計算書の作成方法① 決算整理：貯蔵品 当座借越
8	貸借対照表・損益計算書作成問題②	貸借対照表・損益計算書の作成方法② 決算整理：経過勘定項目
9	補助簿①	現金出納帳・当座預金出納帳・商品有高帳・売掛金元帳・買掛金元帳
10	補助簿②	仕入帳 売上帳 受取手形記入帳 固定資産台帳
11	株式会社会計	株式の発行 剰余金の配当 税金
12	証ひょう	証ひょう 請求書 領収書 当座勘定照合表 法人税の領収済通知書に関わる仕訳
13	伝票	三伝票制の仕訳推定問題対策
14	日商簿記3級総合模擬演習と総括	制限時間を設けて本試験形式の模擬問題に取り組み、解説、誤答原因の分析および今後の受験・学習計画の確認を行う。

科目コード	T230106				区　分	コア科目			
授業科目名	管理会計				担当者名	末原　聡			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
管理会計は、企業内部の意思決定や業績管理に役立つ会計情報を提供するための手法である。
本講義では、原価計算を基礎として、損益分岐点分析や原価管理などの基礎的な内容を学習する。
あわせて、全経簿記能力検定2級工業簿記を中心とした内容を扱い、日本商工会議所簿記検定2級にもつながる基礎力の養成を目指す。

＜授業の到達目標＞
① 全経簿記能力検定2級工業簿記および日本商工会議所簿記検定2級に関連する、管理会計の基礎的な問題に解答できる。
② 管理会計の意義と、企業経営における原価情報の活用方法を説明できる。
③ 損益分岐点分析や原価管理の基礎を理解し、基本的な計算ができる。
④ 管理会計の基礎的な手法を用いて、経営判断や業績管理の考え方を説明できる。

＜授業の方法＞
①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う
②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う
③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること
④手書きの問題演習を主体とする
⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、以下のアクティブ・ラーニングを取り入れる。
① 実際の商取引を題材として、仕訳方法や帳簿管理の合理性について検討するディスカッション・ディベート
② 実務で用いられる会計ソフトウェアや各種証憑を活用した実習
③ 学生同士で問題の解き方や考え方を説明し合う協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜予習＞テキストを読み、例題を解く。書籍や論文等で授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）
＜復習＞授業で取り扱った練習問題を解く。書籍や論文等で授業で取り扱った内容について検討し、質問をまとめておく。追加で配布される練習問題がある場合には解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する積極的な態度、小テストなどの平常点60% + 定期試験40%
フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

＜教科書＞
(監修)新田忠誓（編著)桑原知之 2024年3月19日　全経簿記能力検定試験公式テキスト＆問題集2級工業簿記　ネットスクール出版

＜参考書＞
(著)TAC簿記検定講座 2024年2月21日　合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記 Ver.10.0　TAC出版
(著)公益社団法人全国経理教育協会　2025年4月11日　全経簿記能力検定試験最新過去問題集２級工業簿記【令和７年度版】（全経過去問題シリーズ）　ネットスクール出版
(著)石川 和幸 2025年6月20日　この１冊ですべてわかる　製造業の仕事の基本　日本実業出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	イントロダクション
2	単純総合原価計算	単純総合原価計算の仕訳と記帳
3	工程別総合原価計算	工程別原価計算の仕訳と記帳
4	組別総合原価計算	組別原価計算の仕訳と記帳
5	等級別総合原価計算	等級別原価計算の仕訳と記帳
6	仕損・減損の処理	先入先出法・平均法と両者負担・完成品のみ負担の組み合わせ
7	材料の追加投入	材料の追加投入

8	工業簿記における財務諸表	損益計算書と製造原価報告書
9	標準原価計算①	標準原価計算の意義、標準原価計算の手続
10	標準原価計算②	原価標準の設定と標準原価カード、標準・実際原価差異計算
11	標準原価計算③	標準原価の勘定記入、原価差異の会計処理
12	直接原価計算①	直接原価計算の意義と目的、直接原価計算の方法と記帳、期間損益計算の改善
13	直接原価計算②	実際配賦と予定配賦、固定費調整、CVP分析
14	総復習	第1回から第13回までのまとめ

科目コード	T230107				区　分	コア科目			
授業科目名	経営組織論				担当者名	糟谷　崇			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修科目

＜授業の概要＞
この講義では、企業や組織の成り立ち、構造、行動、およびマネジメントに関する基本的な理論と実践について学びます。経営組織論の古典的アプローチから現代の理論までを幅広くカバーし、現実のビジネスケースを通じて理解を深めます。

＜授業の到達目標＞
①経営組織論における主要な理論や概念を理解する
②組織構造や組織文化、リーダーシップ、モチベーションなどの要素を説明できる
③現実の企業活動に理論を応用し、分析・考察ができるようになる
④組織における課題を発見し、解決策を提示する視点を持つ

＜授業の方法＞
パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは使用しない。授業の最後に毎回、学生諸君の意見を書いてもらう(コメントシート）。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有
事例を中心に、学生諸君と討議する時間を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜予習＞　（各60分）
次回の講義内容について、新聞・雑誌等を参考に具体的な事例を調べてくること。
＜復習＞　下記のテーマに沿って新聞・雑誌等を読み、
授業内容についてまとめたものをファイリングしてください。
また自分なりの考察を加えたものをレポート形式にまとめること
（各180分）
第１回　組織論の基本概念
第２回　古典理論の特徴
第３回　組織構造
第４回　権限と責任
第５回　組織文化と価値観
第６回　弱い紐帯
第７回　ストラクチャル・ホール
第８回　ソーシャルキャピタル
第９回　新制度派組織論
第10回　資源依存理論
第11回　組織エコロジー
第12回　ティール組織
第13回　新制度派経済学
第14回　意思決定理論

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート課題（80%）　＋　コメントシート（20%）
学生の理解度に応じて複数回のレポート提出を求める場合がある。

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容

1	イントロダクション	経営組織論とは何か
2	経営組織論の歴史	古典的組織理論
3	組織構造と設計	職能別・事業部制・マトリクス組織
4	権限と責任	中央集権 vs 分権化
5	組織文化と価値観	組織文化の形成とその本質
6	埋め込み理論とは	社会的つながりと企業・組織の関係性について考える。
7	ストラクチャル・ホール理論とは	企業間ネットワークの持つ性質・機能について考察する。
8	ソーシャル・キャピタルとは	デジタル時代における組織や人的ネットワークについて考える。
9	制度理論とは	なぜ制度は同質化するかについて考える。
10	資源依存理論とは	企業・組織間の相互依存関係がなぜ発生するかについて考える。
11	組織エコロジー理論とは	組織が環境変化に適応していくプロセスから組織の成長について考える。
12	『ティール組織』とは	ティール組織について考察する。
13	新制度派経済学とは	人間の意思決定仮定について考察する。
14	意思決定について	意思決定の際のバイアス・ヒューリスティックを考察する。

科目コード	T230108				区　分	コア			
授業科目名	企業経営実践論Ⅰ				担当者名	白田　佳子			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義では、企業経営における様々な課題を日本の企業の実態から学ぶこと目的とします。企業経営は理論だけでは実務に適応することに限界があるからです。特に日本における会社法の制度は、海外の制度とは異なる部分が多々あるため、本来はグローバルに比較することは出来ないにも拘らず、海外との比較が平然とマスメディアで取り上げられています。日本企業においてもグローバル化が進んでいる一方で海外の子会社などを経営の成果に結びつけて株主に還元することは日本の法律上ではできません。本講義では、このような日本独特の制度と日本企業の経営実態を学ぶことを目的としています。

＜授業の到達目標＞

１．日本企業経営の背景にある会社法を学ぶ。
２．日本企業の経営戦略、強味についてケーススタディを通して学ぶ。
３．グローバルな経済社会の中での日本企業が直面している経営上の課題を認識する。

＜授業の方法＞

理論やケーススタティを用いた講義形式となる。また、バブル経済やバブル経済崩壊、リーマンショックなど、経済上のさまざまな実態をデータで提示しながら講義、及びディスカッションを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。講義とアクティブ・アクティブラーニングの併用、教科書は使用しないが、講義ごとにパワーポイントで要点を説明する。講義に使用するパワーポイントの内容は学生自らがしっかりノートに取ること（コピーは配布しない）。
授業では、日本企業が抱える様々なリスクについて議論する。なお、上場企業のみならず非上場企業についても議論の対象とする。特に近年経済を揺るがす為替の変動などが、企業経営にどのような影響を与えているか、今後どのような影響が生じるかを一方的に講義を行うのではなく、全員で議論する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】シラバスをよく読んでおくこと。なお、現在の日本企業、経済社会がかかえるリスクについて、ニュース情報などを毎回の授業ごとに事前に詳細に調べ、自身の意見を取りまとめておくこと。授業でディスカッションができるように、社会の変化について感性を持って事前に意見を取りまとめておきましょう。（90分）。
【復習】毎回の講義で、課題を出しますので、出された課題について、復習も兼ねてメールにて提出してください。皆さんから提出された課題の内、また意見について、翌週の授業にてディスカッションを行います。なお、昨今提出課題について、自身の意見ではなくAIによる情報をそのまま提出してくる学生がいます。きちんと自身の意見を発出するようにしてください（９０分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１．試験は行いません。
２．授業への出席および授業中における当方からの質問への積極的な発言を評価対象とします。発言に際しては、発言ごとにParticipation Cardを発行します。カードの枚数に応じて成績への加点とします（60%）。なお、当日の議論は、あくまで準備学習において、現在の日本社会（経済）がかかえる問題についてしっかりと調査、分析をおこなっているかによって評価されます。
３．毎講義の最後に出す課題の提出内容を評価対象とします（40%）。課題はあくまで自身の意見発信ですが、これも当日の講義でのディスカッション（他の人の意見）をどこまで織り込んでいるかによって評価されます。

＜教科書＞

白田佳子　AI技術による倒産予知モデル×企業格付け　税務経理協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダク ション	講義の概要説明、補講日の確認
2	企業経営実践	経営評価：財務分析＋非財務分析
3	企業の経営サイクル	企業は継続が原則：継続 対 非継続　相違点は？
4	企業経営に係わる法律	金融商品取引法、会社法、法人税法
5	企業本体と子会社：支配力概念	事業統括会社の概念：持ち株会社とは
6	企業の業績評価	費用収益対応の原則
7	企業の業績評価２	名目貨幣価値による評価

8	企業の業績評価３	取得原価基準 v.s. 時価評価
9	企業価値評価	ブランド資産・リース資産
10	企業価値評価２	研究開発・特許・パテント
11	企業価値評価３	会計処理を利用した非実現利益の計上による誤導
12	経営戦略：制度外手続きの利用	企業実態と外観との差異：経営者の経営戦略
13	経営戦略：制度変更による影響	2026年よりリース資産のオンバランス化実施開始
14	経営者戦略	自身が経営者となった場合の経営戦略についてディスカッション・個別に発表する

科目コード	T230111				区　分	コア科目			
授業科目名	マーケティング戦略論				担当者名	上田　隆穂			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
マーケティング戦略とは市場に関する戦略立案である。この授業では、マーケティングの戦略の基本と事例に基づいた実践を学ぶことを目的としている。理解を深めるために、理論面だけでなく、できるだけで事例を用いて、わかりやすい内容を目指している。マーケティング戦略の内容は、変化のスピードがはやいため、新しい内容も採り上げて解説する。

＜授業の到達目標＞
1. 企業等が市場の問題に接したとき、いかなる考え・理論に基づいて対応すべきかを考える、つまりどのように戦略を練るのかを理解できるようになる。
2. 自分が何か困難に向かい合うとき、１つの対応方法としてここで学ぶ方法を使えるようになる。

＜授業の方法＞
基本的にはパワーポイントを用いて講義を行う。事例ごと質問を投げかけて答えてもらう方法をとる。なお1度は企業等のゲストスピーカーを迎え、マーケティング戦略事例の講演をしてもらう。感想文を課して、成績の一部とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングは無し、ただし講義中にQ&Aは行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1.教科書を事前に読んでおく。（90分）　2.復習として講義でのポイントを振り返る（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ゲストスピーカー感想文レポート　20点、授業に関する感想や要望のレポート　10点、学習意欲　30点、期末レポート40点

＜教科書＞
上田隆穂，澁谷覚，西原彰宏（2020年12月28日）　グラフィックマーケティング　新世社
時々、配布する資料もあり

＜参考書＞
とくになし
有斐閣

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	マーケティングの基礎概念の復習	マーケティングにおけるケースを用い、前期で学んだマーケティングの基礎概念を振り返る。つまり第２クオーターのマーケティング総論の復習を行う。
2	競争戦略における４つの立場と戦略的枠組み1	リーダーなど立場に応じたマーケティング戦略、競争環境を細かく分析するファイブフォース分析の方法、3C分析と類似しているが応用範囲の広いSWOT分析とその活用を学ぶ
3	競争戦略における４つの立場と戦略的枠組み2	プロダクト・ポートフォリオ・マトリクス(PPM)分析の使い方、アンゾフの成長マトリクスの内容・使い方、ブルーオーシャン戦略、先発の優位など戦略の基礎概念を学ぶ。
4	ハイチオールCのケースを用いてマーケティング戦略の基礎概念を復習する。	●事業環境の分析：Five Force Analysisを活用 ●3C分析 ●競争市場戦略の４つの立場 ●アンゾフの成長戦略 ●ブルーオーシャン戦略（戦略キャンバス） ●ワンツーワン・マーケティング ●製品の3層構造 などをケースで復習する。
5	第1回目ゲストスピーカーによる講演（ただしゲストスピーカーの予定により、期日が変動する可能性がある）	ゲストスピーカーは未定 注意：事後の感想文の提出は極めて重要　忘れずに出すこと(自分で作成すること、他人の感想文を若干手直しして提出することは許されない。自分の感想文を人に見

		せないこと） ブランド戦略の基礎概念を学ぶ
6	ブランド戦略1	●ブランドとは何か ●ブランドの「役割」 ●ブランド戦略のメリット
7	ブランド戦略2	●強いブランドとは何か ●ロングセラーブランドの構造
8	ブランド戦略3	●ブランド拡張の２つの分類 ●メルセデスベンツのケース など
9	バーニーの経営資源に基づくVRIOフレームワークで企業の強さを測る1	●VRIOとは何か ●どう適用するのか ●VRIOフレームワークによって企業が持続的な競争優位を実現する流れを学ぶ。
10	サステナブル・マーケティングⅠ	1.　認識の変化によるイノベーション出現：サステナブル・マーケティング 2.　実際に取材した株式会社キミカのケースを用いて、サステナビリティによる事業創造を学ぶ
11	サステナブル・マーケティングⅡ	1.　キミカの歴史で何を感じる？ 2.　キミカのセレンディピティ 3.　キミカの強さを考える 内部環境・外部環境をチェックし、VRIOを考察 4.　Dynamic VRIOで10年後・20年後・30年後を考える。 【参考】　キミカのこれからのリスク
12	地域活性化のマーケティング戦略Ⅰ	地域活性化の対象となる都市・地方の分類、 地方を考える際の地方の分類、 地域活性化の歴史的変化等を解説する。
13	地域活性化のマーケティング戦略Ⅱ	事例として、実際にインタビューを実施したコスタリカ・コーヒーの戦略を解説し、そのマーケティングを解説する。
14	これまでのマーケティング戦略の復習及びレポートの説明	もう一度授業概要を振り返り、参加者との議論を通じて理解を深めてゆく。 また学期末レポートの解説を行い、時間があれば、その場でレポート作成を開始して、質問があれば、それに答える回とする。 レポートは、必ず自分で作成し、他人に見せてもいけないし、教えてもいけない。 他者に対し、レポートを参考に見せてもらってもいけない。

科目コード	T230113				区　分	コア科目の経営総合領域			
授業科目名	会社法Ⅱ				担当者名	伊藤　敦司			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

この講義では、現代社会において重要な役割を担う会社、特に株式会社に関し、主にファイナンスの面の法制度を解説する。

現代社会において、会社とりわけ株式会社と無縁な生活は考えられない。将来いかなる方面に進もうとも、株式会社および株式会社に関する法制度の理解は不可欠である。ところが、日々変化する社会情勢を反映して、株式会社法は頻繁に改正されてきており、既存の制度の見直しや新たな制度の創設が多数なされ、その重要性にもかかわらず、わかりにくい法分野となっている。しかも、2007年5月から施行された会社法は、多くの問題を背景に大改正がなされ、新たな問題も指摘されている。

そこで、会社法Ⅱでは、株式会社に対する法規制の基本的な仕組みを理解してもらうために、株式制度、資金調達、計算、企業再編の各分野に関し、近時の法改正や将来的な課題をふまえながら、具体的な解説を行う。

なお、会社法Ⅰを履修していなくても理解できるように配慮する。

＜授業の到達目標＞

１．株式会社をはじめとする会社制度の概要とその課題を理解することができる。
２．企業社会の一員として、（株式）会社の基本的な仕組みやルール等の常識を身につけることができる。
３．時事問題を会社法の視点から分析し、その問題点を把握・分析できる。

＜授業の方法＞

パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは特に指定しない。毎回、授業の最後に、授業のまとめや意見を書いてもらう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。企業社会における具体的な出来事等をもとに、学生諸君と討論する時間を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

１回：（予習）新聞等を利用し、会社をめぐる報道がいかになされているかを概観しておくこと（60分）
（復習）会社の意義をふまえ、関係する利害関係者とその保護の必要性とその手法を整理しておくこと（120分）
第２回：（予習）身の回りにおける会社の種類や仕組みについて考察すること（60分）
（復習）四種会社（特に株式会社）の社員の責任及び特色を整理しておくこと（120分）
第３回：（予習）株式制度について、その内容や特色を概観しておくこと（60分）
（復習）株式制度の意義及びそこから導かれる特色を整理しておくこと（120分）
第４回：（予習）株式譲渡の基本的な仕組みを調べておくこと（60分）
（復習）株式譲渡の自由とその制限について、その趣旨を含め整理しておくこと（120分）
第５回：（予習）上場会社の株主構成を概観し、自己株式保有や相互保有の状況を調べておくこと（60分）
（復習）自己株式取得規制及び相互保有規制の概要及び問題点を整理しておくこと（120分）
第６回：（予習）株式の大きさが、資金調達においていかなる機能を有するかを調べておくこと（60分）
（復習）株式併合・株式分割・単元株の機能及び法規制を整理しておくこと（120分）
第７回：（予習）株式会社の資金調達方法とそれぞれの特徴を調べておくこと（60分）
（復習）各資金調達方法の機能及び法規制を比較しながら整理しておくこと（120分）
第８回：（予習）新株発行の既存株主への影響を調べておくこと（60分）
（復習）授業で指摘した論点に関する判例を調べ、整理しておくこと（120分）
第９回：（予習）第７回の授業をふまえ、社債の特色と機能を整理しておくこと（60分）
（復習）社債の発行および保有に関する規制を新株の場合と比較しながら整理しておくこと（120分）
第１０回：（予習）会社法上の会計に関する規制の意義及び特色を調べ、その概要をつかんでおくこと（60分）
（復習）会社法上の会計に関する規制の意義・概要・問題点を整理しておくこと（120分）
第１１回：（予習）任意の企業のＨＰから、資本木や準備金の状況を調べておくこと（60分）
（復習）資本金・準備金・剰余金の意義・増減に関する法規制を整理しておくこと（120分）
第１２回：（予習）任意の企業の配当の状況を調べておくこと（60分）
（復習）剰余金配当に対する法規制の意義及び概要を整理しておくこと（120分）
第１３回：（予習）任意の業界の再編の沿革をつかんでおくこと（60分）
（復習）企業再編の方法及びその法規制を整理しておくこと（120分）
第１４回：（予習）任意の持株会社の概要を第１３回の授業をふまえ、つかんでおくことと、これまでの授業ノートを復習し、疑問点があれば、それを確認しておくこと（60分）
（復習）持株会社に対する法規制とその問題点整理しておくこと。会社法の概要とその課題を整理しておくこと（120分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認テスト４０％、平常点（小レポート、授業参加の姿勢等）６０％により総合的に評価する。詳細については、第１回目の授業の際に説明する。

＜教科書＞

＜参考書＞

江頭憲治郎（2024年４月）　『株式会社法　第９版』　有斐閣
伊藤靖史ほか（2025年３月）　『会社法 第6版』　有斐閣
近藤　光男（2026年１月）　『現代商法入門 第12版』　有斐閣

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	会社の現代社会における機能を概観し、各種企業形態における会社の位置付けを明らかにする。 ※時事的な問題を取り上げるため、以下の予定は若干変更する場合もある。
2	株式会社法総論	株式会社の基本的特質を、合名会社と対比しながら明らかにし、そこから導かれる法規制を考察する。
3	株式制度①総論	株式会社の持分である株式について、持分会社の持分と対比しながらその特色と機能を明らかにする。
4	株式制度②	投下資本回収方法としての株式譲渡に関し、その機能及び問題点を、金融商品取引法上の規制をも加えながら明らかにする。
5	株式制度③	自己株式取得規制、相互保有規制等の株式譲渡制限に関し、実務上の問題点を含め考察する。
6	株式制度④	株式単位の大きさに関し、その意義及び規制を概観した後、株式併合・株式分割・単元株の各制度を考察する。
7	株式会社の資金調達①総論	多額・長期の資金を必要とする企業の資金需要に対し、会社法の用意する制度を概観し、その問題点を考察する。
8	株式会社の資金調達②	新株発行の機動性と既存株主の利益調整に関し、具体的な事例を取り上げながら会社法の規制及びその問題点を考察する。
9	株式会社の資金調達③	株式会社の代表的な資金調達手段である社債に関し、その特徴・機能を前提に、社債権者保護のための規制を中心に考察する。
10	会社の計算①総論	株式会社の計算に関する規制について、その意義を明らかにしたのち、金融商品取引法上の規制も含め考察する。
11	会社の計算②資本金・準備金等	資本金制度の意義・機能を概観した後、その増減に関する法規制をを考察する。
12	会社の計算③配当等	株主への利益の還元に関し、その方法やその保障を概観するとともに、手続規制及び財源規制の意義や問題点を考察する。
13	企業再編①総論	企業再編の意義・機能を明らかにしたのち、企業再編の方法・法規制を、具体的な事例をもとに考察する。
14	企業再編②持株会社をめぐる問題 総まとめ	近時増加した持株会社に関し、その機能や利害関係者を概観した後、法規制の内容とその問題点を考察する。 最後にこれまでの総まとめを行う。

科目コード	T230114				区　分	コア			
授業科目名	民法Ⅱ(債権)				担当者名	藤原 究			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
民法は財産法と親族・相続法で構成されている。民法における財産法は財産について人と人の間に発生する諸関係を規律する一般的なルールについて体系的に記されている。ここでは、契約を中心として財産の移動の関係を学習する。

＜授業の到達目標＞
・財産権を中心として民事における法律関係を理解することができる。
・民法の社会における役割を理解し、社会生活において必要な法的知識を身につけることができる。

＜授業の方法＞
パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは特に指定しない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
第1回【予習】民法の構造を、テキスト等で再確認しておく（90分）【復習】講義で学習した事項の復習（90分）
第2回以降の各回【予習】今後の学習内容について事前に確認する（90分）【復習】講義で学習した事項の復習（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
確認テスト70%　平常点（レポート・授業参加の姿勢）30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	債権と債権法の民法における位置づけと学習方法についての解説を行う
2	特定物債権と種類債権	債権の分類の違いと種類債権・特定物債権における特質を学ぶ
3	金銭債権・選択債権	金銭債権の特殊性について学習する。
4	債権の効力・強制履行	債権の実現において必要な矯正方法と民事執行法の連携について学習する。
5	債務不履行	債務の履行がなされない場合における対応について学ぶ
6	損害賠償	損害賠償が認められるために必要な要件や算定におけるルールを学ぶ
7	受領遅滞	正しい弁済の提供が行われているにも関わらず履行が完了しない場合について学習する。
8	ここまでの振り返り	ここまでの確認を踏まえて今後の学習に活用する。
9	債権者代位権	民法423条における被保全債権と被代位権利について学習する。
10	詐害行為取消権	詐害行為に対応する際の被保全債権、無資力要件等の各項目について確認する。
11	多数当事者の債権関係（序説）	債権者・債務者が複数となる場合における特殊性について学習する。
12	ここまでの振り返り	これまでの学習内容を振り返り学習の到達状況を考える。
13	多数当事者の債権関係（連帯債権・債務）	債権債務を複数当事者で負担する場合の対応について学習する。
14	全体のまとめ	全体の学習を振り返り、債権法分野における学習内容の定着を図る。

科目コード	T230119				区　分	コア科目			
授業科目名	経営財務入門				担当者名	武末　朝生			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
①第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰに「財務会計」で修得した財務諸表に関する知識を前提として、「経営財務入門」では、財務諸表によって開示される財務情報を分析する「財務分析」の方法について「財務諸表の利用者」の観点から学修する。
②授業を理解して「到達目標」を達成するため、「日商簿記検定3級」合格レベルの知識があることが望ましい。
③「経営財務入門」を履修する場合には、第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰにおいて「財務会計」を履修する必要がある。
（注記：「経営財務入門」では、第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰの「財務会計」と同じ「教科書」（下記参照）を使用する。）

＜授業の到達目標＞
①財務諸表の読解：貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等の財務諸表を正確に読み取り、企業の財務状況を体系的に把握・説明できる。
②財務指標の算定と評価：収益性・安全性・効率性等に関する各種財務比率を算定し、同業他社や過去のデータとの比較を通じて、企業の経営状態を定量的に評価できる。
③意思決定への応用：財務分析の結果をもとに、投資判断・融資審査・経営改善提案など、経営の意思決定に役立つ論理的な考察・提言ができる。

＜授業の方法＞
①「教科書」に沿った講義形式の授業で確実に理解する。
②「練習問題」や「小テスト」に取組み、解答・解説で理解度を確認する。
③ディスカッションを通じて理解を深め、知識を定着する。
④GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布なども行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。
①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
③GoogleClassroomのデジタル教材などを通じて、適宜、フォローアップする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①予習：「教科書」の指定箇所を読んでおく（90分）
②復習：「練習問題」や「課題」に取り組む（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価方法：授業に対する積極的な態度 50%、定期テスト 50%
フィードバック：授業時間中に、演習問題の解答・解説を行う。

＜教科書＞
坪谷　敏郎（2020年12月15日）【三訂版】　『三訂　基礎から学ぶ財務知識』（ISBN：978-4-7668-4393-4）
（※第1ｸｫｰﾀｰ・第2ｸｫｰﾀｰの「財務会計」と同じ「教科書」です。）
定価：2,750円（税込）　経済法令研究会

＜参考書＞
桜井久勝（2024年3月5日）　『財務諸表分析　第9版』　中央経済社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	（1）ガイダンス、（2）財務分析の目的と方法	(1)①授業の概要、②授業の方法、③成績評価方法、④他の授業との関連性など、(2)①財務分析の目的、②財務分析の方法
2	資本利益率	①収益分析の手法、②5%利付債を買う、③誰の利回りか、④各種資本利益率
3	資本利益率の分解	①資本利益率分解アプローチ、②売上高利益率、③各種回転期間の分析、④資本利益率分解の例
4	損益分岐点分析	①損益分岐点とは、②損益分岐点図表、③損益分岐点比率と経営安全率（安全余裕

		率）、④損益分岐点売上高の算出、⑤損益分岐点分析の応用、⑥営業レバレッジ、⑦損益分岐点分析の例
5	（1）利益増減分析、（2）生産性分析	(1)利益増減分析、(2)①生産性分析とは、②付加価値の求め方、③労働生産性の分解、④従業員１人当たり人件費 の分解、⑤生産性分析の例
6	（1）静態的安全性分析、（2）キャッシュフロー分析はなぜ必要か	(1)①静態的安全性分析とは、②流動比率と当座比率、③負債比率と自己資本比率、④固定比率と固定長期適合率、 ⑤安全性分析の例、(2)①事例分析、②資金表の例
7	ケーススタディ	ケーススタディによる総復習
8	資金繰り表	①資金繰り表とは、②資金繰り表の作り方、③資金繰り表の見方、④資金繰り表ではわからないこと、 ⑤資金繰り実績表（銀行様式）の例
9	資金運用表	①資金運用表とは、②資金運用表の作り方、③資金運用表の見方、④資金運用表の例
10	資金移動表	①資金移動表とは、②資金移動表の資金収支区分、③資金移動表の作り方、④資金移動表の見方、⑤資金移動表の例
11	キャッシュフロー計算書	①キャッシュフロー計算書とは、②営業活動によるキャッシュフロー、③投資活動によるキャッシュフロー、④財務活動によるキャッシュフロー
12	キャッシュフロー計算書	①キャッシュフロー計算書の見方、②資金４表の関連、③キャッシュフロー計算書の例
13	ケーススタディ	ケーススタディによる総復習
14	総まとめ（理解度の確認）	総合問題演習

科目コード	T230120				区　分	コア科目			
授業科目名	ブランド戦略論				担当者名	高橋　有弥			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ブランド戦略は、企業や商品・サービスを顧客に「どのように認知・認識させたいか」を中長期的に設計する経営上の上位概念です。競合との差別化を軸に、「選ばれ続ける理由」を構築し、ブランドアイデンティティ、ポジショニング、一貫したメッセージ発信を通じて、顧客との信頼関係を築き、企業価値を高める目的で行われます。本授業では、ブランド戦略の重要性、構築方法などを事例研究を用いて実践的に学んでいきます。

＜授業の到達目標＞
ブランドの価値や役割を説明できる知識、ブランド戦略（ターゲティング、ポジショニング）を立案・分析できる能力、そして顧客との関係性を築くブランディングの実践手法を習得できる。

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有
本授業は、授業、ディスカッション及びプレゼンテーションを活用して展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・復習各回毎に100分とする。
・予習：次回の授業内容に関連する資料を読み、基本的な用語や概念を事前に理解する。
・復習：授業で学んだ内容を振り返ると共に、ノートを整理する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末課題 40%、中間レポート 20%、授業態度・参加度40%

＜教科書＞

＜参考書＞
田中 洋 (2021/11/1)　ブランド戦略ケースブック2.0 ―13の成功ストーリー　同文舘出版
田中 洋 (監修) (2024/8/14)　サクッとわかる ビジネス教養 ブランディング　新星出版社
羽田康祐 k_bird (著), 佐々木 (著), 水溜 (著), 中野 (著), 梅野 (著), 関口 (著), 村田 (著), 平松 (著) (2020/8/1)　ブランディングの教科書 ブランド戦略の理論と実践がこれ一冊でわかる　NextPublishing Authors Press

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業概要の説明・オリエンテーション ブランド戦略とは・・・	マーケティングとブランド戦略の関係性について（コトラーの考えるブランド・STP分析とブランドなど）学ぶ。
2	ブランドの必要性について	事例を用いて、ブランドの役割と目的を学ぶ。
3	ブランド・エクイティについて	「商品」を「ブランド」に変える付加価値、競合との差別化について学ぶと共に、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティについて事例研究を通じて学ぶ。
4	ブランディングについて	顧客の頭の中に特定の価値やイメージ（感情）を定着させる一連のプロセスであることを事例研究を通じて学ぶ。
5	ブランドと消費者心理について	ブランドは消費者の心に残り続け、ロイヤリティを促すためのものである。そのため、顧客の心にどんな物語を残せば商品が売れるのかについて事例研究を通じて学ぶ。
6	ブランド・アイデンティについて（１）	企業や製品が「顧客にどう思われたいか」「他社と何が違うのか」という、ブランドの核となる価値観や個性、約束を明確にしたものであることを事例研究を通じて学ぶ。

7	ブランド・アイデンティについて（2）	ブランド・アイデンティティ構築の6ステップについて、事例研究を通じて学ぶ。
8	ブランド・ポジショニングについて（1）	「なぜ、ブランド・ポジショニングが必要なのか」を顧客視点で事例研究を通じて学ぶ。
9	ブランド・ポジショニングについて（2）	ビジネス・フレームワークを活用してのブランド・ポジショニング構築方法について実践的に学ぶ。
10	ブランド・ポートフォリオについて	企業が複数のブランドをどのように管理・戦略的に使い分けているか、その構造とシナジーについて事例研究を通じて学ぶ。
11	デジタル・ブランディングについて	WebサイトやSNSを活用し、オンライン上でブランド価値を構築・差別化する戦略であることを事例研究を通じて学ぶ。
12	ブランド戦略構築（1）	ブランド戦略は経営戦略の一環であることを学ぶと共に、「ブランド戦略（方向性）」を立て、「ブランディング（施策・実行）」で浸透させる関係について事例研究を通じて学ぶ。
13	ブランド戦略構築（2）	ブランド戦略の構築５つのステップ：現状分析、ターゲットの定義、ブランドコンセプトの策定、ブランドアイデンティティの言語化・視覚化: コンセプトを言語化・視覚化、浸透・コミュニケーションについて事例研究を通じて学ぶ。
14	まとめ	１回～13回の授業の振り返り

科目コード	T230201				区　分	コア		
授業科目名	情報社会論				担当者名	鈴木　達郎		
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

現代社会は、デジタル技術の発展により、経済や生活が高度にネットワーク化し、グローバル化が進む一方、少子高齢化や環境問題、格差拡大などの社会課題も深刻化している。本講義では、コンピュータやそのネットワーク利用が現代の情報社会にもたらした社会システムの役割や仕組みについて、主にデジタルトランスフォーメーション（DX）の視点から解説する。具体的には、DXを支えるデータサイエンス、人工知能、Webなどのデジタル技術を活かした成功事例とそのデジタル戦略に触れて、未来に向けた変革のプロセスを展望する。

＜授業の到達目標＞

コンピュータやそのネットワーク利用が現代の情報社会にもたらした社会システムの役割や仕組みを説明でき、企業のデジタル戦略をDXの視点で自ら提案できる

＜授業の方法＞

毎回、GoogleClassroomにより事前課題を与えることで、問題意識を高めた上で、講義を実施する
また小テストを随時実施すると共に、AIを活用することで学生の参加意識を高める

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。
事前学習による反転学習を行う。具体的には、AIを活用して事前に課題を実施することで、問題意識を持った上で、授業に参加させる。事前課題は、最終成績に反映することでモチベーションを高める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習： AIを活用した事前課題（60分）、復習：授業内容の要点まとめとリフレクションノートの作成（120分）、合計３時間
なお、事前学習の確認をかねて、授業中に随時小テストを実施する

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験等４０％、小テスト等の課題３０％、授業内活動への貢献度・平常点３０％、で成績評価する。
事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

＜教科書＞

荒瀬光宏　１冊目に読みたい DXの教科書　SBクリエイティブ

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方　成績の付け方　AIの使いかた
2	情報社会と経済経営	情報社会システム変化の経済経営への影響
3	DXの基本	DXの概念および企業にとっての必要性
4	日本の現状と課題	デジタル後進国日本と労働生産性等の課題分析
5	IoTと5G	DXを支える技術（IoT、５G）の役割と成功事例
6	ビッグデータとデータサイエンス	DXを支える技術（ビッグデータ、データサイエンス）の役割と成功事例
7	人工知能とロボット	DXを支える技術（人工知能、ロボット）の役割と成功事例
8	インターネットとクラウド	DXを支える技術（インターネット、クラウド）の役割と成功事例
9	Web3	DXを支える技術（Web３）の役割と成功事例
10	業界再編ととデジタル技術	業界再編を引き起こすディスラプション
11	プラットフォーマー	プラットフォーマーの成長と展開
12	成功事例	急激な環境変化に対応した戦略事例
13	デジタル戦略の検討手法	顧客理解・体験・接点等を起点とした戦略分析
14	変革のプロセス	デジタル戦略を実現するための具体的プロセス

科目コード	T230202				区　分	コア科目			
授業科目名	情報倫理と情報セキュリティ				担当者名	栗本　育三郎			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業の目的は､情報倫理と情報セキュリティに関して深く理解を深めることです｡そのような資質を高めるため、 本授業では、インターネット社会への攻撃と対策、情報セキュリテイの技術、デジタル社会と法について講義を中心に進めます。事前に教科書や資料により問題点を発見し、講義やグループディスカッション等により内容を深めましょう。学習成果として、情報セキリュティ対応能力が身につくようになります。なお、この授業は、ブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはモバイル機器持参の上、臨んでください。

＜授業の到達目標＞

1.デジタル社会の歴史的発展を説明でき、光と影を深く理解し、体系化できる。
2.インターネット社会への攻撃と情報セキュリティ技術を理解し、説明できる。
3.デジタル社会の法整備と情報倫理の役割を理解し説明できる。

＜授業の方法＞

解説と問いの提示、グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習問題等の回収

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング有り
グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習時利用、事後学習、演習問題等の回収並びにフィードバックを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

リサーチ活動：事前に教科書、資料からキーワードの要約（ノートのスクリーンショットの提出）（100分程度）
プレゼン資料作成：グループ討論のための資料、プレゼンテーション資料の作成とアップロード（100分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題20%、プレゼンテーション20%、期末試験成績60%

＜教科書＞

佐々木良一他（2021年11月12日）第2版　情報セキュリティ入門　情報倫理を学ぶ人のために　共立出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタル社会と情報倫理（1）	デジタル社会の光と影
2	デジタル社会と情報倫理（2）	技術的対策、法的対策、倫理
3	インターネット社会への攻撃と対策（1）	ユーザへの攻撃
4	インターネット社会への攻撃と対策（2）	マルウェア
5	インターネット社会への攻撃と対策（3）	インターネットへの攻撃
6	情報セキュリティの技術対策（1）	ユーザにとって重要な対策
7	情報セキュリティの技術対策（2）	暗号の活用と情報セキュリティマネージメント
8	デジタル社会と法（1）	法整備の必要性と例
9	デジタル社会と法（2）	不正アクセス禁止法
10	デジタル社会と法（3）	プロバイダ責任制限法
11	デジタル社会と法（4）	プライバーシーと個人情報
12	デジタル社会と法（5）	デジタル時代の著作権
13	情報倫理	情報モラル教育と情報倫理、情報倫理の役割
14	期末試験	期末試験を実施する

科目コード	T230206				区　分	コア科目			
授業科目名	統計学入門(統計とデータ利用)				担当者名	前野　一夫			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義（一部演習含む）	卒業要件	選必

＜授業の概要＞

現代社会では産業活動や日常生活において様々なデータが集められ、人工知能（AI）などで分析や処理をされて人々の生活に再び反映されている。会社においても経理・営業・人事総務などの活動指針を決める際に、経営状況、消費者側の傾向や、会社の人事構成などをデータとして分析して、営業や総務の活動方針を決めて行く。この授業では、現代の社会活動の基本となるデータの性質やその特性を表す、特徴的な統計の用語、分析方法などについて分かり易く入門解説し、既に学んでいるExcel等においてどのように取り扱われているかも示す（座学主体。若干の演習を含む）。

この授業により、現代社会データの活用事例、グラフによる記述、表・ヒストグラムと度数分布、代表値の意味、平均・最大・最小とデータのばらつき、正規分布と実際の統計分布、確率とデータの抽出、母集団と標本およびその大小、推定と検定、データの相関、回帰分析などについて入門的な理解を進めることができる。

＜授業の到達目標＞

現代の情報社会と、今後のSociety5.0におけるICTの基礎を身に付け、現代社会のデータの活用事例を学ぶ。統計学とデータサイエンスの視点からデータの種類やその処理の基本と、図形やグラフなどのデータ処理結果の表現法を理解する。さらにデータ処理に必要な統計処理の基本を理解し、その用語に慣れる。データ処理におけるデータ抽出の必要性とサンプル（標本）の扱い方、確率的な取り扱い。検定や推測の基礎的意味などを学ぶ。

＜授業の方法＞

座学による授業が中心であるが、入門的な動画を用いて統計学がどのようなことに役立つかも知る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング要素は有り。一連の座学と、一部の事前学習の成果を組み合わせる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容の確認事項の準備（1時間半程度）、振り返りレポートの纏めと用語集の作成（1時間半程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト10%、学習意欲と授業態度30%、課題小レポート20%、定期試験40%

＜教科書＞

授業の際にレジメを配布する。

＜参考書＞

石井俊全　算数だけで統計学　ペレ出版
三好大悟　統計学の基礎から学ぶExcelデータ分析の全知識　（株）インプレス

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業のガイダンス(目的と概要、本授業の意義)、授業の進め方の説明。現代社会でのデータの活用事例１(アンケートなどについて)。データの活用入門１（問題活用とデータの重要性）	履修説明、講義の目的、この授業の目標の提示、ＩＣＴと統計学、データサイエンスの能力がいかに就職に有利かを理解。データ活用のための手法、地域など様々な問題解決とデータ資料とデータの性質や用語の入門
2	経済経営で活用するデータサイエンス等、現代社会でのデータの活用事例。実用ソフトの事例紹介と有効性	実際に現代の経済経営活動に用いられている統計利用ソフトについて、動画配信を用いて紹介しその有効性を理解する。
3	経済経営で活用するデータサイエンス等、現代社会でのデータの活用事例。実用ソフトの事例紹介と有効性（続き）	実際に現代の経済経営活動に用いられている統計利用ソフトについて、動画配信を用いて紹介しその有効性を理解する。
4	現代社会でのデータの活用事例、グラフ	グラフや図による表示の種類とデータの特徴やデータ分布の表現(ヒストグラムと度

	や図・表現の重要性とデータの活用入門	数分布、最大・最少と平均、データのばらつきなどについて）を学ぶ
5	現代社会でのデータの活用事例、グラフや図による表現の重要性の続き、データの活用入門・データの大小と推定・検定の意味	AIなどの情報社会に利用される図解表現。平均値と分散・標準偏差などの入門と基礎の理解とヒストグラム・分布との関係について理解する
6	データの活用入門としての平均値と分散・標準偏差の続き、およびExcelにおける関数との関係	情報処理・統計アルゴリズム（問題処理手順）を表す図の理解とプログラミング言語についての入門。平均や標準偏差の求め方の復習とExcel関数について入門的事項を再確認する。
7	データの活用入門としてのデータ分布と様々な統計分布グラフの特徴と意味、および各グラフの活用。第3クォーター（第1回～第7回）授業内容の振り返りとまとめ。	DX社会およびAIとデータの関係を紹介。正規分布について。実際の分布の特徴と正規分布との関連。統計分布グラフと幾つかの部分面積を切り出す意味について。Excelとの関係。第3クォーター（第1回～第7回）授業内容の振り返りとまとめ。
8	文字情報データと数値データの分析・整理における記述統計学入門	量的データ処理入門の再確認（分布と中央値、箱ひげ図）。文字データなど質的データとの相違点。相関と回帰分析の紹介とその意味。データの単純集計とクロス集計について。
9	文字情報データと数値データの分析・整理における記述統計学入門（続き）	量的データ処理入門の再確認（分布と中央値、箱ひげ図）。相関と回帰分析の再確認。データの単純集計とクロス集計について。前回までの理解確認。
10	正規分布について（その有効性と限界）。実際の分布と正規分布の特徴。	正規分布の便利さ。正規分布で近似できないもの。単峰性と多峰性などについて。正規分布とヒストグラムの関係と積分の考え方。
11	データの抽出と確率について。母集団の統計と、標本の統計。標本とサンプリングのやり方と母集団との関係。推測と検定について。	ビッグデータをそのまま解析することの是非について。母集団と標本（サンプル）など推測統計の用語入門。推測と検定の意味と有効性。確率と統計の関係を学ぶ。実務で役立つ推計統計の役割。
12	推測統計を学ぶ意味１	集計（データの可視化）と基本統計（記述統計）および機械学習（クラスタリング）の繋がりについて（若干の紹介）。そこからの発展としての推測統計と予測モデル（AI）との繋がり入門紹介。理想データ活用は最適解を得るためのAIによる数理最適化など今後の学びへの展望紹介。
13	推測統計を学ぶ意味２	実務で役立つ推測統計（仮説検定や回帰分析の意味と入門）。確率の入門とおさらい纏め。確率とは？確率分布とは？。元データと繰り返し抽出データの関係。推測統計の枠組みについて（全数調査と標本調査）。母集団と標本、標本のサイズについて。
14	推測統計を学ぶ意味３、およびこれまでの授業の振り返り。	検定の基本的考え方（一見難しい表現「帰無仮説と対立仮設」の分かり易い意味）。検定における棄却域と採択域について。片側検定や両側検定の意味。標本が大きい場合に検定を使用する推測統計。標本が小さい場合の検定。統計量としてのｔ値、統計分布面積としてのｐ値。正規分布の補正（t検定や自由度など用語の意味）。

科目コード	T230302				区　分	コア			
授業科目名	ホスピタリティ・マネジメント論				担当者名	都築 智津子			
配当年次	1年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「ホスピタリティ論」で学んだ 心理・気づき・体験価値 を土台として、ホスピタリティを 組織・業界・プロセス・人材育成 の視点から総合的に理解する。サービスとホスピタリティの違い、標準化と裁量のバランス、業界別の特性、CS／ES の関係、サービスプロセス設計、DX（デジタル化）と人の役割分担など、現場で求められるマネジメント視点を体系的に学ぶ。また、観光・宿泊・飲食・小売・交通・医療などの業界を比較し、体験価値を高めるための改善策を検討する。
中盤以降は、ヒトのマネジメント（育成・評価・心理的安全性・チーム運営）に重点を置き、組織としてのサービスリカバリー（クレーム対応）まで扱う。
最終的に、学生自身が 「個人のホスピタリティ（前期）」と「組織のホスピタリティ（後期）」を統合し、より良い体験を生むための改善案を提案できる力 を身につけることを目指す。

＜授業の到達目標＞

・サービスとホスピタリティの共通点・相違点を説明できる
・標準化（マニュアル）と裁量（状況対応）のバランスを理解し、場面に応じて使い分けを考察できる
・業界別（観光・宿泊・飲食・小売・交通・医療）のホスピタリティの特徴を比較できる
・CS（顧客満足）と ES（従業員満足）の関係を理解し、体験価値向上に活かせる
・サービスプロセス（受付・提供・会計・フォロー）を分析し、改善点を提案できる
・人材育成・評価・心理的安全性など、ヒトのマネジメントの基本を理解できる
・DX（セルフレジ・AI接客など）がホスピタリティに与える影響を理解し、人との役割分担を考察できる
・組織としてのサービスリカバリー（クレーム対応）を理解し、改善策を提案できる

＜授業の方法＞

１．出席確認と前回の振り返り（10分）
２．講義（50分）
３．ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
４．意見交換/ふりかえり・まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
・ケーススタディ：実際のサービス事例（ホテル・飲食・小売・医療など）をもとに、問題点と改善策を検討する。
・ロールプレイ：標準化対応／裁量対応の比較、クレーム対応、チームコミュニケーションなどを体験的に学ぶ。
・グループディスカッション：業界別の特徴比較、CS／ES の関係、DX の活用などを多様な視点から議論する。
・フィードバック演習：　学生同士で改善案を共有し、相互フィードバックを通じて理解を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（90 分）
・次回テーマに関連する身近なサービス体験を思い出し、良かった点・気になった点を簡単に整理する。
・必要に応じて、配布資料や指定箇所を軽く読み、キーワードだけ把握しておく。
2. 復習（90 分程度）
・授業で扱ったキーワードをノートにまとめ直す。
・講義中のワーク内容を振り返り、改善策などを列挙する。
3. 中間・最終試験の準備学習
・これまでの授業で扱った主要キーワードを整理し、重要点を確認する。
・ミニケースや授業中のワークを振り返り、改善策など列挙しまとめる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

＜教科書＞

なし

＜参考書＞

服部 勝人（2008年4月1日）　ホスピタリティ・マネジメント入門 第2版　丸善
金子章予（2024年4月22日）　ホスピタリティ概論　学分社
高野登（2005年9月6日）　サービスを超える瞬間　かんき出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスと「ホスピタリティ論」の内容理解	・ホスピタリティ論の復習・把握（気づき・非言語・期待ギャップ・体験価値） ・ホスピタリティの経済的価値 ・「組織のホスピタリティ」の全体像
2	サービスとホスピタリティの共通点・相違点	・サービス／ホスピタリティの違い ・標準化（マニュアル化）と裁量（状況に応じた対応）の違いとバランスの把握 ・ロールプレイ等により、同じ場面での標準化と裁量を比較
3	今ホスピタリティが重視される社会背景	・経済環境の変化とSNS等による体験共有の拡大の理解 ・顧客が求める価値の多様化の把握 ・カスタマージャーニー（利用前～利用後の流れの見える化）
4	業界別ホスポタリティ①（観光・宿泊・飲食）	・観光地・ホテル・飲食店におけるホスピタリティ要素の比較 ・業界ごとのお客様の滞在時間・導線・専門性・プロセスの違いの把握 ・ホテル／カフェ／レストランの体験差を用いたケース分析
5	業界別ホスピタリティ②（小売・交通・医療・自治体）	・小売における導線・陳列・買物行動の理解 ・交通における安全・スピード・安心の把握 ・医療におけるケア・説明責任・倫理の理解 ・自治体における情報提供と満足度の両立の把握 ・業界別の「人材に求められる力」の比較（ケーススタディ）
6	CS／ESの関係（サービス・マネジメントの核心）＋前半振り返り	・ＣＳ（顧客満足）とＥＳ（従業員満足）のつながりの理解 ・働く人のやる気や職場定着に関わる基礎知識の把握 ・自身のアルバイト体験をＣＳ／ＥＳ双方で考える（ワーク） ・前半（1～6回）の振り返り
7	中間試験と振り返り＋後半の学びの概要把握	・中間試験（1～6回） ・中間試験の振り返り ・後半の学び（人材育成・DX・リカバリー）の概要把握
8	サービスプロセスの設計と体験価値（EXとCX）＋前半振り返り	・受付から会計・フォローまでのサービスの流れの分解 ・混雑や待ち時間が顧客に与える印象の理解 ・プロセス改善案の作成（ミニ演習）
9	人材育成①（育成を支える基本）	・仕事に必要な基本動作と心構えの整理 ・先輩と新人の関わり方（声かけ・振り返り）の実践 ・教えるための手順づくり
10	人材育成②（評価・モチベーション・心理的安全性）	・良い判断につながる声かけの重要性 ・心理的安全性のある職場の理解 ・言い換え練習（クレーム予防・・サービス回復への応用）
11	リーダーシップとチーム運営	・リーダー／マネジャーの役割の違いの理解（方向づけと支え合いの把握） ・チームで伝わるコミュニケーションの型の習得（共有・確認・依頼の整理） ・良い連携が生む体験向上のイメージ化（先回り・フォローの見える化）
12	IT・DXとホスピタリティ・マネジメント	・セルフチェックインや予約サイトなど、便利さを生むデジタル仕組みの理解 ・在庫管理・混雑予測など、運営を助けるデジタル活用の把握 ・AI と人の役割の違いの整理と、適切な分担を考える演習 ・デジタル化が働きやすさに与える良い面と注意点の理解
13	サービスリカバリー＋全体振り返り	・謝る・気持ちを受け取る・状況を伝える・別案を示す・フォローにつなげる流れの理解 ・業界別（ホテル・カフェ・交通・医療など）のさまざまな場面を使ったケースの把握 ・チームで課題を整理し、より良い対応につなげる改善案づくりの実施 ・全体の振り返り
14	最終試験と振り返り＋総まとめ	・最終試験 ・試験の振り返り ・「自分にとってのホスピタリティ」を考える ・個人のホスポタリティと組織のホスピタリティの統合ワーク

科目コード	T230305				区　分	コア			
授業科目名	サービスビジネス実務論Ⅱ				担当者名	松岡　友子			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ・第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、ホスピタリティサービス業界を志す学生が、3年次以降の実習科目やインターンシップに向け、その基礎となる知識について実務面から学ぶ内容となっている。具体的には、日本のサービス業界それぞれの歴史や文化の変遷、実務者に求められるサービスマインドやスキルについて学びながら、同時に身につけることを目指す。また、サービス提供企業には、それぞれ確固たる哲学がある。学生自身がその哲学を研究発表することで、サービスマインドを我が事として考える契機となることを目指す。

＜授業の到達目標＞

・日本のサービス業の歴史や文化を理解し説明できる。
・実務者に求められるサービスマインドを理解し、サービススキルの基礎を実践できる。
・美しい日本語を正しく使うことができる。
・実際のサービス産業の哲学について理解を深め、説明できる。

＜授業の方法＞

・授業は講義と実技、またグループワークとプレゼンテーションを取り混ぜて実施する。
・GWEを活用し、学習管理はGoogle Classroomを用いて行う。
・シラバスに基づいて実施するが、状況によってシラバスの内容が変更になる場合がある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素あり。内容は５人以下のグループでのディスカッション、ロールプレイ、調査研究などを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テキストの該当ページを指示された場合には事前に確認する。（45分）
発表やプレゼンテーションが割り当てられている場合には、事前の提出と自主練習に努めること。（75分）
復習：授業のリアクションペーパーの提出と課題への取り組み（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出20%、中間まとめテスト20%、発表20%、グループワークへの貢献度20%、学習意欲20%
課題については必要に応じで授業冒頭でフィードバックを行う。

＜教科書＞

明石伸子（2022/4/14）　この1冊でOK! 一生使えるマナーと作法　ナツメ社

＜参考書＞

松岡友子（2017/3/23）　誰とでも仲良くなれる敬語の使い方　明日香出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション　シラバス説明	シラバス説明・グランドルール確認・教員自己紹介
2	学生自己紹介　航空業界概観	①学生自己紹介（プレゼンテーション）　②国内外の航空業界について
3	航空の歴史	航空と政治、経済、文化との関係を理解する
4	日本における婚礼・ブライダルの変遷	時代や地方によって異なる婚礼・ブライダルの歴史を概観する
5	接遇マナー　敬語①	美しい日本語を身につける
6	サービス哲学とは	サービス哲学に定評のある企業について調べる（グループワーク）
7	中間まとめ（敬語テスト）	
8	航空機の仕組み	航空機の仕組みを理解する
9	接遇マナー　立ち居振る舞い	ケーススタディやロールプレイを実施する
10	冠婚葬祭マナー	冠婚葬祭マナーの基本を理解する
11	サービス哲学　発表	グループで調べた内容を発表する（プレゼンテーション）
12	来客応対と茶菓のマナー	ケーススタディやロールプレイを実施する

13	食事のマナーとサービスマナー	ケーススタディやロールプレイを実施する
14	総まとめ	ロールプレイ発表（グループワーク）

科目コード	T230306				区　分	コア			
授業科目名	ホテルアセットマネジメント論				担当者名	馬場　哲也			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、ホテルの仕組み、収益の考え方、ホテルの運営構造、分析手法など、実務に直結する知識を体系的に学ぶ。ホテル実務経験を持つ講師によるケーススタディや演習を通じ、ホテルアセットマネジメントについての考え方を実践的に習得する。
なお、ホテル経営Ⅰ、Ⅱを履修済みが望ましい。

＜授業の到達目標＞
本講義では、ホテル経営におけるアセットマネジメントの基本的な概念と実務について学ぶ。ホテル経営会社とホテル運営会社の関係を理解し、ホテルの価値最大化を目的としたマネジメント戦略について実践的に習得できる。

＜授業の方法＞
１．出席確認と前回の振り返り（15分）
２．講義（60分）
３．ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（15分）
４．意見交換/まとめ（10分）
※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。ホテル収支のシミュレーションを行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：次回の授業内容に関連する資料を読み、基本的な用語や概念を理解する（60分程度）。
・復習：授業で学んだ内容を振り返り、ノートを整理する。またディスカッションの振り返りを行い、改善点を考える（60分程度）。
・期末：学期全体の要点を再整理必要に応じて、授業で取り上げたテーマについて自身の経験と結びつけて考え、簡単なレポートを作成する（90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末テスト 40%、中間テスト 30%、授業態度 30%で総合評価します。

＜教科書＞

＜参考書＞
沢柳知彦　もてなしだけではもう食えない-ホテル経営学の本質と実践-　オータパブリケイションズ
日本ホテル教育センター　ホテルビジネス―基礎編―　日本ホテル教育センター

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、シラバス説明	授業の内容と進め方を説明します。有名ホテルを概観します。
2	ホテルの全体像概観	ホテルの歴史と老舗ホテルの創業の使命と特徴を理解します。
3	ホテルビジネス収益構造	ホテルの主なサービスと収益構造を理解します
4	ホテル業（宿泊業）の特徴	ホテルビジネス（宿泊業）に特異な特徴を理解します
5	ホテル経営系列・ホテル部門構造	ホテルの経営系列、ホテル部門構造を理解します
6	プロフェッショナルのサービス事例	プロフェッショナルのサービスが収益へ貢献する事例を学びます
7	ホテルのその他収益　IT戦略	宿泊・料飲以外の収益とIT戦略を理解します。
8	中間のまとめ	中間のまとめ
9	ホテルの収益構造①	宿泊部門構造の基本理論とシミュレーション演習
10	ホテルの収益構造②	料飲収益構造の基本理論とシミュレーション演習
11	ホテル経営指標と分析	ホテル経営の主要指標の理論と応用を学びます。
12	ホテルアセットマネジメント実践	ホテルの経営と運営の区分を理解します。
13	ホテル事業再生	ホテル事業再生を学びます
14	総まとめ	

科目コード	T230307				区　分	コア			
授業科目名	ホテル・ブライダル総合演習				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ホテルとブライダルの現場を題材に、配置・導線の分析、観察、外部講師、視察、ロールプレイ、グループワークを通して、体験価値を高めるための改善提案力を育成する演習科目です。
前半はホテル、後半はブライダルを扱い、各領域で 観察 → 気づき → 改善 → 提案 の流れを繰り返しながら、現場視点の理解を深めます。

＜授業の到達目標＞
・ホテルとブライダルの現場を観察し、配置・導線・進行の気づきを抽出できる
・学習を通じて得られた気づきを「良い点／気になる点／改善案」に整理して説明できる
・視察・外部講師・事例から得た知見を改善案に応用できる
・ホテルとブライダルの特徴と共通点を踏まえ、体験価値向上の提案をまとめられる
・グループで協働し、改善案を簡潔にアウトプットできる

＜授業の方法＞
・演習中心：観察、分析、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーションを軸に進める
・講義：演習に必要な基礎事項のみを簡潔に確認する
・課題解決型学習：観察結果をもとに改善案を検討する
・ディスカッション／協働学習：班で気づきや提案を共有し、まとめる
・フィールドワーク：ホテル・ブライダル施設の視察（可能な範囲）
・外部講師：ホテル・ブライダルの現場から実務の視点を学ぶ
※授業関連の活動（授業内課題・事後課題等）については、Google Classroom、Google Formを活用します。
※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有
演習を中心に進め、観察演習やグループワークを通じて気づきを共有し、改善案を協働的にまとめていきます。学内や視察先での観察、班での分析・ディスカッション、簡易ロールプレイ、可能な範囲でのフィールドワーク、研究内容のプレゼンテーションなどを組み合わせ、体験的な学習を行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１．予習（各回90分程度）
授業で扱うテーマに関連する資料や事例を確認し、観察や分析に必要な視点を整理しておく。
２．復習（各回90分程度）
授業で記録した観察メモや班での議論内容を見直し、気づきや改善案を整理する。必要に応じて発表資料や提出物を整える。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
中間テスト15%、最終テスト 40%、観察・記録 25%、授業態度 20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
日本ホテル教育センター（2026年3月1日）　ホテルビジネス 基本編　日本ホテル教育センター
公益社団法人日本ブライダル文化振興協会（2026年3月1日）　ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード（第6版）　公益社団法人日本ブライダル文化振興協会
遠山詳胡子・森弥生（2023年6月20日）　「ブライダル接客」の教科書　キクロス出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションと導入＋ホテルの基本構造と学習ポイントの理解	・授業の進め方・評価方法の説明 ・ホテル現場の基本構造(フロント・ロビー・レストラン・宴会場・バックヤード・動線）の概要 ・ホテル運営における「配置」「導線」「案内」「進行」の役割 ・観察演習で使う“ホテルを見る視点”の整理と観察の準備

2	ホテルの主要現場の配置・導線	・ホテル主要部門（フロント・ロビー・レストラン）の役割 ・ゲスト導線の基本 ・フロントとレストランの配置関係とサービスとの相関関係 ・観察で使う具体的な視点（案内・動線・視認性・待ち時間など）の確認 ・ホテル見学に向けての準備（見るべきポイントの整理）
3	ゲスト講師による講演①（ホテル宿泊部門・料飲部門）	・ホテル宿泊部門のプロによる講演 ・ホテル料飲部門のプロによる講演 ・質疑応答
4	ホテル視察（現場観察）	・ホテルのロビー・フロント・レストラン・宴会場などを視察 ・動線・案内表示・滞留・声かけの視点で観察 ・視察内容をグループで整理
5	ホテル視察内容の研究（グループワーク）	・動線図・配置図を作成 ・改善案を「背景→気づき→改善→効果」でまとめる ・次回の発表に向けて資料を整える
6	研究発表＋前半まとめ（ホテル領域の総整理）	・グループワーク発表と相互評価 ・ホテル領域の総まとめと中間テストに向けた要点確認
7	中間テスト＋ホテルの顧客満足	・中間テストと振り返り ・ホテルの顧客顧客満足向上のための施策
8	ブライダルの全体構造と進行の流れ	・ブライダルの全体構造（挙式・披露宴・控室・導線）の概要 ・新郎新婦・ゲストの動きと進行の基本（挙式〜披露宴〜送賓） ・ブライダル運営における「配置」「導線」「案内」「進行」の役割 ・観察視点（進行の流れ・スタッフ配置・ゲスト導線）の整理
9	ブライダルの主要現場の配置・導線研究	・挙式会場・披露宴会場の典型的な配置図を分析 ・ゲスト導線（受付→待合→挙式→披露宴）の研究 ・課題の抽出と解決策の策定
10	ゲスト講師による講演②（ブライダル）	・ブライダル業務のプロによる講演 ・質疑応答
11	ブライダル視察（現場観察）	・ブライダル施設を視察 ・動線・案内表示・ゲスト対応・演出の視点で観察 ・視察内容をグループで整理
12	ブライダル視察内容の研究（グループワーク）	・動線図・席配置・進行案を作成 ・改善案を「背景→気づき→改善→効果」でまとめる ・次回の発表に向けて資料を整える
13	研究発表＋全体まとめ（ホテル×ブライダル）	・グループ発表と相互評価 ・ブライダル領域を中心に全領域の総まとめと最終テストに向けた要点確認 ・最終テストと振り返り
14	最終テスト＋今後の学びと実務への接続	・授業で学んだ観察・分析・導線・進行の視点のサービスの実務での活かし方 ・次年度実習科目への接続

科目コード	T230308				区　分	コア			
授業科目名	旅行業経営実務				担当者名	冨吉 光則			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、ポストコロナにおいて激変した旅行産業を「経営」の視点から多角的に分析し、現代のビジネスモデルと将来像への理解を深めることを目的とする。業界構造と企業戦略の理解として、航空・鉄道・宿泊・テーマパークなど、旅行商品を構成する各業界の特質と、主要企業の経営戦略を体系的に学ぶ。インバウンド振興について、さらなる市場拡大と、旅行消費額の増大を実現するための具体的なアクションを検討する。変化し続ける観光市場において、持続可能な経営を行うために必要な課題解決能力と先見性を養う。

＜授業の到達目標＞
1)旅行産業を構成する各業界の構造と戦略を説明できる。
2)店舗型とOTAのビジネスモデルの違いを多角的に分析できる。
3)インバウンド消費拡大に向けた具体的なアクションを提案できる。

＜授業の方法＞
1．出席確認と予習課題の提出（10分）
2．講義（80分）…履修の理解を深めるための動画視聴を取り入れることもある。（30分前後）
3．授業内課題シート（ミニッツノート）のまとめ（10分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素はない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・授業の最後に次回の予習課題を課す（1時間程度）。
・受講時に書き取った「授業内課題シート」をまとめ、最終の「受講コメント」欄に授業の振り返りを簡潔にレポートとして記入する（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
以下を素点化し、受講姿勢を加味して総合的に評価する。
・小テスト20%×2回、最終レポート30%、平常点30%

＜教科書＞
日本ホテル教育センター／2026年 改訂版　ホテルビジネス基礎編 ーベーシックレベル2級・1級準拠ー（税込 6,600円）　日本ホテル教育センター
森岡毅　 2019/4/11　苦しかったときの話をしようか ビジネスマンの父が我が子のために書きためた「働くことの本質」（1,650円税込）　ダイヤモンド社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	旅行業の全体像(旅行業界、観光産業の全体像、コロナ前とコロナ後の業界の変化と対比、今後の成長見込み)	授業の概要、到達目的、授業の進め方、評価方法、についてのオリエンテーション。旅行業全体像の俯瞰。
2	旅行業界の今を知る。旅行会社のランキング、各社の特徴と強み	旅行市場の変遷、コロナ前と後の業界再編、各社の強み(エアライン系・JR系・私鉄系・メディア系等)
3	オンライントラベルエージェント（OTA）	国内OTA（楽天・じゃらん等）と海外OTA（Expedia・Booking.com等）の戦略比較
4	リーディングカンパニー（JTB）のビジネスモデル①	JTB、KNT、HIS、を比較して、JTBのポジション・戦略を明らかにする
5	リーディングカンパニー（JTB）のビジネスモデル②	インバウンド、ビジネストラベル、教育旅行、スポーツツーリズム、でリードする戦略とは
6	インバウンドの考察：儲かる旅行業と高付加価値・富裕層取り込み	旅行消費額増大に向けた取り組みと富裕層の取り込みのケーススタディ。
7	旅行商品を構成する観光業界のビジネスモデルと戦略①　エアライン	航空業界自由化の歴史。FSC、LCC、外航キャリア、それぞれのビジネスモデル。前半の理解度小テスト①の実施

8	旅行商品を構成する観光業界のビジネスモデルと戦略②　鉄道、バス	JR・私鉄のビジネスモデル、路線バス・高速バスにおける経営戦略。
9	旅行商品を構成する観光業界のビジネスモデルと戦略③　宿泊業	外資系・日系企業の戦略の違い、宿泊費の高騰がもたらす今後の勝ち組
10	旅行商品を構成する観光業界のビジネスモデルと戦略④　テーマパーク	緻密な経営戦略・世界観作りに日本が誇るテーマパーク産業の真髄が見えてくる
11	旅行商品を構成する観光業界のビジネスモデルと戦略⑤　ガストロノミー（ツーリズム）	地域の食材を活用した美食の開発、世界の富裕層が求めるガストロノミーツーリズムの可能性
12	旅行商品を構成する観光業界のビジネスモデルと戦略⑥　クルーズ	クルーズ先進国のビジネスモデル。日本版ディズニークルーズへの期待。※最終課題レポートの仕様とテーマの発表
13	旅行商品を構成する観光業界のビジネスモデルと戦略⑦　世界の観光大国の考察と大規模開発と観光の関連性	各国の大規模開発がもたらした観光への貢献事例
14	振り返りと旅行業の未来・近未来の旅行業界・旅行商品の可能性	全体の総括。DXやサステナビリティを軸に近未来の旅行業界を展望する。後半の理解度小テスト②の実施、最終課題レポートの提出。

科目コード	T230402				区　分	コア			
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅱ［キャリア系］				担当者名	白田　佳子			
配当年次	1年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義は、前期の現代経営実践演習基礎I履修者を対象とし前期で学んだ「リスク概念」を元に「企業リスク」について具体的な分析手法の習得を目指します。就職、キャリア形成に重要な要素を自身で簡単に分析することが出来る手法を学ぶことを目的としています。本講義では、理論を学ぶのではなく実際に関心のある企業、就職を目指す企業を選び出し、企業が公表している情報から当該企業が安全に経営を継続可能な企業であるかどうかを自ら分析する能力を養います。授業ではコンピュータ（エクセル）の使用方法を学びながら分析を行います。

＜授業の到達目標＞

１．企業が開示する情報から企業継続が困難（倒産する可能性が高い）と思われる兆候を把握する技術を取得する。
２．学生自身が関心のある企業を選び、グループで当該企業の継続可能性（安全性）分析する。
３．グループごとに選んだ企業の継続可能性のみならず経営全般についても評価し発表を行う。

＜授業の方法＞

講義と並行しながら、興味ある企業を選び出しインターネット上で公表されている企業の情報を参照しながら、分析に必要な情報を拾いだして分析に利用します。分析に際してはExcelなどコンピュータ上の計算ソフトを用いて（スマホでの計算は不可）分析を行ないますのでPCを持参してください。。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。授業は、講義とアクティブ・アクティブラーニングの併用。講義により理論を理解した上で、各人が自身のPCを使用して企業データをダウンロードし、分析を行います（アクティブラーニング）。分析に際しては、各指標ごとに企業を比較し、議論します。
なお、分析対象企業は、学生が就職に際し、関心のある企業とします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】毎授業ごとにシラバスを確認しておくこと。また、事前に将来の就職等において興味のある企業を抽出し当該企業にかかわる情報を収集しておくこと。さらに、毎回異なる企業の分析を行うので、前回の授業で分析した企業の内容を確認しておくこと（合計約90分）
【復習】授業中において実施したデータ分析については、しっかりと分析手法を復習しておくこと。特に授業時間内では時間が限定的な為、分析を完成できない事がことが多いため、残り部分の分析を自宅に戻ってから完成させておくこと（合計90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP１　他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１．授業への出席および授業中における当方からの質問への積極的な発言を評価対象とする（40%）。
成績評価の最も重要なポイントは授業中の発言（アクティブラーニング）です。
毎回各人の発言ごとにクーポンを発行します。クーポンの枚数が加点となります。
また、授業の最後に課題を出しますので、課題の提出が加点となります。毎回これらの評価結果をフィードバックします。
２.試験結果を最終評価とします。ただし､授業におけるアクティブラーニングの結果が成績点に加点されることとなります(60%)。

＜教科書＞

白田佳子　AI技術による倒産予知モデル×企業格付け(2019/3/18)　税務経理協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダク ション	講義の概要説明、補講日の確認
2	我が国における経済状況と企業実態	企業の種類を確認：大企業と中小企業/上場企業と非上場企業
3	就職に重要な企業情報の収集	企業の経営環境を分析することができる情報を収集する
4	企業の利害関係者を把握する	利害関係者が経営に及ぼす影響について：利害関係者とは？
5	企業経営におけるリスクについて把握する	マーケティング、資金調達、雇用、海外取引
6	企業の経営状況の比較と分析	上場企業における公的開示情報の確認：EDINET(例：ソフトバンクグループの経営実態を確認)

7	サンプル企業の分析	化粧品メーカー「資生堂」の分析：企業データの収集及びリスクの洗い出し（製品、顧客）
8	サンプル企業の分析２	化粧品メーカー「資生堂」の分析：経営状態をEDINETデータから分析
9	サンプル企業の分析３	化粧品メーカー「コーセー」の分析：企業データの収集及びリスクの洗い出し（製品、顧客）
10	サンプル企業の分析４	化粧品メーカー「コーセー」の経営状態をEDINETデータから分析
11	企業継続可能性の分析	EDINETデータを元に「資生堂」と「コーセー」の5年間の変化比較
12	グループワーク１	グループ内で関心のある企業を抽出、分析対象企業を決定、抽出企業の情報収集
13	グループワーク２	EDINETから対象企業のデータを収集し企業継続性の分析を実施
14	グループ発表：キャリア形成と企業の継続性	グループごとに分析した企業について、企業継続能力の評価を行い発表を行う

科目コード	T230407				区　分	コア科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅱ(情報系)[後期集中]				担当者名	安井　良彰		
配当年次	1年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代社会では、あらゆる業種・職種においてオフィスツールを用いた業務資料の作成や、情報の管理能力が必須となっている。特にExcelのより高度な利用スキルの習熟度を保証するためマイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）検定合格レベルの知識技能を習得する。

＜授業の到達目標＞
マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）検定Excel検定に合格できる知識スキルを身につける。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。演習問題を通して問題の出題傾向や解答のポイントを解説する。模擬試験なども実施して実践的な検定対策を行う。
本講義では日本語WIndows版Office365の使用を前提としている。Mac版や外国語版のOffieでは受講できないので注意すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有り。（学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（１時間程度）
関連科目としてコンピュータリテラシーⅡの授業内容について復習する。（１時間程度）
模擬試験問題を用いた検定対策の実施（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の課題作成 40%。宿題 10%、定期試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	出題範囲１：ワークシートやブックの管理（1）	ブックにデータをインポートする/ブック内を移動する/ワークシートやブックの書式を設定する
2	出題範囲１：ワークシートやブックの管理（2）	オプションと表示をカスタマイズする/共同作業と配付のためにブックを準備する
3	出題範囲２：セルやセル範囲のデータの管理（1）	シートのデータを操作する/セルやセル範囲の書式を設定する
4	出題範囲２：セルやセル範囲のデータの管理（2）	名前付き範囲を定義する、参照する/データを視覚的にまとめる
5	出題範囲３：テーブルとテーブルのデータの管理（1）	テーブルを作成する、書式設定する/テーブルを変更する
6	出題範囲３：テーブルとテーブルのデータの管理（2）	テーブルのデータをフィルターする、並べ替える
7	出題範囲４：数式や関数を使用した演算の実行（1）	参照を追加する/データを計算する、加工する
8	出題範囲４：数式や関数を使用した演算の実行（2）	文字列を変更する、書式設定する
9	出題範囲５：グラフの管理（1）	グラフを作成する/グラフを変更する
10	出題範囲５：グラフの管理（2）	グラフを書式設定する
11	模擬試験（1）	模擬試験の実施
12	模擬試験（2）	模擬試験の実施
13	模擬試験（3）	模擬試験の実施
14	模擬試験（4）	模擬試験の実施

科目コード	T230408				区　分	コア科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅲ(簿記系)				担当者名	末原　聡		
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、簿記入門で学んだ複式簿記の知識を基礎として、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級（以下「日商3級」）に合格するための問題演習を行う。
授業では、日商3級の基本問題・標準問題および本試験形式の模擬問題に取り組み、正確な仕訳、帳簿・試算表・財務諸表の作成、時間配分および誤答原因の分析を通じて、検定試験への対応力を高める。
また、学生の理解度や学習の進度に応じて、会計ソフトウェアを用いた仕訳入力、帳簿・試算表の出力と確認等、コンピュータ会計の基礎的な処理についても学ぶ。学習の進んだ学生や既に日商3級に合格している学生には、コンピュータ会計の実習、全経簿記能力検定2級または日商簿記2級の入門問題を発展課題として提示する。

＜授業の到達目標＞

① 日商3級の出題範囲に含まれる各種取引および決算整理事項について、正確に仕訳できる。
② 帳簿、試算表、精算表、決算整理後残高試算表および財務諸表を作成できる。
③ 時間配分を意識し、制限時間内に日商3級の総合問題を解答できる。
④ 模擬試験の結果から誤答原因と自分の弱点を分析し、合格水準に向けて学習方法を修正できる。

＜授業の方法＞

① 授業の開始時に、前回の授業内容の振り返りとフィードバックを行う。
② 教科書の内容を確認した後、基本問題、本試験レベル問題、模擬問題の順に段階的な演習を行う。
③ 模擬問題では制限時間を設定し、解答後に採点、誤答分析および解き直しを行う。
④ 必要に応じて、学生同士で問題の解き方や誤答原因を説明し合う。
⑤ 仕訳や集計等の計算を行うため、スマートフォンとは別に電卓を持参すること。
⑥ Google Classroomを通じて、デジタル教材、追加問題および解説を配付する。
⑦ 留学生を含む学生に配慮し、重要な会計用語や問題文の読み取り方を平易な日本語で確認する。
⑧ 学習の進度に応じて、会計ソフトウェアを用いた実習または2級の入門問題を扱う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、以下のアクティブ・ラーニングを取り入れる。
① 実際の商取引を題材として、適切な仕訳とその根拠を検討するグループワーク
② 模擬試験の結果を用いた誤答原因の分析と学習計画の見直し
③ 学生同士で問題の解き方や考え方を説明し合う協働学習
④ 必要に応じて、会計ソフトウェアや各種証ひょうを用いたコンピュータ会計の実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

〈予習〉指定された範囲のテキストを読み、例題や基本問題を解く。分からない会計用語や、自分が苦手とする問題を整理しておく。（1時間）
〈復習〉授業で取り扱った問題を解き直し、誤答原因と正しい解き方を整理する。模擬問題については、時間配分と得点を確認し、弱点となっている論点の追加問題に取り組む。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内課題・小テスト・模擬演習への取り組み・提出物　60％
定期試験　40％
小テスト、模擬演習および定期試験では、仕訳、帳簿、試算表、決算整理、財務諸表作成ならびに総合問題への対応力を評価する。各回の問題について、次の授業で解説とフィードバックを行う。また、必要に応じてGoogle Classroomを通じて追加問題や解説を配付する。

＜教科書＞

(編著)TAC株式会社 2025年2月27日　よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0　TAC出版
(著)ネットスクール株式会社 2026年2月19日　2026年度版　日商簿記検定模擬試験問題集3級　ネットスクール出版

＜参考書＞

(編著)TAC株式会社 2025年3月20日　合格ドリル 日商簿記3級 Ver.15.0　TAC出版
(編集)実教出版企画開発部 2026年03月31日　2026年度版　日商簿記検定模擬試験問題集　3級　実教出版
(監修)新田忠誓 (著)ネットスクール株式会社 桑原知之 2024年7月21日　全経簿記能力検定試験公式テキスト２級商業簿記　ネットスクール出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクションと理解度確認	検定試験の概要、学習方法、簿記入門の復習および理解度確認問題を行う。
2	基本問題①　仕訳	商品売買、現金・預金、手形、電子記録債権・債務、固定資産の購入、減価償却および固定資産の売却について演習する。
3	基本問題②　仕訳	未収入金、未払金、差入保証金、前払金、前受金、貯蔵品、仮受金、仮払金および損益勘定への振替について演習する。
4	基本問題③　仕訳	法人税、消費税、現金過不足、剰余金の配当、立替金、預り金、貸倒れおよび訂正仕訳について演習する。
5	基本問題④　補助簿	小口現金出納帳、仕入帳、売上帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳および商品有高帳について演習する。
6	本試験レベル問題①	売掛金勘定と得意先元帳、勘定記入および精算表について演習する。
7	本試験レベル問題②	決算整理後残高試算表および財務諸表について演習する。
8	模擬演習①	仕訳、商品有高帳、語群選択および精算表を含む模擬問題に取り組む。
9	模擬演習②	仕訳、勘定記入、伝票会計および財務諸表作成を含む模擬問題に取り組む。
10	模擬演習③	仕訳、仕訳日計表、補助簿の選択および決算整理後残高試算表を含む模擬問題に取り組む。
11	模擬演習④	仕訳、勘定記入および財務諸表作成を含む模擬問題に取り組む。
12	模擬演習⑤	仕訳、商品有高帳、語群選択および精算表を含む模擬問題に取り組む。
13	模擬演習⑥・発展課題	日商3級の模擬問題に取り組み、弱点を補強する。学習の進んだ学生または日商3級合格者は、会計ソフトウェアによる仕訳入力・帳簿出力、または全経簿記2級・日商簿記2級の入門問題に取り組む。
14	日商簿記3級総合模擬演習と総括	制限時間を設けて本試験形式の模擬問題に取り組み、解説、誤答原因の分析および今後の受験・学習計画の確認を行う。

科目コード	T230409				区　分	コア科目			
授業科目名	資格検定対策Ⅳ(ビジネス系)				担当者名	武末　朝生			
配当年次	2年	配当学期	第3ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
①ファイナンシャル・プランニング技能検定3級（国家資格）の「学科試験」の試験範囲の8割程度を一通り学修する。
②ファイナンシャル・プランニング技能検定3級の6分野（ライフプランニング、リスク管理、金融資産運用、タックスプランニング、不動産、相続）への入門レベルから始めて、基礎レベルまでの知識を修得する。
③上記の6分野の基礎知識を学修することを通じて、社会人として必要とされる「金融に関するリテラシー」を修得する。

＜授業の到達目標＞
①ファイナンシャル・プランニング技能検定3級の「学科試験」と「実技試験」の両方に合格すると、「３級FP技能士」という国家資格を取得できるが、3級の「学科試験」に合格（60問・6割正解）するために必要な知識を修得し、本試験レベルの問題を６割以上正解することができるようになる。
②上記6分野を一通り学ぶことにより、ファイナンシャル・プランニングの全体像を把握し、各分野のつながりを説明できるようになる。
③将来の自分たちの人生の様々な場面において、「身近なお金」に関する一般的な知識や判断力を活用することができるようになる。

＜授業の方法＞
①授業の開始時に、前回の授業について復習を行う。
②「教科書」に沿った講義形式の授業で確実に理解する（「教科書」を必ず購入すること）。
③「練習問題」や「小テスト」に取組み、解答・解説で理解度を確認する。
※授業には、電卓を持参すること（スマートフォンの電卓機能は使用不可）。
④Google Classroomを用いたデジタル教材の配布等を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。
①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
③Google Classroomを用いたデジタル教材などを通じて、適宜、フォローアップする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①予習：「教科書」の指定箇所を読んでおく（1時間）
②復習：「練習問題」や「課題」に取り組む（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP２　経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価方法：授業に対する積極的な態度 50%、定期テスト 50%
フィードバック：授業時間中に、練習問題の解答・解説を行う。

＜教科書＞
瀧澤ななみ　『2026ー2027年版　みんなが欲しかった！FP合格へのはじめの一歩』（2026年6月刊）
※法令改正等に対応し、毎年、内容が改訂されるため、最新版（2026ー2027年版）を入手する必要がある。　TAC出版
定価：1,430円（税込）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・FPとは何か	①FP技能士3級試験の概要（学科・実技の構成、合格基準） ②ライフプランニングの基礎概念 ③６つの係数（終価・現価・年金終価・減債基金・資本回収・年金現価）の計算方法
2	ライフプランニングと資金計画①	①社会保険制度の概要（医療保険・年金保険・雇用保険・労災保険） ②公的医療保険の種類と給付内容（健康保険・国民健康保険） ③高額療養費制度・傷病手当金 ④介護保険制度の仕組みと給付

3	ライフプランニングと資金計画②	①公的年金制度の体系（国民年金・厚生年金） ②老齢給付・障害給付・遺族給付の要件と計算 ③企業年金・個人年金（iDeCo等）の概要 ④雇用保険の給付（基本手当・育児休業給付など）
4	リスク管理（保険）	①生命保険の仕組みと種類（定期・終身・養老・個人年金保険等） ②生命保険の税務（保険料控除・保険金の課税関係） ③損害保険の種類（火災・自動車・傷害保険等） ④損害保険の税務と第三分野保険（医療・がん・介護保険）
5	金融資産運用①　基礎知識	①金融市場・金融商品の全体像 ②預貯金（普通・定期・外貨預金）の特徴 ③債券の仕組み・利回り計算・格付け ④株式投資の基礎（株価指標・PER・PBR・配当利回りなど）
6	金融資産運用②　投資信託・経済指標	①投資信託の仕組みと種類（インデックス・アクティブ等） ②投資信託のコスト・リターン・リスク計算 ③経済指標（GDP・物価指数・景気動向指数） ④セーフティネット（預金保険・投資者保護基金）
7	タックスプランニング①　所得税の基礎	①所得税の仕組み（納税義務者・課税所得・超過累進税率） ②10種類の所得の計算方法（給与・事業・不動産・配当・利子など） ③損益通算の仕組みと繰越控除 ④所得控除の種類と計算（基礎・配偶者・扶養・社会保険料・生命保険料控除等）
8	タックスプランニング②　税額計算・申告	①税額控除（住宅借入金等特別控除・配当控除等） ②確定申告・源泉徴収・年末調整の仕組み ③住民税・個人事業税の概要 ④法人税の基礎（法人の種類・益金・損金の概念）
9	不動産①　基礎知識と法律	①不動産の見方（登記・公図・地目・建物構造） ②不動産に関する法令（民法・借地借家法・区分所有法） ③都市計画法・建築基準法の基礎（用途地域・建蔽率・容積率） ④不動産の取引と媒介契約
10	第10回　不動産②　税金と有効活用	①不動産取得・保有・譲渡に関する税金（取得税・固定資産税・譲渡所得税等） ②居住用財産の特例（3,000万円控除・軽減税率） ③不動産の有効活用手法（等価交換・定期借地権等） ④不動産投資の収益計算（表面利回り・実質利回り）
11	相続・事業承継①　相続の基礎	①相続の基礎（法定相続人・法定相続分・代襲相続） ②遺言の種類と効力（公正証書遺言・自筆証書遺言） ③遺産分割協議と相続放棄 ④相続税の課税財産・非課税財産・債務控除
12	相続・事業承継②　相続税と贈与税	①相続税の計算手順（課税遺産総額→相続税の総額→按分） ②相続税の基礎控除・配偶者の税額軽減・小規模宅地の特例 ③贈与税の課税方式（暦年課税・相続時精算課税制度） ④贈与税の非課税特例（教育・結婚・住宅取得資金等）
13	総合演習・頻出問題攻略	①６分野横断の頻出問題演習（過去問形式） ②計算問題の解き方まとめ（年金・税額・利回り等） ③まぎらわしい用語・数値の整理（比較表で確認）
14	総まとめ（理解度の確認）	①確認テストと解答・解説 ②質疑応答

科目コード	T230412				区　分	コア			
授業科目名	インターンシップ(企業)Ⅱ［認定科目］				担当者名	馬場　哲也			
配当年次	2年	配当学期	第4ｸｫｰﾀｰ	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、企業・団体等での就業体験を通じて、専門知識の実践的応用力と職業観を養成する科目である。事前学習・実習・事後振り返りを一体化させ、キャリア形成および社会人基礎力の向上を目的とする。
観光・サービス産業、一般企業等を実習先とする。
１．大学が主導的に行うインターンシップ
　要件として原則、前年度からの出席率85%以上、GPA2.5以上、日本語能力検定試験N２相当以上とする。
　授業の登録、講義出席が必要。
２．学生が主体的に取り組むインターンシップ
　授業の登録、講義出席、決定したインターンシップ先を大学へ事前届出を提出。

＜授業の到達目標＞

本授業の修了時に、学生は以下を達成できる。
１．職場における基本的なビジネスマナーを実践できる。
２．組織の役割分担と業務プロセスを説明できる。
３．自身の専門分野と実務の関連性を分析できる。
４．自己の課題を明確化し、今後の学修計画に反映できる。

＜授業の方法＞

１．事前指導（講義・ワークショップ）
２．企業・団体での実習（5日間以上～10日間程度。またはリゾートホテル等においては約1か月間）
３．日報提出
４．事後報告会（プレゼンテーション）
５．個別面談による振り返り講義　演習　実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　企業等における実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：実習先研究（企業分析レポート提出）(90分)
事後：振り返りレポート（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP３　修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP４　地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

N.A.

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（目的・評価方法説明）	
2	インターンシップの意義と心構え	
3	ビジネスマナー講習	
4	実習先エントリー　実習計画作成	
5	実習期間	
6	実習期間	
7	実習期間	
8	実習期間	
9	実習期間	
10	実習期間	
11	実習期間	
12	実習期間	
13	実習報告書作成 成果発表準備	
14	成果発表会	